

あき やま おお まち ひがし い せき
秋 山 大 町 東 遺 跡

あき やま す わ たいら い せき
秋 山 諏 訪 平 遺 跡Ⅲ

— D・E・F地点の調査 —

2010

本庄市遺跡調査会

序

本庄市が生んだ「郷土の偉人」塙保己一は、我が国にとって貴重な文献資料が公家や武家等に所蔵され、誰もがこれらを学ぶことができないことや、これらの稀少な文献がしばしば失われていく状況を憂い、多くの史料を集成・校訂し、多くの困難を乗り越えながら、誰もが学べるように『群書類従』として刊行いたしました。私たちの文化財保護行政は、この塙保己一の偉大な業績に比べるべくもありませんが、過去から伝えられた貴重な文化財を、誰でもが学べるように残し、そして伝えていくことが、なによりも先生の精神の顕彰につながるのではないかと考えております。

ここに報告する秋山大町遺跡は、古墳時代後期を中心に、古代・中世に営まれた大規模な集落の跡であります。本書に収録された貴重な埋蔵文化財の数々は、ここに記録として保存し、この発掘調査報告書という形で永く後世に伝えることになりました。これらの埋蔵文化財は、将来の私たちの文化的な生活を形づくるためのひとつの基礎となりえるものであります。これらを守り伝えて行くことはもとより、誰もが学び、地域の理解のために生かし、多くの皆さまによって活用して行けるような環境を整えて行くことも、これからの文化財保護の課題であるといつてよいでしょう。

ここに、この発掘調査報告書が刊行できましたことは、三和シャッター工業株式会社をはじめとする関係各位ならびに関係諸機関の皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝いたします。このささやかな調査報告書は、埋蔵文化財の保護・活用にとっての第一歩であるに過ぎませんが、この地域の住民皆様はもとより、教育や研究にたずさわる皆様のご参考となりえるならば幸いです。

平成22年11月19日

本庄市遺跡調査会
会長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、本庄市児玉町秋山大町他に所在する秋山大町東遺跡（No.54-299）、秋山諏訪平遺跡（No.54-044）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、三和シャッター工業株式会社（仮称）児玉工場造成事業に伴う事前の記録保存を目的として実施した。各遺跡の調査期間は以下の通りである。

秋山大町東遺跡 平成11年4月11日から、平成11年8月31日

秋山諏訪平遺跡D地点 平成8年12月12日から、平成9年11月28日

秋山諏訪平遺跡E地点 平成11年6月21日から、平成11年10月29日

秋山諏訪平遺跡F地点 平成11年6月10日から、平成11年12月14日

3. 発掘調査は、旧児玉町遺跡調査会が行った。調査担当者は以下の通りである。

秋山大町東遺跡 徳山寿樹、大熊季広、松澤浩一

秋山諏訪平遺跡D地点 松澤浩一

秋山諏訪平遺跡E地点 尾内俊彦、大熊季広

秋山諏訪平遺跡F地点 恋河内昭彦、徳山寿樹、松澤浩一

4. 発掘調査の面積は以下の通りである。

秋山大町東遺跡 約5,216㎡

秋山諏訪平遺跡 D地点約4,280㎡ E地点約830㎡ F地点約4,930㎡





5. 整理作業および報告書刊行にかかる業務の一部を、有限会社毛野考古学研究所に委託して実施した。
6. 整理の期間は平成21年4月8日から平成22年11月30日までである。
7. 本書の執筆は、Ⅰを本庄市教育委員会文化財保護課が、Ⅱを本庄市教育委員会文化財保護課鈴木徳雄が執筆し、これ以外を有限会社毛野考古学研究所宮本久子が担当した。
8. 本書の編集は、本庄市教育委員会文化財保護課の指導に基づき、宮本が担当した。
9. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他報告書に関する資料は、本庄市教育委員会において保管している。
10. 三和シャッター工業株式会社（仮称）児玉工場造成計画にかかる、秋山大町遺跡の発掘調査報告書は、『本庄市遺跡調査会報告書第36集』として別途刊行する。なお、3遺跡をまとめた考察は本報告書に所収している。
11. 発掘調査から整理調査、報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重なご意見、ご指導、ご協力を賜りました。ご芳名を記し感謝申し上げます。（順不同・敬称略）

赤熊浩一、池田敏宏、岩瀬 謙、大谷 徹、大屋道則、岡本一雄、小川卓也、金子彰男、
埴岡恵一、坂本和俊、櫻井和哉、外尾常人、高橋一夫、田中広明、田村 誠、
知久裕昭、富田和夫、利根川章彦、永井智教、中沢良一、長滝歳康、中村會司、
中村岳彦、平田重之、福田貴之、藤野一之、丸山 修、宮本直樹、矢内 勲、
山口逸弘、吉田智哉、埼玉県市町村支援部生涯学習文化財課、児玉郡市文化財担当者

会 長	富丘文雄	児玉町教育委員会教育長
理 事	田島三郎	児玉町文化財保護審議委員長
	清水守雄	児玉町文化財保護審議委員
	武内和雄	児玉町文化財保護審議委員
	野口敏雄	児玉町文化財保護審議委員
	小島和子	児玉町文化財保護審議委員
	前川由雄	児玉町教育委員会社会教育課長
幹 事	三上元一	児玉町教育委員会社会教育課課長補佐
	萩原千恵子	社会教育係主任
	鈴木徳雄	児玉町教育委員会社会教育課文化財係係長
調査員	恋河内昭彦	文化財係主任
	徳山寿樹	文化財係主事
	大熊季広	文化財係主事
	松澤浩一	文化財係主事
	尾内俊彦	児玉町遺跡調査会調査員

会 長	茂木孝彦	本庄市教育委員会教育長
理 事	清水守雄	本庄市文化財保護審議委員
	腰塚 修	本庄市教育委員会事務局長（会長代理）
監 事	八木 茂	本庄市監査委員事務局長
	田島弘行	本庄市会計課長
幹 事	金井孝夫	本庄市教育委員会文化財保護課長（事務局長）
	鈴木徳雄	副参事兼課長補佐
	太田博之	埋蔵文化財係長
	恋河内昭彦	埋蔵文化財係主査
	大熊季広	埋蔵文化財係主査
	松本 完	埋蔵文化財係主任
	松澤浩一	埋蔵文化財係主任
	の野善行	埋蔵文化財係臨時職員

凡 例

1. 本書中に記載した、XY座標値は、日本測地系による座標である。各遺構図における方位針は北をさす。
2. 本書に掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は以下を原則とした。各挿図中にはスケールを付してある。なお、大型の遺構に関しては適宜縮尺を変更して掲載している。
【遺構図】 住居跡…1/30・1/60 掘立柱建物跡…1/80 土坑…1/40 井戸…1/60
溝…平面図 1/400・断面図 1/80
【遺物図】 土器・埴輪…1/4・1/6 土製品・石器…1/2・1/3・1/4 鉄製品…1/2
3. 遺構断面図の水準値は、海拔を示し、単位はmである。数値のないものは標高値が不明となっている。
4. 遺構図中の土坑・ピット脇に配した「-」は深さを示す。単位はcmである。
5. 本書中の遺物観察表に記した記号は、以下の通りである。法量の単位はcm、重さはgである。()内の数値は復元値を示す。
A-法量。B-成形手法。C-整形・調整の特徴。D-胎土(材質)。E-色調。F-残存度。
G-備考。H-出土位置・層位。
6. 遺構図・遺物図中のトーンを示す内容は以下の通りである。
【遺構図】  …地山  …焼土
【遺物図】  …黒色処理  …赤彩
7. 本書中に使用した、As-A・As-Bは、浅間山噴出テフラを指す。前者が浅間A軽石・1783年(天明3年)、後者が浅間B軽石・1108年(天仁元年)降下である。
8. 本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行 1/25,000「本庄」「寄居」、位置図は児玉町都市計画図 1/2,500 に加筆したものをを用いた。

秋山大町東遺跡

秋山諏訪平遺跡 — D・E・F 地点の調査 —

目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
目 次	
第 I 章 調査に至る経緯	1
第 II 章 遺跡の立地と環境	
第 1 節 地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	5
第 III 章 秋山大町東遺跡の調査	
第 1 節 遺跡の概要	9
第 2 節 基本層序	9
第 3 節 検出された遺構と遺物	
1. 竪穴住居跡	13
2. 掘立柱建物跡	142
3. 土坑	145
4. 溝	151
5. 性格不明遺構	160
第 IV 章 秋山大町諏訪平遺跡の調査	
第 1 節 遺跡の概要	161
第 2 節 基本層序	162
第 3 節 検出された遺構と遺物	
1. 竪穴住居跡	173
2. 掘立柱建物跡	241
3. 井戸・溜井	246
4. 土坑	264
5. ビット	276
6. 道路状遺構	277
7. 溝	279
8. 性格不明遺構	288
9. 遺構外出土遺物	289
第 V 章 調査のまとめと成果	290
写真図版 秋山大町東遺跡	
秋山諏訪平遺跡	

第 I 章 調査に至る経緯

本報告にかかる発掘調査は、三和シャッター工業株式会社による工場（仮称児玉工場）等の造成工事計画に伴って失われる埋蔵文化財の記録保存のために、三次にわたって実施されたものであり、発掘調査に至る経緯の概要は以下のとおりである。なお、この（仮称）児玉工場造成等にかかる秋山大町遺跡の調査に至る経過については、別途『本庄市遺跡調査報告書第 36 集』その詳細を記載しているので参照されたい。

三和シャッター工業株式会社による工場等造成計画に基づく開発が、埼玉県児玉郡児玉町大字秋山（現本庄市児玉町秋山）字大町ほかの約 170,000 m²において計画された。この、工場等造成計画に基づいて「開発予定地内における埋蔵文化財の所在及び取り扱い」についての照会があった。児玉町教育委員会では、この区域には周知の埋蔵文化財包蔵地である秋山諏訪平遺跡（No.54-044）および秋山大町遺跡（No.54-267）が該当しているとともに、埋蔵文化財の包蔵状況を把握するための試掘調査が必要である旨の回答を行った。平成 3 年 6 月、三和シャッター工業株式会社より試掘調査依頼書が児玉町教育委員会に提出されたところから、児玉町教育委員会では試掘調査の条件が整った区域から、順次所在確認と遺構深度等を確認するための試掘調査を実施し、平成 3 年 10 月 4 日付で試掘を実施した区域についての所在確認試掘調査の中間結果についての回答を行った。なお、平成 3 年度の試掘調査未了区域については、平成 9 年 2 月 5 日付で三和シャッター工業株式会社から、再び試掘調査依頼書が提出されたところから試掘調査を実施している。

試掘調査を実施した区域のうち、秋山諏訪平遺跡については周知の範囲と試掘調査による遺跡範囲に幾分の変更があったが、面積等に大きな変更のないことが確認された。また、秋山大町遺跡については古墳時代から平安時代に及ぶ大規模な集落跡であることが確認され、東側の低地帯には古代水田跡が確認された。なお、試掘調査において秋山大町遺跡の東側に新たに古墳時代後期から平安時代にかかる集落跡が確認され、秋山大町遺跡とは相対的に独立した集落遺跡であると推定されたところから、これを秋山大町東遺跡（No.54-299）とした。児玉町教育委員会は、これらの試掘調査等の結果を踏まえ、埋蔵文化財の現状変更を最小限に造成を実施するように三和シャッター工業株式会社と協議を行った。しかし、工場造成計画の実施にあたって埋蔵文化財への影響は避けがたく、造成に伴って埋蔵文化財が失われる区域の発掘調査を実施する必要が生じた。

ここに報告する秋山諏訪平遺跡の発掘調査については、三和シャッター工業株式会社から平成 8 年 10 月 1 日付で、文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項の規定に基づく工場用地の付け替え道路分にかかる秋山諏訪平遺跡の「埋蔵文化財発掘の届出について」が児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第 159 号で埼玉県教育委員会教育長あてに進達した。平成 8 年 11 月 13 日付教文第 3-474 号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、埼玉県教育委員会教育長から三和シャッター工業株式会社代表取締役高山俊隆宛に通知された。児玉町教育委員会ではこの通知を踏まえて、この付け替え道路建設予定地内の発掘調査（秋山諏訪平遺跡 D 地点）については、児玉町教育委員会の指導に基づいて、児玉町遺跡調査会と三和シャッター工業株式会社との間で埋蔵文化財保存事業委託契約を締結することで、（仮称）児玉工場関連発掘調査の第一次調査として実施することになった。文化財保護法第 57 条第 1 項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成 8 年 11 月

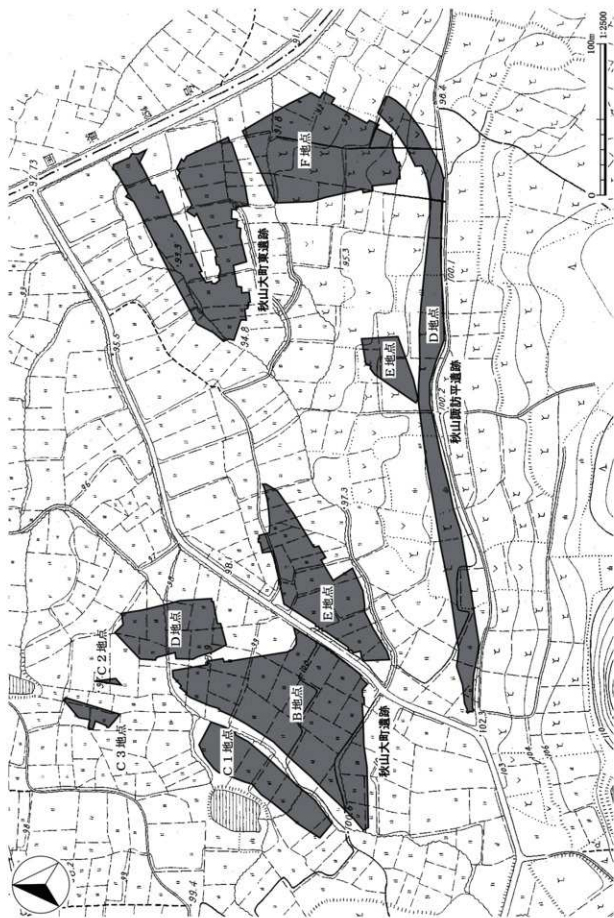
14日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第197号で埼玉県教育委員会に連達した。なお、埼玉県教育委員会教育長から平成8年11月24日付け教文第2-161号「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。発掘調査は、担当者鈴木徳雄（児玉町教育委員会社会教育課）があたり、松澤浩一（児玉町遺跡調査会）が調査員として現地で専任した。現地発掘調査の期間は、平成8年12月12日から平成9年11月28日である。

なお、（仮称）三和シャッター児玉工場にかかる工場棟および構内道路建設予定地内の秋山大町遺跡B・C地点の発掘調査については、児玉町教育委員会と三和シャッター工業株式会社との協議に基づいて、引き続き児玉町遺跡調査会において第二次調査として発掘調査を実施することになった（別途報告）。

第三次調査の実施については、平成10年10月20日付で三和シャッター工業株式会社から、児玉町遺跡調査会長宛の発掘調査依頼書が児玉町教育委員会に提出された。秋山諏訪平遺跡E・F地点、秋山大町遺跡D・E地点（別途報告）、秋山大町東遺跡にかかる文化財保護法第57条の2第1項の規定に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」が、平成10年10月30日付けで児玉町教育委員会に提出されたので、同日児教社第129号で埼玉県教育委員会教育長あてに連達した。この届出に対して、平成10年11月17日付け教文第3-510号で「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が、埼玉県教育委員会教育長から三和シャッター工業株式会社代表取締役高木俊隆宛に通知された。

秋山大町東遺跡の発掘調査にかかる文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成11年4月1日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第23号で埼玉県教育委員会に連達した。埼玉県教育委員会教育長から平成11年5月12日付け教文第2-21号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、秋山大町東遺跡にかかる現地の発掘調査は、徳山寿樹・大熊季広・松澤浩一（児玉町教育委員会社会教育課）が担当し、平成11年4月1日から平成11年8月31日まで実施した。

秋山諏訪平遺跡E地点の発掘調査にかかる文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成11年6月3日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第46号で埼玉県教育委員会に連達した。埼玉県教育委員会教育長から平成11年6月14日付け教文第2-31号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、秋山諏訪平遺跡E地点にかかる現地の発掘調査は、尾内俊彦（児玉町遺跡調査会）・大熊季広が担当し、平成11年6月21日から平成11年10月29日まで実施した。秋山諏訪平遺跡F地点の発掘調査にかかる文化財保護法第57条第1項の規定による「埋蔵文化財発掘調査の届出について」が、平成11年6月3日付で児玉町教育委員会に児玉町遺跡調査会長富丘文雄より提出されたので、同日児教社第45号で埼玉県教育委員会に連達した。埼玉県教育委員会教育長から平成11年6月14日付け教文第2-37号で「埋蔵文化財の発掘調査について」の通知があった。なお、秋山諏訪平遺跡F地点にかかる現地の発掘調査は、恋河内昭彦・徳山寿樹・松澤浩一（児玉町教育委員会社会教育課）が担当し、平成11年6月10日から平成11年12月14日まで実施した。ここに、三和シャッター工業株式会社（仮称）児玉工場にかかる、平成8年12月12日から平成11年12月14日にわたる三次に及ぶ現地発掘調査の全工程は終了した。（本庄市教育委員会文化財保護課）



第1図 調査区的位置

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

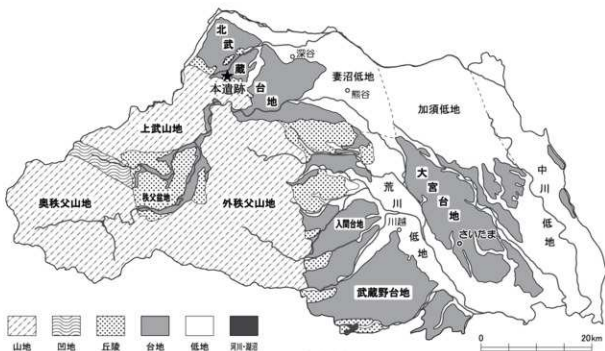
第1節 地理的環境

本報告にかかる秋山大町東遺跡、秋山諏訪平遺跡D・F地点については、秋山大町遺跡（本庄市遺跡調査会報告書第36集）と併せて、仮にひとつの「遺跡群」として記述する。なお、本章の記述は、秋山大町遺跡の報文と重複する部分が多く詳細についてはこれを参照されたい。

本庄市は埼玉県の北西部に位置し、市域には山地・丘陵・台地・低地を含み多様な地形を呈している。本庄市の地形は、市域の南東側が八王子―高崎構造線に相当する断層崖を境に三波川系結晶片岩帯に相当する上武山地が位置し、この上武山地に接して第三紀層を基盤にもつ児玉丘陵が平野部に突出している。また、この児玉丘陵の延長上には、やはり第三紀の残丘である生野山・浅見山等の丘陵が点列状に存在している。市域の北西側は関東平野西端を構成する神流川扇状地が展開しており、本庄台地とも呼称される。この扇状地扇央部に相当する区域には、神川町大字二宮所在の延喜式内社である金鑽神社付近を水源とする金鑽川と、本庄市児玉町宮内付近に水源を発する「女堀川」によって開析された沖積低地が形成されている。

児玉丘陵の南側には、上武山地内の皆野町金沢付近に水源を発する小山川（旧身馴川）を挟んで松久丘陵が展開し、北東方向に発達した扇状地内には天神川・志戸川水系の小河川によって開析された低地帯が広がっており、圃場整備以前には条里形地割が広域に認められた。これらの旧那珂郡の条里水田は、小山川の水源で灌漑される区域をもっているが、小山川は本庄市五十子付近で女堀川と、深谷市域において志戸川と合流し利根川へと注いでいる。また、これらの扇状地の東側には、諏訪山・山崎山といった第三紀の独立丘が北東方向へ展開している。

本遺跡群は、本庄市児玉町市街の南東約2.5kmの児玉町秋山に位置し、利根川水系の小山川の右岸



第2図 遺跡の位置

に位置している。遺跡群の南側に位置する秋山諏訪平遺跡の範囲は、南は「諏訪山」と呼ばれる松久丘陵の一角を構成する残丘性の丘陵の頂上付近にまで及んでおり、本遺跡北端は、丘陵の北東斜面から「諏訪平」と呼ばれる台地上の緩斜面に展開している。この諏訪山丘陵の西側には、秋山川が北流し小山川に注いでおり、丘陵の北西側にはこの秋山川によって形成された幾条かの古い河道跡を確認することができる。秋山諏訪平遺跡の東側には現在水田として利用されている小支谷を挟み、その対岸は美里町大字広木に接している。この小支谷内には、児玉町秋山字郷戸付近の湧水に発する細流があり、諏訪平遺跡東側の溜池に貯水され下流域の灌漑に供されている。

秋山大町東遺跡は、秋山諏訪平遺跡北側の平坦面に位置し、遺構分布の空白と低地帯の存在から秋山諏訪平遺跡や秋山大町遺跡と区分される。なお、周辺の試掘調査によると、秋山大町東遺跡の調査区域の北東約150mの地点においても、古墳時代後期の竪穴住居や土壌が確認されており、また集落の北東側を劃すると推定される溝跡が確認されているところから、集落の限界はさらに北方に延びているものと考えられる。

第2節 歴史的環境

本遺跡群の所在する本市市児玉町秋山地区は、小山川右岸に位置し、旧武蔵国那珂郡に相当する区域である。この小山川の南側の区域には、秋山古墳群、広木大町古墳群が小山川に沿って列状に分布し、小山川南岸における独自の墓域を形成している。このうちでも本遺跡群の西側に位置する秋山古墳群は、諏訪山丘陵上に位置する前方後円墳の秋山諏訪山古墳や、二重の周堀をもつ秋山庚申塚古墳を含む43基の古墳によって構成されている(坂本他1990)。この古墳群の古墳の分布する区域は、複数の地形的区分に跨っているが、本遺跡の位置する諏訪山丘陵の東側裾部および「諏訪平」と呼ばれる台地には古墳の分布は認められない。なお、秋山川東側の区域には、秋山川の幾つかの旧河道の痕跡があるが、これらは古墳群内の支群や集落跡を隔てるものとなっている。また、本遺跡の北東約500mには、広木大町古墳群(小淵他1980・長滝他2004・2005)が位置しており、この古墳群と秋山古墳群との間に古墳時代後期を中心とする本遺跡群が占地している。この小山川以南の旧那珂郡に位置する古墳群は、天神川水系の区域と松久丘陵の区域、および本遺跡群に近い小山川に沿った志戸川水系の区域に大別することができる。これらの古墳群に対応する集落域を直接特定することは困難であるが、おそらくこの三つの区域を基礎に後の「那珂郡」が設置されたのものであってよいであろう。

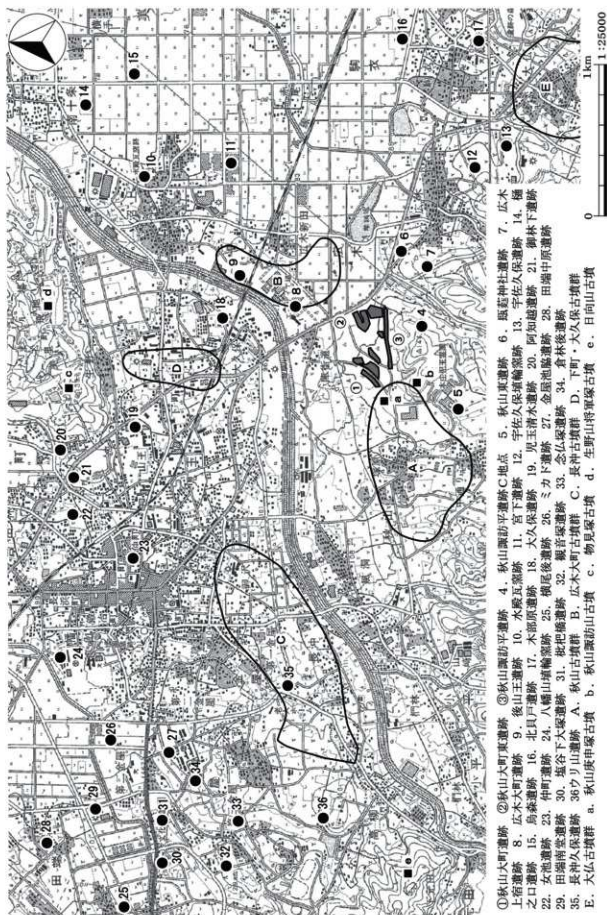
本遺跡群の周辺は、現在水田地帯であるが、北側に広木大町古墳群が位置しているところから、古墳時代以降においては今日のように広域に水田が形成されていたと考えることはできない。また、この小山川に沿った児玉町秋山大町から美里町広木大町の区域は、礫まじりの土壌であるところから、この小山川氾濫原を中心に古墳群が形成されたものと見做してよいであろう。なお、秋山諏訪平遺跡の南側の狭隘な谷戸には、丘陵部の湧水を集めた細流があり古くから水田として利用されていた様子を窺うことができるが、その可耕面積は小さい。また、秋山諏訪平遺跡や秋山大町遺跡においては、それぞれ湧水利用のための溜井が検出されており、生活用水とともに灌漑に用いられたと推定され、基本的に本遺跡群の周辺区域は河川灌漑ではなく湧水灌漑にかかる比較的小規模な水田地帯であった

と考えてよいであろう。本遺跡群の周辺は、このように谷戸の湧水および溜井灌漑にかかる区域であるが、低台地部には広木大町遺跡（小淵他1980）などが位置している。また周辺には、台地部に麻苺神社前遺跡（中村他1980）が、丘陵部には秋山東遺跡（恋河内他1987）、広木上宿遺跡（山本1996）、秋山郷戸遺跡等の古墳時代後期～平安時代の集落跡があり、とくに古墳時代後期には集落の形成が活発である。

旧那珂郡に相当する小山川灌漑区域は、志戸川や天神川の灌漑区域とは独立的な独自の水系であり、小山川の伏流水を利用して条里水田を灌漑するものである（鈴木1987）。この小山川（旧身馴川）は、表流水量が少なく、また地下水位も幾分低いところから、相対的に標高の低い右岸に位置する南側の旧那珂郡の区域においてはこれを利用することができる。しかし、左岸の旧児玉郡に相当する区域においては取水が困難であるところから殆ど利用されていない点にも注意しておきたい。

古代「那珂郡」の形成を考える上では、飛鳥京跡から発見された「无耶志国仲評中里布奈大費一斗五升」と記された木簡に注目すべきである。この木簡は、飛鳥浄御原段階には、後の「那珂郡」が、すでに「仲評」として編成されていたことを示している。この「仲評中里」は、現在の美里町中里附近と推定されるが、この「中里」は里から郷への変化を考えるならば、後の「那珂郷」に相当するものと考えてよいであろう。『和名類聚抄』に記載されている古代那珂郡には、那珂郷・水保（水保）郷・中澤郷・弘紀郷の四郷が知られている。それぞれの比定地は明らかではないが、古代那珂郡における四つの郷のうち、那珂郷については、先にみた木簡に記載された中里および郡衙が所在したと推定される「古郡」周辺に比定され、天神川水系がおおむねこれに相当すると推定される。水保郷ないしは水保郷については、『大日本地名辞書』によれば古郡および東児玉に比定されているが、古郡については那珂郷に比定しえるところから、おおむね小山川による灌漑区域が相当するものと考えておきたい。また、中澤郷については秋山字中澤に関連して秋山地区に比定する考案もあるが、秋山地区は広木に接しているとともに、今日までに知られている古代集落は比較的小規模であり、中澤の字名は中世の中澤氏との関連が予想しえるところから、ここでは中澤氏の本貫地と推定される駒衣や大仏等の志戸川水系の区域に比定しておきたい。ちなみに大仏庵寺の近傍の駒衣に所在する美里町北貝戸遺跡（長滝他2006）では、奈良時代と推定される掘立柱建物群を含む遺構群が検出されており、この北貝戸遺跡に程近い木部原遺跡（中沢1996）では掘立柱建物跡群や銅椀が検出されるなど、この周辺が那珂郡の中心のひとつであったと推定することができる。なお、弘紀郷については、地名の遺されている広木とともに、この後背に位置する秋山の地に比定することができるであろう。しかし、秋山大町から広木大町の区域は、先に見たように小山川の氾濫原に近く、耕地として主要な地位を占めていたと考えることは難しい。しかし、児玉町東小平地区においては大型の塔心礎をもつ塔跡を伴う東小平中山庵寺が8世紀後半には建立されており、在地社会に財力を蓄積した階層が形成されていたことにも注意されなければならないであろう。

「那珂郡」は、承和十年（843年）「戸口増益」により小郡から下郡となり一郷が新設されたことが知られている。この新設された郷が、先の四郷のうちどの郷に相当するかは明らかではない。しかし、この新しく設置された郷は、条里水田が展開している伝統的な灌漑区域ではなく後発的に開発が行われたと考えられる広木地区や秋山地区を中心とした丘陵部と溜井・溜池灌漑にかかる区域である可能性を認めるべきであり、「戸口増益」の前提に広木に位置する摩訶池の大規模な改修を伴う開発



第3図 周辺の遺跡

- ①秋山大町遺跡 ②秋山大町東遺跡 ③秋山諏訪平遺跡 C地点 ④秋山諏訪平遺跡 ⑤秋山東遺跡 ⑥風越神社遺跡 ⑦瓜木上宿遺跡 ⑧瓜木大町遺跡 ⑨後山王遺跡 ⑩水鏡瓦窯跡 ⑪宮下遺跡 ⑫宇佐久保埴輪窯跡 ⑬宇佐久保埴遺跡 ⑭榑之口遺跡 ⑮鳥森遺跡 ⑯北月戸遺跡 ⑰木部原遺跡 ⑱大久保遺跡 ⑲男玉清水遺跡 ⑳阿知越遺跡 ㉑御林下遺跡 ㉒女池遺跡 ㉓仲町遺跡 ㉔八幡山埴輪窯跡 ㉕榑尾後遺跡 ㉖ミカド遺跡 ㉗金屋池埴輪遺跡 ㉘田端中原遺跡 ㉙田端南堂遺跡 ㉚塩谷下大塚遺跡 ㉛疵杷輪遺跡 ㉜龜吉窯遺跡 ㉝尾後遺跡 ㉞念仏塚遺跡 ㉟倉林後遺跡 ㊱長神久保遺跡 ㊲36ヶり山遺跡 ㊳秋山古墳群 A. 秋山大町古墳群 C. 長神古墳群 D. 下町・大久保古墳群 ㊴大仏古墳群 a. 秋山庚申塚古墳 b. 秋山諏訪山古墳 c. 物見塚古墳 d. 生野山將軍塚古墳 e. 日向山古墳

があったと考えるならば、この郷は「弘紀郷」である可能性が高いであろう。なお、本遺跡群の北東約500mには延喜式内社である瓶葺神社が鎮座している。瓶葺神社は摩訶池のほとりにあり、この位置が弘紀郷の中核と考えられる美里町大字広木に所在するところから、この区域は、平安時代ごろより急速に勢力をつけたものと考えられることができる。このように考えるならば、「弘紀郷」は、おそらく「中澤郷」および隣接する「水保郷」等の一部の住民を加えて新設された郷である可能性を認めることができるであろう。

なお、本遺跡群の東側約500mの丘陵上には広木上宿遺跡（山本1996・長滝他2010）が位置しており、小型宝塔5基や鎌倉時代の複数の軒平瓦や軒丸瓦等が出土し、出土瓦等から12世紀から14世紀前半を前後する時期に寺院が造営されていたと推定されている。また、秋山地区には「徳治武年般若寺」銘をもつ軒平瓦が出土している般若寺廃寺がある。なお、本遺跡群の北東約2kmに位置する、鎌倉二階堂の永福寺の同范瓦を焼成した水殿瓦窯跡（丸山1990）の存在も注目される。この水殿瓦窯跡で生産された永福寺の同范瓦は、寛元・宝治年間の修理にかかる差し替え瓦であることを考えるならば、永福寺の修理について、この地に瓦窯の操業に関与した鎌倉との緊密な関係をもった在地領主が存在していたことを想起させるものである。

なお、本遺跡群の東側に接して「鎌倉街道^{さかづきみち}上道」が通っているが、今回の調査区の範囲内では明瞭な「街道」の痕跡を認めることができなかった。もちろん、「鎌倉街道」の路盤や硬化面等が近世以降の耕作によって失われたことも想定しておかなければならないであろうが、この区域では「鎌倉街道」の伝承のある現在の国道に近い経路かそれ以東の経路を想定しておくべきであろう。また、大町東遺跡調査区の北東約150mの試掘調査を実施した地点においても、道路状の遺構は確認されていないことにも注意しておきたい。ともあれ、「鎌倉街道」の小山川を挟んだ対岸の「児玉」の区域は、児玉党「児玉氏」の本貫地として位置づけられるとともに、この「鎌倉街道」の宿と市が発達していたことは、享徳の乱以降における雄岡城と五十子陣の関係を考える上でも注意しておくべき点であると思われる。（鈴木徳雄）

参考引用文献

- 小沢国平(1960)『コブツ谷戸祭紀遺跡』美里村教育委員会
恋河内昭彦(1987)『秋山東遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第2集
恋河内昭彦(2003)『大久保遺跡-B地点の調査-』児玉町遺跡調査会報告書第14集
坂本和俊他(1990)『秋山古墳群』児玉町史料調査報告 古代第2集
鈴木徳雄(1987)『古代那珂郡における水利権源と在地信仰』『秋山東遺跡』児玉町遺跡調査会報告書第2集
鈴木徳雄(1996)『古代北武蔵の開発と集落』『月刊文化財』11月号 No.398
鈴木徳雄(1997)『古代北武蔵の土地利用と集落』『日本歴史』9月号第592号
鈴木徳雄他(2007)『秋山源訪平遺跡-C地点の調査-』本庄市遺跡調査会報告書第17集
中村會司他(1980)『瓶葺神社前遺跡』埼玉県遺跡調査会報告書第39集
中沢良一(1996)『木部原遺跡』美里町遺跡調査会報告書第4集
長滝歳康(1992)『後山王遺跡』美里町遺跡調査会
長滝歳康・中沢良一(2004)『広木大町古墳群第14号墳・川原遺跡』美里町遺跡調査会報告書第5集
長滝歳康・中沢良一(2005)『広木大町古墳群後山王地区後山王遺跡E地点』美里町遺跡調査会報告書第6集
長滝歳康・中沢良一(2006)『北貝戸遺跡・南十条遺跡』美里町遺跡発掘調査報告書第17集
長滝歳康・中沢良一(2010)『村後遺跡B地点・大仏寺跡・広木上宿遺跡II』美里町遺跡発掘調査報告書第19集
丸山陽一(1990)『国指定史跡水殿瓦窯跡試掘調査報告』美里町遺跡発掘調査報告書第6集
山本 靖(1996)『広木上宿遺跡-古代・中世編-』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第170集
埼玉県教育委員会(1983)『鎌倉街道上道』歴史の道調査報告書第1集

第三章 秋山大町東遺跡の調査

第1節 遺跡の概要 (第4～6図)

本調査区からは、古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡を98軒(古墳時代後期57軒・奈良時代2軒・平安時代18軒・時期不明21軒)、掘立柱建物跡を5棟、土坑を118基、溝を23条、性格不明遺構を1基及び、多数のピットを検出した。

住居跡の重複は部分的に著しく密集する部分があくつかに分けられる。特に調査区の南では、住居跡が3カ所に密集し、その間は空閑地となっている。古墳時代の住居跡は調査区全体で確認されるが、古代の住居跡は南に集中している。掘立柱建物跡も古代に帰属すると思われる住居と同様に南に集中している。

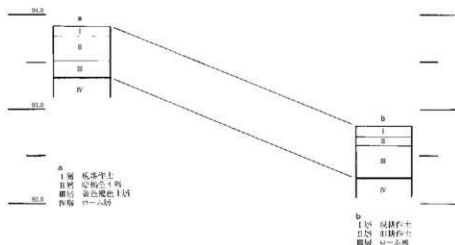
ピットもまた、密集と空閑を繰り返している。土坑に関しては、住居跡・ピットほどの明確な遺構密度の差異は見受けられない。しかし、壁面が被熱している土坑は、調査区の南西でのみ検出される傾向となっている。

溝は、近世に帰属する1号溝、古墳時代後期の住居跡に切られる14号溝以外は主軸を概ね南北方向に取っている。16・17号溝は南の谷に向かっており、他の調査区で検出された溜井に近い様相を呈している。

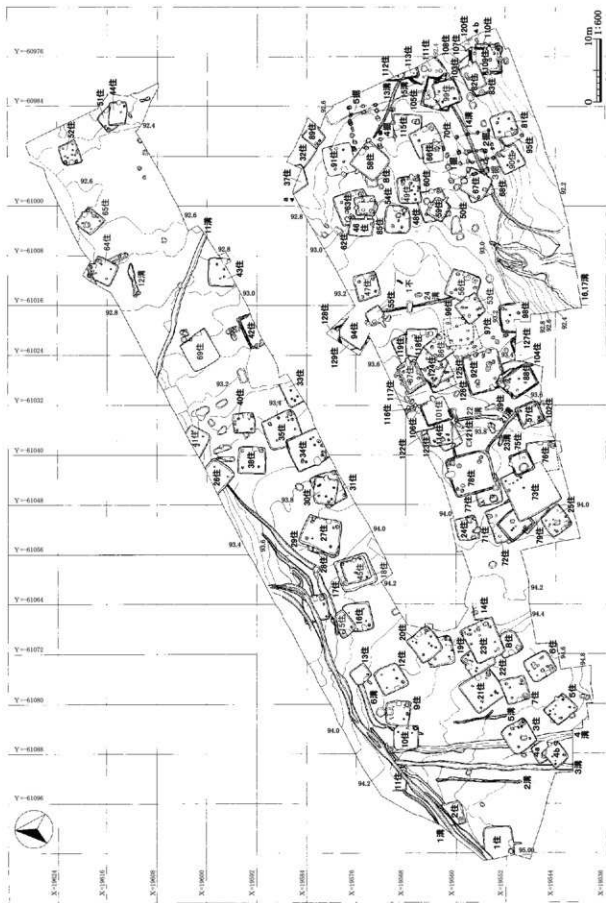
第2節 基本土層 (第3図)

本調査区は標高95.00から92.20mで、北西が高く南東が低い地形となる。この比高差は約2.8mを測る。現耕作土下にはAs-AとAs-Bを含む旧耕作土があり、これを取り除くと地山であるローム層が確認できる。部分的にローム土と耕作土との間に漸移層が残るが、大半は削平されてしまっている。

調査区の南は旧河道となり、谷状に落ち込んでいる。この旧河道は、本報告に含まれ、南に近接して立地する秋山諏訪平遺跡F地点でも検出されている。



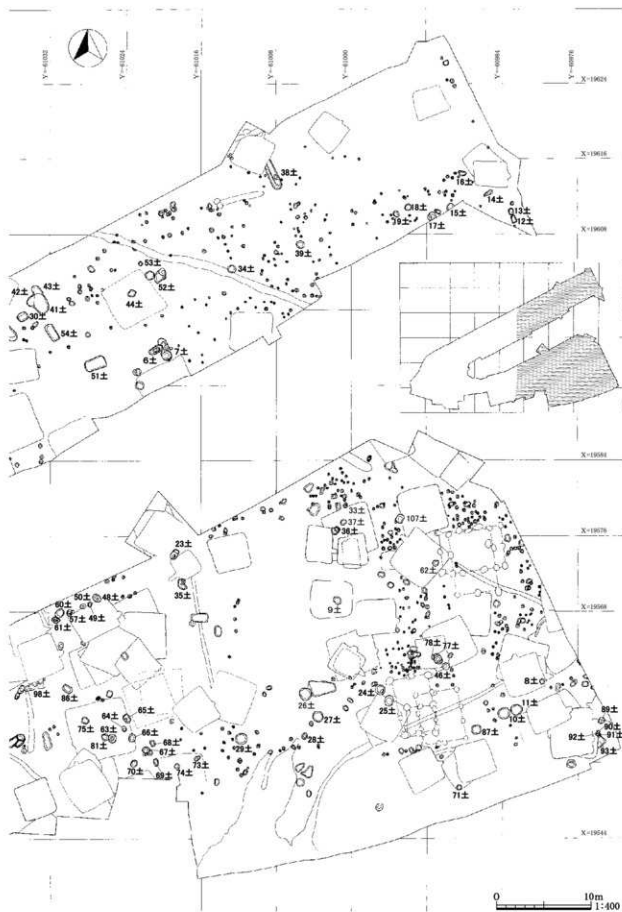
第3図 秋山大町東遺跡 基本土層



第4図 秋山大町東遺跡 全体図



第5図 秋山大町東遺跡 土坑・ピット配置図(1)



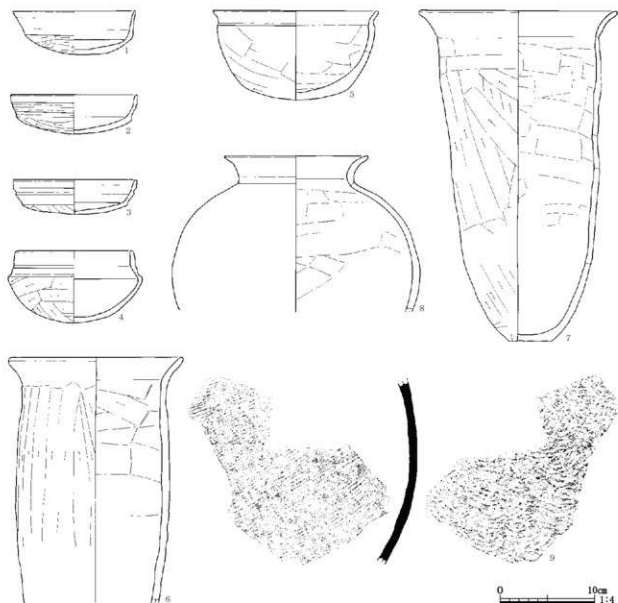
第6図 秋山大町東遺跡 土坑・ピット配置図(2)

第3節 検出された遺構と遺物

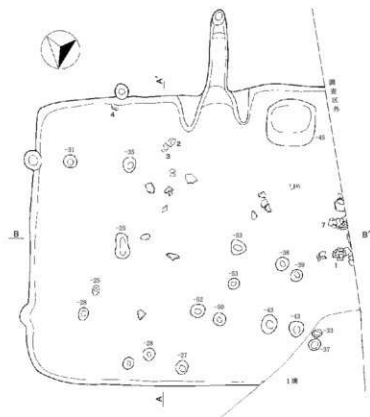
1. 竪穴住居跡

1号住居跡(第7・8図、図版2・24)

位置：調査区の最西に位置している。1号溝と重複し、本遺構が古い。形態：長方形を呈する。主軸方位：S-3°-E。規模：長軸5.32m以上、短軸4.64m。カマド：南壁に付設される。燃烧部は住居内に収まり、一段下がる。煙道は1.4mほど住居外へと延び、先端はビット状に落ち込んでいる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：18本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代後期。



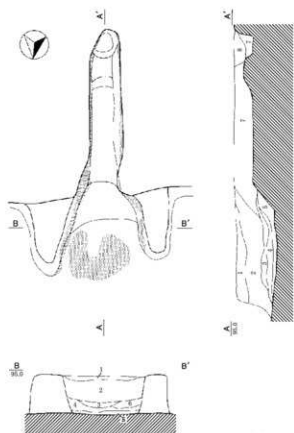
第7図 1号住居跡 出土遺物



1号住居跡

- 1層 暗茶褐色土層 鉄分・マンガン粒子を含む。粘性・しまり強。
- 2層 暗黄褐色土層 明黄色粘土粒子を含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗褐色土層 マンガン粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
- 4層 明黄色土層 マンガン粒子を多量に含む。粘性・しまり強。

0 2 m
1:60



1号住居跡 カマド

- 1層 暗黄褐色土層 粘土粒子・マンガン粒子を中量含む。粘性・しまり強。
- 2層 明黄色土層 マンガン粒子を中量、粘土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗黄茶褐色土層 炭化物粒子・粘土粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
- 4層 赤褐色土層 粘土ブロック土体層。粘性・しまり強。
- 5層 灰褐色土層 灰層。炭化物粒子・粘土粒子を多量に含む。粘性弱。しまり強。
- 6層 明赤褐色土層 粘土ブロック土体層。4層よりも含有が多い。粘性やや弱。しまり強。
- 7層 暗赤褐色土層 粘土粒子を多量に含む。粘性あり。しまり強。
- 8層 赤褐色土層 粘土粒子・粘土ブロックを多量含む。粘性・しまり強。

0 1 m
1:30

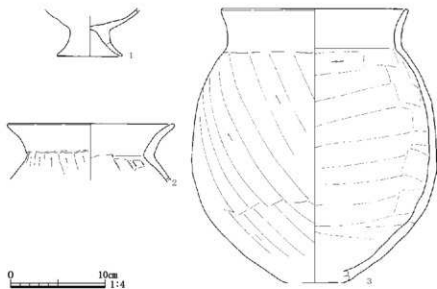
第8図 1号住居跡

1号住居跡 出土土物観察表

1	坏	A. 口径13.0. 器高4.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内一にぶい黄褐色. 外一褐色. F. 3/4. G. 器面の荒れが激しい. 二次被熱. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
2	坏	A. 口径13.4. 器高4.1. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内一褐色. 外一明赤褐色. F. ほぼ完形. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
3	坏	A. 口径13.2. 器高3.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 橙色粒子・白色粒子・角閃石. E. 内外一褐色. F. 3/4. H. 覆土.
4	鉢	A. 口径12.6. 器高7.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石. E. 内外一褐色. F. ほぼ完形. G. 内外面二次被熱か. H. 覆土.
5	鉢	A. 口径(17.6). 器高9.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子. E. 内一浅黄色. 外一褐色. F. 1/4. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
6	甕	A. 口径18.5. 残存高26.1. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ・ケズリ. D. 石英・片岩・角閃石・白色粒子. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 口縁部～胴部中位2/3. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
7	甕	A. 口径21.0. 底径4.7. 器高35.0. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 底部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内外一褐色. F. 3/4. G. 外面胴部二次被熱. H. 覆土.
8	壺	A. 口径(15.0). 残存高16.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ケズリ調整が碎減. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内外一にぶい褐色. F. 口縁部～胴部上半1/2. G. 内外面、焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
9	須恵器 甕	B. タタキ成形. C. 外面、平行タタキ. 内面、同心円当て具痕. D. 石英・片岩. E. 内外一にぶい赤褐色. F. 破片. G. 還元焰焼成. 在地産. H. 覆土.

2号住居跡(第9・10図、図版2・25)

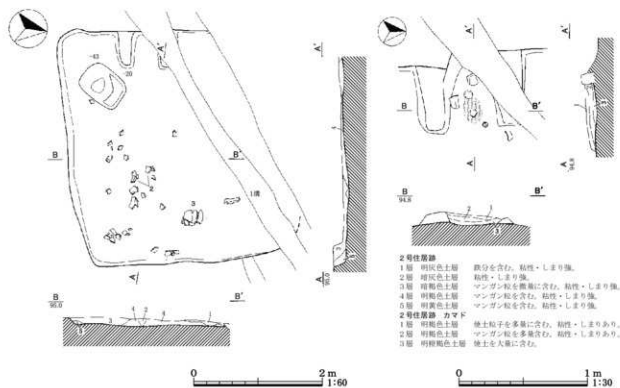
位置：調査区の北西に位置している。1号溝と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：S-76°-W。規模：長軸3.73m。カマド：西壁に付設される。片袖を溝に破壊される。燃焼部中央には、支脚が据えられている。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代後期。



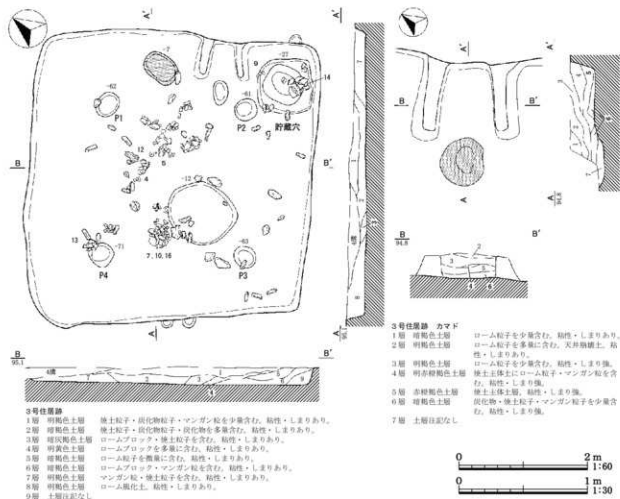
第9図 2号住居跡 出土土物

2号住居跡 出土土物観察表

1	台付甕	A. 底径(7.0). 残存高5.1. B. 粘土組織み上げ. C. 内外面、摩滅著しい. D. 白色粒子. E. 内外一明赤褐色. F. 脚部1/2. G. 内外面、二次被熱. H. カマド.
2	甕	A. 口径(17.8). 残存高6.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石. E. 内外一褐色. F. 破片. G. 二次被熱か. H. 覆土.
3	壺	A. 口径(19.8). 残存高(29.0). B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・白色粒子. E. 内一褐色. 外一にぶい褐色. F. 1/5. G. 外面、胴部下位に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.



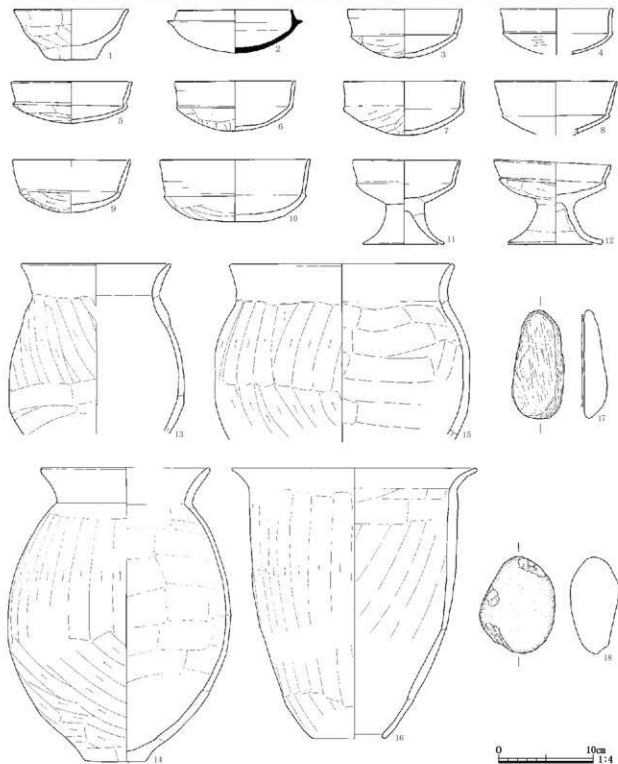
第10図 2号住居跡



第11図 3号住居跡

3号住居跡(第11・12図、図版2・24・25)

位置：調査区の西に位置している。4号溝と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-50.5°-E。規模：長軸4.61m、短軸4.51m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。焚き口部がビット状に落ち込み、良く焼けている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。このうちP1~4が主柱穴であろう。円形の住居内土坑も検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴と



第12図 3号住居跡 出土遺物

住居の中央部分に遺物は集中する。土器とともに編み物石が多く出土するほか、炭化材も散在している。時期：古墳時代後期。

3号住居跡 出土土物観察表

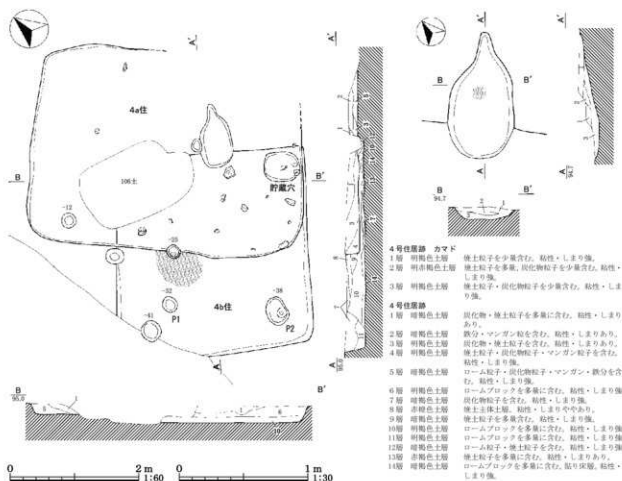
1	小形鉢	A. 口径12.2, 底径5.5, 器高5.4, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一橙色。外一にぶい橙色。F. 4/5, G. 内面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	須恵器 坏身	A. 口径12.2, 器高4.6, B. コロコ成。C. 内外面, 回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 4/5, G. 内外面器面の荒れが著しい。藤岡産。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.1, 器高5.1, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面、二次被熱により器面荒れる。H. 覆土。
4	坏	A. 口径11.9, 残存高4.8, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3, G. 内外面器面荒れる。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.8, 器高4.4, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ・体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径12.9, 器高5.3, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径12.9, 器高5.8, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ、内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
8	坏	A. 口径12.9, 残存高5.7, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリか。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4, G. 内外面、二次被熱により荒れる。H. 覆土。
9	坏	A. 口径12.4, 器高5.7, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5, H. カマド。
10	坏	A. 口径16.0, 器高6.6, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. 1/4, G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
11	高坏	A. 口径(11.4), 底径(8.7), 器高8.9, B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面, 調整摩滅。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2, G. 内外面、器面の荒れが著しい。H. 覆土。
12	高坏	A. 口径12.3, 底径(10.0), 器高9.0, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。胴部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	甕	A. 口径15.9, 残存高18.0, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコナデ。内面, 口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 片岩・石英。E. 内一灰黄橙色。外一にぶい黄橙色。F. 口縁部→胴部中位1/3, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。二次被熱。H. 覆土。
14	甕	A. 口径17.9, 底径6.6, 器高31.1, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。二次被熱。H. 貯蔵穴。
15	壺	A. 口径(24.0), 残存高18.3, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・橙色粒子・角閃石。E. 内一橙色。外一明黄褐色。F. 口縁部→胴部上位1/3, G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
16	大形甕	A. 口径26.0, 底径(7.5), 器高28.6, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面, 口縁部ヨコナデ。胴部ナメ→ヨコナデ。D. 橙色粒子・片岩。E. 内外一橙色。F. 4/5, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
17	磨石	A. 長11.5, 幅5.5, 厚2.5, 重241.72, D. 片岩, G. 一面に摩滅部分と擦痕あり。H. 覆土。
18	戴石か	A. 長10.2, 幅8.0, 厚5.1, 重522.34, D. 安山岩, G. 部分的に戴打痕あり。H. 覆土。

4 a号住居跡(第13・14図、図版2・25)

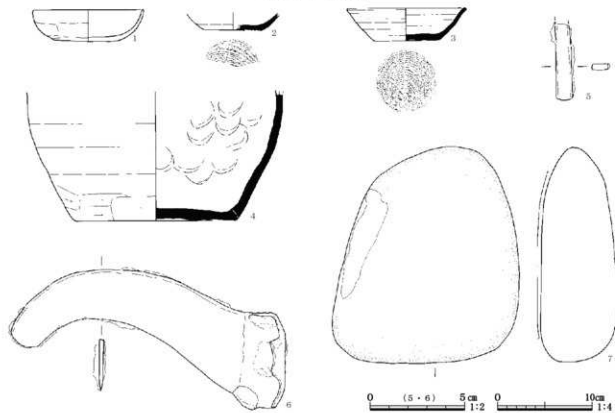
位置：調査区の西に位置している。4 b号住居跡と重複し、本遺構が新しい。北東コーナーは削平されている。形態：長方形を呈する。主軸方位：S-57°-W。規模：長軸4.30m、短軸3.18m。カマド：掘り込みは残存していないが、西壁に周辺に焼土が分布しており、ここにカマドが付設されていたと推察される。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。

4 b号住居跡(第13・14図、図版2・3・25)

位置：調査区の西に位置している。4 a号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-50.5°-E。規模：長軸3.16m、短軸3.00m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住



第13図 4号住居跡



第14図 4号住居跡 出土遺物

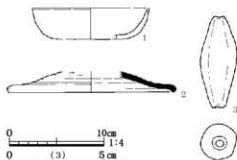
居外へ延び、緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：3本確認される。このうちP1・2が主柱穴の可能性が高い。埋没状況：覆土に粘質土ブロックを多く含むことから人為埋没の疑いがある。また、床面直上に炭化層が1層確認される。遺物：覆土より土器片が出土している。朱の付着した須恵器も出土した。時期：平安時代。

4号住居跡 出土遺物観察表

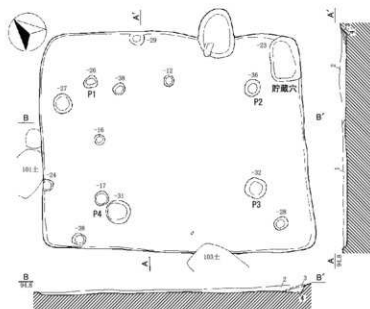
1	環	A. 口径(11.6)。器高3.4。B. 粘土細積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 橙色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/3。H. 貯蔵穴。
2	須恵器環	A. 底径(6.1)。残存高1.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 底部1/3。G. 内面に朱墨付着。H. 覆土。
3	須恵器環	A. 口径12.7。底径6.9。器高3.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・白色粒子。E. 内一明黄褐色。外一灰白色。F. ほぼ完形。G. 還元焼成。H. 覆土。
4	須恵器環	A. 底径16.8。残存高13.7。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→下位回転ケズリ。底部ナデ。内面、当て貝痕→回転ナデ。底部回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 底部→胴部下位1/4。H. 貯蔵穴。
5	不明鉄製品	A. 残長4.2。幅0.85。厚0.45。重4.65。F. 破片。G. 鉄鍍の頸部・基部又は刀子の中子か。H. 覆土。
6	鉄鎌	A. 長14.6。幅2.5。厚0.2。重79.65。F. ほぼ完形。H. 覆土。
7	すり石	A. 長22.9。幅19.8。厚8.1。重6250。D. 閃緑岩。G. 一面摩耗。H. 覆土。

5号住居跡(第15・16図、図版3・24)

位置：調査区の西に位置している。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-34.5°-E。規模：長軸4.21m、短軸3.45m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は一段掘り下がり、住居外で緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右、北東コーナーに位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：13本確認される。P1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片の他、土鎌が出土している。時期：平安時代。

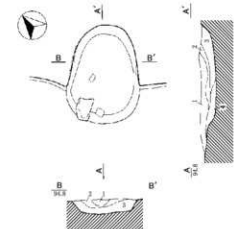


第15図 5号住居跡 出土遺物



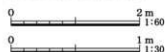
5号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・マンガン粒子を含む。粘性・しりり強。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロックを多数含む。粘性・しりり強。
- 3層 明赤褐色土層 粘土を多数含む。粘性・しりり強。
- 4層 明黄褐色土層 黄褐色粘土ブロックを多数含む。粘性・しりり強。



5号住居跡 カマド

- 1層 明赤褐色土層 黄色粘土粒子・マンガン粒子を多数含む。粘性・しりりあり。
- 2層 暗赤褐色土層 粘土を多数含む。粘性・しりりあり。
- 3層 暗褐色土層 マンガン粒子を少量含む。粘性・しりりあり。
- 4層 黒褐色土層 炭化物を多数含む。粘性・しりりあり。



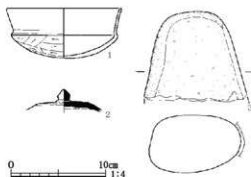
第16図 5号住居跡

5号住居跡 出土土物観察表

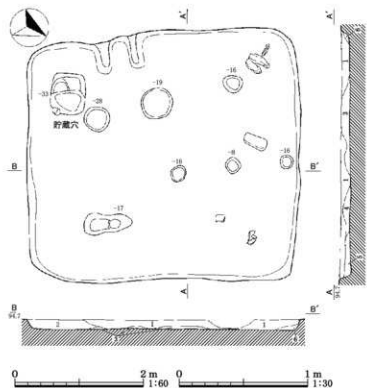
1	坏	A. 口径(12.4)。残存高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、器面の摩滅著しい。D. 雲母。E. 内外-橙色。F. 破片。H. カマド。
2	須恵器 坏蓋	A. 口径(17.8)。残存高2.2。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ-天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-灰色。F. 破片。H. 覆土。
3	土鍾	A. 長4.8、幅1.9、厚0.8、重13.12。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 橙色。F. 完形。H. 覆土。

6号住居跡(第17・18図、図版24)

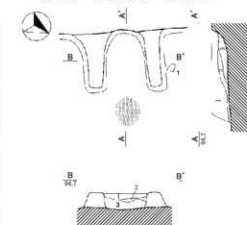
位置：調査区の西に位置している。形態：長方形を呈する。主軸方位：S-59°-W。規模：長軸4.22m、短軸3.92m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、焚き口部分は良く焼けている。燃焼部は住居内に収まり、立ち上りを住居の壁と共にする。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する長方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土内より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第17図 6号住居跡 出土土物



第18図 6号住居跡



6号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロック・マンガン粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 明褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
- 5層 明褐色土層 砂礫を大量に含む。粘性・しまりなし。
- 6層 明褐色土層 ローム粒子・マンガン粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。

6号住居跡 カマド

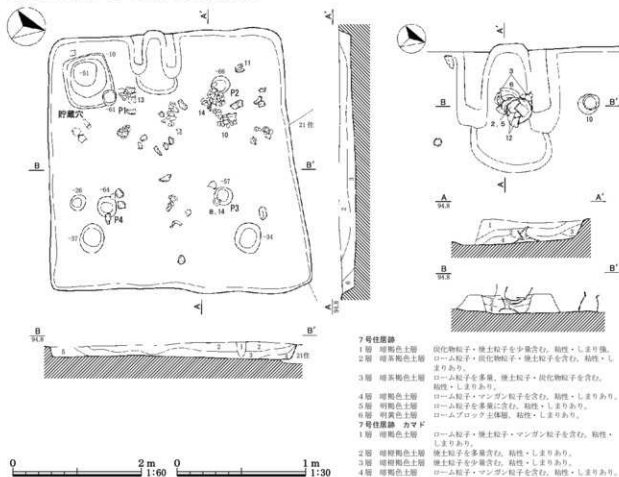
- 1層 明褐色土層 明褐色粘土土体層。カマド天井部露土。粘性・しまり強。
- 2層 明褐色土層 粘土土体土層。粘性・しまり強。
- 3層 暗褐色土層 灰化物粒子・焼土粒子・マンガン粒子を含む。粘性・しまり強。

6号住居跡 出土土物観察表

1	坏	A. 口径12.2。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子。E. 内外-橙色。F. 3/4。H. カマド。
2	須恵器 蓋	A. 揃み径1.3。残存高2.5。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ-天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 黒色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焼成。内外面に鉄分の付着あり。H. 覆土。
3	磨石	A. 残長9.5、幅9.7、厚5.9、重1004.27。D. 閃緑岩。F. 1/2。G. 一面摩耗する。H. 覆土。

7号住居跡(第19・20図、図版3・25・26)

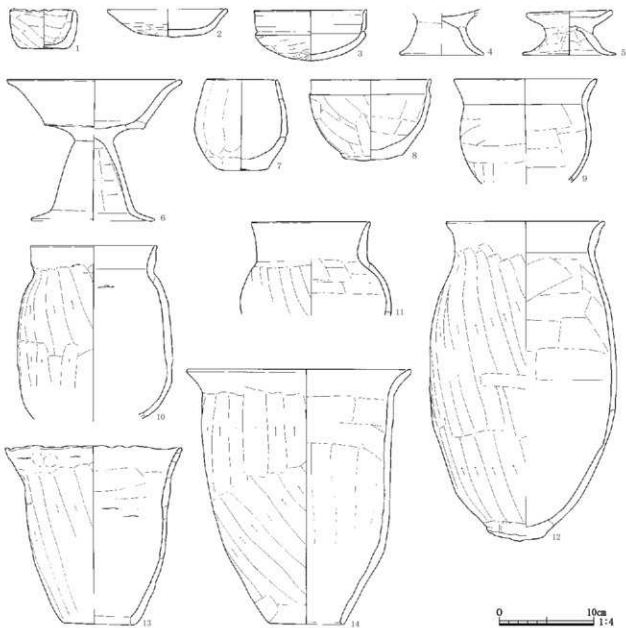
位置：調査区の西に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：S-77°-W。規模：長軸3.99m、短軸3.77m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、焚き口から燃焼部にかけて掘り窪められる。燃焼部の中央には支脚を用いられたであろう逆位の高環に長胴甕がかけられた状態で出土している。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。P1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の中心からP2にかけて集中的に分布している。時期：古墳時代後期。



第19図 7号住居跡

7号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	ミニチュア	A. 口径6.8。底径4.6。器高4.2。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ナデ。底部ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	皿	A. 口径(11.6)。器高3.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. はぼ完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
3	杯	A. 口径(12.0)。器高5.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
4	高環	A. 底径9.0。残存高4.8。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、器面の荒れが激しく調整不明。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 脚部はぼ完形。G. 二次被熱か。H. カマド。
5	高環	A. 口径(9.2)。底径9.9。器高4.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデー脚部上位ユニオサエ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 内面脚部に粘土付着。H. カマド。
6	高環	A. 口径18.5。底径(12.9)。器高14.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ。下半ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面二次被熱。全体的に脆い。H. カマド。



第20図 7号住居跡 出土遺物

7号住居跡 出土遺物観察表(2)

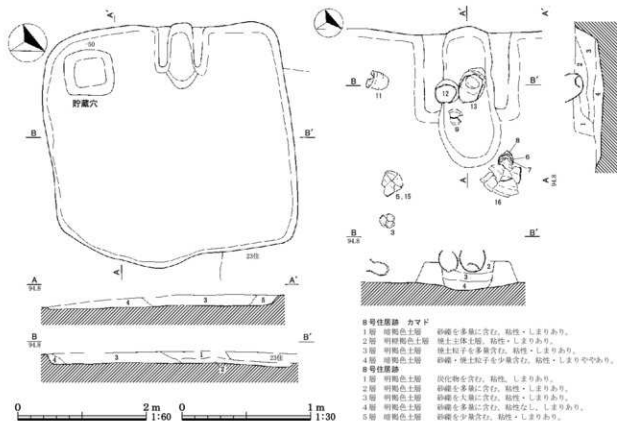
7	鉢	A. 口径(7.5), 底径5.4, 器高9.7, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、タテナデ→下位ヨコナデ、底部ナデ、内面、ナデ, D. 片岩・角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 1/4, G. 外面二次被熱, 内面口縁部にコグ, H. 覆土。
8	鉢	A. 口径(12.9), 底径(6.5), 器高8.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部タテ→ナメナデ, 底部ナデ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・角閃石, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 4/5, G. 外面二次被熱, 内面体部に帯状にヨゴレ, H. 覆土。
9	鉢	A. 口径(15.1), 残存高11.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 内外面、ヨコナデ, D. 白色粒子・石英, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部→胴部下位1/4, G. 外面胴部二次被熱, 内面胴部にヨゴレ, H. 覆土。
10	甕	A. 口径13.4, 残存高18.4, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテクスリ, 内面、口縁部ヨコナデ, 胴部ナデ, D. 片岩・白色粒子・赤色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 口縁部→胴部下半4/5, G. 外面胴部二次被熱・焼成時の黒斑あり, H. カマド。
11	甕	A. 口径12.7, 残存高10.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテナデ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・白色粒子・石英, E. 内一にぶい黄褐色, 外一橙色, F. 口縁部→胴部中位2/3, G. 内外面、焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
12	甕	A. 口径16.8, 底径6.3, 器高33.7, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテクスリ→下位ヨコナデ, 底部ケズリ・ナデ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・角閃石, E. 内一にぶい赤褐色, 外一にぶい橙色, F. 4/5, G. 外面胴部焼成時の黒斑あり, 二次被熱, 内面胴部下半→底部ヨゴレ, H. カマド。

7号住居跡 出土遺物観察表(3)

13	中形瓶	A. 口径18.7。底径7.4。器高18.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子・角閃石。E. 内外二にぶい橙色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
14	大形瓶	A. 口径23.8。底径7.8。器高27.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位ヨコナデ。D. 石英・橙色粒子。E. 内外一灰白色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

8号住居跡(第21・22図、図版3・26)

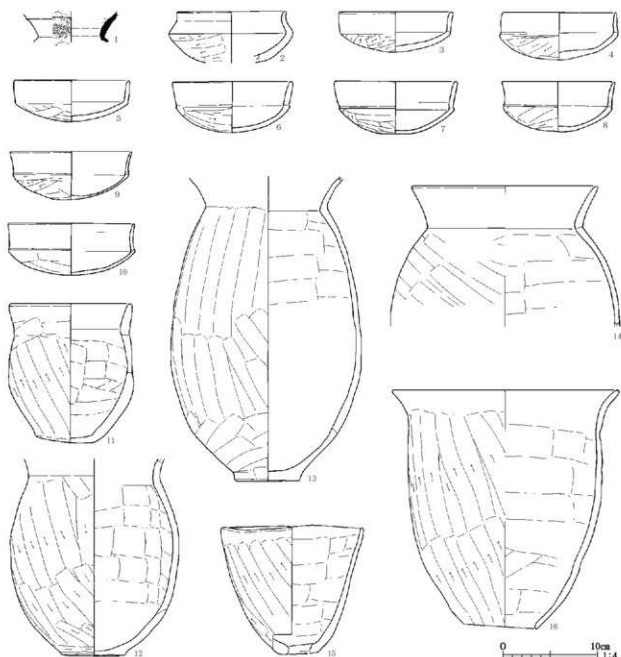
位置：調査区の西に位置している。23号住居跡と重複し、木遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：S-63°-W。規模：長軸3.83m、短軸3.56m。カマド：西壁に付設される。焚き口から燃焼部にかけて、一段下がった構造となり、奥壁は住居の壁とほぼ一致する。燃焼部内上層より、長胴甕が2個体並んで出土している。貯蔵穴：カマドに向かって左側に位置する方形のピットが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺からまとまった出土が見られる。時期：古墳時代後期。



第21図 8号住居跡

8号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	須恵器 甕	A. 残存高3.2。B. ロクロ成形。C. 外面回転ナデ→口縁部に縞描波状文。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 藤岡産。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(11.6)。残存高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・白色粒子。E. 内一褐色。外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面二次被熱。内面体部にコゲ。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.3。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
4	坏	A. 口径(11.9)。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第22図 8号住居跡 出土遺物

8号住居跡 出土遺物観察表 (2)

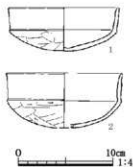
5	坏	A. 口径(12.3)、器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面短痕状に剥離する。内面体部に黒色付着物あり。H. カマド。
6	坏	A. 口径12.9。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。H. カマド。
7	坏	A. 口径15.2。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. カマド。
8	坏	A. 口径12.0。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一赤褐色。F. 4/5。G. 外面体部にスス付着。H. カマド。
9	坏	A. 口径12.9。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内外面二次被熱。H. カマド。
10	坏	A. 口径(13.4)。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 覆土。
11	小形甕	A. 口径13.0、底径6.1、器高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。H. カマド。

8号住居跡 出土遺物観察表(3)

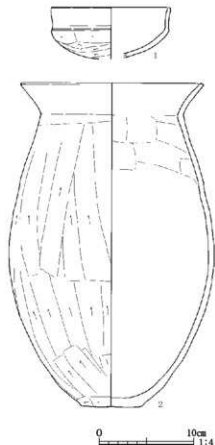
12	甕	A. 底径6.4. 残存高20.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 4/5. G. 外面胴部二次被熱。内外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
13	甕	A. 底径6.5. 残存高32.2. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ一下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一赤褐色。F. 3/4. G. 外面胴部下位二次被熱。内面底部にコケ。H. カマド。
14	甕	A. 口径19.8. 残存高14.8. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・小砂礫。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～胴部上位1/3. H. 覆土。
15	小形甕	A. 口径15.2. 底径4.8. 器高13.5. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
16	大形甕	A. 口径24.0. 底径7.5. 器高25.4. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面、胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。H. カマド。

9号住居跡(第24・25図、図版3・4・26)

位置：調査区の西に位置している。10号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：隅丸方形を呈する。主軸方位：S-85°-E。規模：長軸3.86m、短軸3.80m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内に収まり、内部には、支脚の礎が据えられている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。このうちP1～4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：北東コーナー部分に編み物石が集中する箇所がある。また、床面直上より炭化物の分布も見られる。時期：古墳時代後期。



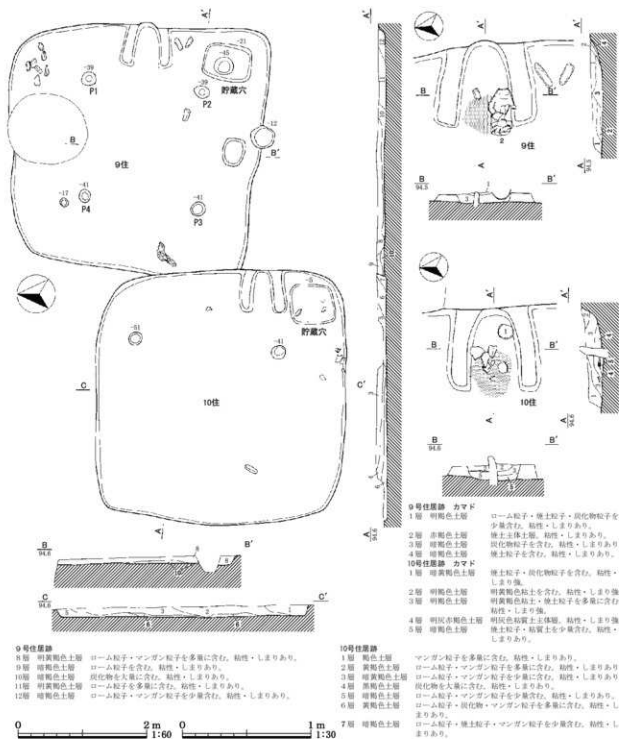
第23図 10号住居跡
出土遺物



第24図 9号住居跡 出土遺物

10号住居跡(第23・25図、図版3・4・26)

位置：調査区の西に位置している。9号住居跡と重複し、本遺構が新しい。4号溝・6号溝に覆土上層を破壊される。形態：隅丸方形を呈する。主軸方位：S-89°-E。規模：長軸3.97m、短軸3.94m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。燃焼部には支脚である礎が据えられている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドと貯蔵穴周辺に分布する。時期：古墳時代後期。



第25図 9号・10号住居跡

9号住居跡 出土遺物観察表

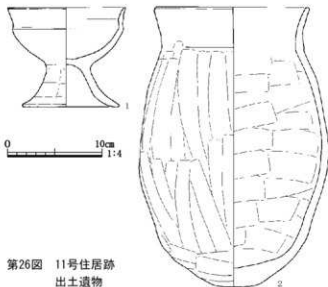
1	環	A. 口径(12.7)、残存高5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 褐色粒子・白色粒子・角閃石。E. 内一に赤褐色 外一に赤褐色。F. 4/5。H. カマド。
2	甕	A. 口径(19.0)。底径(6.5)。器高34.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ・上位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面胴部下半二次被熱。H. カマド。

10号住居跡 出土遺物観察表

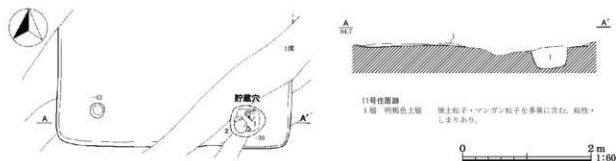
1	環	A. 口径(11.8)。器高4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一褐色 外一明赤褐色。F. 4/5。H. カマド。
2	環	A. 口径(12.4)。器高5.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一褐色。F. 1/4。H. 覆土。

11号住居跡(第26・27図、図版4・27)

位置：調査区の西に位置している。1号溝と重複し、本遺構が古い。北半分は削平を受け、南半分のみは検出である。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-0°-E。規模：長軸3.70m。貯蔵穴：南東コーナーに位置する楕円形のピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：1本確認される。埋没状況：覆土がほとんど残存しておらず、詳細は不明である。遺物：貯蔵穴より完形の長胴甕と高環が出土している。時期：古墳時代後期。



第26図 11号住居跡
出土遺物



第27図 11号住居跡

11号住居跡 出土遺物観察表

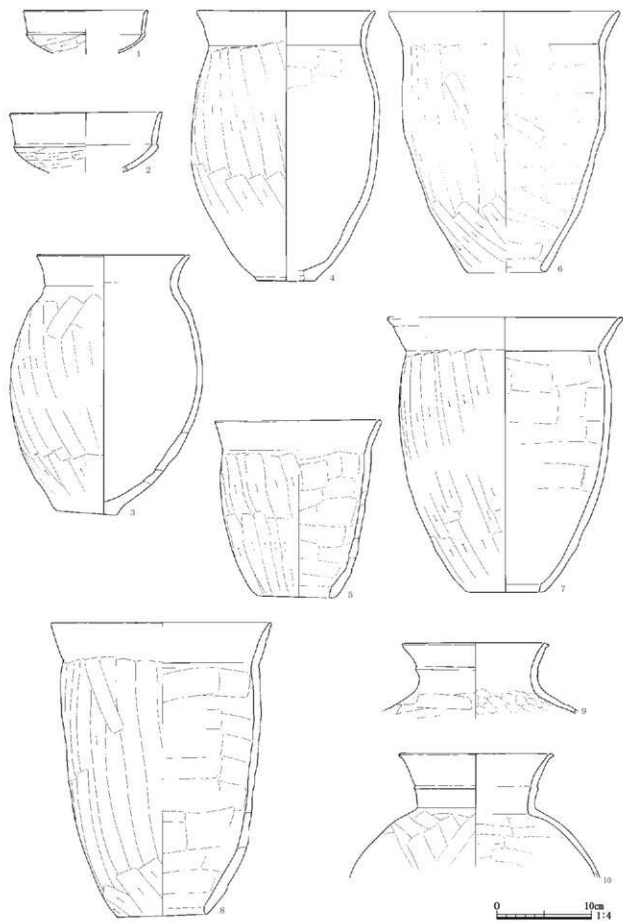
1	高環	A. 口径12.6。底径10.4。器高10.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内面、口縁部・脚部に焼成時の黒炭あり。H. 貯蔵穴。
2	甕	A. 口径16.8。底径4.0。器高29.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい黄橙色。F. 完形。G. 外面胴部二次被熱。外面に焼成時の黒炭あり。H. 貯蔵穴。

12号住居跡(第28・29図、図版4・27)

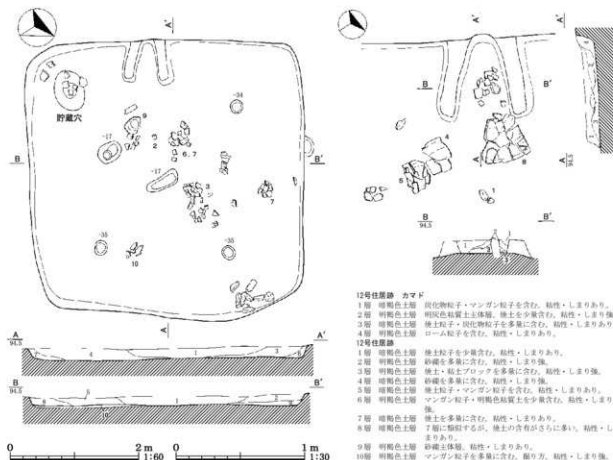
位置：調査区の西に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：S-65°-W。規模：長軸4.33m、短軸4.21m。カマド：西壁に付設される。燃烧部は住居内に収まり、内部には支脚の礎が据えられる。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドから住居中央付近に遺物が集中している。北東コーナーに福み物石が集中する。時期：古墳時代後期。

12号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	環	A. 口径(13.2)。残存高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 外面二次被熱か。H. カマド。
2	環	A. 口径(16.2)。残存高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面二次被熱か。H. 覆土。
3	甕	A. 口径(16.1)。底径(6.5)。器高27.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面胴部二次被熱。内外面器面の荒れ著しい。H. 覆土。
4	甕	A. 口径19.0。底径(6.4)。器高(28.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。G. 外面胴部二次被熱。H. カマド。
5	中形甕	A. 口径17.7。底径8.0。器高18.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面に焼成時の黒炭あり。H. カマド。



第28图 12号住居跡 出土遺物



12号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 炭化物粒子・マンガン粒子を含む。粘性・しまりあり。
- 2層 明褐色土層 明褐色粘質土主体層。焼土を少量含む。粘性・しまり強。
- 3層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 明褐色土層 ローア粒子を含む。粘性・しまりあり。

12号住居跡

- 1層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 2層 明褐色土層 砂礫を多量に含む。粘性・しまり強。
- 3層 明褐色土層 焼土・粘土ブロックを多量に含む。粘性・しまり強。
- 4層 暗褐色土層 砂礫を多量に含む。粘性・しまり強。
- 5層 暗褐色土層 焼土粒子・マンガン粒子を含む。粘性・しまりあり。
- 6層 明褐色土層 マンガン粒子・明褐色粘質土を少量含む。粘性・しまり強。
- 7層 暗褐色土層 焼土を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 8層 暗褐色土層 7層に類似するが、焼土の含有がさらに多い。粘性・しまりあり。
- 9層 明褐色土層 砂礫主体層。粘性・しまりあり。
- 10層 明褐色土層 マンガン粒子を多量に含む。粗り方。粘性・しまり強。

第29図 12号住居跡

12号住居跡 出土遺物観察表 (2)

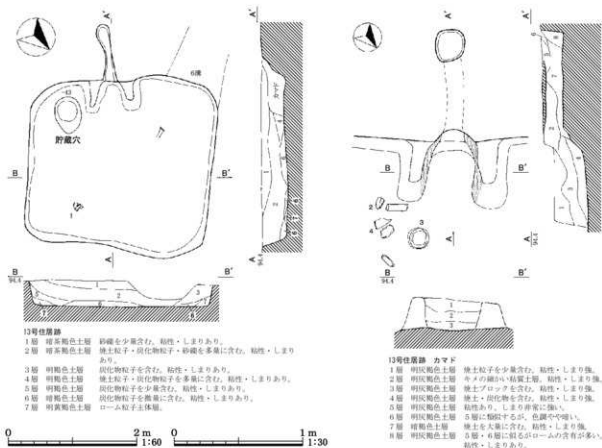
6	大形瓶	A. 口径(24.4)、底径(8.3)、器高27.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にびい黄褐色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	大形瓶	A. 口径(25.0)、底径(8.2)、器高(29.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・赤色粒子。E. 内外一褐色。F. 1/3。G. 外面焼成時の黒斑あり。園上還元。H. 覆土。
8	大形瓶	A. 口径23.2、底径9.5、器高31.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ下位ヨコナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面、胴部下半に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
9	壺	A. 口径15.5、残存高7.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ヨコナサエ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一にびい褐色。F. 口縁部～胴部上位3/4。H. 覆土。
10	壺	A. 口径(16.4)、残存高13.2。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・赤色粒子。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部上位1/4。H. 覆土。

13号住居跡(第30・31図、図版4・27)

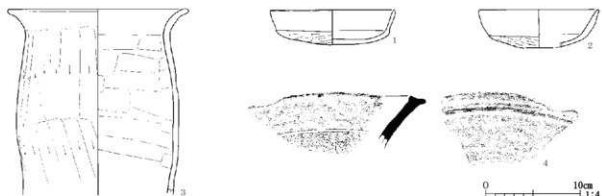
位置：調査区の西に位置している。6号溝と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：S-48°-W。規模：長軸2.95m、短軸2.66m。カマド：西壁に付設される。燃焼部は住居内に取まり、壁面が良く焼けている。住居外に延びる煙道の残存状況が良好で、天井が検出された。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド前より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。

13号住居跡 出土遺物観察表 (1)

1	坏	A. 口径13.3、器高3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一褐色。F. 2/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
---	---	--



第30図 13号住居跡



第31図 13号住居跡 出土遺物

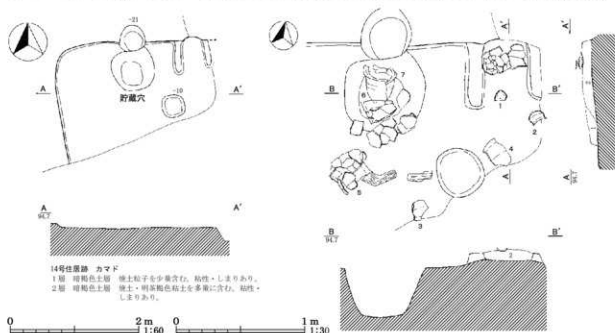
13号住居跡 出土遺物観察表 (2)

2	坏	A. 口径12.7。残存高4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
3	甕	A. 口径19.2。残存高19.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一褐色。F. 口縁部~胴部上半はぼ光形。G. 外面胴部中位に粘土付着。内外面二次被熱。H. カマド。
4	須恵器 甕	B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ一掃描波状文。内面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内一灰色。外一黄灰色。F. 破片。G. 還元焙焼成。H. カマド。

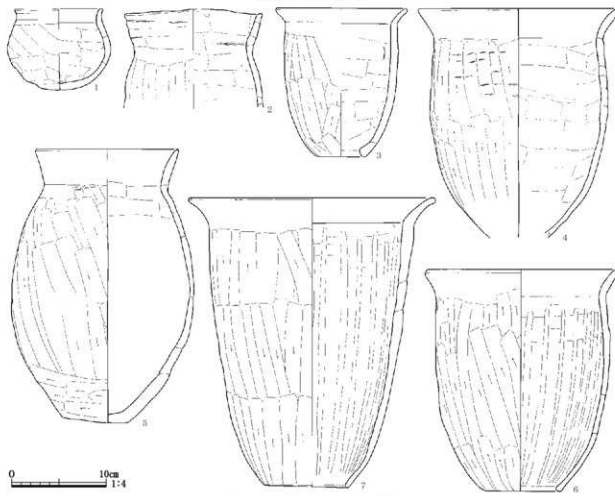
14号住居跡(第32・33図、図版4・5・28)

位置：調査区の西に位置している。耕作等の攪乱により残存状況は不良である。形態：方形を呈するであろう。主軸方位：N-3°-W。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まっている。貯蔵穴：カマドに向かって左側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：2

本確認される。埋没状況：覆土がほとんど残っていないため、詳細は不明である。遺物：貯蔵穴・カマドから土器がまとめて出土した。遺物とともに炭化材も見られる。時期：古墳時代後期。



第32図 14号住居跡



第33図 14号住居跡 出土遺物

14号住居跡 出土遺物観察表

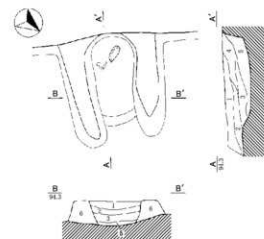
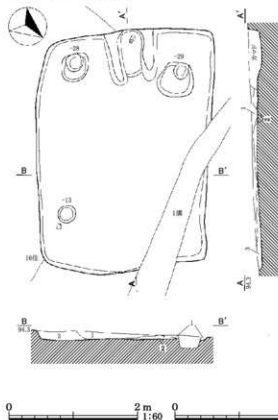
1	鉢	A. 口径9.3, 器高8.7, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ナメナデ→下位ヨコナデ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一にぶい橙色, F. 3/4, G. 外面二次被熱, 内面口縁部にスス附着, H. カマド。
2	小形甕	A. 口径(14.6), 残存高10.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一にぶい橙色, F. 口縁部～胴部1/4, H. カマド。
3	小形甕	A. 口径(14.0), 底径(5.2), 器高15.7, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→上位ヨコナデ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・片岩, E. 内外一にぶい橙色, F. 1/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
4	甕	A. 口径(21.3), 残存高24.2, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一灰黄褐色, F. 1/4, G. 内外面、ヨゴレ・焼成時の黒斑あり, H. カマド。
5	甕	A. 口径15.2, 底径7.1, 器高29.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ, 底部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・石英, E. 内外一明赤褐色, F. 4/5, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
6	大形甕	A. 口径20.5, 底径7.8, 器高23.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコケズリ→タテミガキ, D. 角閃石・白色粒子・石英, E. 内外一にぶい橙色, F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. 貯蔵穴。
7	大形甕	A. 口径26.1, 底径9.0, 器高30.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. 貯蔵穴。

15号住居跡(第34・35図、図版5・27)

位置：調査区の西に位置している。16号住居跡と重複し、本遺構が新しい。
形態：長方形を呈する。主軸方位：S-50.5°-W。規模：長軸3.81m、短軸2.78m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は、一段掘り下がり、内部から支脚の礎が検出された。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第34図 15号住居跡 出土遺物



15号住居跡

- 1層 暗灰色土層 焼土粒子・灰化粒子を中量, 砂礫を少量含む, 粘性・しまりややあり。
2層 暗灰色土層 砂礫を多量, ローム粒子を中量含む, 粘性・しまりややあり, 白色粒子を中量, ローム粒子・焼土粒子を少量含む, 粘性・しまりややあり。
3層 暗灰色土層

15号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・白色粒子を中量含む, 粘性・しまりややあり, ロームブロックを大量, 焼土ブロックを少量含む, 粘性・しまりややなし。
2層 暗褐色土層 焼土粒子を少量, 焼土粒子を少量, 白色粒子・炭化物粒子を微量に含む, 粘性・しまりなし。
3層 黒褐色土層 焼土粒子を中量, 炭化物粒子を少量含む, 粘性・しまりややなし。
4層 黒褐色土層 炭化物・焼土粒子を少量含む, 粘性・しまりなし。
5層 暗灰色土層 炭化物・焼土粒子を少量含む, 粘性・しまりなし。
6層 灰色土層 砂礫・白色粒子を含む, 粘性・しまり強。

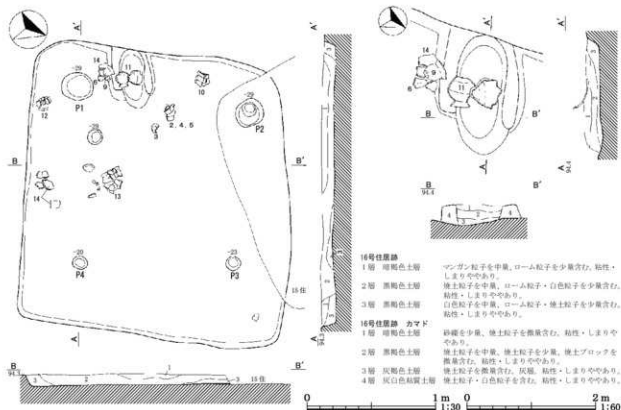
第35図 15号住居跡

15号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径(12.6)。残存高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土。
---	---	---

16号住居跡(第36・37図、図版5・28・29)

位置：調査区の西に位置している。15号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：S-80°-W。規模：長軸4.53m、短軸4.22m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、住居の壁に対して斜めに付設される。焚き口から燃焼部にかけて一段落ち込み、奥壁の立ち上がりは住居の壁と共にする。柱穴：5本確認される。このうちP1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドから南壁周辺にかけて遺物が散在する。時期：古墳時代後期。



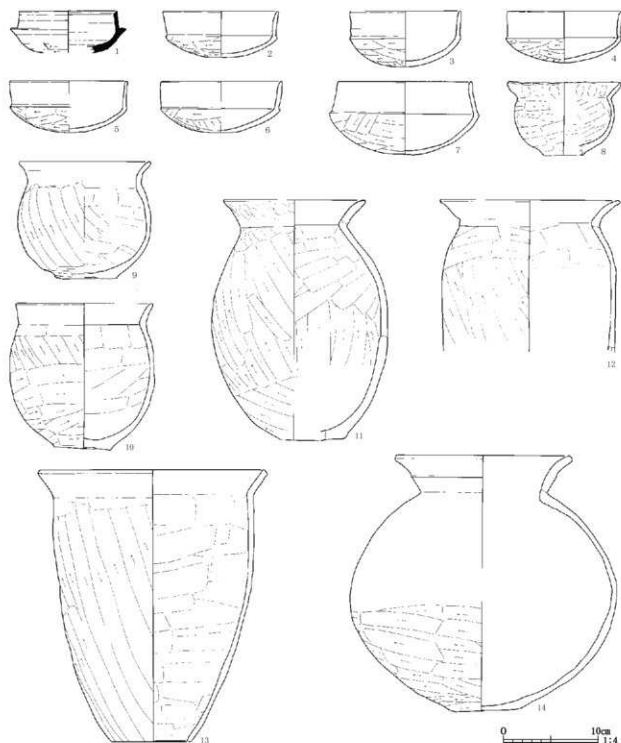
16号住居跡

- 1層 暗褐色土層 マンガン粒子を中量、ローム粒子を少量含む、粘性・しまりやあり。
- 2層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・白色粒子を少量含む、粘性・しまりやあり。
- 3層 黒褐色土層 白色粒子を中量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む、粘性・しまりやあり。
- 16号住居跡 カマド
- 1層 暗褐色土層 砂礫を少量、焼土粒子を微量含む、粘性・しまりやあり。
- 2層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、焼土粒子を少量、焼土ブロックを微量含む、粘性・しまりやあり。
- 3層 灰褐色土層 焼土粒子を微量含む、灰礫、粘性・しまりやあり。
- 4層 灰白色粘質土層 焼土粒子・白色粒子を含む、粘性・しまりやあり。

第36図 16号住居跡

16号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	須恵器 環身	A. 口径(10.4)。残存高4.4。B. ロクコ成。C. 外面、回転ナデ一底部回転ケズリ。ヘラ描きあり。内面、回転ナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一灰色。F. 1/3。G. 輸入品。H. カマド。
2	環	A. 口径(12.2)。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
3	環	A. 口径11.8。器高6.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. カマド・覆土。
4	環	A. 口径12.3。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完全形。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
5	環	A. 口径12.4。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 褐色粒子・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完全形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	環	A. 口径13.0。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完全形。G. 内外面、焼成時の黒斑あり。H. カマド。
7	環	A. 口径(14.4)。器高7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 内外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第37図 16号住居跡 出土遺物

16号住居跡 出土遺物観察表 (2)

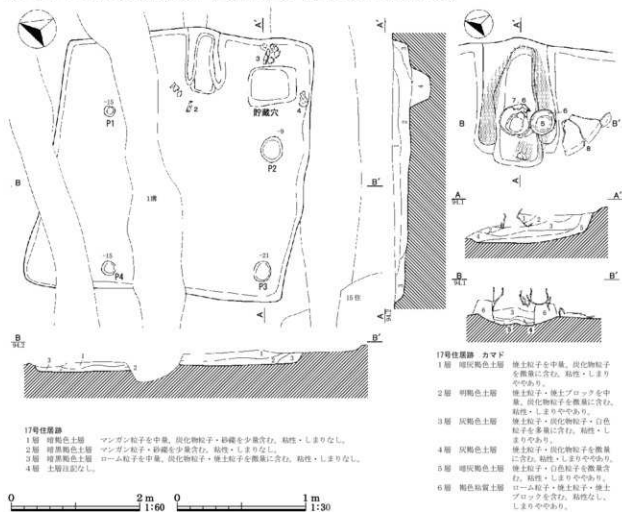
8	鉢	A. 口径(12.0). 底径(4.2). 器高7.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, 口縁部ナデ・ユビオサエ. 外面ヨコケズリ. 内面, ナデ・ユビオサエ. 内面, ナナメケズリ. D. 石英・角閃石・片岩. E. 内-黒褐色. 外-褐色. F. 破片. H. カマド.
9	小形甕	A. 口径14.1. 底径6.5. 器高12.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ. 底部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 片岩・石英. E. 内-にぶい黄褐色. 外-にぶい橙色. F. 1/2. G. 外面底部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土・カマド.
10	小形甕	A. 口径14.5. 底径5.8. 器高15.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下半ヨコケズリ. 底部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内-灰褐色. 外-にぶい橙色. F. ほぼ完形. G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱. H. 覆土.

16号住居跡 出土土物観察表 (3)

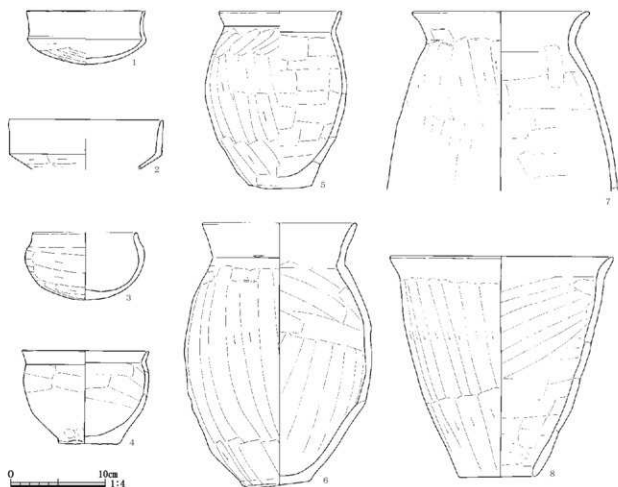
11	甕	A. 口径(15.1)、底径(6.7)、器高25.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ、胴部タテケズリ。D. 片岩・石英。E. 内外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・二次被熱。H. カマド。
12	甕	A. 口径19.1、残存高16.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ→上位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-にぶい黄褐色。F. 口縁部→胴部上半2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
13	大形瓶	A. 口径24.3、底径8.2、器高28.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
14	壺	A. 口径(18.8)、底径7.1、器高27.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部ナデ→下半ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土・カマド。

17号住居跡(第38・39図、図版5・28・29)

位置：調査区の西に位置している。東西方向に走る1号溝と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-75°-E。規模：長軸4.05m、短軸3.98m。カマド：東に壁に付設される。焚き口から燃焼部に向かって一段落ち込み、立ち上がりは住居の壁よりも内側となる。カマド内部より土師の甕が、袖上から小形甕が出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：主柱穴が4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドの内部より遺物が集中して出土している。時期：古墳時代後期。



第38図 17号住居跡



第39図 17号住居跡 出土遺物

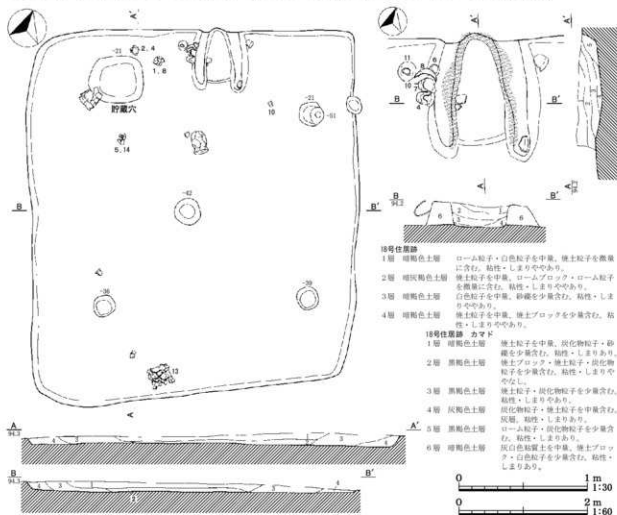
17号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.6, 器高5.7, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 内外面二次被熱か, H. カマド.
2	坏	A. 口径(16.5), 残存高5.3, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 赤色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 1/5, H. 覆土.
3	鉢	A. 口径11.1, 器高7.1, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・石英, E. 内一灰褐色・にぶい橙色, 外一にぶい橙色, F. ほぼ完形, G. 内面体部に帯状にヨゴレあり, H. 覆土.
4	鉢	A. 口径13.4, 底径6.6, 器高9.9, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, ヨコナデ, 底部ナデ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・白色粒子, E. 内外一にぶい橙色, F. 3/4, G. 外面, 二次被熱, 内面胴部中位に帯状にヨゴレ付着, H. 覆土.
5	小形甕	A. 口径13.0, 底径6.9, 器高18.9, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→上位ナメナデ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・白色粒子, E. 内一灰黄色, 外一橙色, F. 完形, G. 外面胴部二次被熱, 内外面に焼成時の黒斑あり, H. カマド.
6	甕	A. 口径16.5, 底径7.5, 器高28.1, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ・ナデ, 内面, ヨコナメナデ, D. 片岩・角閃石・石英, E. 内外一にぶい橙色, F. ほぼ完形, G. 外面胴部二次被熱, H. カマド.
7	甕	A. 口径18.8, 残存高19.1, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一にぶい橙色, F. 口縁部～胴部上半2/3, G. 外面胴部中位にスス付着, H. カマド.
8	大形甕	A. 口径23.6, 底径8.1, 器高23.4, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石, E. 内外一にぶい黄褐色, F. ほぼ完形, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. カマド.

18号住居跡(第40・41図、図版6・29・30)

位置：調査区の西に位置している。45号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-28°-W。規模：長軸5.95m、短軸5.25m。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって左側に位置する長方形のピットが貯蔵穴である。

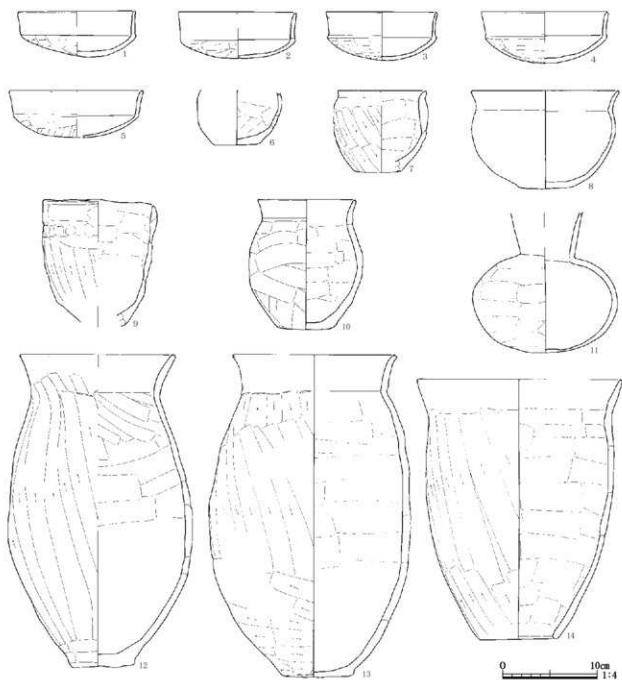
う。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドに向かって左の袖脇より小形甕・埴が出土している。貯蔵穴や住居内にも土器は散在する。時期：古墳時代後期。



第40図 18号住居跡

18号住居跡 出土遺物観察表 (1)

1	埴	A. 口径(12.4)。器高4.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。H. 覆土。
2	埴	A. 口径12.5。器高4.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
3	埴	A. 口径11.9。器高5.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒炭あり。H. カマド。
4	埴	A. 口径11.9。器高5.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・褐色粒子。E. 内外一褐色。F. 4/5。G. 外面体部にスス付着。H. 覆土。
5	埴	A. 口径14.2。器高5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/2。H. 覆土。
6	小形甕	A. 底径5.0。残存高5.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい赤褐色。F. 胴部1/2。H. カマド。
7	小形甕	A. 口径(9.4)。底径5.0。器高8.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 外面胴部二次被熱。H. カマド。
8	鉢	A. 口径15.7。底径5.2。器高10.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部調整摩滅。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土・カマド。
9	小形甕	A. 口径11.7。残存高13.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。エビオサエ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 内面胴部にヨゴレあり。H. カマド。



第41図 18号住居跡 出土遺物

18号住居跡 出土遺物観察表 (2)

10	小形甕	A. 口径10.5, 底径6.1, 器高13.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, ヨコナデ, 胴部強いヨコナデ, 底部ナデ・ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英, E. 内外一橙色, F. 3/4, G. 外面胴部二次被熱, 内面, 胴部下に帯状のヨゴレあり, H. カマド。
11	埴	A. 残存高15.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 内外面, ヨコナデ, D. 橙色粒子・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 胴部完形, 口縁部1/2, G. 外面底部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
12	甕	A. 口径16.4, 底径6.8, 器高33.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→下位ヨコナデ, 底部ナデ?, 内面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコナデ→上位カナメナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一にぶい黄橙色, F. ほぼ完形, G. 外面胴部下半二次被熱, H. 覆土。
13	甕	A. 口径17.4, 底径7.5, 器高34.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石, E. 内外一橙色, F. 2/3, G. 外面に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
14	大形甎	A. 口径21.7, 底径8.2, 器高27.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・片岩, E. 内一橙色, 外一明赤褐色, F. ほぼ完形, G. 内外面胴部下に焼成時の黒斑あり, H. 覆土・貯蔵穴。

19号住居跡(第42・43図、図版6・30)

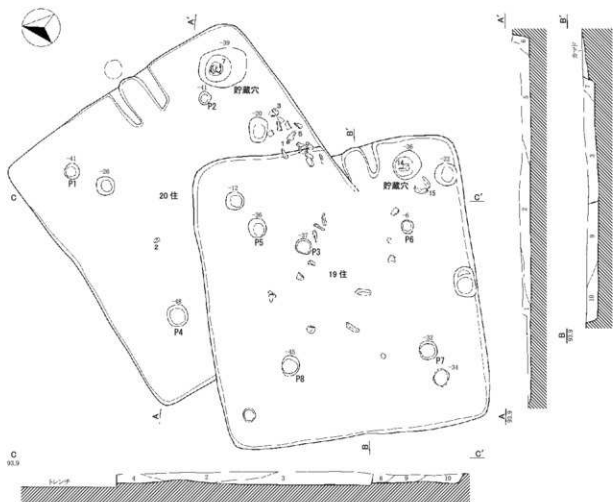
位置：調査区の西に位置している。20号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸4.64m、短軸4.28m。カマド：東壁に付設される。片袖が20号住居跡に削平される。燃焼部からは支脚の礫が出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：10本確認される。このうちP5～8が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴より土師器の坏が出土している。住居内には編み物石が散在する。時期：古墳時代後期。

20号住居跡(第42・43図、図版6・30)

位置：調査区の西に位置している。19号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-49°-E。規模：長軸4.69m、短軸4.36m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内に収まり、この中心には支脚の礫が据えられていた。支脚にはさらに逆位の高坏が被せられている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。このうちP1～4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺から多数の土器が出土している。カマドに向かって右側の袖脇から、小形甕と小形甕が入れ子の状態で出土している。また、南壁沿い中央には編み物石の集中も見られる。時期：古墳時代後期。

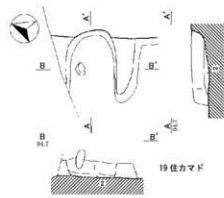
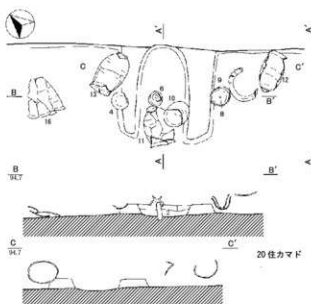
19号・20号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径12.4。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一にぶい橙色。F. 1/3。G. 内外面、二次被熱。H. 20住カマド。
2	坏	A. 口径(12.0)。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 20住カマド。
3	坏	A. 口径12.9。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 外面に焼成時の黒斑。内面、症状状の剥離あり。H. 20住カマド。
4	坏	A. 口径(13.5)。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 20住カマド。
5	鉢	A. 口径(12.6)。底径(7.6)。残存高9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナメケズリ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/4。G. 外面胴部下半に二次被熱。内面胴部下半にヨゴレ。H. 20住カマド。
6	高坏	A. 口径12.2。底径(10.0)。器高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内外面に粘土付着。胴部二次被熱。H. 20住カマド。
7	小形甕	A. 底径3.2。残存高9.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部タテナデ→中位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 胴部ほぼ完形。H. 20住貯蔵穴。
8	小形甕	A. 口径13.0。器高10.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内一にぶい黄褐色。外一明黄褐色。F. 完形。G. 内外面、焼成時の黒斑あり。H. 20住カマド。
9	鉢	A. 口径(13.4)。底径5.9。器高11.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内一黄灰色。外一暗灰黄色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱。H. 20住カマド。
10	小形甕	A. 口径15.5。底径7.6。器高21.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下半二次被熱。内面胴部中位以下ハジケ・コケか。H. 20住カマド。
11	甕	A. 口径17.5。底径6.7。器高29.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ～ナメケズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメケナデ。D. 片岩・小礫・角閃石。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑あり。内面胴部中位～底部にヨゴレ。H. 20住カマド。
12	甕	A. 口径16.1。底径7.2。器高31.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一褐色。F. 1/2。G. 外面胴部上位ス付着。下位二次被熱。内面胴部上位帯状にヨゴレあり。H. 20住カマド。



- 20号住居跡**
- 1層 暗褐色土層 砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 暗褐色土層 1層に似るが砂礫は含まない。粘性・しまりあり。
 - 3層 暗褐色土層 焼土・炭化物粒子・砂礫を含む。粘性・しまりあり。
 - 4層 暗褐色土層 ロームブロックを含む。粘性・しまりあり。
 - 5層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 6層 暗褐色土層 明褐色土風化土層。粘性・しまりあり。
 - 7層 暗褐色土層 焼土粒子を含む。粘性・しまりあり。

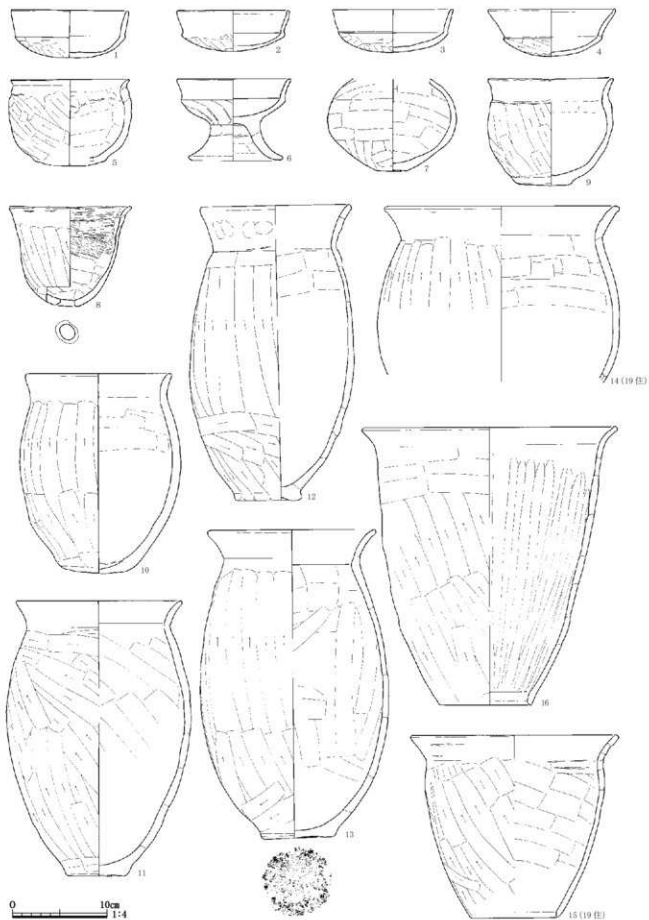
- 19号住居跡**
- 8層 暗褐色土層 焼土・粘土粒子を含む。粘性・しまりあり。
 - 9層 褐色土層 砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 10層 明黄褐色土層 ローム風化土層。砂礫を多量に含む。粘性・しまりあり。



- 19号住居跡 カマド**
- 1層 暗褐色土層 焼土・焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 明褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 20号住居跡 カマド**
- 1層 暗褐色土層 焼土・炭化物粒子を含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 土層目取なし



第42図 19号・20号住居跡



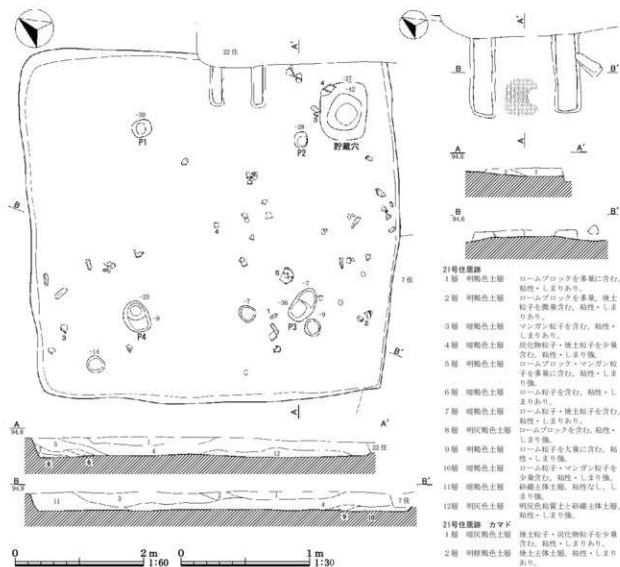
第43圖 19号・20号住居跡 出土遺物

19号・20号住居跡 出土遺物観察表(2)

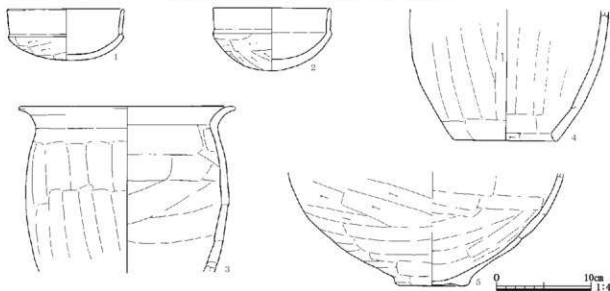
13	甕	A. 口径17.9, 底径8.0, 器高32.4, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部木葉痕。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→タテナデ。D. 白色粒子・角閃石・小礫。E. 内外一橙色。F. ほぼ完成。G. 外面二次被熱。外面胴部下位→底部に焼成時の黒斑。内面口縁部にスス付着。H. 20住カマド。
14	甕	A. 口径24.9, 残存高18.6, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 口縁部→胴部上半3/4, H. 19住貯蔵穴。
15	中形瓶	A. 口径22.0, 底径9.2, 器高19.3, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 1/2。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 19住覆土。
16	大形瓶	A. 口径26.9, 底径9.9, 器高29.4, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ→胴部タテナデ。D. 角閃石・白色粒子・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 内外面口縁部にスス付着。H. 20住カマド。

21号住居跡(第44・45図、図版6・31)

位置：調査区の西に位置している。22号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-54.5°-E。規模：長軸5.90m、短軸5.60m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖である。立ち上がりは22号住居跡との重複により、消失している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴であろう。一段下がった後、中央が更に落ち込んでいる。柱穴：7本



確認される。このうちP1～4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：全体に散在するが、北東コーナー部分の密度が非常に薄い。時期：古墳時代後期。



第45図 21号住居跡 出土遺物

21号住居跡 出土遺物観察表

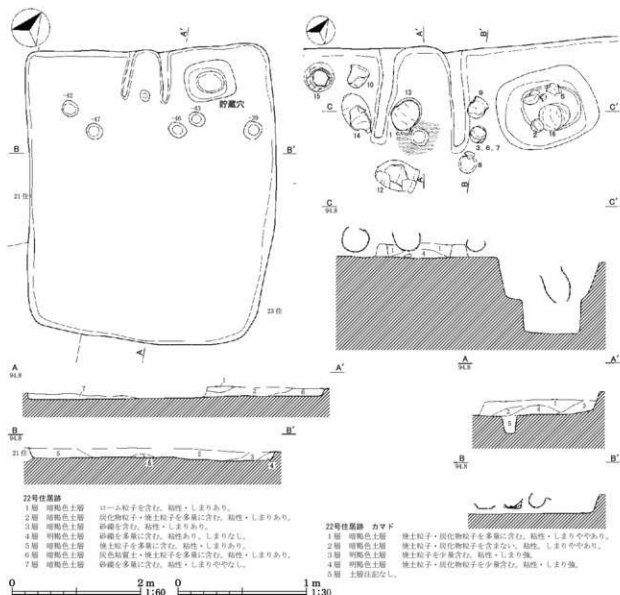
1	坏	A. 口径12.3. 器高5.4. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面体部二次被熱。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.6. 器高6.6. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一黄灰色。外一橙色。F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり。内面黒色処理か。H. 覆土。
3	甕	A. 口径11.0. 残存高17.6. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 内外面、器面の荒れ激しい。H. 貯蔵穴。
4	大形甕	A. 口径12.6. 残存高13.8. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ→下位ヨコナデ。内面、タテナデ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。D. 白色粒子・橙色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 胴部下位～底部1/2. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土・貯蔵穴。
5	壺	A. 口径8.0. 残存高12.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナメケズリ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明黄褐色。外一橙色。F. 胴部下位～底部2/3. G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

22号住居跡(第46・47図、図版7・31・32)

位置：調査区の西に位置している。21号住居跡、23号住居跡と重複する。前者より新しく、後者より古い。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-33°-W。規模：長軸4.69m、短軸3.95m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖である。燃焼部は住居内に収まり、内部には支脚の抜き取り痕のビットが確認された。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のビットが貯蔵穴であろう。一段テラスを持ち、中央部分がビット状に落ち込む。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド・貯蔵穴より多数の遺物が出土している。カマドに向かって右側の袖脇に、小形甕と3枚重なった坏が、反対の袖には、甕の口縁部から胴上部の破片に長胴甕が乗せられた状態で発見された。時期：古墳時代後期。

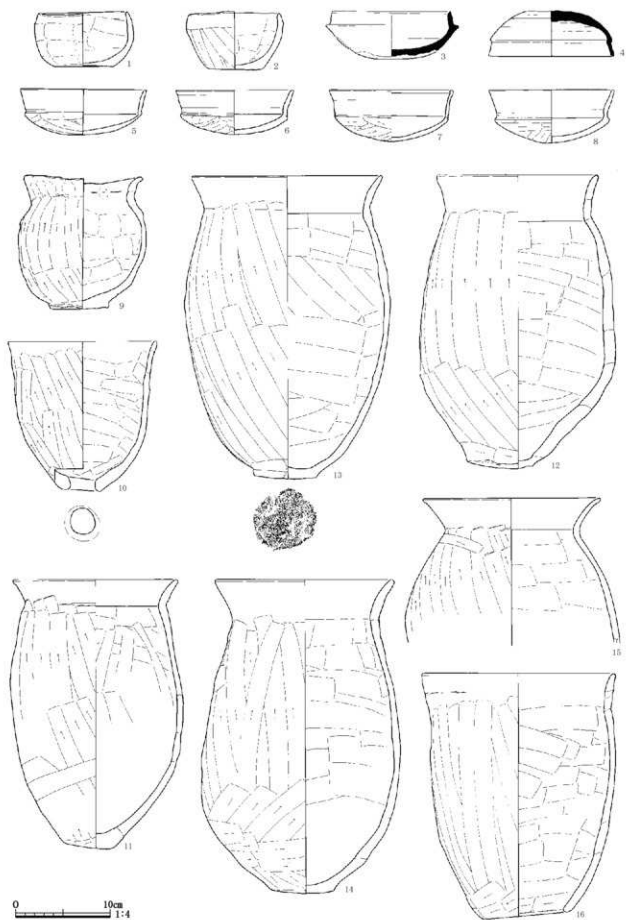
22号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	ミニチュア	A. 口径9.6. 底径6.1. 器高5.8. B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 2/3. G. 外面体部スス付着。H. カマド。
2	ミニチュア	A. 口径9.8. 底径5.8. 器高6.2. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部タテケズリ・ナデ→口縁部ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 内外面焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
3	須恵器 坏身	A. 口径12.5. 残存高4.8. B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩。E. 内一黄灰色。外一褐灰色。F. ほぼ完形。G. 外面体部、剥落が著しい。G. 藤岡瓦。H. カマド。



22号住居跡 出土遺物観察表 (2)

4	須恵器 环蓋	A. 口径13.3, 器高4.8, B. ロクロ成形, C. 外面, 回転ナデ→天井部回転ケズリ, 内面, 回転ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内一暗灰黄色, 外一灰黄色, F. 4/5, G. 藤岡産, H. 覆土。
5	环	A. 口径13.3, 器高4.8, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内一明赤褐色, 外一にぶい褐色, F. 4/5, H. 貯蔵穴。
6	环	A. 口径12.6, 器高4.7, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一明赤褐色, F. 4/5, H. カマド。
7	环	A. 口径13.2, 器高5.5, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・角閃石, E. 内外一明赤褐色, F. 4/5, H. カマド。
8	环	A. 口径13.3, 器高5.6, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, E. 内外一明赤褐色, F. ほぼ完形, H. カマド。
9	小形甕	A. 口径12.5, 底径6.0, 器高14.2, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ・ナデ, 内面, ヨコナデ, 口縁部一部ユビオサエ, D. 片岩・石英, E. 内外一明赤褐色, F. 3/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, 内面胴部中に散在のヨゴレ, H. カマド。
10	小形甕	A. 口径15.7, 底径3.7, 器高15.9, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・褐色粒子, E. 内外一褐色, F. 3/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
11	甕	A. 口径17.5, 底径(6.2), 器高28.5, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ, 内面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコナデ→タテナデ, D. 石英, E. 内外一にぶい褐色, F. 3/4, G. 内面胴部下位～底部にヨゴレ, H. 覆土。
12	甕	A. 口径17.0, 底径7.0, 器高31.1, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一褐色, F. 4/5, G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑・二次被熱あり, H. カマド。



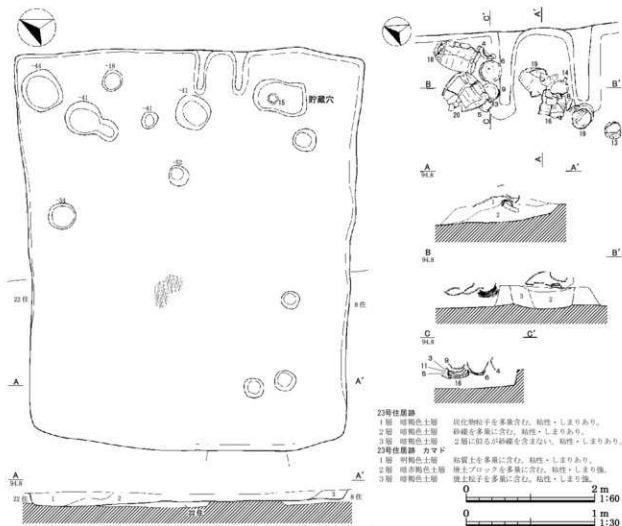
第47图 22号住居跡 出土遺物

22号住居跡 出土遺物観察表 (3)

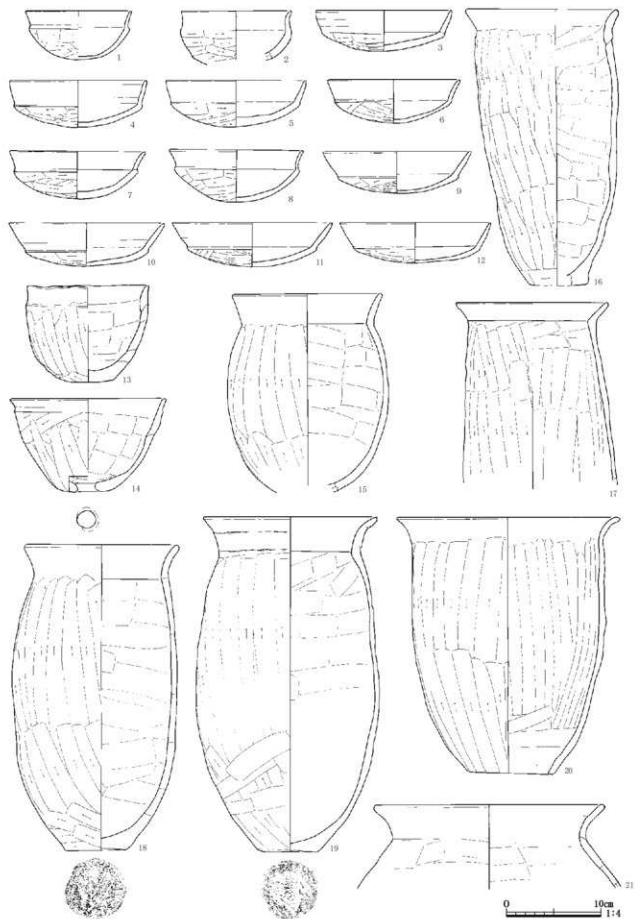
13	甕	A. 口径(20.2). 底径6.8. 器高32.1. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ヨコナデ. 底部木集積. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部ナナメナデ→上位、下位ヨコナデ. D. 片岩・石英. E. 内一にぶい褐色. 外一にぶい褐色. F. 3/4. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. 外面、胴部上位に粘土附着. H. カマド.
14	甕	A. 口径19.1. 底径6.7. 器高39.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ナメ～ヨコケズリ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一黒褐色. 外一にぶい褐色. F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. カマド.
15	甕	A. 口径18.8. 残存高15.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・石英. E. 内外一褐色. F. 口縁部～胴部上位ほぼ完形. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. カマド.
16	大形瓶	A. 口径20.5. 底径9.5. 器高26.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデ→下位ヨコケズリ. 内面、ヨコナデ→下位ヨコケズリ. D. 片岩・角閃石・白色粒子. E. 内外一褐色. F. ほぼ完形. G. 内外面、二次被熱. H. 貯蔵穴.

23号住居跡(第48・49図、図版7・32)

位置：調査区の西に位置している。8号住居跡・22号住居跡と重複し、本道構が最も新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-62°-E。規模：長軸6.33m、短軸5.15m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：11本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺より多数の土器が出土している。カマドに向かって左の袖脇から坏が5枚重なって出土している。このほかにも、長胴甕・甗等が完形に近い形で発見された。時期：古墳時代後期。



第48図 23号住居跡



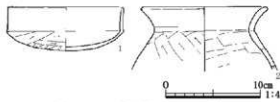
第49图 23号住居跡 出土遺物

23号住居跡 出土土物観表

1	坏	A. 口径11.2, 器高5.3, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, D. 角閃石・片岩, E. 内一にぶい橙色, 外一にぶい赤褐色, F. ほぼ完形, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり, 内面に黒色の付着物, H. 覆土。
2	坏	A. 口径11.7, 器高5.1, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・石英, E. 内一にぶい黄褐色, 外一にぶい橙色, F. 3/4, G. 外面体部・内面口縁部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
3	坏	A. 口径14.5, 器高4.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 外面体部に焼成時の黒斑, 内外面黒色の付着物あり, H. カマド。
4	坏	A. 口径14.5, 器高4.9, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 完形, G. 外面体部焼成時の黒斑あり, H. カマド。
5	坏	A. 口径14.9, 器高5.0, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 4/5, H. カマド。
6	坏	A. 口径14.1, 器高4.6, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, H. カマド。
7	坏	A. 口径14.4, 器高5.0, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 外面二次被熱, H. カマド。
8	坏	A. 口径14.2, 器高5.5, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・片岩, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, H. カマド。
9	坏	A. 口径15.8, 器高4.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・石英・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 完形, G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
10	坏	A. 口径16.4, 器高4.6, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 完形, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
11	坏	A. 口径17.0, 器高4.7, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 白色粒子・角閃石・石英, E. 内外一明赤褐色, F. 完形, H. カマド。
12	坏	A. 口径16.0, 器高4.3, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 内外面二次被熱あり, H. カマド。
13	鉢	A. 口径12.8, 底径6.1, 器高10.2, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部タテケズリ, 底部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 外面二次被熱, H. カマド。
14	小形瓶	A. 口径16.4, 底径5.6, 器高9.8, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ヨコケズリ・タテケズリ, 底部ナデ一焼成前穿孔, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 完形, G. 内外面底部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
15	小形甕	A. 口径16.0, 残存高21.0, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・白色粒子, E. 内外一にぶい褐色, F. 底部以外は完形, G. 外面胴部二次被熱, 内面胴部中位以下にヨゴレ, H. 貯蔵穴。
16	甕	A. 口径16.6, 底径5.9, 器高29.5, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 雲母・白色粒子, E. 内一にぶい赤褐色, 外一灰褐色, F. 2/3, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
17	甕	A. 口径16.0, 残存高19.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテナデ一上位強いヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 口縁部～胴部中位完形, G. 外面胴部中位スス付着, 内面胴部に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
18	甕	A. 口径16.4, 底径6.5, 器高32.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ・下位ヨコケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 外面に焼成時の黒斑あり, 胴部下二次被熱, H. カマド。
19	甕	A. 口径18.5, 底径6.3, 器高35.5, B. 粘土組織み上げ, C. 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ・下位ヨコナデ, 底部木葉痕, 内面、ヨコナデ, D. 石英・片岩, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, 外面胴部下二次被熱, H. カマド。
20	大形瓶	A. 口径23.6, 底径8.8, 器高27.3, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, タテナデ一下位ヨコナデ, D. 石英・角閃石・白色粒子, E. 内一にぶい黄褐色, 外一橙色, F. ほぼ完形, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. カマド。
21	壺	A. 口径24.3, 残存高8.9, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面、ヨコナデ, D. 白色粒子・石英, E. 内外一橙色, F. 口縁部破片, G. 内面胴部にヨゴレ, H. カマド。

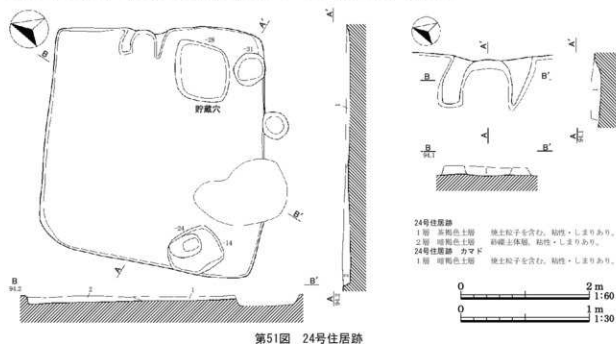
24号住居跡(第50・51図、図版7・33)

位置：調査区の南に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：N-78°-E。規模：長軸3.79m、短軸3.42m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに



第50図 24号住居跡 出土土物

向かって右に位置する方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第51図 24号住居跡

24号住居跡 出土遺物観察表

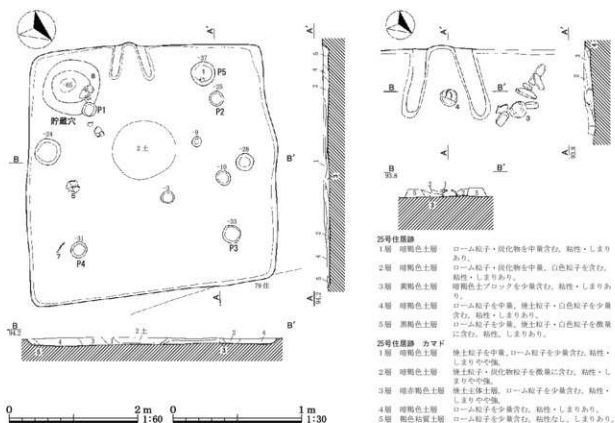
1	坏	A. 口径(12.3). 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. 1/2. H. 貯蔵穴.
2	小形甕	A. 口径(13.4). 残存高6.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一明赤褐色. F. 破片. G. 外面二次被熱. 内面焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.

25号住居跡(第52・53図、図版7・33)

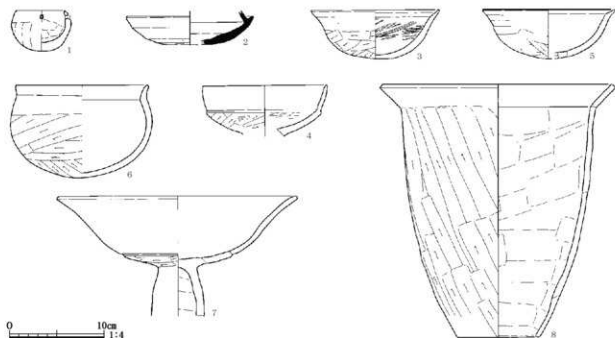
位置：調査区の南に位置している。79号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：S-54°-E。規模：長軸3.93m、短軸3.90m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖である。燃焼部は住居内に収まり、中央から逆位の高環が出土している。貯蔵穴：カマドに向かって左側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：10本確認される。このうちP1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド脇・貯蔵穴に遺物が集中している。時期：古墳時代後期。

25号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	ミニチュア	A. 口径5.2. 器高4.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、体部タテナデ→口縁部ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内外一橙色. F. ほぼ完形. G. 外面に焼成時の黒斑あり. 口縁部に焼成前穿孔1. H. カマド・P5.
2	須恵器 坏身	A. 残存高3.5. B. ロクロ成形. C. 外面、回転ナデ→体部下半回転ケズリ. 内面、回転ナデ. D. 角閃石・片岩. E. 内外一灰色. 外一浅黄色. F. 破片. H. 覆土.
3	坏	A. 口径13.6. 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ→体部ヨコミガキ. D. 角閃石・橙色粒子. E. 内外一橙色. F. 4/5. H. カマド.
4	高环	A. 口径13.2. 残存高5.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ→ミガキ. 内面、ヨコナデ→体部ミガキ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一橙色. F. 坏部ほぼ完形. G. 内外面赤色の痕跡あり. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり. H. カマド.
5	坏	A. 口径14.0. 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ→ナデ. 内面、ナデ. D. 橙色粒子. E. 内外一橙色. F. 3/4. G. 内外面二次被熱か. H. 覆土.
6	鉢	A. 口径14.0. 器高9.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部タテケズリ→中位ヨコケズリ→上位ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・赤色粒子. E. 内外一橙色. F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.



第52図 25号住居跡



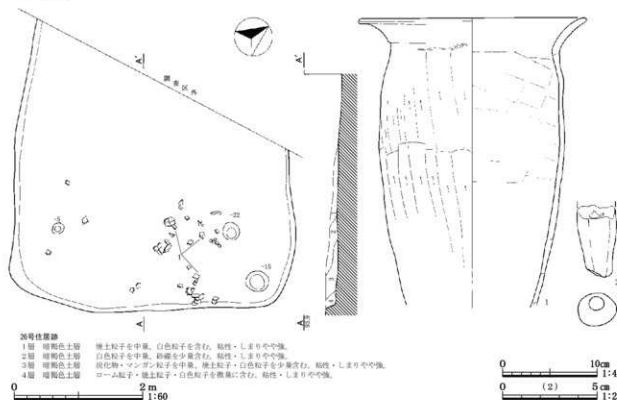
第53図 25号住居跡 出土遺物

25号住居跡 出土遺物観察表(2)

7	高坏	A. 口径(25.6)。残存高12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一様色。F. 口縁部～脚部上位1/3。H. 覆土。
8	大形瓶	A. 口径24.7。底径8.6。器高26.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。脚部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にびい褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. カマド・貯蔵穴。

26号住居跡(第54図、図版8・33)

位置：調査区の北に位置している。住居の南半分のみの検出で北半分は調査区外となっている。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-40°-E。規模：長軸4.45m、短軸4.10m以上。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：南東コーナー付近に集中する。時期：古墳時代後期。



第54図 26号住居跡・出土遺物

26号住居跡 出土遺物観察表

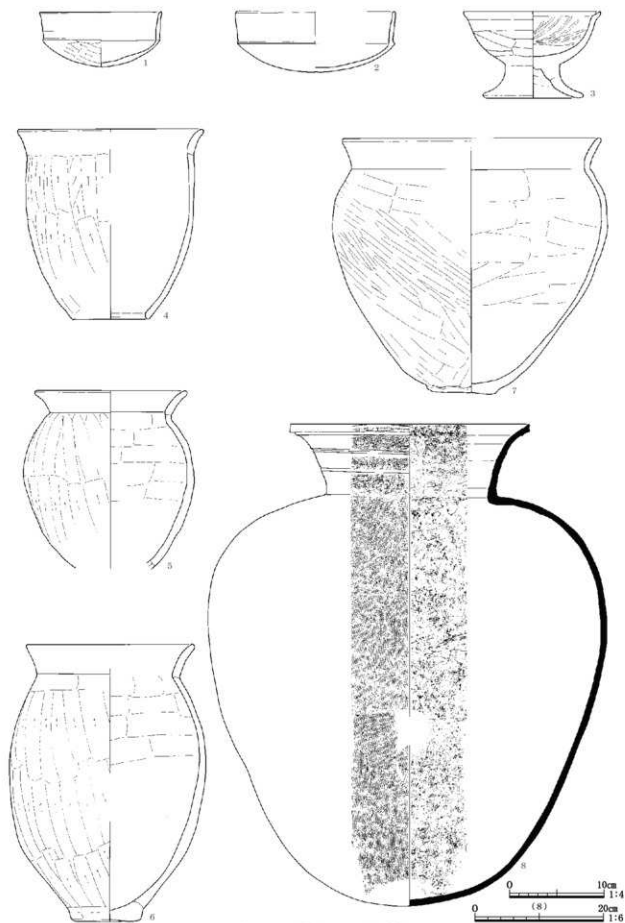
番号	品名	説明
1	甕	A. 口径24.2。残存高30.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部～胴部2/3。G. 内面胴部中位以下にヨゴレ。H. 覆土。
2	土鏝	A. 残長3.8、厚1.8。重12.06。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

27号住居跡(第55・56図、図版8・33・34)

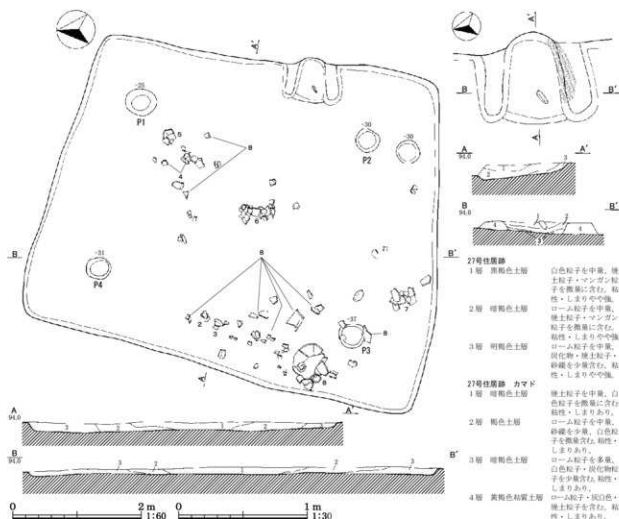
位置：調査区の北に位置している。28号住居跡・29号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：台形に近い長方形を呈する。主軸方位：S-75°-E。規模：長軸6.38m、短軸4.83m。カマド：東壁に付設される。袖は黄褐色粘質土を用いた付け袖である。燃焼部は一段掘り下がり、住居の外へと突出する。柱穴：5本確認される。このうちP1~4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の中央から西壁の一角に散在している。西壁沿いからは須恵器の大甕が出土している。時期：古墳時代後期。

27号住居跡 出土遺物観察表(1)

番号	品名	説明
1	環	A. 口径(12.9)。器高5.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。H. 覆土。
2	環	A. 口径16.9。器高6.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ～摩耗。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 器面の摩耗が著しい。H. 覆土。
3	高環	A. 口径(14.7)。底径(10.6)。器高9.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。G. 内面、環部痕痕状に剥離する。脚部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第55图 27号住居跡 出土遺物



第56図 27号住居跡

27号住居跡 出土遺物観察表 (2)

4	中形甕	A. 口径19.7, 底径(8.0), 器高20.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一明赤褐色, F. 2/3, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, 外面胴部下位二次被熱, H. 覆土。
5	小形甕	A. 口径16.2, 残存高18.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテナデ→下半タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・石英, E. 内外一にぶい橙色, F. 2/3, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, 外面胴部下二次被熱, 内面胴部ヨゴレ, H. 覆土。
6	甕	A. 口径17.8, 底径7.5, 器高29.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ・ナデ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・石英・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, 外面胴部中に帯状にスス附着, H. 覆土。
7	壺	A. 口径27.3, 底径7.4, 器高27.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部ナナメケズリ→中位ナナメミガキ, 底部ナデ・ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・石英・石英, E. 内外一橙色, F. 1/2, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H 覆土。
8	須恵器大甕	A. 口径(37.8), 器高75.9, B. 口縁部ロクロ成形, 胴部タタキ成形, C. 外面、口縁部回転ナデ, 胴部平行タタキ, 内面、胴部同心円文当て具痕→ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一灰色, F. 1/3, G. 還元焼成, 陶色産か, H. 覆土。

28号住居跡(第58図、図版8)

位置：調査区の北に位置している。27号住居跡・29号住居跡と重複する。前者より古く、後者より新しい。上部は切り合いにより削平され、掘り方のみが検出された。形態：方形を呈する。主軸方位：N-13°-E。規模：長軸4.56m、短軸4.12m。柱穴：9本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土内より土器片が出土している。時期：古墳時代。

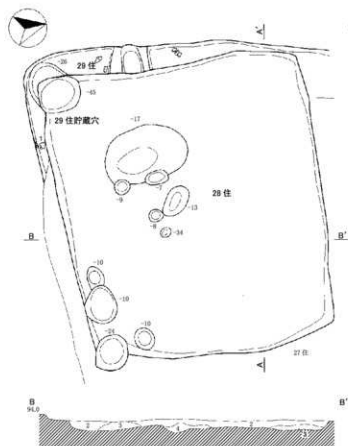
29号住居跡(第57・58図、図版8)

位置：調査区の北に位置する。27号住居跡・28号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-81.5°-W。規模：長軸5.23m。カマド：西壁に付設される。焚き口・袖の先端は28号住居によって削平される。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する南西コーナーのピットが貯蔵穴である。これもまた、28号住居に削平され、全容は不明である。埋没状況：1層のみ確認された。遺物：カマド周辺に遺物は分布している。時期：古墳時代後期。

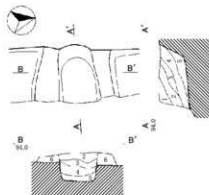


0 10cm
1:4

第57図 29号住居跡
出土遺物



第58図 28号・29号住居跡



29号住居跡

- 1層 暗褐色土層 砂礫を中集。ローム粒子を散集に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 砂礫を中集。ローム粒子・焼土粒子を散集に含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 砂礫を少量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 ロームブロックを中集含む。粘性ややあり。しまりなし。

29号住居跡

- 5層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・砂礫を散集に含む。粘性・しまりあり。

29号住居跡 カマド

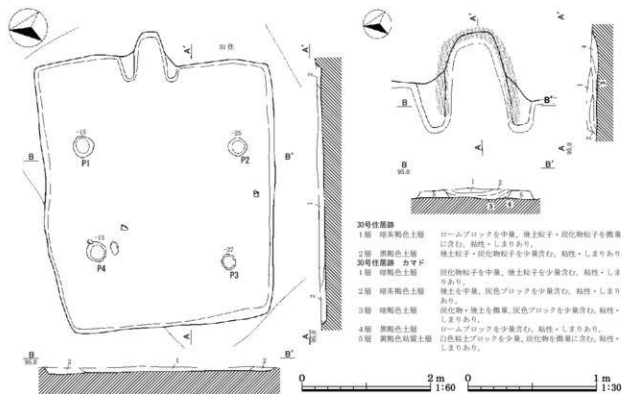
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を散集に含む。粘性あり。しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子・黒緑白色粘土粒子を中集含む。粘性あり。しまりなし。
- 3層 黒褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中集含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 焼土粒子を中集。ローム粒子・砂礫を散集に含む。粘性あり。しまりなし。
- 5層 暗褐色土層 炭化物粒子・ローム粒子を中集含む。粘性あり。しまりなし。
- 6層 黒緑白色土層 炭緑白色粘土主体層。カマド袖。粘性・しまりあり。

29号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径(14.0)。残存高6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテクズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
---	-----	--

30号住居跡(第59図、図版8)

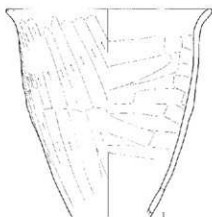
位置：調査区の北に位置している。31号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：S-83°-E。規模：長軸4.36m、短軸3.64m。カマド：東壁に付設される。黄褐色粘質土を用いた付け袖で、燃焼部は住居外へと延びる。柱穴：4本確認され、いずれも主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



第59図 30号住居跡

31号住居跡(第60・61図、図版8・9・33)

位置：調査区の北に位置する。30号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-65°-E。規模：長軸5.25m、短軸4.22m。貯蔵穴：南東コーナーに位置する方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：8本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴より土師器の大形甎が出土している。時期：古墳時代後期。



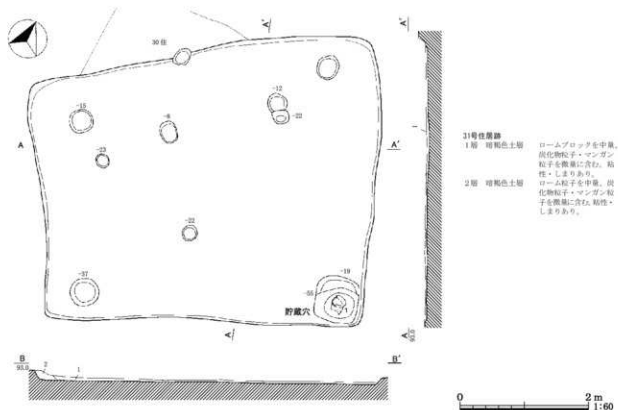
第60図
31号住居跡 出土遺物

31号住居跡 出土遺物観察表

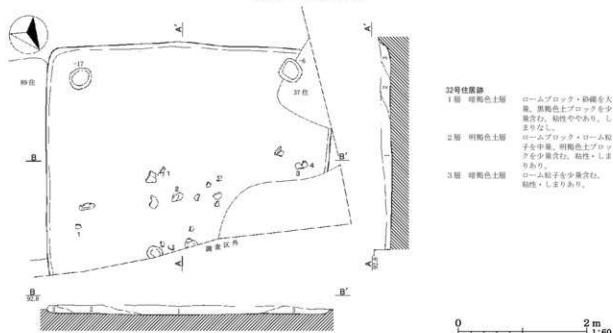
1	大形甎	A. 口径21.8、残存高22.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一に黄い灰橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
---	-----	---

32号住居跡(第62・63図、図版9・34)

位置：調査区の東に位置している。37号住居跡・89号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。北半分は調査区外へと延びる。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-35°-E。規模：長軸4.49m、短軸3.61m以上。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居の北寄りに分布する傾向がある。土師器とともに埴輪片が出土しているが、紛れ込みであろう。時期：古墳時代後期。



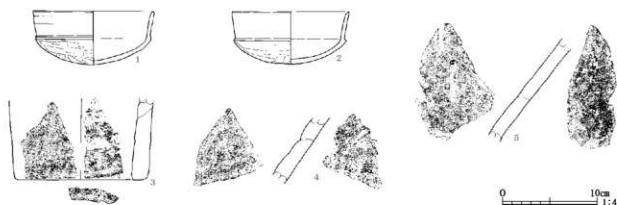
第61図 31号住居跡



第62図 32号住居跡

32号住居跡 出土遺物観察表 (1)

1	環	A. 口径(12.8)。器高5.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面体部に黒色付着物あり。H. 覆土。
2	環	A. 口径(12.5)。器高5.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 2/3。G. 外面体部二次被熱。内面痕状の剥離あり。H. 覆土。
3	埴輪	A. 底径14.1。残存高8.4。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、強いヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 破片。H. 覆土。



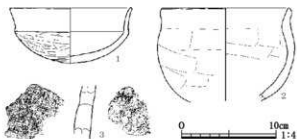
第63図 32号住居跡 出土遺物

32号住居跡 出土遺物観察表 (2)

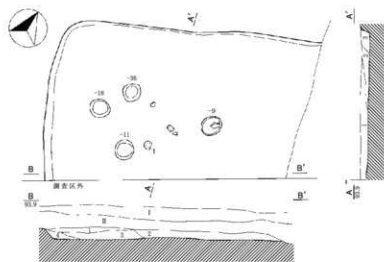
4	埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 5と同一固体か。H. 覆土。
5	埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 破片。G. 4と同一固体か。H. 覆土。

33号住居跡(第64・65図、図版9・33)

位置：調査区の北に位置している。東側は擾乱に破壊され、南半は調査区外となる。形態：方形を呈するだろう。規模：不明。主軸方位：N-61°-E。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第64図 33号住居跡 出土遺物



第65図 33号住居跡

33号住居跡

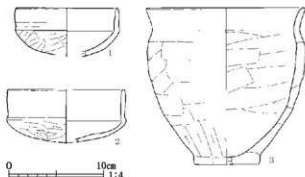
- | | | |
|----|--------|---------------------------------------|
| 1層 | 暗褐色土層 | ローム粒子を中量、焼土粒子・マンガン粒子を少量含む。粘性・しまりあり。 |
| 2層 | 褐色土層 | 白色粒子を中量、焼土粒子・マンガン粒子を含む。粘性・しまりあり。 |
| 3層 | 明褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。 |
| 4層 | 暗黄褐色土層 | ロームブロックを多量、マンガン粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。 |

33号住居跡 出土遺物観察表

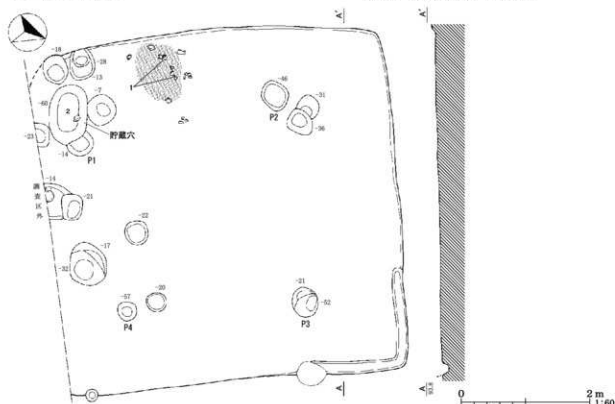
1	坏	A. 口径12.8。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	鉢	A. 口径(13.4)。残存高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一灰黄色。外一にぶい黄褐色。F. 1/5。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
3	埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ナデ。D. 角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい黄褐色。F. 破片。G. 内面に黒色付着物あり。H. 覆土。

34号住居跡(第66・67図、図版9・34)

位置：調査区の北に位置している。35号住居跡と重複し、本遺構が新しい。上層は大きく削られ、覆土はほとんど残っていないかった。形態：方形を呈する。主軸方位：S-61°-W。規模：長軸5.49m。カマド：西壁に付設されていたと推定される。焼土と白色粘土の分布が認められた。貯蔵穴：カマド痕に向かって左側にある楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：14本確認される。P1～4が主柱穴である。周溝：北東コーナー部分のみ検出された。埋没状況：不明。遺物：カマド痕周辺に分布している。時期：古墳時代後期。



第66図 34号住居跡 出土遺物



第67図 34号住居跡

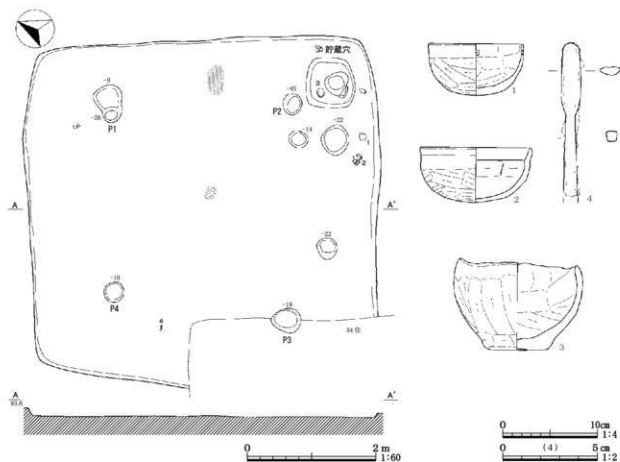
34号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(10.8)。残存高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。H. カマドか。
2	坏	A. 口径(10.4)。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一褐色。F. 1/4。H. 貯蔵穴。
3	小形甕	A. 口径(16.8)。底径(6.8)。器高16.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→ヨコナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内一黄灰色。外一にぶい褐色。F. 破片。H. 覆土。

35号住居跡(第68図、図版9・34)

位置：調査区の北に位置している。34号住居跡と重複し、本遺構が古い。この切り合いにより南西コーナーを消失する。形態：方形を呈する。主軸方位：N-67°-E。規模：長軸5.60m、短軸5.48m。カマド：東壁に付設されていたであろう。焼土の分布が認められる。貯蔵穴：カマド痕に向かって右、

南東コーナーに位置する方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：7本確認される。このうちP1～4が主柱穴である。埋没状況：覆土がほとんど残存していなかったため、詳細は不明である。遺物：貯蔵穴付近から土師器が多く出土している。鉄鏝も出土した。時期：古墳時代後期。



第68図 35号住居跡・出土遺物

35号住居跡 出土遺物観察表

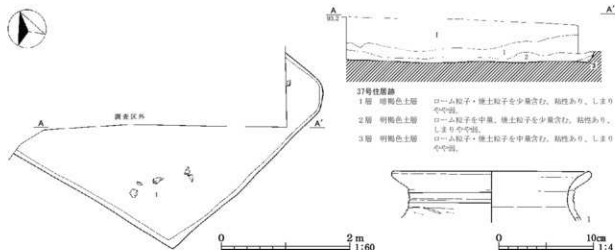
1	碗	A. 口径10.2, 器高5.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・橙色粒子・石英, E. 内外一にぶい橙色, F. 4/5, G. 口縁部に焼成前の小孔あり, 内面は四角に切り出す, H. 覆土。
2	碗	A. 口径11.8, 器高5.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリー上位ヨコナデ, 内面, ヨコナデ・ヨコケズリ, D. 石英・片岩・白色粒子, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
3	鉢	A. 口径12.6, 底径7.0, 器高9.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ナデ, 内面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内一にぶい黄褐色, 外一橙色, F. 完形, G. 外面二次被熱, 内面口縁部にスス, 体部ヨゴレ, H. 貯蔵穴。
4	鉄鏝	A. 残長8.2, 幅鏝身1.0, 頸部0.65, 厚鏝身0.4, 頸部0.6, 重8.35, F. 2/3, H. 覆土。

37号住居跡(第69図)

位置：調査区の東に位置している。32号住居跡と重複し、本遺構が新しい。住居の半分は調査区外となっている。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-30°-W。規模：長軸3.60m。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土師器が出土している。時期：古墳時代後期か。

37号住居跡 出土遺物観察表

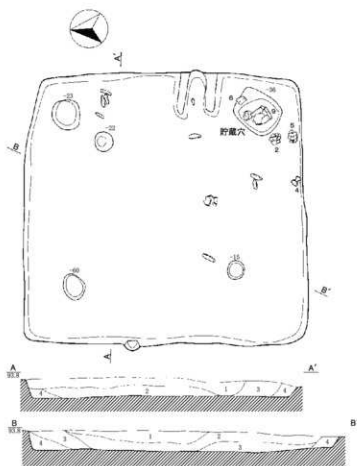
1	甕	A. 口径(21.1), 残存高5.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一にぶい橙色, F. 破片, G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
---	---	--



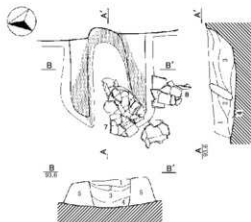
第69図 37号住居跡・出土遺物

38号住居跡(第70・71図、図版9・34)

位置：調査区路北で単独検出された。形態：方形を呈する。主軸方位：S-87°-E。規模：長軸4.49m、短軸4.33m。カマド：東壁に付設される。明黄褐色粘土を用いた付け袖を持ち、燃焼部はわずかに住居外へと延びる。燃焼部の中央には支脚の礎が据えられている。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺及び、貯蔵穴のある南東コーナー付近に遺物が集中する。住居内には編み



第70図 38号住居跡



38号住居跡

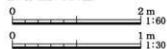
- 1層 暗褐色土層
2層 暗褐色土層
3層 暗褐色土層
4層 暗褐色土層

白色粘土・焼土粒子・鈣礫を中量、ローム粒子・灰色土ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
白色粘土・鈣礫を中量、ロームブロック・焼土粒子・マンガン粒子を少量含む。粘性・しまりあり。ローム粒子を大量、焼土粒子・白色粘土を中量含む。粘性・しまりあり。
焼土粒子を中量、白色粘土を少量含む。粘性・しまりあり。

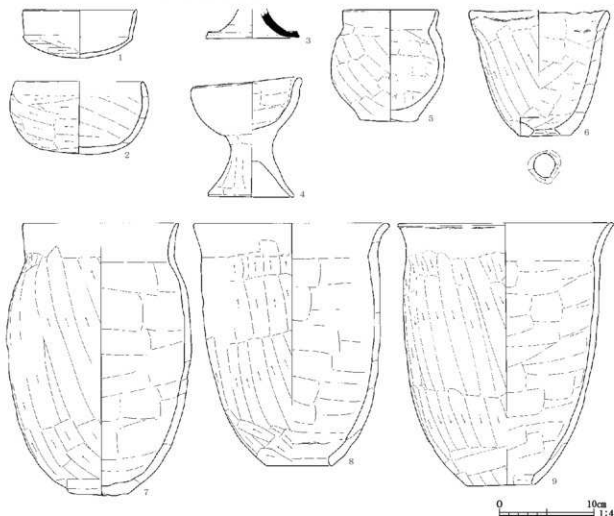
38号住居跡 カマド

- 1層 明褐色土層
2層 褐色土層
3層 褐色土層
4層 明褐色土層
5層 明黄褐色粘土層

マンガン粒子を少量、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
焼土粒子・焼土ブロックを少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。
カマド壁。外側に粘質土を塗付。内側は濃しく炭化する。粘性・しまり強。



物石が散在している。時期：古墳時代後期。



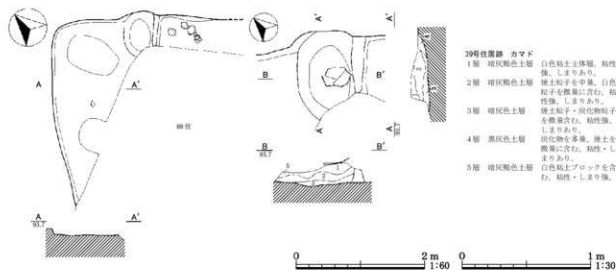
第71図 38号住居跡 出土遺物

38号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.1). 器高5.1. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・橙色粒子・白色粒子. E. 内外一明赤褐色. F. 3/4. H. 覆土.
2	鉢	A. 口径13.2. 器高7.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ヨコケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内一にぶい褐色. 外一にぶい黄褐色. F. ほぼ完形. H. 覆土.
3	須恵器 高杯	A. 口径11.6. 底径9.2. 器高12.7. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. D. 白色粒子. E. 内一灰黄色. 外一黄灰色. F. 破片. G. 外面に自然釉. G. 尾張方面からの贈入品か. H. 覆土.
4	高杯	A. 口径10.0. 残存高3.1. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 脚部タテナデ→上位・下位ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一にぶい黄褐色. 外一にぶい褐色. F. 3/4. G. 内外面二次被熱か. H. 覆土.
5	小形甕	A. 口径10.2. 底径6.3. 器高11.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテヘナメナデ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一灰黄褐色. 外一にぶい褐色. F. 4/5. G. 外面二次被熱. 内面ヨゴレ. H. 覆土.
6	小形瓶	A. 口径14.7. 底径5.5. 器高13.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 底部ナデ→穿孔. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・片岩. E. 内外一にぶい褐色. F. 完形. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.
7	甕	A. 口径(16.4). 底径6.7. 器高28.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 底部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. 外面胴部二次被熱. 内面胴部ヨゴレ. H. カマド.
8	大形瓶	A. 口径(20.8). 底径7.0. 器高25.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテヘナメケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一灰黄褐色. 外一にぶい黄褐色. F. 3/4. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. カマド.
9	大形瓶	A. 口径(22.6). 底径7.2. 器高27.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位部分的にヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・角閃石. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.

39号住居跡(第72図、図版10)

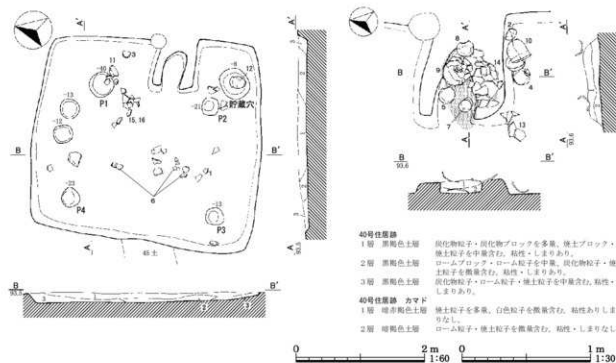
位置：調査区の南に位置している。88号住居跡・92号住居跡・104号住居跡と重複する。88号・104号住居跡に破壊され、カマドと北コーナーのみの検出となる。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-41.5°-E。カマド：東壁に付設される。カマドに向かって左側の袖は残存していない。燃烧部は一段掘り窪められ、住居外で緩やかに立ち上がる。埋没状況：覆土の残存状況が不良であり、詳細は不明。遺物：カマドに向かって右側に礫の集中が見られる。時期：古墳時代。



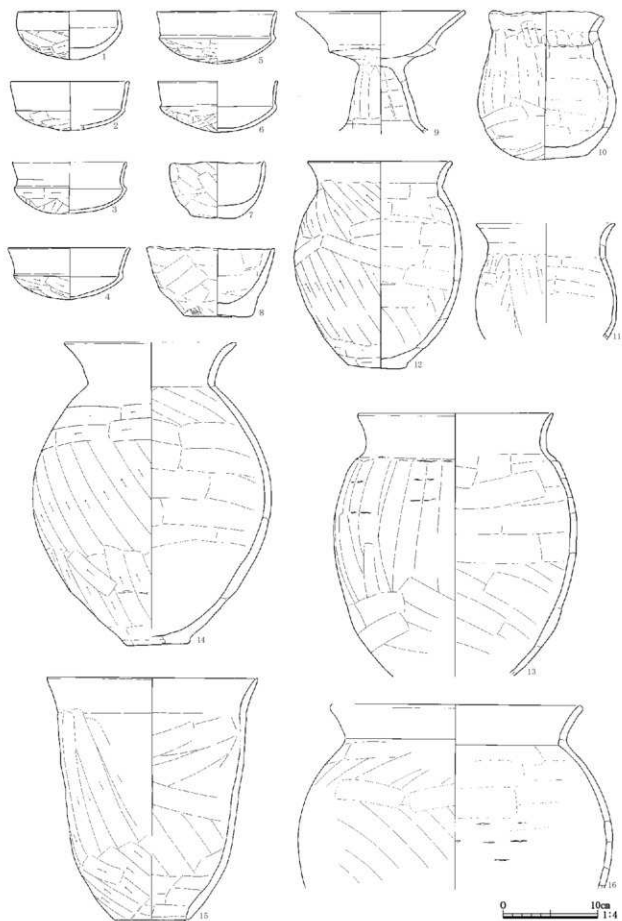
第72図 39号住居跡

40号住居跡(第73・74図、図版10・35)

位置：調査区の北に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：N-84°-E。規模：長軸3.60m、短軸3.17m。カマド：東壁に付設される。地山掘り残しの袖を有する。燃烧部の奥壁は住居壁よりも内側で立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のビツが貯蔵穴であろう。柱



第73図 40号住居跡



第74図 40号住居跡 出土遺物

穴：6本確認される。このうちP1～4が支柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に土器が散在するが、特にカマド周辺から多数の遺物が出土している。時期：古墳時代後期。

40号住居跡 出土土物観察表

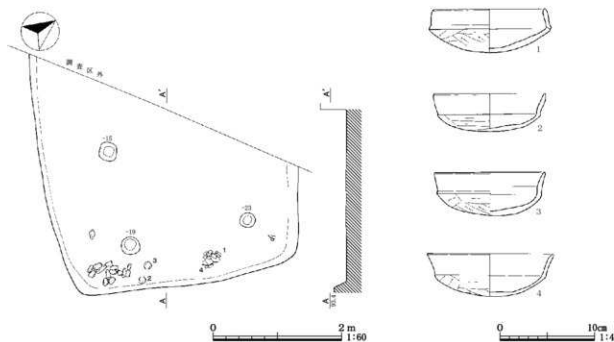
1	坏	A. 口径(10.8). 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・橙色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.4). 残存高5.1. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外一褐色。F. 1/2。G. 器面の摩耗が激しい。H. カマド。
3	坏	A. 口径(12.2). 器高5.6. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内外一褐色。F. 1/2。G. 内外面二次被熱か。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.9. 器高5.5. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. カマド。
5	坏	A. 口径12.7. 器高5.5. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 内外面二次被熱か。H. カマド・覆土。
6	坏	A. 口径12.8. 器高5.4. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土。
7	鉢	A. 口径10.1. 底径5.7. 器高6.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ナデ。底部ケズリ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一褐色。F. ほぼ完形。H. カマド。
8	鉢	A. 口径13.4. 底径7.3. 器高7.3. B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。底部ナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。内面ヨゴレ。H. カマド。
9	高坏	A. 口径18.0. 残存高13.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部ヨコナデ。脚部上半タテナデ→下半ヨコナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ・下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/4。G. 口縁部に焼成時の黒斑あり。内外二次被熱か。H. カマド。
10	小形甕	A. 口径12.0. 底径7.7. 器高15.7. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。底部、ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。頸部ユビオサエ。胴面ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内一黒褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。内面ヨゴレ。H. カマド。
11	小形甕	A. 口径14.8. 残存高12.3. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁→胴部中位1/3。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
12	小形甕	A. 口径15.4. 底径6.3. 器高22.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→中位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内一にぶい褐色。外一明褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 貯蔵穴。
13	甕	A. 口径20.7. 残存高27.8. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部強いタテナデ→下位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子・石英。E. 内外一褐色。F. 口縁→胴部下位1/3。G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
14	甕	A. 口径(18.1). 底径(6.7). 器高32.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ→上位ヨコケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内一にぶい黄褐色。外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面胴部二次被熱。内面ヨゴレ。H. カマド。
15	大形甕	A. 口径(22.3). 底径(7.7). 器高25.7. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・赤色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/5。G. 内外面、焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
16	壺	A. 口径26.8. 残存高19.5. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部強いナメナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・石英・片岩。E. 内外一褐色。F. 口縁→胴部上半破片。G. 器面の荒れ激しい。H. 覆土。

41号住居跡(第75図、図版10・36)

位置：調査区の北壁に位置し、北半分は調査区外となっている。形態：長方形を呈するだろう。主軸方位：N-36°-E。規模：長軸3.61m以上、短軸2.71m。柱穴：3本確認される。埋没状況：不明。遺物：東壁付近に土器が、南東コーナー部分には編み物石が集中している。時期：古墳時代後期。

41号住居跡 出土土物観察表(1)

1	坏	A. 口径(11.8). 器高4.6. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一褐色。外一灰黄褐色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径11.9. 器高4.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 完形。H. 覆土。



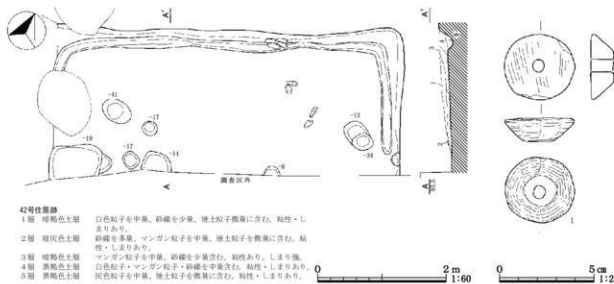
第75図 41号住居跡・出土遺物

41号住居跡 出土遺物観察表(2)

3	環	A. 口径11.8. 器高4.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 特になし. E. 内外一橙色. F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	環	A. 口径13.5. 器高4.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 赤色粒子・石英. E. 内外一橙色. F. 完形. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.

42号住居跡(第76図、図版10・36)

位置：調査区の北に位置している。南半分は調査区外となっている。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-25°-W。規模：長軸5.47m。柱穴：7本確認される。周溝：検出された部分ではほぼ全周している。住居壁より内側で検出される。埋没状況：自然埋没である。遺物：編み物石が住居内に散在している。覆土より滑石製の紡錘車出土する。時期：古墳時代か。



第76図 42号住居跡・出土遺物

42号住居跡

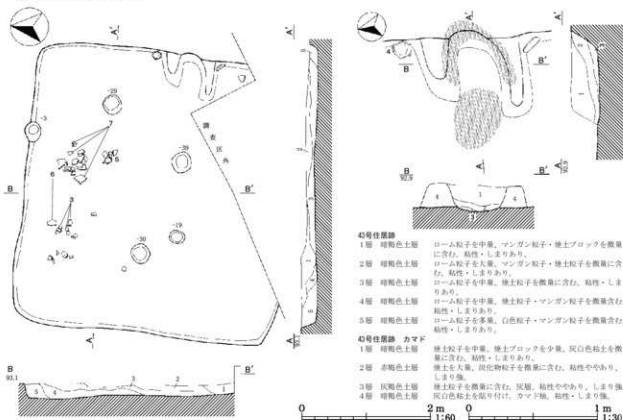
- 1層 暗褐色土層 白色粒子を中量、砂礫を少量、焼土粒子微量に含む。粘性・し
まりあり。
- 2層 暗褐色土層 砂礫を多量、マンガン粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘
性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 マンガン粒子を中量、砂礫を少量含む。粘性あり、しまり強。
- 4層 黒褐色土層 白色粒子・マンガン粒子・砂礫を中量含む。粘性・しまりあり。
- 5層 黒褐色土層 灰色粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

42号住居跡 出土土物観察表

1	紡錘車	A. 径3.5, 厚1.3, 重21.16, D. 滑石, F. 完形, G. 裏・側面は加工痕が顕著, H. 覆土。
---	-----	---

43号住居跡(第77・78図、図版10・35)

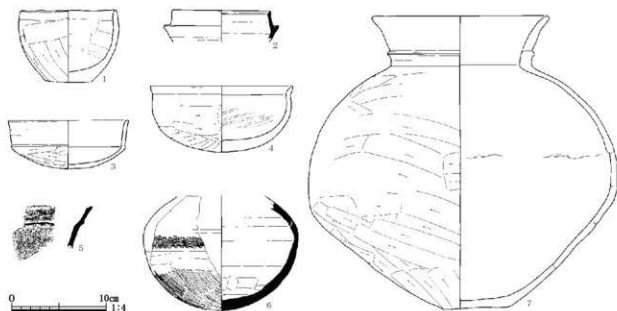
位置：調査区の北に位置している。南壁から南東コーナーは調査区外となる。形態：方形を呈する。主軸方位：S-89°-E。規模：長軸4.48m、短軸4.20m。カマド：東壁に付設される。暗褐色土に白色粘土を貼付した付け袖を有する。燃烧部は住居内に収まり、奥壁は住居の立ち上がりと一致する。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没である。遺物：北壁中央付近に遺物の集中箇所がある。時期：古墳時代後期。



第77図 43号住居跡

43号住居跡 出土土物観察表

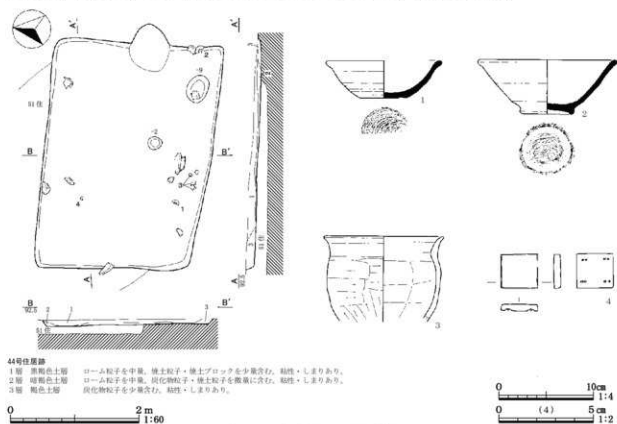
1	鉢	A. 口径(10.0), 底径4.9, 器高7.7, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 体部タテズリ→口縁部ヨコナデ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・片岩・石英, E. 内・内ふい黄褐色, 外一灰黄褐色, F. 1/2, H. 覆土。
2	須恵器 坏身	A. 口径(10.5), 残存高3.3, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 石英・白色粒子・黒色粒子, E. 内外一灰色, F. 破片, G. 外面鏝部に自然軸, H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.7, 器高5.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 赤色粒子・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, H. 覆土。
4	鉢	A. 口径15.1, 器高7.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ→体部ナナメミガキ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 外面体部に焼成時の黒炭あり, 内面口縁へ体部上位にヨコレ, H. 覆土。
5	須恵器 甕	A. 残存高4.5, B. ロクロ成形, C. 内外面回転ナデ, D. 黒色粒子, E. 内外一灰色, F. 破片, G. 内面に自然軸, 6と同一個体か, 東海産か, H. 覆土。
6	須恵器 甕	A. 残存高12.1, B. ロクロ・タタキ成形, C. 外面, 胴部中に櫛波状文, 下位にタタキ目→ヨコナデ, 内面, 上位回転ナデ, 下位ヨコナデ・ユビオサエ, D. 黒色粒子, E. 内外一灰色, F. 胴部1/4, G. 5と同一個体か, 東海産か, H. 覆土。
7	壺	A. 口径18.9, 底径6.8, 器高31.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコケズリ, 底部ケズリ, 内面, ナデ, D. 石英・角閃石, E. 内・内ふい橙色, 外・外ふい黄褐色, F. 3/4, G. 外面胴部下半に焼成時の黒炭あり, H. 覆土。



第78図 43号住居跡 出土遺物

44号住居跡(第79図、図版10・36)

位置：調査区の北に位置している。51号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：S-88°-E。規模：長軸3.61m、短軸2.64m。カマド：東壁に付設されるが、詳細は不明である。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：土器とともに編み物石が住居内に散在する。なお、覆土より石製の巡方が出土している。時期：平安時代。



44号住居跡

- 1層 黄褐色土層 コーム粒子を中量、焼土粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
 2層 暗褐色土層 コーム粒子を中量、炭化物粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 3層 褐色土層 炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。

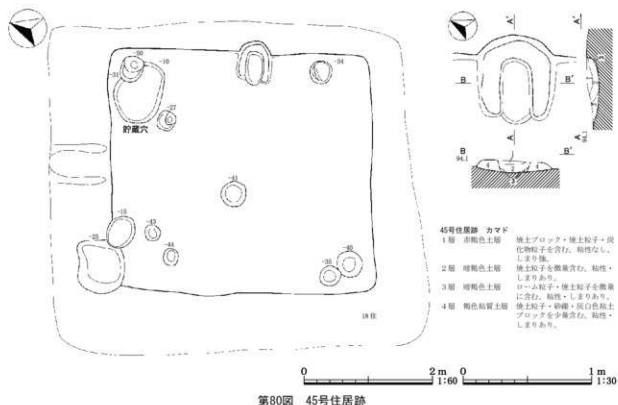
第79図 44号住居跡・出土遺物

44号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径12.4. 底径5.2. 器高3.9. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 片岩・石英. E. 内外一灰色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土.
2	須恵器 高台付碗	A. 口径14.7. 底径5.7. 器高5.7. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り→高台貼付. D. 石英・角閃石・橙色. E. 内外一黄灰色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土.
3	小形甕	A. 口径(12.8). 残存高9.1. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→上位ヨコケズリ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. 破片. G. 内面頂部にスス附着. H. 覆土.
4	石製竈方	A. 長3.7. 幅4.0. 厚0.7. 重24.75. D. 安山岩系. F. 完形. H. 覆土.

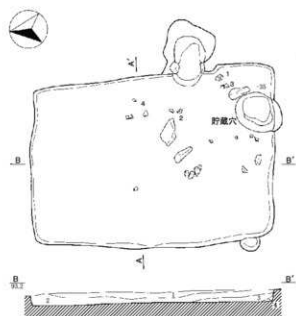
45号住居跡(第80図、図版11)

位置：調査区の西に位置している。18号住居跡と重複し、覆土や壁を削平される。よって、カマド以外の掘り込みは残存していない。形態：方形を呈する。主軸方位：N-76°-E。規模：長軸4.15m、短軸3.89m。カマド：東壁に付設される。褐色粘質土で袖と奥壁が構築される。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する楕円形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：10本確認される。埋没状況：不明。遺物：カマドやビット内より土器片が出土している。時期：古墳時代。

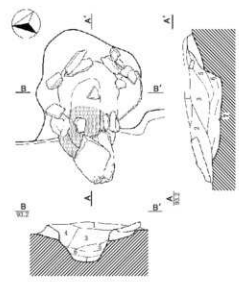


46号住居跡(第81・82図、図版11・13・36)

位置：調査区の東に位置している。46号住居跡・54号住居跡・62号住居跡・63号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：長方形を呈する。主軸方位：S-95°-E。規模：長軸3.86m、短軸2.73m。カマド：東壁のやや南寄りに付設される。掘り方に暗褐色土を充填し、片岩を用いて石組みのカマドを構築する。燃焼部は一段掘り下がり住居外へと延びている。貯蔵穴：カマドに向かって右側、住居の南壁に接するビットが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺には、構築材と思われる礫が散在している。カマド内部より羽釜が出土する。時期：平安時代。



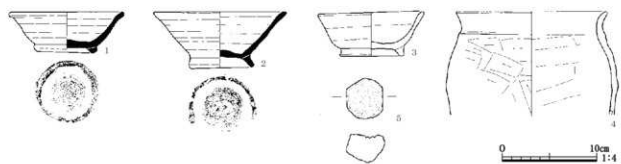
- 46号住居跡**
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を少量、ロームブロックを散見含む、粘性あり、しまり弱。
 - 2層 明褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を中量、砂礫を微量に含む、粘性・しまりあり。
 - 3層 暗褐色土層 ローム粒子を微量含む、粘性あり、しまり弱。
 - 4層 明褐色土層 ローム土層土層、砂礫土層、粘性・しまりややなし。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロックを微量に含む、粘性あり、しまりややなし。



- 46号住居跡 カマド**
- 1層 灰褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子・砂礫を中量含む、粘性なし、しまりややなし。
 - 2層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む、粘性・しまりなし。
 - 3層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む、粘性・しまりなし。
 - 4層 暗褐色土層 ローム粒子を少量、ロームブロックを微量含む、方マゾ粒状土、粘性・しまりあり。
 - 5層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量、ローム粒子を少量含む、粘性・しまりあり。
 - 6層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量含む、灰層、粘性・しまりあり。
 - 7層 土層記載なし。



第81図 46号住居跡



第82図 46号住居跡 出土遺物

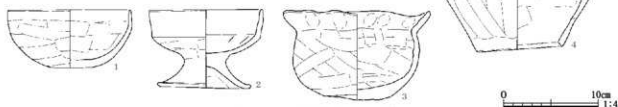
46号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	A. 口径12.2, 底径6.6, 器高4.3, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 底部回転糸切り→高台貼付, D. 白色粒子・角閃石・石英, E. 内→灰黄色, 外→灰白色, F. 4/5, G. 還元焼成, H. 覆土。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径14.1, 底径6.9, 器高5.8, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面回転ナデ, 底部回転糸切り→高台貼付, D. 片岩, E. 内外一にぶい黄橙色, F. 2/3, G. 還元焼成だが、焼成不良, H. 覆土。
3	須恵器 高台付碗	A. 口径11.3, 底径6.7, 器高4.7, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 底部回転糸切り→高台貼付, D. 石英・白色粒子・片岩, E. 内外一にぶい橙色, F. 2/3, G. 酸化焼成, H. 覆土。
4	甕	A. 口径(16.0), 残存高11.0, B. 粘土組織み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテヘナメケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一→赤褐色, F. 破片, G. 内外面二次被熱か, H. 覆土。
5	軽石	A. 長4.3, 幅4.0, 厚2.9, 重11.80, D. 軽石, G. 多角形状, 刃物痕あり, H. 覆土。

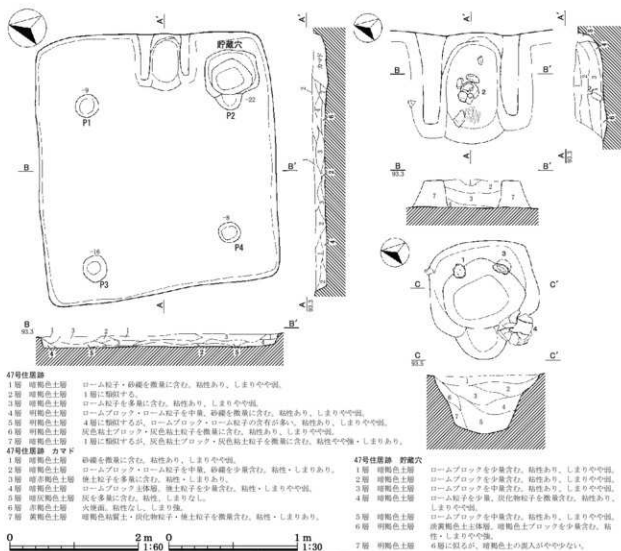
47号住居跡(第83・84図、図版11・36)

位置：調査区のはば中央に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：N-77° - E。規模：長軸3.98m、短軸3.78m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は一段掘り下がり、奥壁は住居の立ち上

がりと一致する。中央部分からは、高坏が逆位で出土している。貯藏穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯藏穴である。柱穴：4本確認され、いずれも支柱穴であろう。埋没状況：暗褐色土層と暗褐色土とローム土混合層が不均一に互層に堆積しており、人為的な埋め戻しの可能性が高い。遺物：カマド・貯藏穴から遺物が出土するが、住居覆土からは少ない傾向にある。時期：古墳時代後期。



第83図 47号住居跡 出土遺物



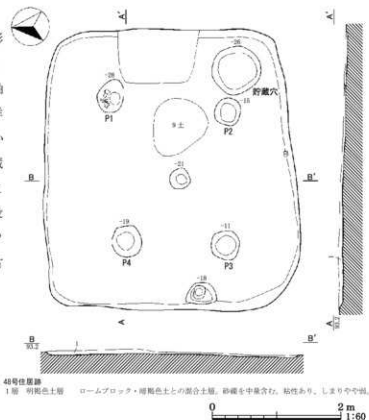
第84図 47号住居跡

47号住居跡 出土遺物観察表

1	鉢	A. 口径13.1, 器高6.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 内外面, ヨコナデ, D. 片岩・白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 内外面に焼成時の黒斑, H. 貯蔵穴。
2	高坏	A. 口径12.0, 底径(9.9), 器高8.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 内外面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 外面, 焼成時の黒斑・二次被熱か, H. カマド。
3	鉢	A. 口径15.7, 器高9.4, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部ナデ, 底部ケズリ, 内面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部ヨコナデ→上位ヨコケズリ, D. 片岩・白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 内外面に焼成時の黒斑, 外面二次被熱, 内面ヨゴレ, H. 貯蔵穴。
4	中形甕	A. 口径21.4, 底径9.1, 器高19.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・片岩・角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 外面胴部に焼成時の黒斑, 内外面頸部帯状にスス附着, H. 貯蔵穴。

48号住居跡(第85図)

位置：調査区の東に位置している。形態：隅丸長方形を呈する。主軸方位：S-87°-E。規模：長軸4.43m、短軸3.93m。カマド：東壁に付設される。詳細は不明である。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：6本確認される。このうちP1~4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：P1の覆土内に遺物が集中する。時期：古墳時代か。



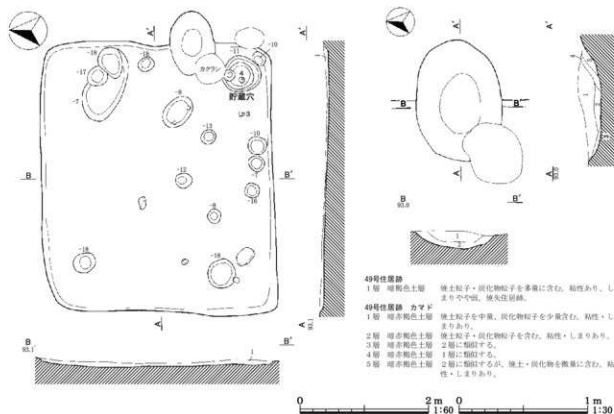
第85図 48号住居跡

49号住居跡(第86・87図、図版11・36)

位置：調査区の東に位置している。60号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-87°-E。規模：長軸4.19m、短軸3.73m。カマド：東壁に付設され、袖は無い。燃焼部は一段掘り下がり、住居外で緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：14本確認される。埋没状況：同一の土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



第86図 49号住居跡 出土遺物



第87図 49号住居跡

49号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 環	A. 口径12.6. 残存高4.0. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. D. 片岩・白色粒子. E. 内外-黄灰色. F. 破片. G. 還元焼成. H. 覆土.
2	須恵器 環	A. 底径6.2. 残存高2.7. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. D. 含有物が少なく, 緻密な胎土. E. 内外-灰色. F. 底部のみ完形. G. 還元焼成. H. 覆土.
3	台付甕	A. 底径(9.0). 残存高4.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 内外面, 回転ナデ. D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子. E. 内外-橙色. F. 脚部2/3. H. 覆土.
4	台付甕	A. 底径9.6. 残存高3.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 内外面, ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外-明赤褐色. F. 脚部のみほぼ完形. H. 覆土・貯蔵穴.

50号住居跡(第88・89図、図版11・36)

位置：調査区の東に位置している。59号住居跡・60号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-33°-E。規模：長軸3.31m、短軸2.78m。カマド：北壁に付設される。袖は付け袖である。住居外へと延びる燃焼部の奥壁にも同一の粘土が貼られている。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から土器片等が出土する。時期：平安時代。

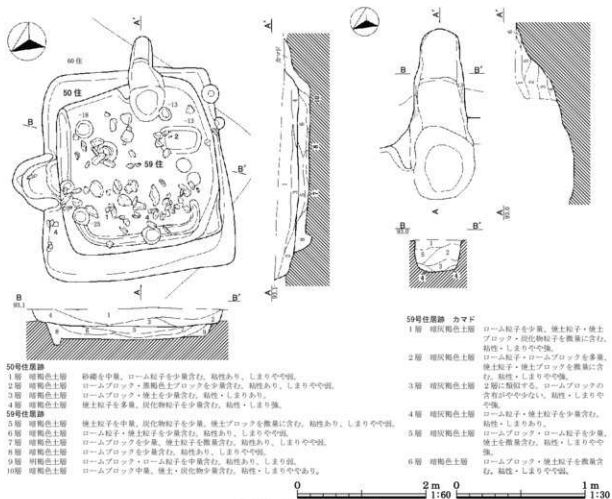
59号住居跡(第88・89図、図版11)

位置：調査区の東に位置している。小規模な住居跡である。50号住居跡・60号住居跡と重複する。前者より古く、後者より新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：S-62.5°-E。規模：長軸2.52m、

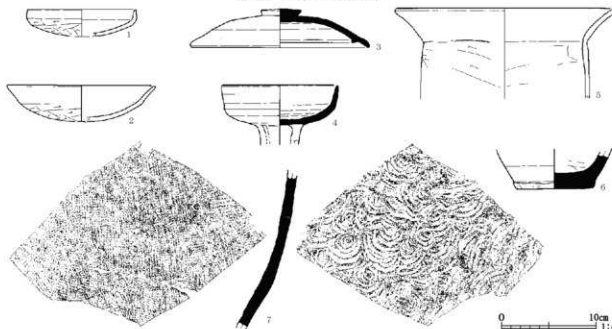
50号・59号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	環	A. 口径(11.5). 器高2.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 角閃石・赤色粒子. E. 内-橙色. 外-にぶい橙色. F. 1/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
2	環	A. 口径(15.7). 器高3.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 角閃石・赤色粒子. E. 内-橙色. 外-にぶい橙色. F. 1/5. G. 内面, 器面が荒れる. H. 覆土.

短軸2.44m。カマド：東壁に付設される。燃烧部まで50号住居跡に切られる。片袖はなく、煙道は住居外へと延びる。柱穴：8本確認される。周溝：北壁・西壁沿いで検出された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土中より多数の礫とともに土器も出土している。時期：古墳時代か。



第88図 50号・59号住居跡



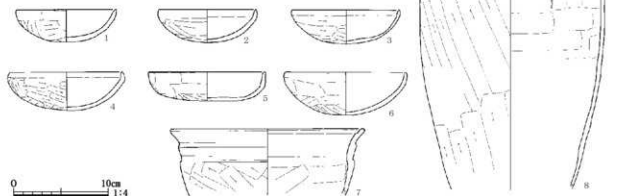
第89図 50号・59号住居跡 出土遺物

50号・59号住居跡 出土遺物観察表(2)

3	須恵器 坏蓋	A. 口径(19.0)。器高4.1。揃み径4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内一黄灰色。外一灰色。F. 1/4。G. 還元焼成。藤岡産。H. 覆土。
4	須恵器 無蓋高坏	A. 口径12.4。残存高6.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 坏部2/3、脚部上位1/4。G. 還元焼成。脚部3方向透かし。在地産。H. 覆土。
5	甕	A. 口径(23.4)。残存高9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部上位1/5。G. 外面胴部上位に粘土付着。H. 覆土。
6	須恵器 鉢	A. 底径(8.1)。残存高4.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部ケズリ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一灰色。F. 底部1/2。G. 還元焼成。H. 覆土。
7	須恵器 甕	B. タタキ成形。C. 外面、格子状タタキ。内面、同心円文の当て具痕。D. 片岩・白色粒子。E. 内一ぶい褐色。外一黄灰色。F. 破片。H. 覆土。

51号住居跡(第90・91図、図版11・12・36)

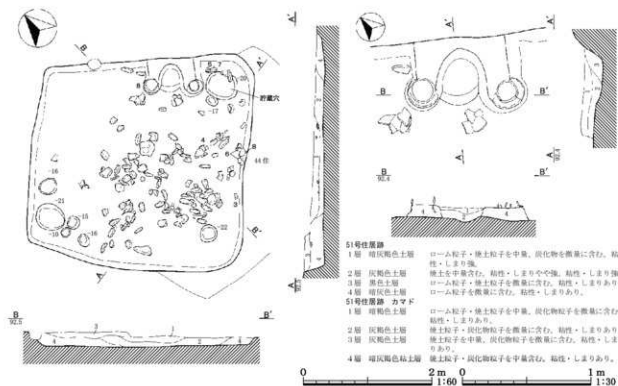
位置：調査区の北西に位置している。44号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-49°-E。規模：長軸3.38m、短軸3.29m。カマド：北壁に付設される。袖は暗灰褐色粘土を用いた付け袖で、焚き口部分には、逆位にした長胴甕を構築材として用いている。燃焼部は住居内となり、奥壁は住居の壁よりも内側で立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する楕円形のピットが貯蔵穴だと思われる。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然に埋没している。遺物：住居内に多量の礫とともに散在している。時期：奈良時代。



第90図 51号住居跡 出土遺物

51号住居跡 出土遺物観察表

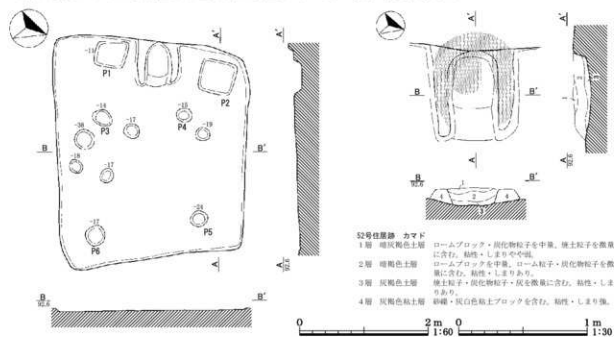
1	坏	A. 口径10.7。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径10.4。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	坏	A. 口径11.6。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
4	坏	A. 口径12.0。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 完形。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.5。器高3.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
6	坏	A. 口径12.9。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。H. 覆土。
7	鉢	A. 口径(20.6)。残存高7.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一ぶい黄褐色。F. 破片。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	甕	A. 口径23.3。残存高31.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部～胴部下位2/3。G. 外面胴部下位二次被熱・粘土付着。H. 覆土・カマド。



第91図 51号住居跡

52号住居跡(第92図、図版12)

位置：調査区の北西に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：S-69°-W。規模：長軸3.55m、短軸3.03m。カマド：西壁に付設される。袖には灰褐色粘土を用いる。貯蔵穴：カマドの両脇に長方形のビットが1本ずつ(P1・P2)ある。これのどちらかが貯蔵穴だと思われる。柱穴：9本確認される。P3～6が支柱穴であろう。埋没状況：覆土の残存状況が不良であったため、詳細は不明。遺物：わずかな覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。



第92図 52号住居跡

53号住居跡(第93・94図、図版12・36)

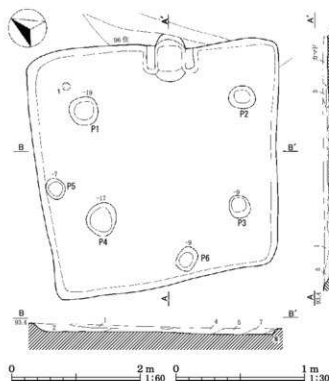
位置：調査区の南に位置している。56号住居跡・96号住居跡・97号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-59.5°-E。規模：長軸3.88m、短軸3.52m。カマド：東壁に付設される。明褐色土を袖に用いる。燃烧部は住居よりやや外に延び、煙道は後世の溝に切られる。柱穴：6本確認される。このうちP1~4が主柱穴となり、P5かP6のどちらかが出入りロピットであろう。埋没状況：覆土中の地山ブロックの含有量が多いため、人為的な埋め戻しが想起される。遺物：覆土中より土器片等が出土している。時期：古墳時代後期。



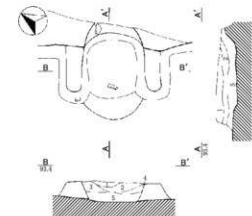
第93図 53号住居跡
出土遺物

53号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.1。器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
---	---	---



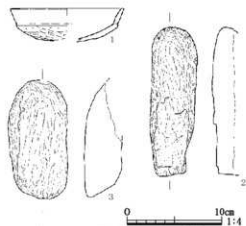
第94図 53号住居跡



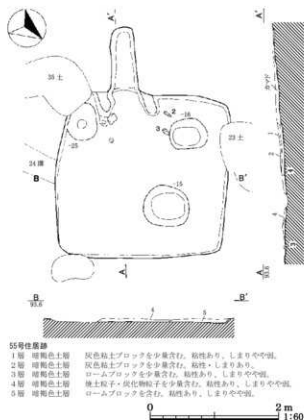
- 53号住居跡
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を少量、炭化物粒子を微塵に含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 2層 明褐色土層 ローム粒子を少量、砂礫を微塵含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 3層 暗褐色土層 灰色粘土粒子を少量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
 - 4層 明褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 5層 暗褐色土層 ローム粒子を微塵に含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 6層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 7層 暗褐色土層 土層に相当。
 - 8層 明褐色土層 暗褐色土を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
- 53号住居跡 カマド
- 1層 暗褐色土層 粘土粒子を多量に含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 2層 暗褐色土層 粘土粒子を中量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 3層 暗褐色土層 粘土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 4層 暗褐色土層 粘土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロック・粘土粒子を微塵に含む。粘性・しまりやや弱。

55号住居跡(第95・96図、図版12・36)

位置：調査区のほぼ中央に位置する。24号溝と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：S-58°-W。規模：長軸2.71m、短軸2.60m。カマド：西壁に付設される。カマドに向かって左袖の焼き口部分に構築材の抜き取り痕のピットがある。煙道が約1mと長く、燃烧部から一段上がり、一定の深さとなる。柱穴：3本確認される。埋没状況：覆土の残存状況が不良ではあるが、自然埋没だと思われる。遺物：カマド内より土器が出土するほか、覆土中からも土器片が出土している。時期：古墳時代後期。

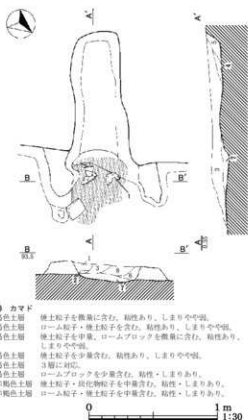


第95図 55号住居跡 出土遺物



55号住居跡

- 1層 暗褐色土層 灰色粘土ブロックを少量含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 2層 暗褐色土層 灰色粘土ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 4層 暗褐色土層 焼土・炭化物灰子を少量含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 5層 暗褐色土層 ロームブロックを含む。粘性あり。しまりや中咽。



55号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 焼土灰子を微量を含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 2層 暗褐色土層 ローム灰子・焼土灰子を含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 3層 暗褐色土層 焼土灰子を中量。ロームブロックを微量を含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 4層 暗褐色土層 焼土灰子を少量含む。粘性あり。しまりや中咽。
- 5層 暗褐色土層 3層に相当。
- 6層 暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
- 7層 暗赤褐色土層 焼土灰子・炭化物灰子を中量含む。粘性・しまりあり。
- 8層 暗赤褐色土層 ローム灰子・焼土灰子を少量含む。粘性・しまりあり。

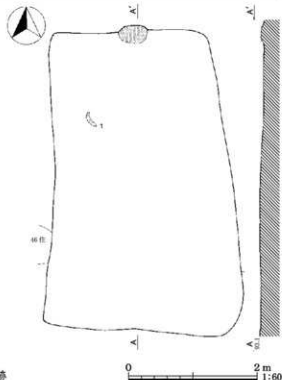
第96図 55号住居跡

55号住居跡 出土遺物観察表

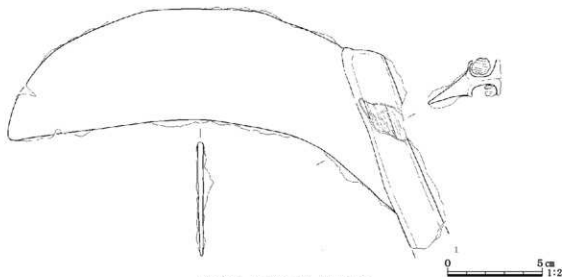
1	環	A. 口径12.0。残存高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 内外面に粘土付着。H. カマド。
2	編物石	A. 長15.8。幅4.9。残厚2.5。重311.24。D. 結晶片岩。H. 覆土。
3	編物石	A. 残長12.6。幅6.4。厚4.0。重383.36。D. 結晶片岩。H. 覆土。

54号住居跡(第97・98図、図版12・36)

位置：調査区の西に位置している。46号住居跡・63号住居跡・85号住居跡と重複するが、確認面の段階で本遺構のカマド焼土と床面が露出していたため、新旧関係は不明である。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-2.5°-W。規模：長軸4.70m、短軸2.79m。カマド：北壁中央部分に焼土検出され、カマドの痕跡だと思われる。埋没状況：覆土が残存しておらず、詳細は不明である。遺物：土器の小片の他に、鉄製の鎌が1点出土している。時期：古代か。



第97図 54号住居跡



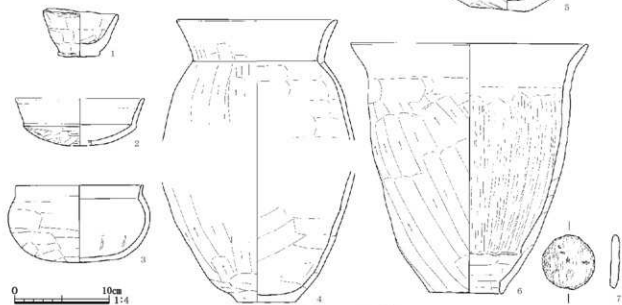
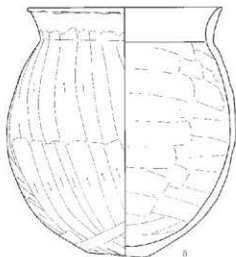
第98図 54号住居跡 出土遺物

54号住居跡 出土遺物観察表

1	鉄製鎌	A. 長23.1. 幅5.9. 厚0.3. 重250.59. F. ほぼ完形. G. 一部木質が残存する. H. 覆土.
---	-----	--

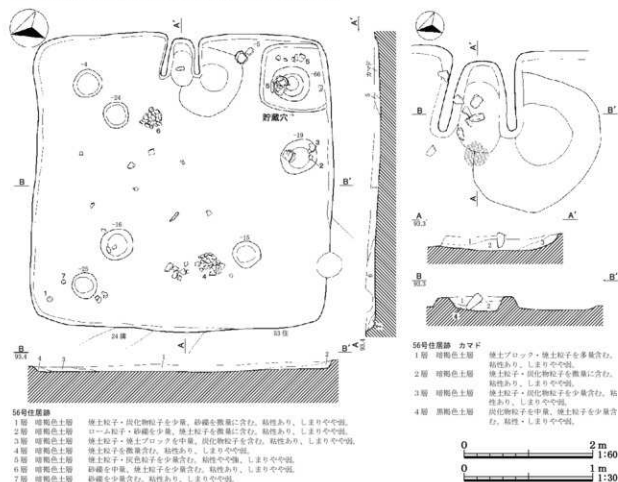
56号住居跡(第99・100図、図版12・37)

位置：調査区の南に位置している。53号住居跡・24号溝と重複し、本遺構が古い。形態：正方形を呈する。主軸方位：S-70°-E。規模：長軸4.70m、短軸4.68m。カマド：東壁に付設される。燃焼部には、支脚であろう礎が据えられていた。カマドに向かって右袖には緩やかな落ち込みがあり、覆土に多量の焼土・炭化物を含んでいる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴である。



第99図 56号住居跡 出土遺物

5 cm程の深さの方形プランの中央に深さ約60cmピット状に掘り込まれる。柱穴：6本確認される。埋没状況：2・4・7層までは自然埋没であるが、1・3・6層に焼土・炭化物を多量に含有する。ある程度自然に埋没した後に焼失した住居であると考えられる。遺物：住居内に遺物が散在している。4・6は床面直上の出土である。時期：古墳時代後期。



第100図 56号住居跡

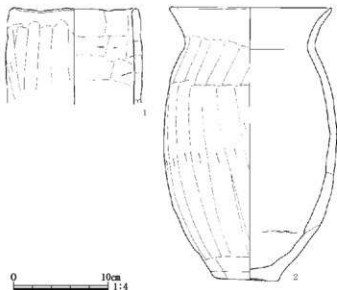
56号住居跡 出土遺物観察表

1	ミニチュア	A. 口径8.0, 底径4.5, 器高5.1, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, ユビオサコーナデ。底部ナデ, 内面, ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一黄灰色。F. 完形。G. 内外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(13.7), 器高5.0, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 1/4, H. 覆土。
3	鉢	A. 口径(13.5), 器高8.1, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面, ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	甕	A. 口径17.0, 底径6.3, 器高(29.9), B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ・下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面, ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
5	甕	A. 口径20.7, 底径6.2, 器高26.5, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ・ナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
6	大形瓶	A. 口径25.0, 底径7.6, 器高26.4, B. 粘土紐積みみ上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面, 口縁部ヨコナデ。胴部上半タテナデ。下位ヨコナデ, ヨコケズリ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	石製円盤	A. 径5.6, 厚0.9, 重311.24, D. 結晶片岩。G. 器面に発泡あり。H. 覆土。

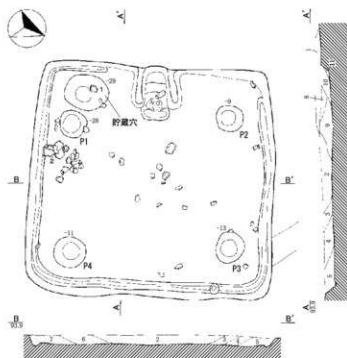
57号住居跡(第101・102図、図版12・13・37)

位置：調査区の南に位置している。102号住居跡と重複し、本遺構が新しい。21号溝に覆土の一部を切られる。形態：方形を呈する。主軸方位：S-71°-W。規模：長軸3.88m、短軸3.75m。カマ

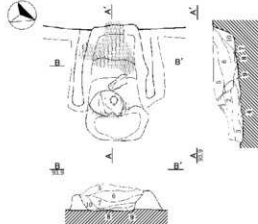
下：西壁に付設される。淡暗褐色粘土を袖に用いる。焚き口部分がやや掘り下がり、燃焼部との境界付近に逆位の長胴甕の破片が確認される。燃焼部は住居内に収まり、やや浮いているが支脚の礎も検出される。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の主柱穴が確認された。周溝：カマド周辺と北西コーナー以外から検出される。埋没状況：自然埋没と思われる。遺物：土器と編み物石が住居内に散在している。時期：古墳時代後期。



第101図 57号住居跡 出土遺物



- 57号住居跡
- 1層 暗褐色土層 灰褐色土ブロック・砂礫を少量、焼土粒子を微量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 2層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 3層 暗褐色土層 2層に類似する。ロームブロックを少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 4層 暗褐色土層 2層に類似する。ロームブロックを少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 6層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 7層 暗褐色土層 暗褐色土層を中量、ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 8層 暗褐色土層 暗褐色土層を少量、炭化物粒子を微量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 9層 暗褐色土層 暗褐色土層を少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 10層 暗褐色土層 暗褐色土層を少量含む。粘性あり、しまりやや弱。
 - 11層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや弱。



57号住居跡 カマド

- 1層 淡褐色土層 焼土粒子・マンガノ粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子・焼土ブロックを含む。粘性・しまり強。
- 3層 黒灰色土層 焼土粒子を微量含む。粘性強、しまりやや弱。
- 4層 黒灰色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりやや弱。
- 5層 淡褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 6層 暗褐色土層 焼土ブロックを少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性強、しまりやや弱。
- 7層 暗褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 8層 黒灰色土層 焼土ブロックを少量、焼土粒子を微量含む。粘性強、しまりあり。
- 9層 黒灰色土層 焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を少量含む。粘性強、しまりやや弱。
- 10層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりあり。



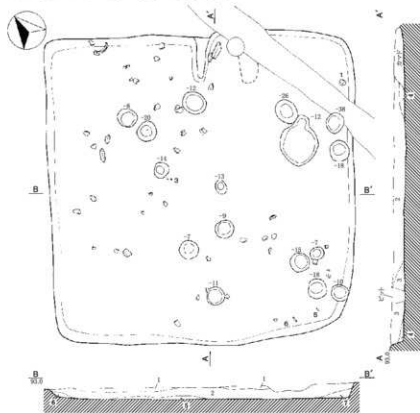
第102図 57号住居跡

57号住居跡 出土遺物観察表

番号	遺物	観察内容
1	小形甕	A、口径(13.9)、残存高10.2。B、粘土紐積み上げ。C、外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ・タテケズリ。内面、ヨコナデ。D、片岩・石英・角閃石。E、内外一に赤い褐色。F、口縁部1/5。G、内外面口縁部に焼成時の黒痕あり。外面胴部二次焼熱。H、貯蔵穴。
2	甕	A、口径17.2、底径6.8、器高28.9。B、粘土紐積み上げ。C、外面、口縁部ヨコナデ。胴部上位タテナデ→中位以下タテケズリ。底部ケズリ・ナデ。内面、ナデ。D、片岩・角閃石。E、内外一褐色。F、ほぼ半形。G、外面二次焼熱。内面ヨコシ。H、覆土。

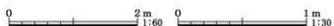
58号住居跡(第103・104図、図版13・37)

位置：調査区の東に位置している。84号住居跡・91号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-40°-E。規模：長軸4.90m、短軸4.85m。カマド：東壁に付設される。片袖は後世の溝により破壊される。燃焼部はやや住居外へと延び、覆土内には構築や補強に使われたであろう、礫が検出された。柱穴：16本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：奈良時代。

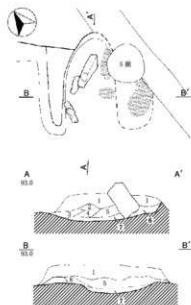


58号住居跡

- | | | |
|----|-------|------------------------------|
| 1層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 2層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 3層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 4層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 5層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 6層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 7層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |

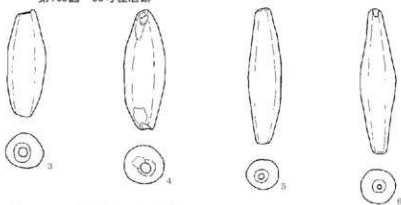
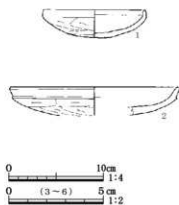


第103図 58号住居跡



58号住居跡 カマド

- | | | |
|----|-------|--|
| 1層 | 埴輪色土層 | ローム粒子主体。埴輪色ブロック・焼土ブロック・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 2層 | 埴輪色土層 | ローム粒子・炭色土ブロックを少量含む。粘性ややぬ。しまりややぬ。 |
| 3層 | 埴輪色土層 | ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 4層 | 埴輪色土層 | 焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 5層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりややぬ。 |
| 6層 | 埴輪色土層 | ロームブロックを少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 7層 | 埴輪色土層 | 炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |
| 8層 | 埴輪色土層 | 焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりややぬ。 |



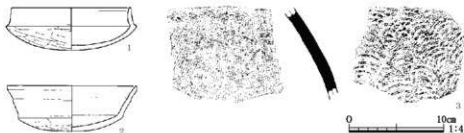
第104図 58号住居跡 出土遺物

58号住居跡 出土遺物観察表

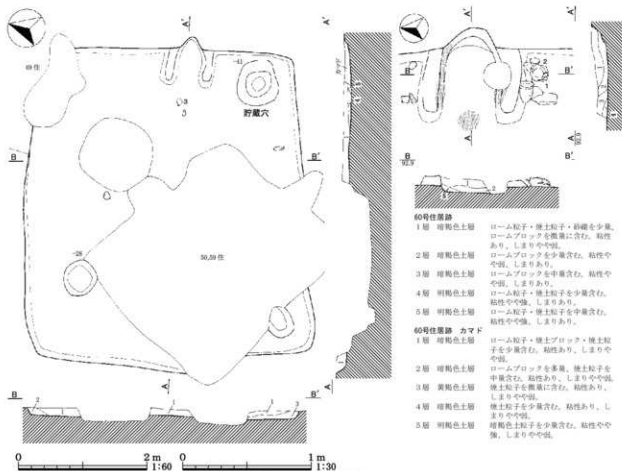
1	坏	A. 口径10.7. 器高2.9. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外-にぶい橙色. F. 1/2. H. 覆土.
2	坏	A. 口径(18.0). 残存高2.9. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・赤色粒子・白色粒子. E. 内外-橙色. F. 1/5. G. 外面にスス付着. H. 覆土.
3	土鍾	A. 長5.7. 幅2.0. 厚0.9. B. 手捏ね. C. ナデ. D. 角閃石・赤色粒子・片岩. E. にぶい黄褐色. F. 完形. G. 焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	土鍾	A. 長6.3. 幅2.2. 厚0.9. B. 手捏ね. C. ナデ. D. 石英・赤色粒子. E. にぶい黄褐色. F. ほぼ完形. G. 焼成時に黒斑、外面に粘土着. H. ビット.
5	土鍾	A. 長7.1. 幅1.8. 厚0.7. 重19.00. B. 手捏ね. C. ナデ. D. 石英・赤色粒子. E. 橙色. F. 完形. G. 焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
6	土鍾	A. 長7.7. 幅1.9. 厚0.8. 重21.28. B. 手捏ね. C. ナデ. D. 白色粒子・赤色粒子. E. 橙色. F. 完形. H. 覆土.

60号住居跡(第105・106図、図版11・37)

位置：調査区の東に位置している。49号住居跡・50号住居跡・59号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-77.5°-E。規模：長軸4.81m、短軸4.38m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、向かって右側の袖は重複するビットにより一部を破壊される。燃焼



第105図 60号住居跡 出土遺物



第106図 60号住居跡

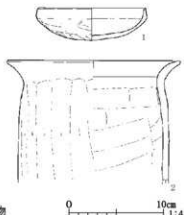
部は住居外で緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する方形のピットが貯蔵穴である。10cm落ちこんだ後、中央部分は41cmと深い掘り込みとなっている。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドに向かって右袖の脇から遺物が纏まって出土している。時期：古墳時代後期。

60号住居跡 出土遺物観察表

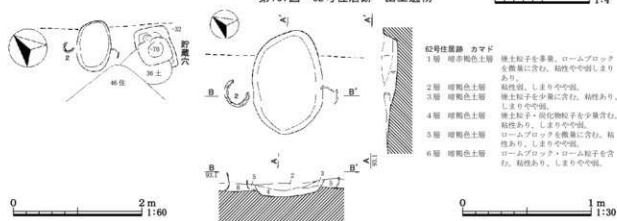
1	坏	A. 口径(12.8)。器高4.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色・褐色。F. 1/2。G. 内外面口縁部黒色処理か。H. カマド。
2	坏	A. 口径13.8。器高4.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい赤褐色・褐色。外一にぶい黄褐色・褐色。F. 4/5。G. 内外面黒色処理か。黒斑の可能性もあり。H. カマド。
3	須恵器 甕	B. タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目ナデ。内面、同心円文当て具痕。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. カマド。

62号住居跡(第107・108図、図版38)

位置：調査区の東に位置している。46号住居跡・63号住居跡等と重複し、新旧関係は不明である。カマドの掘り方と貯蔵穴のみ残存し、住居の壁面は消失している。主軸方位：N-58°-E。カマド：東壁に付設される。袖は残存していないが、構築材に甕を用いる。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する長方形のピットが貯蔵穴である。埋没状況：不明。遺物：カマド・貯蔵穴から遺物が出土する。時期：古墳時代後期。



第107図 62号住居跡 出土遺物



第108図 62号住居跡

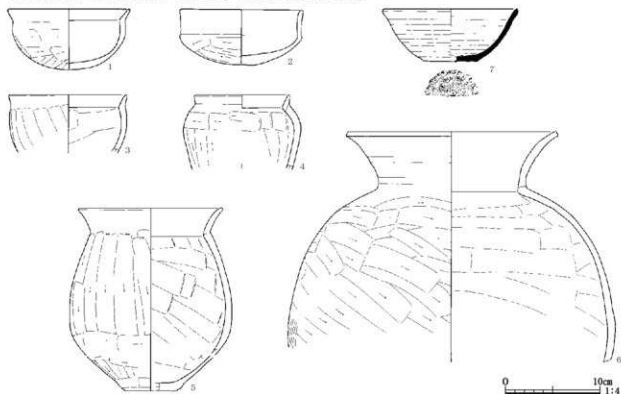
62号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径11.5。器高3.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
2	甕	A. 口径18.4。残存高13.2。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・片岩・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部へ胴部上1/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド左袖。

63号住居跡(第109・110図、図版13・37)

位置：調査区の東に位置している。46号住居跡・54号住居跡・62号住居跡・85号住居跡と重複する。新旧関係は不明な部分が多いが、85号住居跡より古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸5.26m、短軸5.11m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内となり、奥壁は住居の立ち上がりと一致する。袖はロームブロック主体となる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する

方形のビットが貯蔵穴である。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴と東壁の間に遺物が集中している。古墳時代の遺物とともに古代の遺物も含まれているが、重複する住居跡からの流れ込みであろう。時期：古墳時代後期。



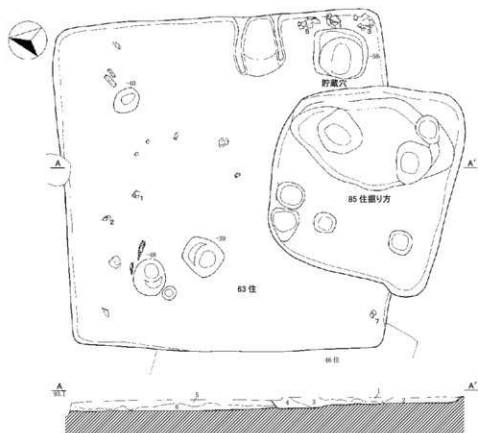
第109図 63号住居跡 出土遺物

63号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(13.0). 器高6.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・片岩. E. 内外一明褐色. F. 1/4. H. 覆土.
2	坏	A. 口径13.0. 器高5.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一明赤褐色. F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
3	鉢	A. 口径12.6. 残存高6.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデ. 内面, ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一明赤褐色. F. 口縁部~胴部上位1/2. G. 外面二次被熱. 内面ヨゴレ. H. 覆土・貯蔵穴.
4	小形甕	A. 口径(10.2). 残存高7.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→上位ヨコケズリ. 内面, 口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデ→上位強いヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石・片岩. E. 内一にぶい黄褐色. 外一にぶい褐色. F. 破片. G. 外面二次被熱. 内面ヨゴレ. H. カマド.
5	小形甕	A. 口径(15.4). 底径(5.4). 推定高19.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ. 底部ケズリ・ナデ. 内面, ヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 1/3. G. 外面胴部二次被熱. 図上復元. H. カマド・覆土.
6	壺	A. 口径(22.5). 残存高24.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 胴部ヨコヘナメケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石・白色粒子. E. 内外一褐色. F. 口縁部~胴部中位3/4. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり. H. カマド・覆土.
7	須恵器 坏	A. 口径(14.4). 底径(5.7). 器高5.5. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転承切り. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 1/4. G. 還元焼成だが, 還元不良. H. 覆土.

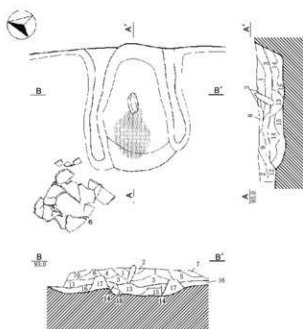
85号住居跡(第110・111図、図版13・39)

位置：調査区の東に位置している。54号住居跡・63号住居跡と重複し、前者との新旧は不明だが、後者よりは本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-5°-W。規模：長軸3.06m、短軸2.88m。カマド：北壁に付設される。燃焼部は住居内で一段落ち込む。煙道が20cmほど残存し、緩やかな立ち上がりを示す。柱穴：4本の主柱穴が確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：奈良時代。



- 85号住居跡**
- | | | |
|---------------|--------|---|
| 1層 | 暗灰褐色土層 | 白色ツアラを中量、ロームブロックを少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 2層 | 暗灰褐色土層 | 焼土粒子・炭化物粒子・白色ツアラを中量、ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 3層 | 暗灰褐色土層 | 白色ツアラを中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりやや強。 |
| 4層 | カマド対応。 | |
| 63号住居跡 | | |
| 5層 | 暗灰褐色土層 | ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。 |
| 6層 | 暗灰褐色土層 | ロームブロックを多量、炭化物粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。 |

0 2m
1:60

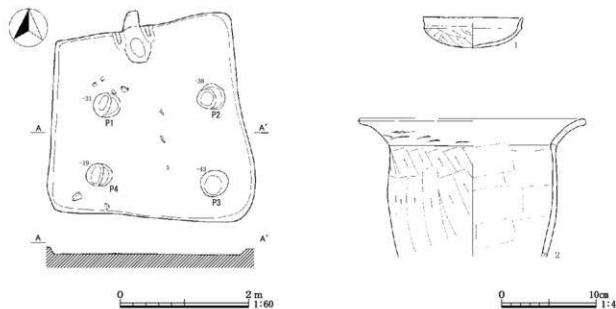


63号住居跡 カマド

- | | | |
|-----|--------|---|
| 1層 | 暗褐色土層 | 焼土ブロック・白色粘土ブロックを含む。土器片量中量。粘性弱、しまりやや強。 |
| 2層 | 暗褐色土層 | ローム粒子・焼土ブロックを少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりあり。 |
| 3層 | 暗灰褐色土層 | 焼土粒子・焼土ブロックを少量、ローム粒子・青白色粘土を微量に含む。粘性弱、しまりややあり。 |
| 4層 | 暗褐色土層 | 焼土ブロック・焼土粒子・青白色粘土ブロックを少量含む。粘性やや強、しまりあり。 |
| 5層 | 暗灰褐色土層 | 焼土ブロックを多量、青白色粘土ブロックを少量含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 6層 | 暗褐色土層 | 青白色粘土ブロックを多量、焼土粒子・ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりやや強。 |
| 7層 | 暗褐色土層 | 青白色粘土ブロックを多量、焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性やや強、しまり弱。 |
| 8層 | 暗赤褐色土層 | 焼土ブロックを多量に含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 9層 | 暗灰褐色土層 | 青白色粘土ブロック・焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 10層 | 暗褐色土層 | ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 11層 | 暗褐色土層 | ロームブロックを少量含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 12層 | 暗褐色土層 | ロームブロック・焼土粒子・青白色粘土ブロックを微量に含む。粘性・しまりやや強。 |
| 13層 | 暗褐色土層 | ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。 |
| 14層 | 暗褐色土層 | ロームブロックを中量含む。粘性・しまりやや強。 |
| 15層 | 暗褐色土層 | ロームブロックを少量、青白色粘土ブロックを微量に含む。粘性あり、しまりやや強。 |
| 16層 | 暗黄褐色土層 | 陥り床層。 |
| 17層 | 暗黄褐色土層 | ロームブロックを多量に含む。カマド層。粘性・しまりあり。 |

0 1m
1:30

第110図 63号・85号住居跡



第111図 85号住居跡・出土遺物

85号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径10.6. 器高3.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・橙色粒子. E. 内外一橙色. F. 3/4. H. 覆土.
2	甕	A. 口径(24.2). 残存高14.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・石英. E. 内外一橙色. F. 破片. H. カマド袖.

64号住居跡(第112・114図、図版13・37)

位置：調査区の北に位置している。形態：方形を呈する。主軸方位：N-24°-E。規模：長軸3.88m、短軸3.72m。カマド：北壁に付設される。全体的に細長い形状を呈する。袖は褐色粘土を用いた付け袖。燃焼部は住居外へと延び、煙道へと立ち上がっている。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。このうちP1～4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。

遺物：覆土より土器片が出土している。時期：奈良時代か。



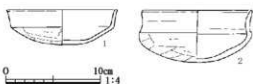
第112図 64号住居跡 出土遺物

64号住居跡 出土遺物観察表

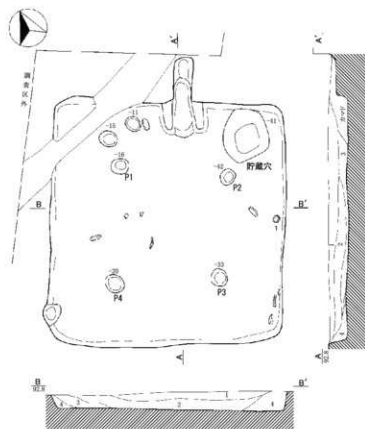
1	坏	A. 口径12.4. 底径9.8. 器高3.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石. E. 内外一橙色. F. 完形. G. 内外面口縁部が痘痕状に剝離する. H. 覆土.
2	須恵器 甕	B. タタキ成形. C. 外面、平行タタキ目. 内面、当て具痕→ナデ. D. 石英・黒色粒子. E. 内外一灰黄色. F. 破片. G. 還元焰焼成. H. 覆土.

65号住居跡(第113・115図、図版13・14・37)

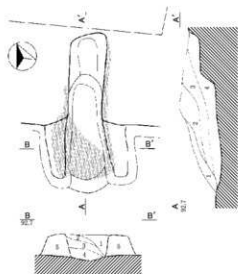
位置：調査区の北に位置する。形態：方形を呈する。主軸方位：N-38°-E。規模：長軸3.47m、短軸3.43m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居外へと延び、緩やかに立ち上がる。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する楕円形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：6本確認される。P1～4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第113図 65号住居跡 出土遺物



第114図 64号住居跡



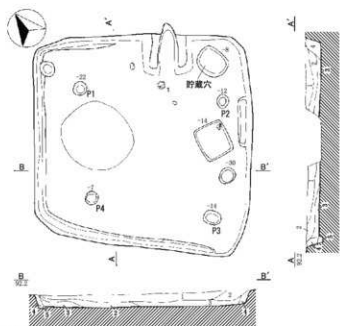
64号住居跡

- 1層 暗赤褐色土層 ローム粒子・白色粒子を少量。焼土粒子を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 2層 暗褐色土層 マンガン粒子を多量。白色粒子を中量。ローム粒子を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 3層 赤褐色土層 白色粒子を中量。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 4層 黒褐色土層 焼土粒子を中量。ローム粒子を少量含む。粘性・しまりやや強。

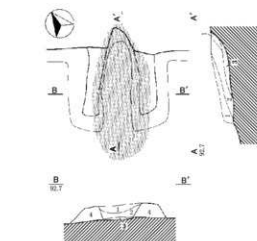
64号住居跡 カマド

- 1層 褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を中量含む。粘性・しまりやや強。
- 2層 褐色土層 焼土粒子を中量含む。粘性・しまりやや強。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量。白色粒子を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 4層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 5層 褐色粘土層 炭化物粒子・焼土ブロック・白色粒子を含む。コマダ。粘性・しまりあり。

0 2m 0 1m
1:60 1:30



第115図 65号住居跡



65号住居跡 カマド

- 1層 黒褐色土層 焼土粒子・灰色ブロックを少量。白色粒子を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 2層 褐色土層 焼土粒子を中量。焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりやや強。
- 3層 灰褐色土層 炭化物粒子を少量。焼土粒子を散見に含む。粘性あり。しまりやや強。
- 4層 褐色粘土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量。ローム粒子を少量含む。粘性あり。しまり強。

65号住居跡

- 1層 褐色土層 ローム粒子・マンガン粒子を多量。白色粒子を中量。ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 2層 灰褐色土層 マンガン粒子を多量。ロームブロック・ローム粒子を中量。焼土粒子を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 3層 灰褐色土層 ローム粒子・焼土ブロックを散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 4層 褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・マンガン粒子を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 5層 褐色土層 ローム粒子を散見に含む。粘性・しまりあり。

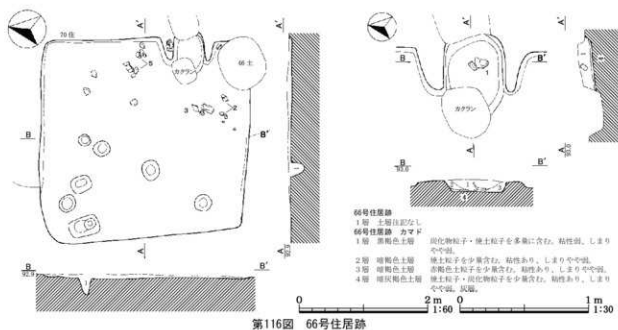
0 1m 1:30
0 2m 1:60

65号住居跡 出土遺物観察表

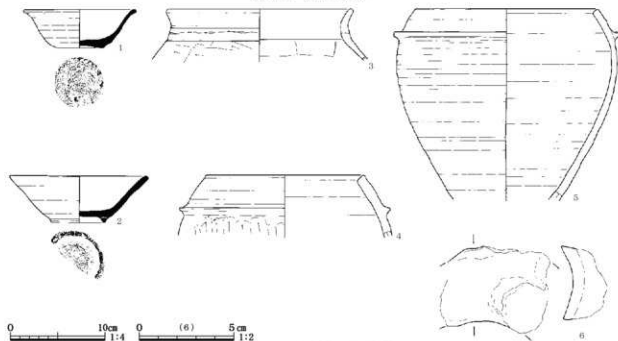
1	坏	A. 口径11.6. 器高3.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子. E. 内外一橙色. F. ほぼ方形. H. 覆土.
2	坏	A. 口径11.8. 器高5.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面, ヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内外一明赤褐色. F. 4/5. G. 内外面二次被熱か. H. 覆土.

66号住居跡(第116・117図、図版14・38)

位置：調査区の東に位置している。70号住居跡と重複し、木造構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸3.32m、短軸3.15m。カマド：東壁に付設される。袖は地山を掘り残し、焚き口と煙道はピットによって破壊される。柱穴：7本確認される。記録が残されておらず、深さは不明。埋没状況：覆土の残存状況が不良であるため、詳細は不明。遺物：覆土より須恵器・土師器・鉄製品が出土している。時期：平安時代。



第116図 66号住居跡



第117図 66号住居跡 出土遺物

66号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(12.0)。底径5.0。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石、片岩、白色粒子。E. 内外一灰黄色。F. 2/3。G. 還元焼成。H. カマド。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径14.8。底径5.9。器高5.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一灰黄色。F. 4/5。G. 還元焼成。H. 床面直上。
3	甕	A. 口径(19.8)。残存高5.6。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 破片。H. 覆土。
4	羽釜	A. 口径(17.6)。残存高6.4。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→髑貼付→タケズリ。内面、回転ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい黄褐色。F. 破片。H. 覆土。
5	羽釜	A. 口径(19.4)。残存高20.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ→髑貼付。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一橙色。F. 1/5。G. 内外面ス付着。H. 覆土。
6	不明鉄製品	A. 長(5.7)。幅3.8。重63.86。F. 破片。H. 覆土。

67号住居跡(第118・119図、図版38)

位置：調査区の東に位置している。

68号住居跡と重複し、本遺構が新しい。

形態：方形を呈する。主軸

方位：N-34°-E。規模：長軸

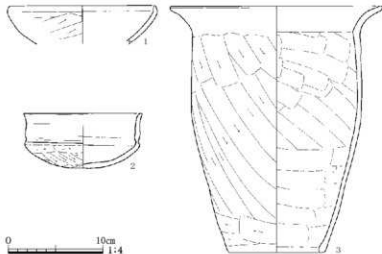
4.25m、短軸4.06m。カマド：東

壁に付設される。袖は灰色粘土を

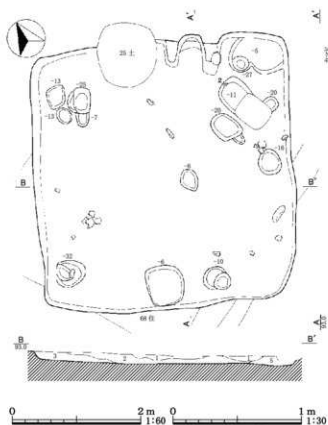
用いた付け袖だが、住居壁部分は

地山を掘り残している。柱穴：12

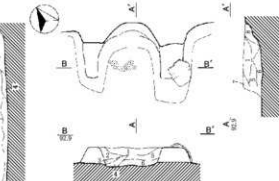
本確認される。埋没状況：自然埋



第118図 67号住居跡 出土遺物



第119図 67号住居跡



67号住居跡

- 1層 暗灰褐色土層 白色粒子を多量、焼土粒子を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。
- 2層 暗灰褐色土層 ロームブロック・焼土粒子を中量、白色粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。
- 3層 暗灰褐色土層 ロームブロック・焼土粒子を少量、白色粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。
- 4層 暗灰褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・白色粘土粒子を微量含む。粘性あり。しまりや中強。
- 5層 暗灰褐色土層 焼土粒子を少量、ローム粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。

67号住居跡 カマド

- 1層 暗黄褐色土層 焼土粒子・ロームブロックを中量、ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性や中強。しまりや中強。
- 2層 暗灰褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性や中強。しまりあり。
- 3層 暗灰褐色土層 焼土粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性強。しまりや中強。
- 5層 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。
- 6層 暗灰褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性や中強。しまりあり。
- 7層 暗灰褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
- 8層 黄褐色土層 マンガン粒子を中量、焼土・炭化物を含む。粘性・しまりあり。

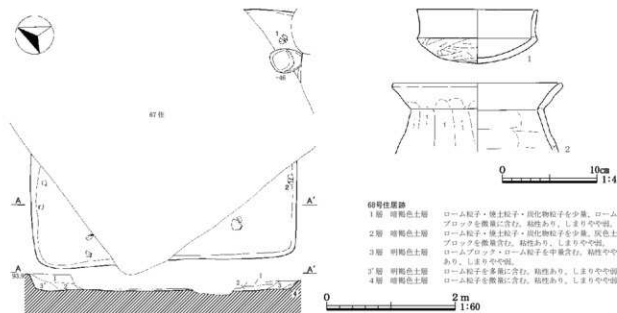
没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。

67号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(15.9)。残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 破片。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.6。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	大形甕	A. 口径(22.5)。底径(9.0)。器高26.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、ヨコ→ナメナデ→下位ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 1/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド・覆土。

68号住居跡(第120図、図版38)

位置：調査区の東に位置している。67号住居跡と重複し、本遺構が古い。重複の結果、コーナー部分以外は消失している。形態：方形を呈する。主軸方位：S-25°-W。規模：長軸4.17m、短軸3.88m。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



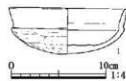
第120図 68号住居跡・出土遺物

68号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.8)。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	甕	A. 口径(18.0)。残存高7.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい黄褐色。F. 破片。H. 覆土。

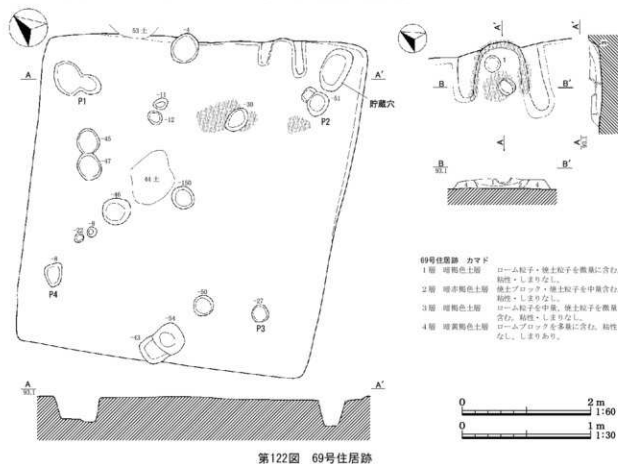
69号住居跡(第121・122図、図版14・38)

位置：調査区の北に位置している。西半分は後世の削平を受け、壁は確認できなかった。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-60°-E。規模：推定長軸5.16m、推定短軸5.06m。カマド：東壁の南寄りに付設される。袖はロームブロック主体の明黄褐色土を用いる。燃焼部は住居内に収まり、覆土上層からほぼ完形の坏が出土する。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：16本確認される。このうちP1~4が主柱穴であろう。埋没状況：覆土がほとんど残存していないため、詳細は不明である。遺物：



第121図 69号住居跡
出土遺物

カマドや貯蔵穴より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



69号住居跡 出土遺物観察表

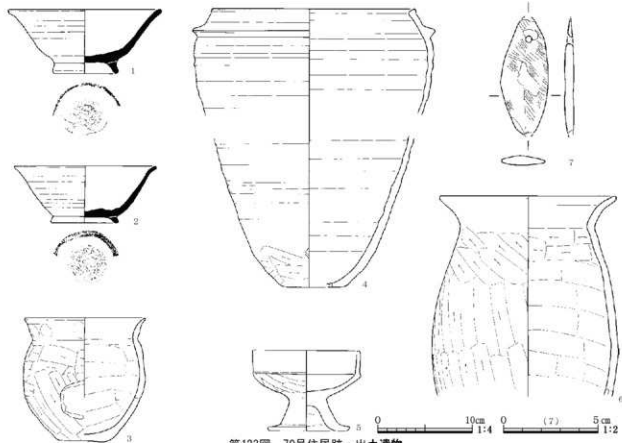
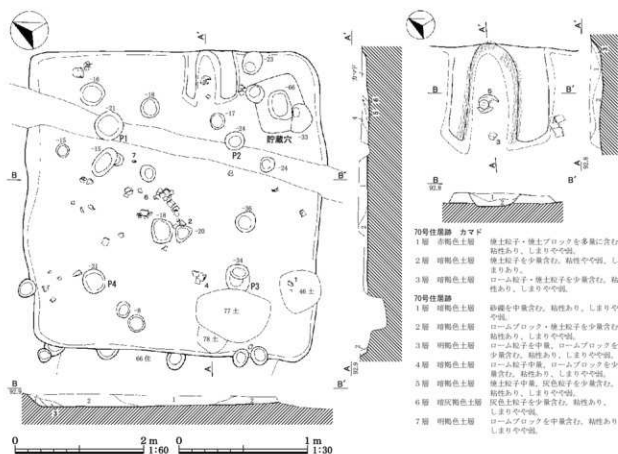
1	環	A. 口径12.5。器高4.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 内面体部に黒色付着物・粘土あり。H. カマド。
---	---	---

70号住居跡(第123図、図版14・38)

位置：調査区の東に位置している。66号住居跡・115号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-62.5°-E。規模：長軸4.68m、短軸4.45m。カマド：東壁に付設される。黄褐色土を用いた付け袖を持つ。燃焼部は住居内に収まり、その中央には逆位の高坪が検出される。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴であろう。約20cmテラス状に落ち込み、中心は66cmを測る。柱穴：19本確認される。このうちP1~4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド及び、住居の中央部分から遺物が集中している。また、掘り方より剣形の石製模造品が出土した。出土遺物に、古代の土師器・須恵器も含まれているが、これは重複する66号住居跡からの流れ込みであろう。時期：古墳時代後期。

70号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	須恵器高台付碗	A. 口径(16.2)。底径(7.0)。器高6.8。B. ロクロ成形。C. 外面、内外面回転ナデ。底部回転糸切り一高台貼付。D. 角閃石・白色粒子・片岩。E. 内外一灰色。F. 1/4。G. 還元焙焼成。H. 覆土、66住と接合。
2	須恵器高台付碗	A. 口径(15.0)。底径(7.1)。器高6.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り一高台貼付。D. 角閃石・白色粒子・片岩。E. 内一灰黄色。外一灰白色。F. 1/4。G. 還元焙焼成。H. 覆土。



第123図 70号住居跡・出土遺物

70号住居跡 出土土物観察表(2)

3	小形甕	A. 口径13.1, 底径5.0, 器高13.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオナエ, 胴部上位ヨコケズリ→下位タテ～ナナメケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 外面胴部二次被熱, 内面、胴部にヨゴレあり, H. カマド。
4	羽釜	A. 口径(21.5), 底径(7.1), 器高(29.5), B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、回転ナデ→跨貼付, 胴部下位ヨコケズリ, 底部ケズリ, 内面、回転ナデ, D. 片岩・白色粒子・石英, E. 内外一橙色, F. 1/5, G. 図上復元, H. 覆土。
5	高坏	A. 口径11.4, 底径8.7, 器高8.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ナデ・ケズリ, 胴部ヨコナデ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・赤色粒子, E. 内一明赤褐色, 外一橙色, F. 4/5, H. カマド。
6	甕	A. 口径(18.7), 残存高21.2, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→上位ナナメケズリ, 内面、口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコナデ→上位ヨコケズリ, D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部～胴部上半3/4, G. 外面胴部中位二次被熱, H. 覆土。
7	石製模造品	A. 残長6.1, 幅2.5, 厚0.5, D. 蛇紋岩, F. ほぼ完形, G. 表・裏面ともに擦痕顕著, H. 覆土。

71号住居跡(第124・126図、図版14・38)

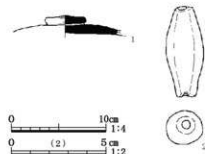
位置：調査区の南に位置している。72号住居跡・73号住居跡・79号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-22°-W。規模：長軸5.55m、短軸4.34m以上。カマド：北壁に付設される。袖は明灰色粘土を用いた付け袖で、向かって右の袖には逆位の長胴甕が構築材として使われる。燃焼部は住居内に収まり、内面の被熱はやや少なかった。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土する。時期：古墳時代後期。



第124図 71号住居跡 出土土物

72号住居跡(第125・126図、図版14・39)

位置：調査区の南に位置している。71号住居跡・73号住居跡・79号住居跡と重複する。71号住居跡・79号住居跡より新しく、73号住居跡より古い。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-38°-W。規模：長軸4.90m、短軸4.15m。柱穴：6本確認される。周溝：全周する。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



第125図 72号住居跡 出土土物

71号住居跡 出土土物観察表

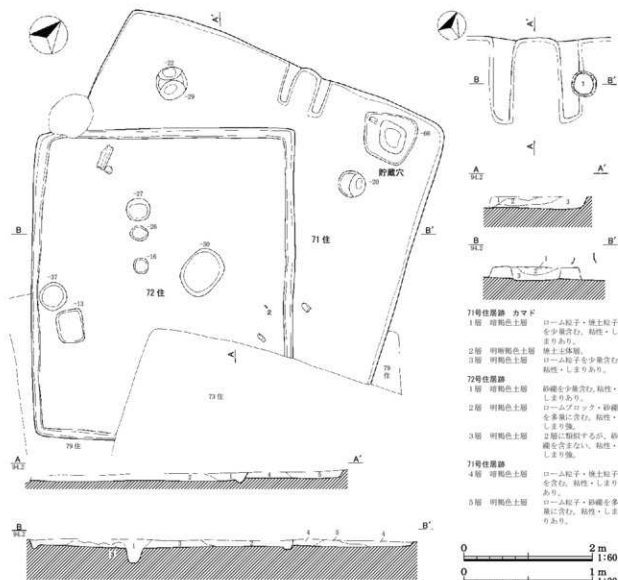
1	甕	A. 口径19.9, 残存高8.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 口縁部～胴部ほぼ完形, G. 外面二次被熱, H. カマド。
---	---	---

72号住居跡 出土土物観察表

1	須恵器 坏蓋	A. 横み径4.3, 残存高2.2, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一灰白色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土。
2	土鉢	A. 長4.2, 幅1.9, 厚0.9, 重13.25, B. 手捏ね, C. ナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 橙色, F. 完形, G. 二次被熱か, H. 覆土。

73号住居跡 出土土物観察表(1)

1	坏	A. 口径(11.8), 器高3.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・赤色粒子, E. 内外一橙色, F. 1/2, H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.6), 残存高3.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 1/3, H. 覆土。
3	甕	A. 口径(20.4), 残存高7.2, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・白色粒子・角閃石, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 破片, G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
4	須恵器 甕	B. タタキ成形, C. 外面、平行タタキ目, 内面、同心円文当て具痕→ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一灰色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土。



第126図 71号・72号住居跡

73号住居跡(第127・128図、図版15・38)

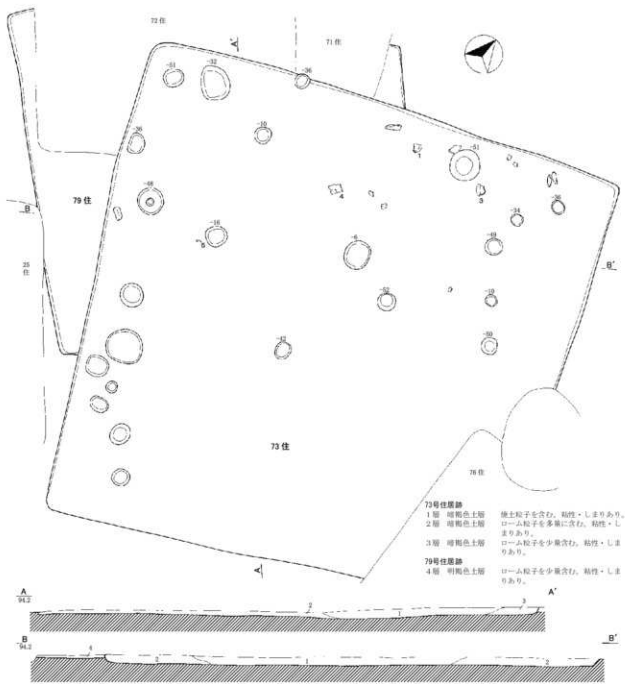
位置：調査区の南に位置している。71号・72号・75号・76号・79号住居跡と重複する。75号住居跡より古く、他の住居より新しい。南壁は削平のため、消失している。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-27°-W。規模：長軸7.61m、推定短軸7.58m。柱穴：23本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より須恵器・土師器・土錘・礫が出土する。時期：奈良時代。

79号住居跡(第127図)

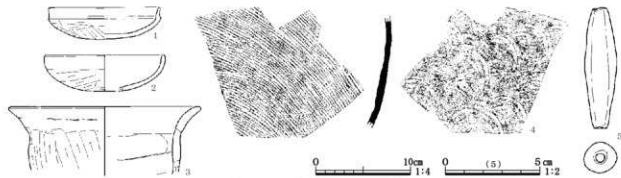
位置：調査区の南に位置している。25号・71号・72号・73号住居跡と重複し、最も古い。北東コーナーと西壁を検出のみ検出した。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-48°-E。規模：長軸6.03m、短軸5.57m。埋没状況：同一の覆土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

73号住居跡 出土遺物観察表(2)

5	土錘	A. 長6.3, 幅1.7, 厚0.6, 重14.78。B. 手握ね。C. ナゲ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
---	----	---



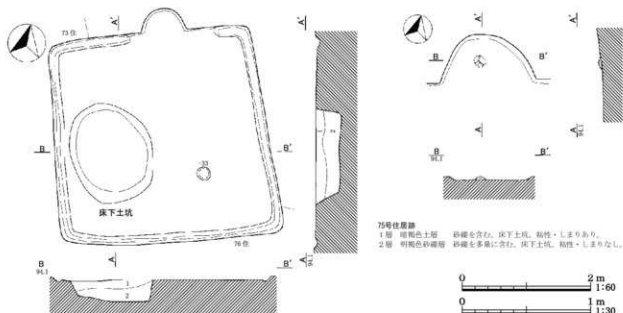
第127図 73号・79号住居跡



第128図 73号住居跡 出土遺物

75号住居跡(第129図、図版15)

位置：調査区の南に位置している。73号住居跡・76号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-21°-W。規模：長軸3.38m、短軸3.26m。カマド：北壁に付設される。袖はなく、燃焼部は住居外へと延びる。柱穴：1本確認される。この他に床下土坑が1基検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドより土器片が出土している。時期：平安時代か。



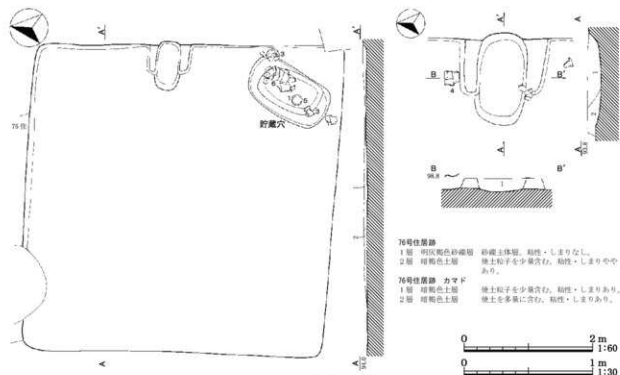
第129図 75号住居跡

76号住居跡(第130・131図、図版15・38)

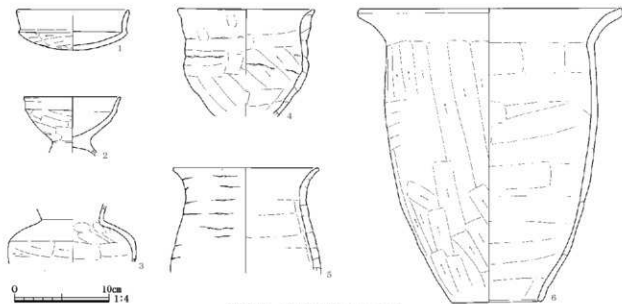
位置：調査区の南に位置している。73号住居跡・75号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。南壁・西壁は削平されてしまっている。形態：方形を呈する。主軸方位：N-88.5°-E。規模：推定長軸4.73m。カマド：東壁に付設される。袖には明灰褐色粘土を用いている。後世の耕作等により上部は消失している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のビツが貯蔵穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われるが、覆土の残存状況が不良なため詳細は不明である。遺物：貯蔵穴より多数の遺物が出土している。時期：古墳時代後期。

76号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径(12.0)。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
2	高環	A. 口径10.2。残存高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部1/2。G. 内外面坏部に焼成時の黒炭あり。H. 貯蔵穴。
3	埴	A. 残存高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、頸部ヨコナデ。胴部上位ヨコナデ・中位ヨコケズリ。内面、頸部ヨコナデ。胴部上位ユビオサエ・中位ヨコナデ。D. 白色粒子・橙色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 頸～胴部上位ほぼ完形。H. 貯蔵穴。
4	小形甕	A. 口径(14.0)。残存高10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部ナメナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ下位ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一赤褐色。F. 破片。G. 外面二次被熱。内面ヨゴレ。H. カマド。
5	甕	A. 口径(15.5)。残存高11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部部分的にタテケズリ→ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色粒子。F. 口縁部～胴部上位1/4。H. 貯蔵穴。
6	大形甕	A. 口径28.0。底径9.6。器高31.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテケズリ→中位部分的にヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・片岩。E. 内外一橙色。F. 3/4。H. 貯蔵穴。



第130図 76号住居跡

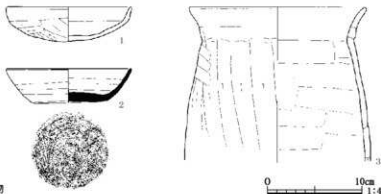


第131図 76号住居跡 出土遺物

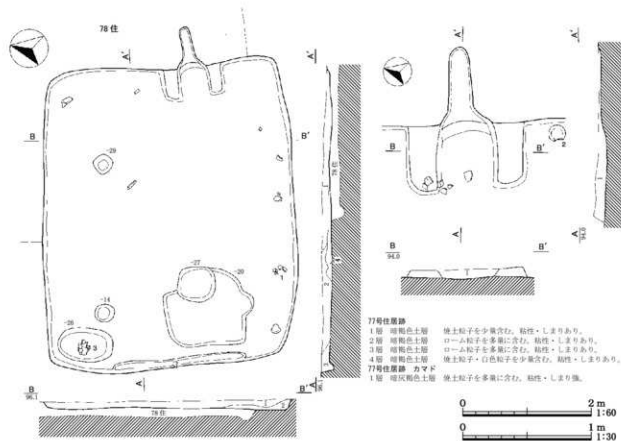
77号住居跡(第132・133図、図版15・16・39)

位置：調査区の南に位置している。78号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸4.76m、短軸3.96m。カマド：東

第132図 77号住居跡 出土遺物



壁に付設される。暗灰褐色粘土を袖に用いる。燃焼部は立ち上がりを住居の壁と共にし、住居外へと延びる煙道に繋がる。柱穴：4本確認される。周溝：西壁中央部分でのみ検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：南壁に沿って点在している。時期：奈良時代。



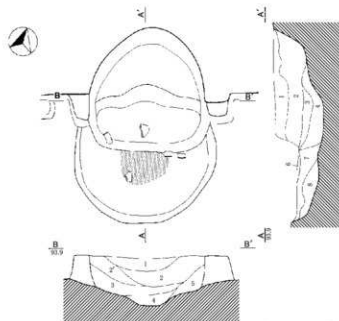
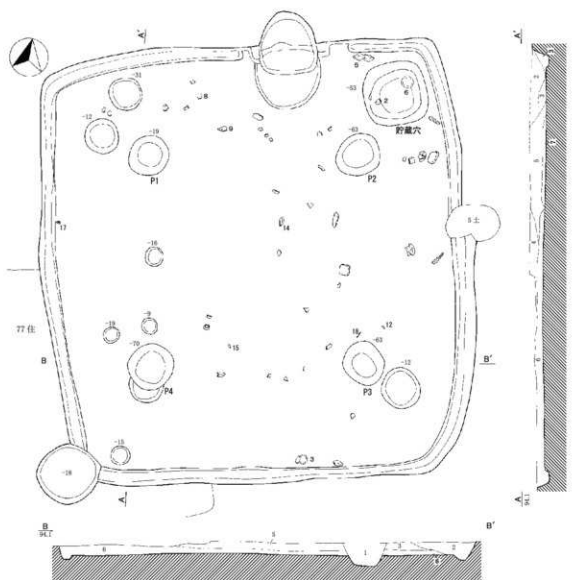
第133図 77号住居跡

77号住居跡 出土遺物観察表

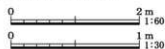
1	坏	A. 口径13.4。器高3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径13.4。底径8.3。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. ほぼ完形。G. 還元焼成。H. カマド。
3	甕	A. 口径(18.8)。残存高16.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ一部分的にヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 口縁部へ胴部上半1/5。H. 貯蔵穴。

78号住居跡(第134・135図、図版15・16・39)

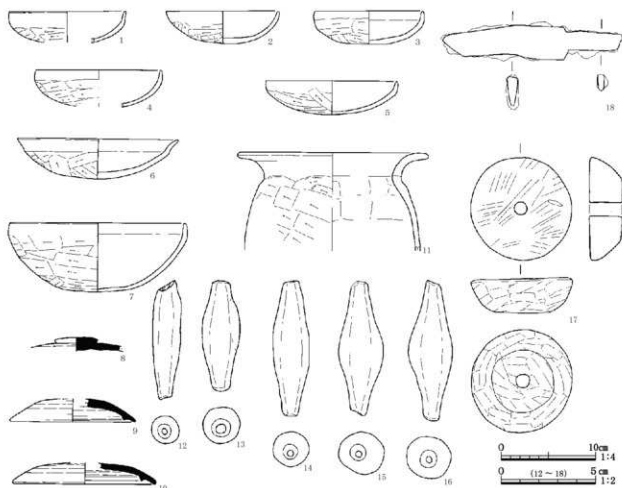
位置：調査区の南に位置している。77号住居跡と重複し、本遺構が新しい。21号溝に覆土の一部を破壊される。形態：方形を呈する。主軸方位：N-14°-W。規模：長軸6.90m、短軸6.65m。カマド：北壁に付設される。焚き口から一段落ち込み、燃焼部では更に一段下がる。燃焼部の奥壁は住居の壁と同位置で、そのまま住居外へと延びる煙道へと立ち上がっている。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する隅丸方形のピットが貯蔵穴である。柱穴：12本確認される。このうちP1~4が主柱穴である。周溝：カマド部分以外全周する。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土中より土師器・須恵器の他に土鍾・滑石製紡錘車・刀子等が出土している。時期：奈良時代。



- 78号住居跡**
- 1層 暗褐色土層 焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 暗褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。2層に類似するが、焼土の含有物が少ない。粘性・しまりあり。
 - 3層 暗褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 4層 暗褐色土層 焼土粒子・白色粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 5層 暗褐色土層 焼土粒子・白色粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 6層 暗褐色粘質土層 粘質・しまりあり。
 - 7層 明褐色土層 ローム土体土層。粘性・しまりあり。
- 78号住居跡 カマド**
- 1層 暗褐色土層 焼土粒子を多量。ロームブロック・白色粒子を中量。ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性強。しまりあり。
 - 2層 赤茶褐色土層 ローム粒子を中量。焼土ブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 明褐色土層 明褐色粘質土体層。焼土を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 4層 黄茶褐色土層 ロームブロック・焼土ブロックを多量。焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性強。しまりあり。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロックを多量。焼土粒子・焼土ブロックを中量。炭化物粒子を微量に含む。粘性あり。しまり弱。焼土を多量に含む。粘性・しまり強。
 - 6層 暗赤灰色粘土層 焼土を多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 7層 赤褐色土層 焼土粒子を少量。焼土ブロックを多量に含む。粘性・しまりあり。
 - 8層 暗茶褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。



第134図 78号住居跡



第135図 78号住居跡 出土遺物

78号住居跡 出土遺物観察表(1)

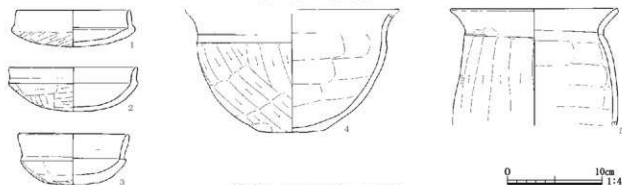
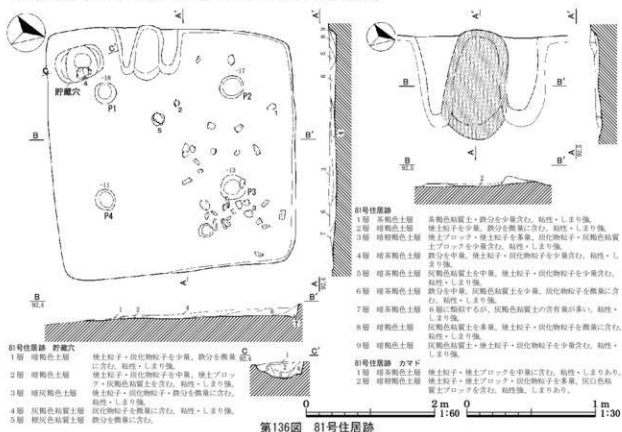
1	坏	A. 口径(12.4)。残存高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 1/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
2	坏	A. 口径(12.0)。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい黄橙色。F. 1/4。G. 内面に粘土付着。H. 貯蔵穴。
3	坏	A. 口径11.6。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径(13.2)。残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-橙色。F. 1/3。H. 貯蔵穴。
5	坏	A. 口径13.8。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 4/5。H. 覆土。
6	坏	A. 口径17.1。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外-橙色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
7	鉢	A. 口径(18.5)。器高7.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外-明赤褐色。F. 1/2。H. 貯蔵穴。
8	須恵器 坏蓋	A. 横み径4.6。残存高1.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内-灰白色。外-灰黄色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
9	須恵器 坏蓋	A. 口径(13.2)。残存高2.4。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外-灰白色。F. 1/3。G. 還元焼成。H. 覆土。
10	須恵器 坏蓋	A. 口径(15.2)。残存高2.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内-灰黄褐色。外-黒褐色。F. 1/5。G. 還元焼成。H. 不明。
11	甕	A. 口径(20.2)。残存高10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・白色粒子。E. 内外-にぶい橙色。F. 破片。H. 貯蔵穴。
12	土鏝	A. 長6.3。幅1.5。厚0.6。重13.66。B. 手握ね。C. ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子・石英。E. 褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
13	土鏝	A. 長5.8。幅2.0。厚0.9。重18.66。B. 手握ね。C. ナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 明黄褐色。F. 完形。G. 焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
14	土鏝	A. 長7.1。幅1.9。厚0.9。重20.92。B. 手握ね。C. ナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。

78号住居跡 出土土物観察表(2)

15	土鐘	A. 長7.1, 幅2.4, 厚1.1, 重23.93. B. 手握ね. C. ナデ. D. 石英・片岩・角閃石・白色粒子. E. 橙色. F. ほぼ完形. H. 覆土.
16	土鐘	A. 長7.4, 幅2.3, 厚1.1, 重25.70. B. 手握ね. C. ナデ. D. 角閃石・石英・白色粒子. E. 橙色. F. 完形. H. 覆土.
17	石製紡錘車	A. 径5.4, 厚1.8, 重83.39. D. 滑石. F. 完形. G. 裏・側面は加工痕が顕著. H. 覆土.
18	刀子	A. 長9.6, 幅1.5~0.9, 厚0.5, 重22.57. F. ほぼ完形. H. 覆土.

81号住居跡(第136・137図、図版16・39)

位置：調査区の東に位置している。95号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。南壁は削平されている。形態：方形を呈する。主軸方位：S-75°-E。規模：長軸3.93m、短軸3.80m。カマド：西壁に付設される。上層をかなり削平されており、残存状況があまり良くない。袖は白粘土を用いる。燃焼部は住居内に収まり、壁は良く焼けている。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置している。柱穴：5本確認される。このうちP1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：遺物は住居跡の北半分に偏在している。時期：古墳時代後期。

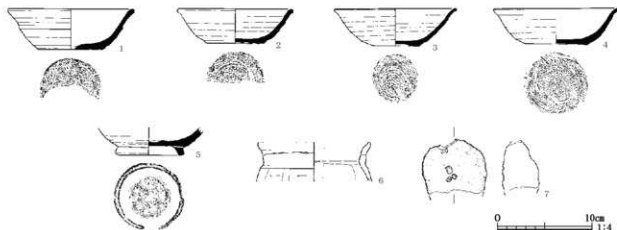


81号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.0. 器高3.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 黒色粒子. E. 内外一にぶい黄橙色. F. 1/2. G. 内外面に黒斑. H. 覆土.
2	坏	A. 口径(13.6). 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内外一橙色. F. 1/2. H. 覆土.
3	坏	A. 口径11.6. 器高5.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・赤色粒子. E. 内一明赤褐色. 外一橙色. F. 2/3. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	鉢	A. 底径7.0. 残存高12.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・白色粒子・片岩・角閃石. E. 内一にぶい黄橙色. 外一橙色. F. 1/3. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.
5	甕	A. 口径17.4. 残存高12.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・片岩・石英. E. 内外一橙色. F. 口縁部～胴部上位3/4. G. 角閃石・片岩・石英. H. 覆土.

82号住居跡(第138・140図、図版16・39)

位置：調査区の東に位置している。83号・107号・108号・109住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-65°-E。規模：長軸4.18m、短軸3.14m。カマド：東壁に付設される。袖は片袖のみわずかに残存する。燃焼部は一段掘り窪められ、住居外へと延びる煙道へと繋がる。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：遺物は住居内に散在している。南壁付近には礫が集中する。時期：平安時代。



第138図 82号住居跡 出土遺物

82号住居跡 出土遺物観察表

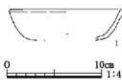
1	須恵器 坏	A. 口径13.4. 底径(7.2). 器高4.3. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 白色粒子・石英. E. 内外一橙色・灰色. F. 1/3. G. 還元焼成. H. 覆土.
2	須恵器 坏	A. 口径(12.4). 底径6.2. 器高3.7. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 片岩. E. 内外一灰色. F. 1/4. G. 還元焼成. H. 覆土.
3	須恵器 坏	A. 口径(13.0). 底径5.2. 器高4.0. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. D. 石英・片岩. E. 内外一黄灰色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土.
4	須恵器 坏	A. 口径(13.2). 底径6.6. 器高3.9. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 石英・白色粒子・角閃石. E. 内外一灰色. F. 3/4. G. 還元焼成. H. カマド.
5	須恵器 高台付碗	A. 底径(7.4). 残存高2.9. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り一高台貼付. D. 角閃石・石英. E. 内外一灰白色. F. 底部完形. G. 還元焼成. H. 覆土.
6	小形甕	A. 口径(12.0). 残存高4.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヨコケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. 破片. G. 内面にヨゴレ. H. 覆土.
7	凹石	A. 残長5.7. 幅6.9. 厚3.95. 重107.62. D. 輝石安山岩. F. 1/2. H. 覆土.

83号住居跡 出土遺物観察表

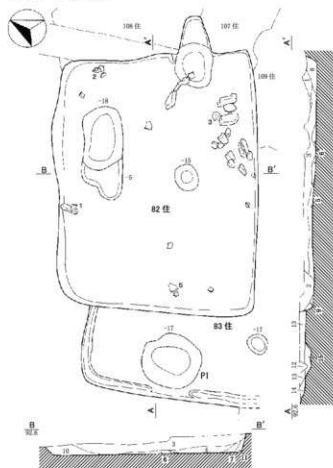
1	坏	A. 口径(12.0). 残存高3.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・片岩・赤色粒子. E. 内外一橙色. F. 破片. H. 覆土.
---	---	---

83号住居跡(第139・140図、図版16)

位置：調査区の東に位置している。82号住居跡と重複し、本遺構が古い。重複と削平により北西コーナーと西壁の一部のみの検出である。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：S-1°-W。規模：不明。柱穴：2本確認される。周溝：西壁のP1部分が切れるが、それ以外では検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片等が出土する。時期：平安時代。

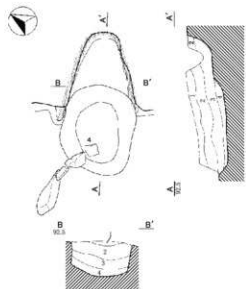


第139図 83号住居跡
出土遺物



83号住居跡 カマド

- 1層 暗赤色土層 ローム粒子・炭化物粒子・白色粘土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 黒褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を中量、ローム粒子・マンガンブロックを微量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、炭化物粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 黒褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。



82号住居跡

- 1層 暗赤褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を少量、炭分を微量に含む。粘性・しまり強。
- 3層 明赤褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性強。しまりあり。
- 4層 暗赤褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を少量、炭褐色粘質土ブロックを微量に含む。粘性・しまり強。
- 5層 明赤褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を多量、褐色粘質土を少量含む。粘性・しまり強。
- 6層 明褐色土層 褐色粘質土を主体、炭化物粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性強。しまりあり。
- 7層 暗赤褐色土層 4層に類似するが、焼土粒子の含有が少なく、ローム粒子を含む。粘性・しまり強。
- 8層 暗赤褐色土層 炭化物粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
- 9層 暗赤褐色土層 褐色粘質土を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
- 10層 明赤褐色土層 炭化物粒子を少量、ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
- 11層 明赤褐色土層 褐色粘質土ブロックを少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。

83号住居跡

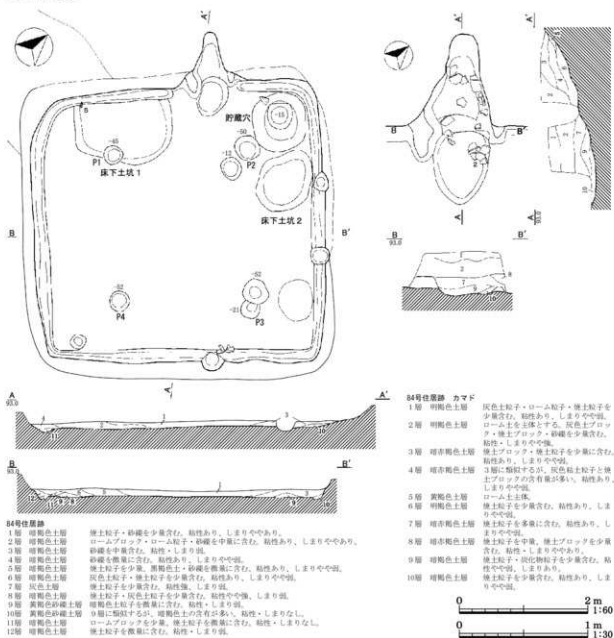
- 12層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
- 13層 赤褐色土層 炭化物粒子を少量、焼土粒子・ローム粒子を微量、炭褐色粘質土を含む。粘性・しまり強。
- 14層 赤褐色土層 炭化物粒子・炭褐色粘質土を少量、ローム粒子を微量に含む。粘性あり。しまり強。
- 15層 明赤褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を微量、褐色粘質土を微量に含む。粘性・しまり強。

第140図 82号・83号住居跡

84号住居跡(第141・142図、図版16・39)

位置：調査区の東に位置している。58号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-48°-W。規模：長軸4.61m、短軸4.32m。カマド：西壁に付設される。燃焼部は一段落ち込み、住居内に収まる。住居外に延びる煙道は緩やかに立ち上がっている。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する隅丸方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：6本確認される。このうちP1~4

が支柱穴であろう。また、2基の床下土坑も検出されている。溝溝：カマド部分以外で全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドを中心に覆土より土器等が出土している。時期：古墳時代後期。



第141図 84号住居跡

84号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 10.4. 器高 3.4. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2. H. 床下土坑。
2	甕	A. 口径 (23.0)。残存高 7.9. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコヘナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・白色粒子。E. 内一橙色。外一明赤褐色。F. 口縁部 1/3. H. カマド。
3	須恵器 甕	B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英・黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
4	土錘	A. 残長 5.2. 幅 1.7. 厚 0.9. 重 15.18. B. 手摺ね。C. ナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内一黄褐色。F. 4/5. H. 覆土。
5	土錘	A. 長 7.1. 幅 2.2. 厚 1.1. 重 22.46. B. 手摺ね。C. ナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内一黄褐色。F. 成形。G. 焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第142図 84号住居跡 出土遺物

86号住居跡(第143・146図、図版16・39)

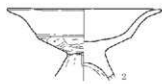
位置：調査区の南に位置している。96号・97号・118号・124号住居跡と重複し、本遺構が新しい。住居跡の南半はトレンチによって削平される。形態：方形を呈する。主軸方位： $N-53^{\circ}-E$ 。規模：長軸3.77m、推定短軸3.46m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は緩やかに落ち込み、奥壁は住居の壁立ち上がりを共にする。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴である。柱穴：P1～4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片等が出土している。時期：古墳時代。



第143図 86号住居跡 出土遺物



第144図 124号住居跡 出土遺物



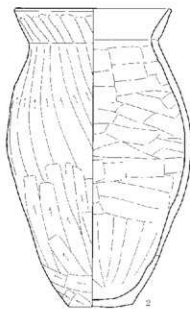
124号住居跡(第144・146図、図版20・44)

位置：調査区の南に位置している。86号・87号・118号・119号・125号住居跡と重複する。前二者より古く、後者より新しい。形態：方形を呈する。主軸方位： $N-24^{\circ}-E$ 。規模：長軸4.85m、短軸4.44m。貯蔵穴：86号住居跡と重複する箇所にある長方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：14本確認される。このうちP5～8が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。

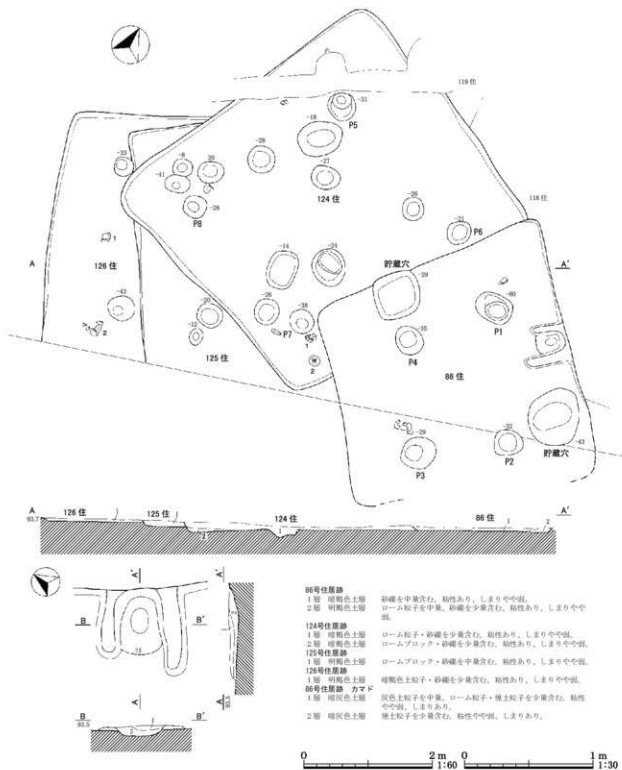


125号住居跡(第146図、図版20)

位置：調査区の南に位置している。124号住居跡・126号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。切り合いや、南のトレンチによって北西コーナーと西壁以外は消失している。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：推定 $N-28^{\circ}-W$ 。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片等が出土している。時期：古墳時代。



第145図 126号住居跡 出土遺物



第146図 86号・124号・125号・126号住居跡

126号住居跡(第145・146図、図版20・44)

位置：調査区の南に位置している。125号住居跡と重複し、本道構が古い。125号住居跡との切り合いや、南のトレンチによって北～西壁以外を消失する。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-17°-W。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片等が出土している。時期：古墳時代後期。

86号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径(13.3)。残存高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英。E. 内外一赤色。F. 破片。G. 内外面に赤彩。H. 覆土。
---	---	---

124号住居跡 出土遺物観察表

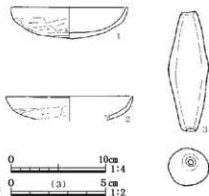
1	環	A. 口径(11.6)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ→体部ミカキ。D. 角閃石・石英。E. 内一赤褐色。外一オリーブ黒色。F. 1/3。G. 外面、黒色処理。内面に痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
2	高環	A. 口径16.3。残存高7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 坏部完形。G. 内外面に粘土付着。H. 覆土。

126号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径13.0。器高6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一にぶい褐色。F. 3/4。G. 内面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	甕	A. 口径(16.5)。底径6.7。器高30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、タテケズリ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上半ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

87号住居跡(第147・148図、図版17・39)

位置：調査区の南に位置している。119号・124号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-63°-E。規模：長軸3.69m、短軸3.45m。カマド：東壁に斜めに付設される。燃焼部から煙道に掛けて緩やかに落ち込む。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する不整形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本確認される。周溝：カマド部分以外で全周する。東壁沿いの周溝は、北東・南東コーナー手前で曲がっているため、住居壁よりも住居の内側で検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：特にカマド内より土器が集中して出土している。時期：奈良時代。



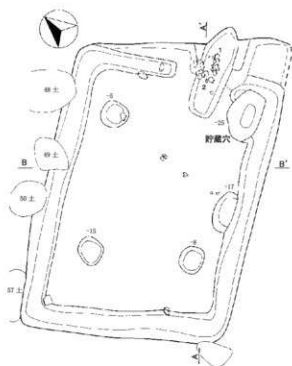
第147図 87号住居跡 出土遺物

87号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径12.4。器高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/2。H. カマド。
2	環	A. 口径(13.4)。残存高2.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/3。H. カマド。
3	土錘	A. 長6.2。幅2.1。厚1.0。重20.78。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. にぶい褐色。F. 完形。G. 焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

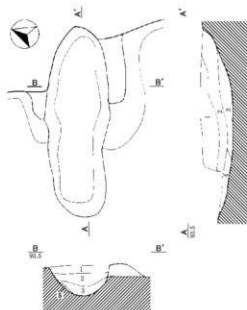
88号住居跡(第149・150図、図版17・39)

位置：調査区の南に位置している。39号・104号・127号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-27.5°-W。規模：長軸5.00m、短軸4.42m。カマド：北壁に付設される。左袖は無いが、右袖は住居壁を掘り残して袖としている。燃焼部は緩やかに落ち込み、中央には支脚の抜き取りビットがある。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：1本確認される。周溝：北壁のカマドから貯蔵穴周辺以外で検出される。西壁と北壁は住居の壁よりも内側に周溝が掘削されている。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド内及び、カマド前を中心に遺物が出土する。時期：平安時代。



87号住居跡

- 1層 暗褐色土層 粘土粒子・炭化物粒子を中量に含む。粘性やや強。しまりあり。
- 2層 明褐色土層 暗褐色土粒を少量含む。曇り状。粘性あり。しまり強。
- 3層 明褐色土層 粘土粒子を中量。炭褐色粘土ブロックを少量。粘土ブロックを微量に含む。粘性強。しまりあり。
- 4層 黄褐色土層 ロームブロック主体。粘土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 5層 明褐色土層 暗褐色土ブロック・ロームブロック主体。粘性あり。しまりやや強。



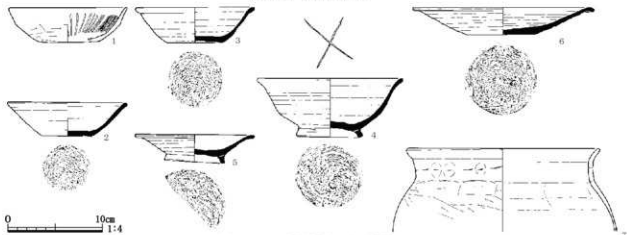
- 6層 暗褐色土層 暗褐色土主体。ローム粒子を中量。ロームブロックを少量含む。粘性・しまりやや強。
- 7層 暗褐色土層 1層に類似するが、粘土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性あり。しまりやや強。
- 8層 明褐色土層 暗褐色土主体。ローム粒子を少量に含む。粘性あり。しまりやや強。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性あり。しまりやや強。

87号住居跡 カマド

- 1層 暗赤褐色土層 ロームブロック・粘土ブロックを中量含む。粘性あり。しまり強。
- 2層 暗褐色土層 粘土粒子を中量。ローム粒子を少量。炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強。しまりあり。
- 3層 暗赤褐色土層 ローム粒子・粘土粒子を少量。炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子・粘土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。



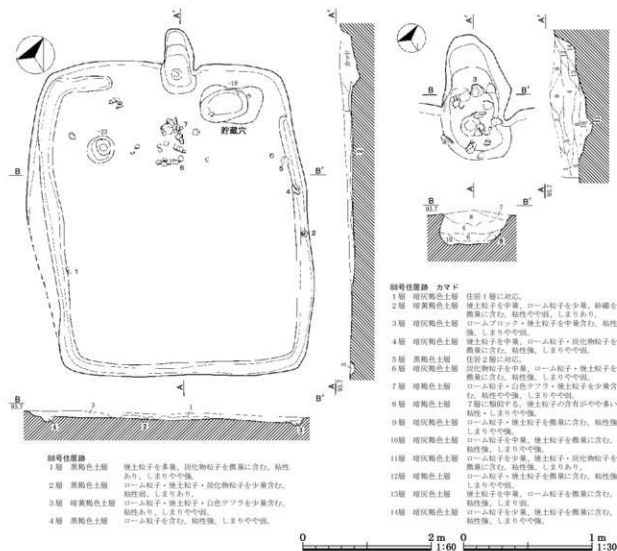
第148図 87号住居跡



第149図 88号住居跡 出土遺物

88号住居跡 出土遺物観察表 (1)

1	坏	A. 口径12.5, 器高3.6, B. 粘土組織み上浮。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ放射状ミガキ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 内外面口縁部にスス付着。H. 覆土・カマド。
2	須恵器 坏	A. 口径(12.6), 底径5.0, 器高3.5, B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英。E. 内外一灰色。F. 1/4。G. 還元焼成。H. 覆土・カマド。
3	須恵器 坏	A. 口径12.6, 底径6.0, 器高3.7, B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一灰色。F. 2/3。G. 還元焼成。H. 覆土・カマド。
4	須恵器 高台付碗	A. 口径15.6, 底径7.1, 器高6.2, B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り一高台貼付。D. 石英・角閃石。E. 内外一灰白色。F. 4/5。G. 還元焼成。見込みに線刻「1」。H. 覆土。



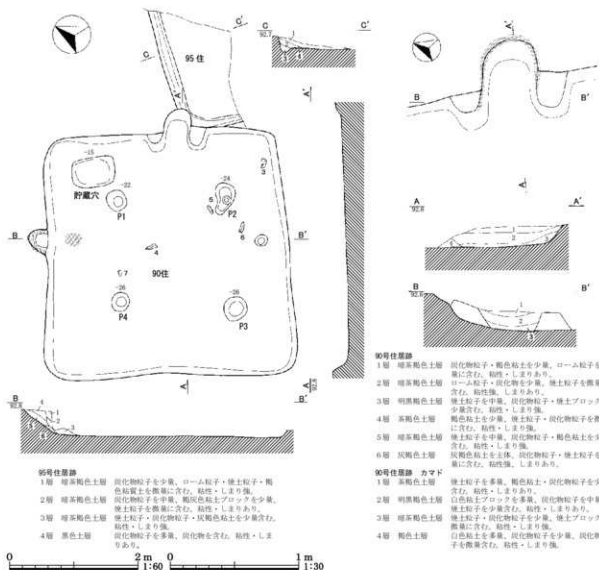
第150図 88号住居跡

88号住居跡 出土遺物観察表(2)

5	須恵器 高台付皿	A、口径12.7。底径6.4。器高3.0。B、ロクロ成形。C、内外面、回転ナデ。底部回転糸切りー高台貼付。D、石英・白色粒子。E、内外一灰色。F、完形。G、還元焼成。H、覆土。
6	須恵器 皿	A、口径19.2。底径7.3。器高2.9。B、ロクロ成形。C、内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D、石英・白色粒子。E、内外一灰色。F、ほぼ完形。G、還元焼成。H、覆土。
7	甕	A、口径20.5。残存高8.8。B、粘土組織み上げ。C、外面、口縁部ヨコナデ・コヒオサエ。胴部ヨコへナナメクスリ。内面、ヨコナデ。D、角閃石・白色粒子。E、内外一橙色。F、口縁のみほぼ完形。H、覆土。

90号住居跡(第151・152図、図版17・39・40)

位置：調査区の東に位置している。95号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-64°-E。規模：長軸3.83m、短軸3.76m。カマド：北壁と東壁に付設される。前者が旧カマド、後者が新カマドである。旧カマドの袖等は残存せず、住居外の煙道ないし、燃焼部と焚き口の被熱痕が確認される。新カマドは、白色粘土を用いた付け袖を有する。燃焼部は住居外へと延び、やや急な立ち上がり呈する。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。このうちP1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。土器とともに礫も散在する。時期：平安時代。



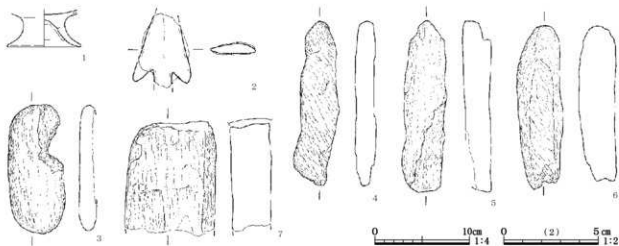
第151図 90号・95号住居跡

95号住居跡(第151図)

位置：調査区の東に位置している。81号住居跡・90号住居跡と重複し、本遺構が古い。81号住居跡に東側を破壊され、南を削平により失っている。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-45°-W。周溝：北西コーナー周辺には確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。

90号住居跡 出土遺物観察表

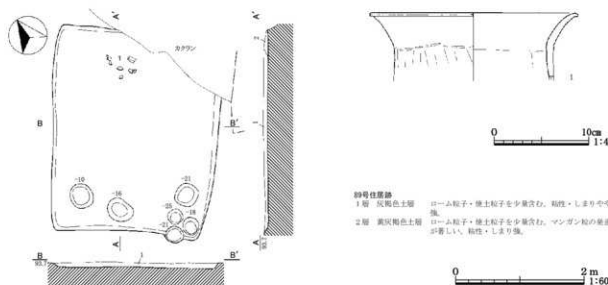
1	土付甕	A. 底径7.8, 残存高3.9, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面、ナデ, D. 赤色粒子, E. 内外一橙色, F. 脚部完形, G. 器面の荒れ著しい, H. 覆土。
2	鉄鏝	A. 残長3.9, 幅2.8, 厚0.5, 重7.12, F. 1/2, H. ビット。
3	礎	A. 長13.6, 幅6.0, 厚1.8, 重222.04, D. 結晶片岩, G. 一部に加工痕らしきものあり, H. 覆土。
4	礎	A. 長17.5, 幅4.9, 厚2.2, 重240.66, D. 結晶片岩, H. 覆土。
5	礎	A. 長18.2, 幅4.6, 厚3.1, 重372.61, D. 結晶片岩, H. 覆土。
6	礎	A. 長17.3, 幅4.9, 厚3.9, 重487.00, D. 結晶片岩, H. 覆土。
7	礎	A. 残長12.2, 幅9.7, 厚4.5, 重987.37, D. 結晶片岩, H. 覆土。



第152図 90号住居跡 出土遺物

89号住居跡(第153図、図版39)

位置：調査区の東に位置している。32号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：長方形を呈する。主軸方位：N-37° - E。規模：長軸3.18m、短軸2.59m。柱穴：6本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第153図 89号住居跡・出土遺物

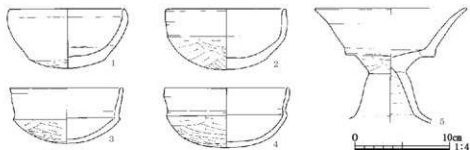
89号住居跡 出土遺物観察表

1	礎	A. 口径(22.0)、残存高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。D. 角閃石・片岩・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 外面胴部二次被熱か。H. 覆土。
---	---	---

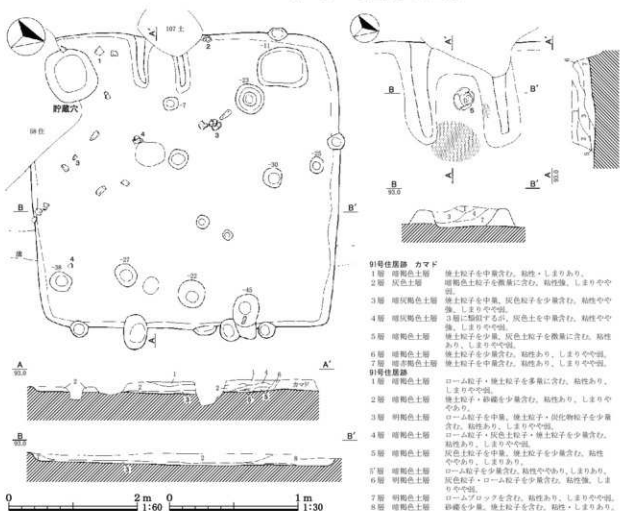
91号住居跡(第154・155図、図版17・40)

位置：調査区の東に位置している。58号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：S-79° - W。規模：長軸4.84m、短軸4.62m。カマド：西壁に付設される。煙道部分を切り合う土坑によって破壊される。燃烧部の中央から逆位の高坏出土しており、支脚に転用されたものだと考えられる。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：10本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：土器片とともに礫が住居内に散在している。

時期：古墳時代後期。



第154図 91号住居跡 出土遺物



- 91号住居跡 カマド
- 1層 暗褐色土層 焼土粒子を中量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 灰色土層 暗褐色土粒子を微量に含む。粘性強。しまりやや弱。
 - 3層 暗灰褐色土層 焼土粒子を中量、灰色粒子を少量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
 - 4層 暗灰褐色土層 3層に類似するが、灰色土を中量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
 - 5層 暗褐色土層 焼土粒子を少量、灰色土粒子を微量に含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 6層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 7層 暗赤褐色土層 焼土粒子を中量含む。粘性あり。しまりやや弱。
- 91号住居跡
- 1層 暗褐色土層 コーム粒子・焼土粒子を多量に含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 2層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 3層 明褐色土層 コーム粒子を中量、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 4層 暗褐色土層 コーム粒子・灰色土粒子・焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 5層 暗褐色土層 灰色土粒子を中量、焼土粒子を少量含む。粘性ややあり。しまりやや弱。
 - 6層 暗褐色土層 コーム粒子を少量含む。粘性ややあり。しまりやや弱。
 - 7層 明褐色土層 灰色土粒子・ローム粒子を少量含む。粘性強。しまりやや弱。
 - 8層 明褐色土層 コームブロックを含む。粘性あり。しまりやや弱。
 - 9層 暗褐色土層 砂礫を少量、焼土粒子を含む。粘性・しまりあり。

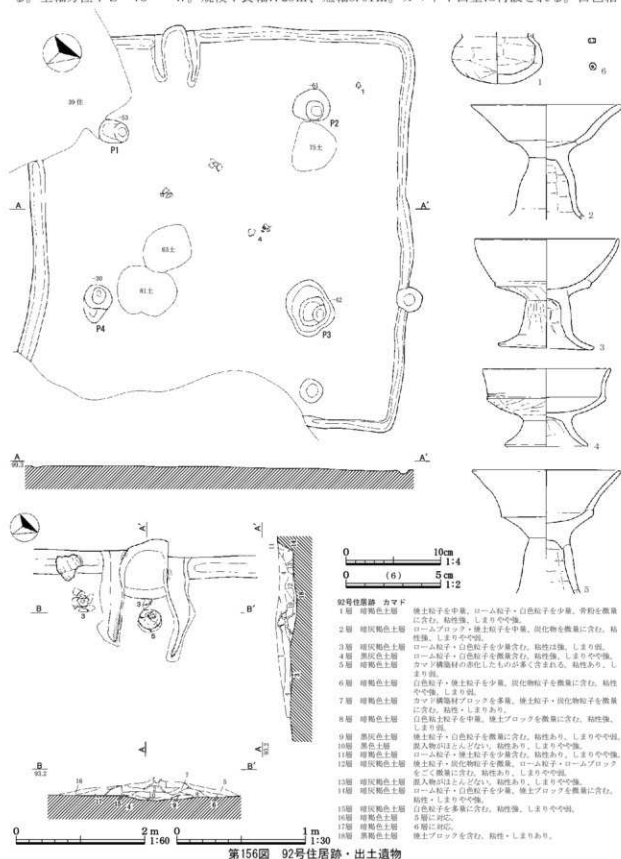
第155図 91号住居跡

91号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径 12.2. 器高 6.3. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部二次被熱。内面口縁部帯状にヨゴレ。H. 覆土。
2	坏	A. 口径 12.8. 器高 6.4. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒底あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径 (12.1)。器高 6.0. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
4	坏	A. 口径 (13.3)。器高 6.3. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
5	高坏	A. 口径 16.1. 残存高 12.2. B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ。D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。H. カマド。

92号住居跡(第156図、図版17・40)

位置：調査区の南に位置している。39号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：方形を呈する。主軸方位：S-73°-W。規模：長軸7.28m、短軸6.01m。カマド：西壁に付設される。白色粘



土を袖の構築材に用いる。この粘土がカマド前の床面直上から多量に検出されている。住居の廃絶後間もなくカマドが破壊されたと推測される。燃焼部からは、支脚として逆位の高坏に更に逆位の坏を重ねた状態で出土している。柱穴：5本確認される。このうちP1～4が支柱穴であろう。周溝：全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺及び、住居の中心付近から出土している。また、カマド前よりガラス小玉が出土した。時期：古墳時代後期。

92号住居跡 出土遺物観察表

1	埴	A. 残存高5.5, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、ヨコナデ・ユビオサエ。D. 角閃石・石英・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 2/3, H. 覆土。
2	高坏	A. 口径16.0, 残存高12.0, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ。D. 角閃石・白色粒子・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4, G. 外面脚部に粘土付着。H. カマド。
3	高坏	A. 口径15.3, 底径10.1, 器高11.7, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ。脚部上半タテケズリ・タテナデ。下半ヨコナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ。下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一に薄い橙色。F. 4/5, G. 坏部内面帯状にスス付着。H. カマド。
4	高坏	A. 口径(13.5), 底径(8.8), 器高8.2, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4, H. 覆土。
5	高坏	A. 口径15.7, 残存高13.1, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 3/4, H. カマド。
6	ガラス小玉	A. 径0.35, 厚0.3, 重0.07, D. ガラス。E. 淡緑色。F. 完形。H. 床面直上。

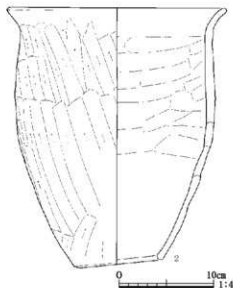
94号住居跡(第158・159図、図版17・40)

位置：調査区のほぼ中央に位置している。128号住居跡・129号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。南半分は削平により消滅している。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：S-32° - W。規模：長軸4.79m、短軸4.30m以上。カマド：西壁に付設される。カマドに向かって左側の袖の残存状況が不良であった。燃焼部は住居内に収まり、一段落ち込む。向かって右袖の脇からは甗が、燃焼部覆土からは長胴甕が出土している。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺と住居の北東隅付近に集中している。時期：古墳時代後期。

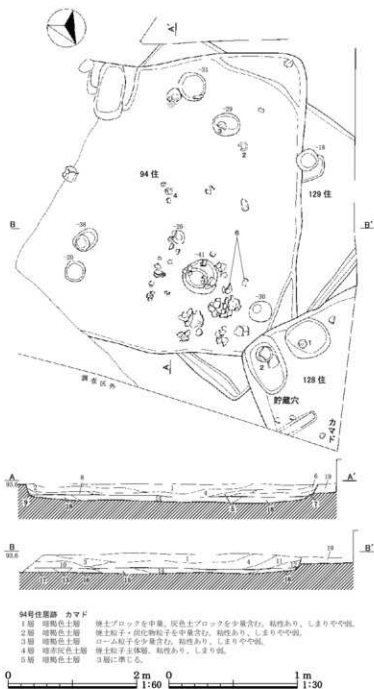


128号住居跡(第157・158図、図版17・44)

位置：調査区のほぼ中央・拡張部に位置している。94号住居跡・129号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：S-82° - E。カマド：東壁に付設される。片袖のみが調査区内に確認され、全容は不明。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置している楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：1本確認される。埋没状況：埋没状況の記録が残っていないため、不明である。遺物：貯蔵穴・ピットから土師器や須恵器が出土している。時期：古墳時代後期。

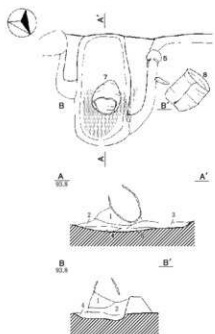


第157図 128号住居跡 出土遺物



94号住跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 焼土ブロックを中層、灰色土ブロックを少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子・灰化物粒子を中層含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 4層 暗褐色土層 焼土粒子を中層。粘性あり、しまり強い。
- 5層 暗褐色土層 3層に準じる。



94号住跡跡

- 1層 暗褐色土層 焼土粒子を中層、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 焼土粒子を中層、ローム粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子を中層含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒子・灰色焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 6層 暗褐色土層 焼土粒子を中層、ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 7層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中層含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 8層 暗褐色土層 ローム粒子を中層、焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 9層 暗褐色土層 灰化物粒子を中層、ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 10層 暗褐色土層 ローム粒子を中層、焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 11層 暗褐色土層 ローム粒子を中層、焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 12層 暗褐色土層 ローム粒子を中層、ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 13層 暗褐色土層 焼土粒子を中層、ローム粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
- 14層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 15層 暗褐色土層 ローム粒子を中層含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 16層 暗褐色土層 ローム粒子・灰色焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 17層 暗褐色土層 焼土粒子を中層、ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強い。
- 18層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中層含む。粘性あり、しまりやや強い。

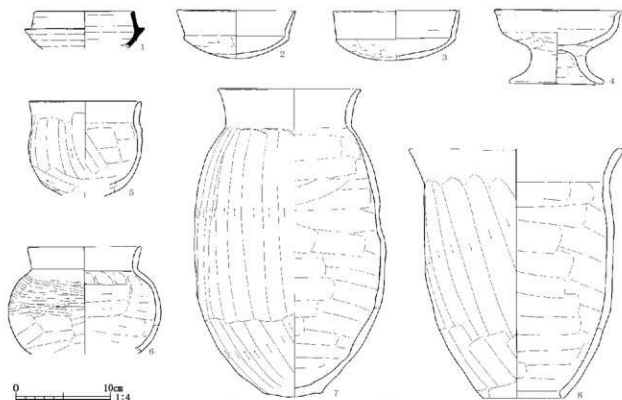
129号住跡跡

19層 土層(記載なし)

第158図 94号・128号・129号住跡跡

94号住跡 出土遺物観察表(1)

No.	遺物	観察内容
1	須恵器 坏身	A. 口径10.0。残存高4.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰白色。F. 破片。G. 還元焼成。H. カマド。
2	坏	A. 口径12.5。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一褐色。F. 4/5。G. 内外面器面荒れる。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(13.4)。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体面ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一褐色。F. 1/3。H. 覆土。
4	高坏	A. 口径(13.4)。底径10.0。器高7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。脚部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 2/3。H. 覆土。
5	小形甕	A. 口径11.8。残存高10.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タデナデケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/2。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
6	小形甕	A. 口径(12.0)。残存高11.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ一上位ヨコミガキ。D. 角閃石・石英。E. 内一黒色。外一明赤褐色。F. 1/3。G. 内面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第159図 94号住居跡 出土遺物

94号住居跡 出土遺物観察表(2)

7	甕	A. 口径15.2, 底径6.2, 器高32.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ・ナデ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一明黄褐色, F. 4/5, G. 外面胴部下位二次被熱, H. カマド。
8	大形甕	A. 口径22.6, 底径8.4, 器高26.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ下位タテナデ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・白色粒子・角閃石, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 完形, H. 覆土。

128号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 無蓋高坏	A. 口径13.8, 残存高5.5, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 外面、体部柳指波状文, 内面、仕上げナデあり, D. 白色粒子・石英, E. 内外一灰色, F. 坏部完形, G. 還元焙焼成, 脚部4孔透かし, 藤岡産, H. 覆土。
2	大形甕	A. 口径(23.2), 底径9.3, 器高27.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一にぶい褐色, F. ほぼ完形, G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり, H. 覆土・貯蔵穴。

129号住居跡(第158図、図版17)

位置：調査区のはぼ中央・拡張部に位置している。94号住居跡・128号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-70°-E。規模：長軸4.45m。周溝：北壁と東壁の一部で確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

96号住居跡(第160・161図、図版40)

位置：調査区の南に位置している。壁等は削平され、ピットのみの検出となる。53号住居跡・86号住居跡・97号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態・規模：不明。主軸方位：S-4°-E。カマド：南壁に付設されていたであろう。痕跡が窺える程度で詳細は不明。貯蔵穴：P5

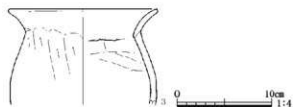
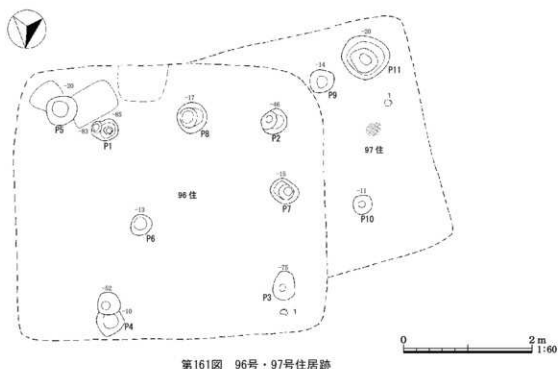


第160図 96号住居跡 出土遺物

が貯蔵穴の可能性ある。柱穴：6本確認される。このうちP1～4が主柱穴であろう。埋没状況：不明。遺物：確認面に遺物が露出していた。時期：古墳時代後期。

97号住居跡(第161・162図、図版41)

位置：調査区の南に位置している。壁等は削平され、ピット・貯蔵穴のみの検出となる。53号・86号・96号住居跡と重複し、新旧関係は不明。形態・規模：不明。主軸方位：S-71°-W。カマド：西壁周辺に焼土が検出されており、ここに付設されていたと推測される。貯蔵穴：南西コーナーに位置する円形のP11が貯蔵穴であろう。柱穴：96住と重複しているがP8～10が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：確認面に遺物が露出していた。時期：古墳時代後期。



第162図 97号住居跡 出土遺物

96号住居跡 出土遺物観察表

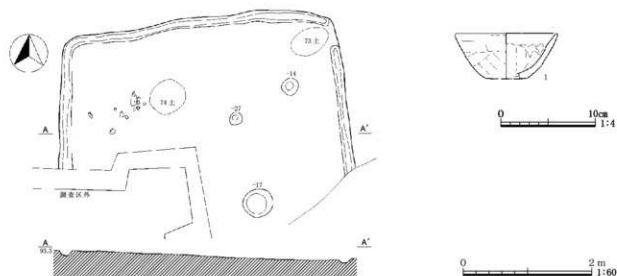
1	坏	A. 口径(12.5)。器高5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/2。H. 覆土。
---	---	---

97号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.6。器高4.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 赤色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ方形。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(12.7)。器高5.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 不明。
3	甕	A. 口径(15.9)。残存高10.2。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ケテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一に深い褐色。外一褐色。F. 口縁部1/4。G. 外面二次被熱。H. 不明。

98号住居跡(第163図、図版40)

位置：調査区の南に位置している。南西は調査区外、南東は削平を受け、北半分のみは検出となる。また、壁周溝とピットが残存し、確認面で床が露出している。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-2°-W。規模：長軸4.56m。柱穴：3本確認される。周溝：北東コーナー部分以外は検出範囲すべてで確認された。埋没状況：不明。遺物：確認面に遺物が露出していた。時期：平安時代。



第163図 98号住居跡・出土遺物

98号住居跡 出土遺物観察表

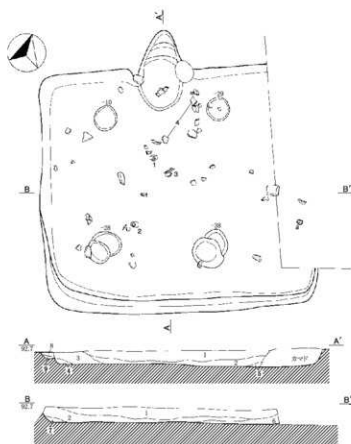
1	坏	A. 口径(10.9)。底径(4.5)。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部タテナデ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ→体部タテナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内-にぶい褐色。外-にぶい黄褐色。F. 1/4。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
---	---	---

99号住居跡(第164・165図、図版18・43)

位置：調査区の東に位置している。103号・105号住居跡と重複し、本遺構が新しい。北東コーナーから東壁をトレンチによって破壊される。南壁部分には段が観察され、これは拡張の可能性がある。形態：方形を呈する。主軸方位：N-18°-W。規模：長軸4.26m、短軸3.98m。カマド：北壁に付設される。カマドに向かって右の袖部分は攪乱に破壊される。残存する袖には構築材であろう礎が確認される。燃焼部は一段落ち込み、煙道に向けて立ち上がっている。柱穴：4本の支柱穴を確認した。埋没状況：覆土中に焼土・炭化物を多量に含むことから、焼失住居だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：平安時代。

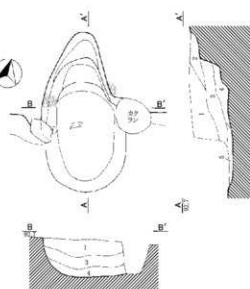
99号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(13.4)。底径6.2。器高3.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英。E. 内外-灰白色。F. 1/2。G. 還元焼成。H. 覆土。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径13.6。底径7.5。器高6.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 石英・白色粒子・片岩。E. 内外-灰色。F. 1/4。G. 還元焼成。H. 覆土。
3	甕	A. 口径(19.6)。残存高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外-褐色。F. 破片。H. 覆土。
4	須恵器 甕	A. 口径(23.1)。残存高12.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外-灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
5	不明鉄製品	A. 残長10.4。幅1.6。厚0.45。重41.65。F. 破片。H. 覆土。
6	凹石	A. 長7.6。幅6.4。厚3.45。重135.02。D. 輝石安山岩。F. ほぼ完形。H. カマド前。



99号住居跡 カマド

- 1層 増反褐色土層 焼土ブロック・焼土粒子を少量含む。粘性・あり、しまりややぬ。
 2層 増反褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりややぬ。
 3層 増反褐色土層 焼土ブロック・炭化物を中量。炭化材を少量含む。粘性ややぬ、しまりあり。
 4層 黒褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性ややぬ、しまりあり。
 5層 黒褐色土層 4層に類似するが、焼土粒子を多量に含む。しまりややぬ。

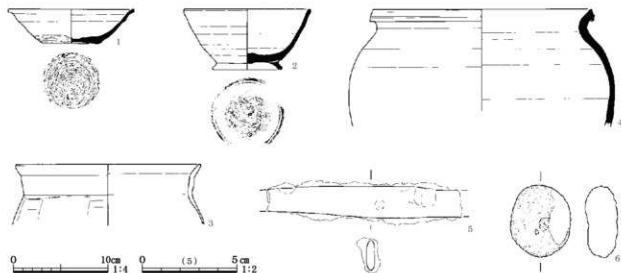


99号住居跡

- 1層 黒褐色土層 マンガン粒子を多量。焼土粒子・炭化物粒子を少量。ロームブロックを少量含む。
 2層 黒褐色土層 1層に類似する。焼土粒子・炭化物粒子を多量に含む。
 3層 増褐色土層 マンガン粒子を多量。ロームブロック・焼土を少量含む。粘性・しまりややぬ。
 4層 増褐色土層 マンガン粒子を多量。ロームブロックを中量に含む。粘性・しまりあり。
 5層 増褐色土層 焼土ブロック・黄褐色シルトブロックを少量含む。粘性あり、しまりややぬ。
 6層 増褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性弱。しまりややぬ。
 7層 増褐色土層 マンガン粒子・ローム粒子を少量含む。粘性弱。しまりややぬ。
 8層 黒褐色土層 増褐色土層体積・マンガン粒子を多量に含む。粘性弱。しまり強。
 9層 増黄褐色土層 増褐色土層体積。ローム粒子を少量含む。粘性弱。しまり強。



第164図 99号住居跡

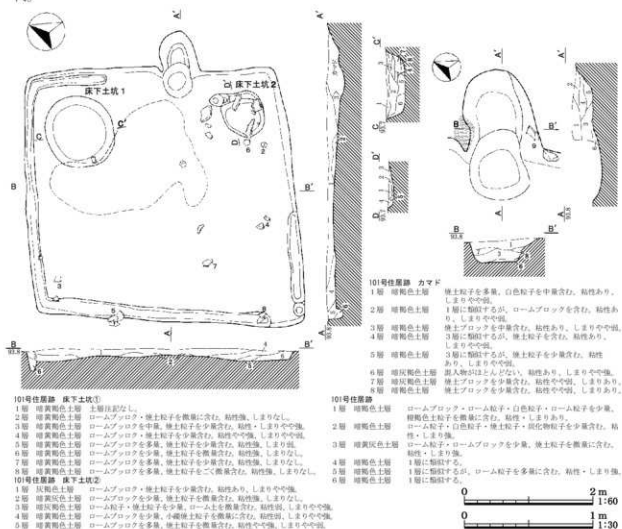


第165図 99号住居跡 出土遺物

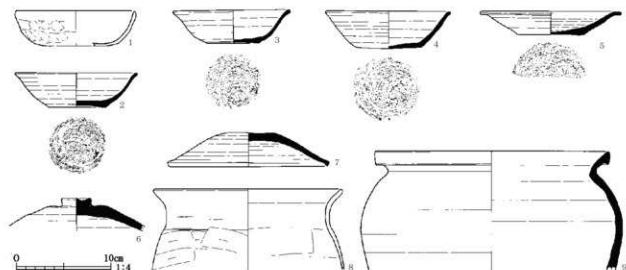
101号住居跡(第166・167図、図版18・40)

位置：調査区の中央よりやや南に位置している。106号・114号・116号住居跡等と重複し、本遺構が最も新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-71°-E。規模：長軸4.26m、短軸4.03m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は一段落ち込み、住居外へと緩やかに立ち上がる。周溝：カマド周辺

から南東コーナーにかけて、南西コーナー以外では確認される。床面：カマド前から北壁中央に向かって、ローム土を充填した高まりが床上に構築される。床面下からは、土坑が2基確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：土師器・須恵器・礫が住居内に散在している。時期：平安時代。



第166図 101号住居跡

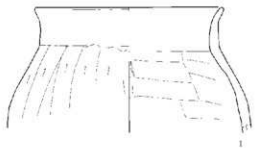


101号住居跡 出土遺物観察表

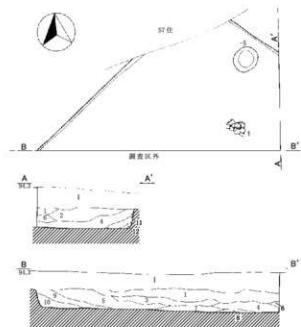
1	坏	A. 口径(12.4). 器高3.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ. 体部ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 雲母. E. 内外一橙色. F. 1/5. H. 床下土坑.
2	須恵器 坏	A. 口径(13.0). 底径6.2. 器高3.6. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内外一暗灰黄色. F. 1/3. G. 還元焼成. H. 貯蔵穴.
3	須恵器 坏	A. 口径(12.4). 底径5.7. 器高3.4. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 片岩・角閃石・白色粒子. E. 内外一黄灰色. F. 1/3. G. 還元焼成. H. 覆土.
4	須恵器 坏	A. 口径(13.2). 底径7.0. 器高4.0. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 石英・白色粒子・角閃石. E. 内外一灰黄色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土.
5	須恵器 皿	A. 口径(14.9). 底径(6.9). 器高2.4. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転糸切り. D. 白色粒子・石英. E. 内外一灰黄色. F. 1/3. G. 還元焼成. H. 覆土.
6	須恵器 坏蓋	A. 幅口径3.1. 残存高3.4. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一灰黄色. F. 1/3. G. 還元焼成. H. 貯蔵穴.
7	須恵器 坏蓋	A. 口径(17.6). 器高3.6. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 天井部静止ヘラ切りナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一にぶい黄色. 外一明褐色. F. 1/2. G. 酸化焼成. H. 覆土.
8	甕	A. 口径(20.0). 残存高8.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部上位ヨコズブリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一明褐色. F. 破片. G. 内面胴部にヨゴレ. H. 覆土.
9	須恵器 甕	A. 口径(24.8). 残存高12.8. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. D. 石英・白色粒子・角閃石. E. 内外一灰黄色. F. 破片. G. 還元焼成だが、焼成不良. H. カマド.

102号住居跡(第168・169図)

位置：調査区の南に位置し、大部分は調査区外となっている。57号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態・規模：不明。主軸方位：N-50°-E。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第168図 102号住居跡 出土遺物



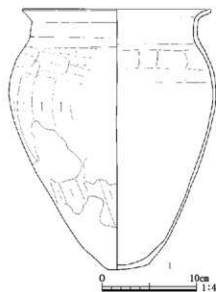
第169図 102号住居跡

102号住居跡 出土遺物観察表

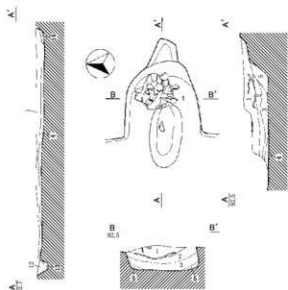
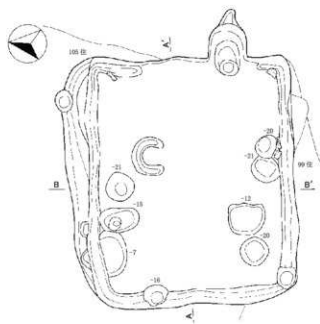
1	甕	A. 口径(20.0). 残存高13.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 破片. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
---	---	--

103号住居跡(第170・171図、図版18・40)

位置：調査区の南東に位置している。99号・105号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-81°-E。規模：長軸3.85m、短軸3.54m。カマド：東壁に付設される。袖はなく、燃焼部及び煙道は住居外へと延びる。柱穴：9本確認される。周溝：カマド周辺以外全周している。北壁の一部で二重に検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド内より甕の破片が出土している。時期：平安時代。



第170図 103号住居跡 出土遺物



103号住居跡 カマド

- 1層 暗赤褐色土層 焼土粒子を少量、砂礫を微量に含む。粘性・しまりや中弱。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを中量含む。粘性あり。しまりや中弱。炭化物粒子・焼土粒子を少量含む。粘性や中弱。しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 炭化物粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性や中弱。しまりあり。
- 4層 暗褐色土層 焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりや中弱。
- 5層 暗灰色土層 焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりや中弱。

103号住居跡

- 1層 暗灰色土層 砂礫を中量含む。粘性強。しまりや中弱。
- 2層 暗灰色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性強。しまり弱。2層に類似する。ローム粒子・焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 3層 暗灰色土層 ロームブロック・ローム粒子を中量、焼土粒子を微量に含む。粘性強。しまりあり。
- 4層 暗灰色土層 ロームブロックを多量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりや中弱。
- 5層 暗灰色土層 ローム粒子を少量含む。粘性や中強。しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量、焼土ブロックを微量に含む。粘性や中強。しまりや中弱。
- 7層 暗褐色土層 炭化物粒子を少量含む。粘性強。しまりや中弱。
- 8層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性や中強。しまりや中弱。
- 9層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性や中強。しまりや中弱。
- 10層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性や中強。しまりや中弱。
- 11層 暗褐色土層 10層に類似するが、ロームブロックを中量含む。粘性や中強。しまりや中弱。
- 12層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性や中弱。しまりあり。
- 13層 暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性・しまりや中弱。
- 14層 暗褐色土層 ロームブロック・砂礫を少量含む。粘性や中強。しまりや中弱。
- 15層 暗褐色土層 ロームブロック・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。

0 2m 0 1m 1:60 1:30

第171図 103号住居跡

103号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A、口径19.9、底径(3.4)。器高27.6。B、粘土紐積み上げ。C、外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D、角閃石・白色粒子。E、内外一橙色。F、1/4。G、内外面に焼成時の黒斑あり。外面胴部下位二次被熱・粘土付着。H、カマド。
---	---	---

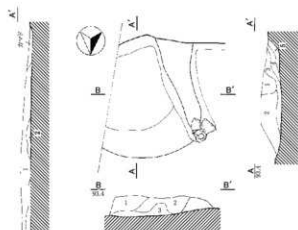
104号住居跡(第172・173・174図、図版18・41・42)

位置：調査区の南に位置している。88号・127号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。39号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：方形を呈する。主軸方位：S-9°-E。規模：長軸3.75m、短軸3.68m。カマド：南壁の東寄りに付設され、片軸は調査区外となる。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する長方形のピットが貯蔵穴である。柱穴：5本確認され、P1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：貯蔵穴やカマド以外からも多量の土器が出土した。時期：古墳時代後期。



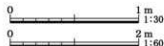
104号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量含む。粘性あり、しまりやや強。
- 4層 暗褐色土層 褐色土ブロックを少量含む。粘性あり、しまりやや強。



104号住居跡 カマド

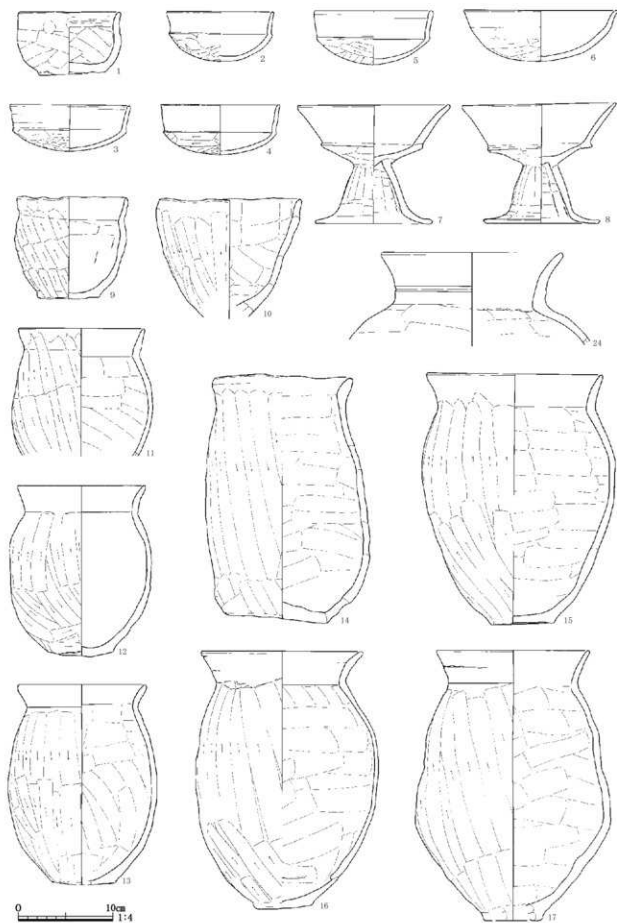
- 1層 暗赤褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子を少量、ロームブロックを微量を含む。粘性あり、しまりやや強。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量、ロームブロックを微量を含む。粘性あり、しまりやや強。
- 4層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
- 5層 暗褐色土層 ロームブロックを少量、粘性・しまりあり。



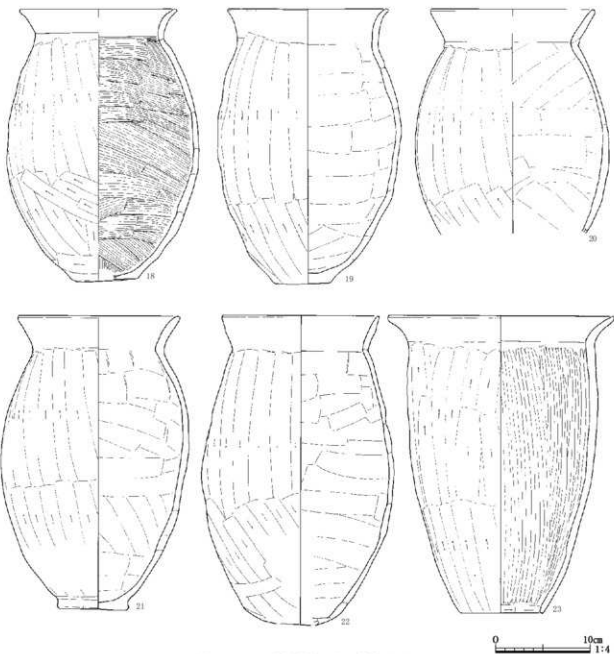
104号住居跡 出土遺物観察表(1)

第172図 104号住居跡

1	鉢	A. 口径10.7. 底径7.0. 器高6.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内一灰黄褐色。外一にぶい。褐色。F. 4/5. G. 外面二次被熱。内面口縁部~頸部にコゲ? 底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	環	A. 口径11.4. 器高5.2. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内一褐色。外一にぶい。褐色。F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。内面体部に黒色付着物あり。H. 覆土。
3	環	A. 口径(13.0)。器高4.9. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 1/2. G. 覆土。H.
4	環	A. 口径(12.6)。器高5.3. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/2. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	環	A. 口径12.6. 器高5.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	環	A. 口径16.3. 器高5.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一褐色。F. 完形。H. 貯蔵穴。
7	高環	A. 口径16.2. 底径12.3. 器高12.6. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、環部ヨコナデ。胴部上半タテナデ・下半ヨコナデ。内面、環部ヨコナデ。胴部上半ヨコナデ・下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	高環	A. 口径16.4. 底径12.2. 器高12.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、環部ヨコナデ。胴部上半タテナデ・下半ヨコナデ。内面、環部ヨコナデ。胴部上半ヨコナデ・下半ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 4/5. H. 覆土。
9	小形甕	A. 口径(11.7)。底径6.7. 器高10.8. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい。黄褐色。F. 1/4. G. 外面二次被熱。H. 覆土。



第173图 104号住居跡 出土遺物(1)



第174図 104号住居跡 出土遺物(2)

104号住居跡 出土遺物観察表(2)

10	小形鉢(瓶小)	A. 口径15.1, 残存高12.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・石英・片岩, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 1/2, H. 覆土。
11	小形甕	A. 口径13.3, 残存高13.4, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内一にぶい黄褐色, 外一褐色, F. 口縁部→胴部上半4/5, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
12	小形甕	A. 口径13.6, 底径6.9, 器高18.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ, 内面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一にぶい褐色, F. ほぼ完形, G. 外面胴部に焼成時の黒斑, 内面胴部下半→底部にヨゴレ, H. 覆土。
13	小形甕	A. 口径13.7, 底径(6.5), 器高21.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテナデ→上位・下位ヨコナデ, D. 石英・角閃石, E. 内一にぶい褐色, 外一褐色, F. 3/4, G. 外面胴部二次被熱, H. 覆土。
14	甕	A. 口径14.5, 底径10.5, 器高26.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→下位ナデ, 底部ナデ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・角閃石・片岩, E. 内外一浅黄褐色, F. 4/5, G. 外面に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
15	甕	A. 口径18.6, 底径6.6, 器高26.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一明赤褐色, F. 3/4, G. 胴部下半に二次被熱, H. 覆土。

104号住居跡 出土遺物観察表(3)

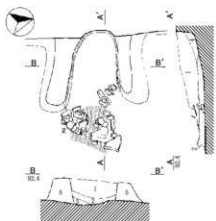
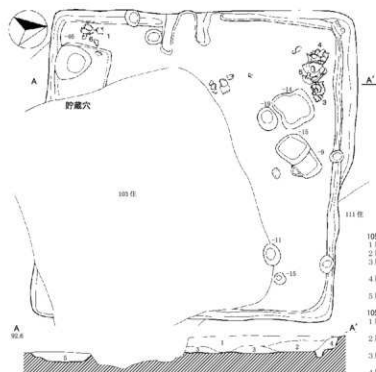
16	甕	A. 口径17.1。底径6.2。器高27.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下二二次被熱。内面胴部下位に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
17	甕	A. 口径(16.1)。底径(6.0)。器高28.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/4。G. 外面胴部下二二次被熱。内面胴部下半ヨゴレ。H. 覆土。
18	甕	A. 口径16.5。底径6.5。器高28.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 4/5。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
19	甕	A. 口径17.1。底径6.1。器高29.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑・粘土付着。H. 貯蔵穴。
20	甕	A. 口径17.4。残存高23.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ナメナデ→ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部中位 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。内面胴部下位にヨゴレ。H. 覆土。
21	甕	A. 口径17.1。底径7.5。器高31.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 外面胴部下二二次被熱。H. 覆土。
22	甕	A. 口径16.6。残存高32.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一明黄褐色。外一褐色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
23	大形瓶	A. 口径23.9。底径8.7。器高31.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→タテミガキ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
24	壺	A. 口径19.3。残存高9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・黒色粒子・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 口縁部ほぼ完形。H. 貯蔵穴。

105号住居跡(第175図、図版18・42・43)

位置：調査区の東に位置している。99号・103号・111号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-81°-W。規模：長軸3.85m、短軸3.54m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する方形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：6本確認される。周溝：カマド周辺と南東コーナー以外で検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド内と北西コーナー付近に遺物が集中している。時期：古墳時代後期。

105号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.6)。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 褐色粒子・角閃石。E. 内一褐色。外一にぶい褐色。F. 1/3。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径(15.6)。底径7.2。器高17.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 外面胴部下二二次被熱。内面底部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
3	甕	A. 口径(18.4)。残存高22.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子・石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部上半2/3。G. 外面胴部中位にスス付着。H. 覆土。
4	甕	A. 口径(18.8)。底径6.4。器高27.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・石英・白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色・灰黄褐色。F. 3/4。G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	大形瓶	A. 口径25.0。底径(9.5)。器高27.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位ヨコミガキ→タテミガキ。D. 片岩・角閃石・石英・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 外面胴部下二二次被熱。H. 覆土。
6	大形瓶	A. 口径(25.1)。底径(8.0)。器高25.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ→胴部タテミガキ→一部ナメミガキ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一褐色・にぶい黄褐色。F. 1/4。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

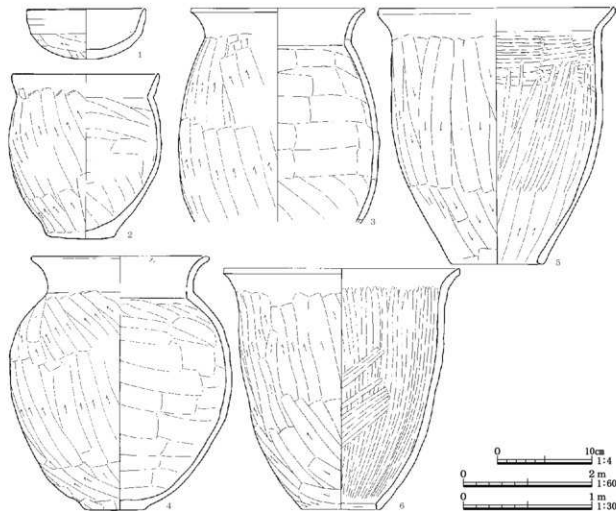


105号住居跡

- 1層 暗褐色土層 砂礫を少量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
- 2層 暗褐色土層 砂礫・焼土粒子を少量含む。粘性やや強。しまりやや弱。
- 3層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子中量。砂礫を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
- 4層 暗褐色土層 ロームブロック・砂礫を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。
- 5層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや弱。

105号住居跡 カマド

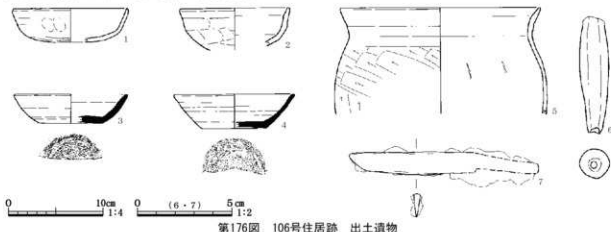
- 1層 赤褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・砂礫を少量。炭化物粒子を微量に含む。粘性やや弱。しまり強。
- 2層 暗灰褐色土層 灰褐色土粒子を中量。焼土粒子・砂礫を少量。炭化物粒子を微量に含む。粘性やや強。しまりあり。
- 3層 暗赤褐色土層 焼土主体層。炭化物粒子・灰褐色土粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
- 4層 暗赤褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子・灰褐色土粒子を微量含む。粘性やや弱。しまりあり。
- 5層 暗黄褐色土層 ローム主体層。砂礫を中量含む。粘性やや弱。しまり強。



第175図 105号住居跡・出土遺物

106号住居跡(第176・177図、図版19・43)

位置：調査区の南に位置している。101号・114号・116号・117号・122号・123号住居跡と重複する。101号住居跡より古く、他の住居後より新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-69°-E。規模：長軸3.74m、短軸3.10m以上。カマド：東壁に付設される。燃焼部は一段落ち込み、住居外へと延びて煙道へと立ち上がる。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺に集中する以外は、住居内に散在している。時期：平安時代。



第176図 106号住居跡 出土遺物

106号住居跡 出土遺物観察表

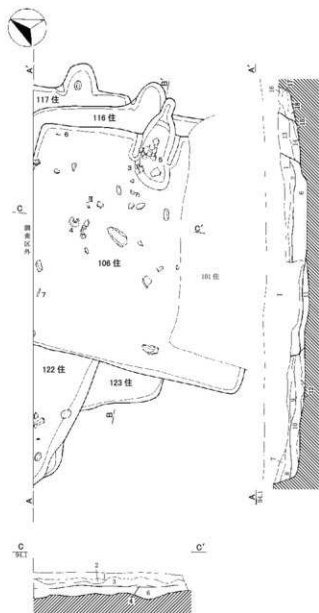
1	環	A. 口径(12.2)。残存高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい黄橙色。F. 1/3。H. カマド。
2	環	A. 口径(11.6)。残存高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. カマド。
3	須恵器 環	A. 口径(12.0)。底径(7.0)。器高3.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・黒色粒子。E. 内外一灰白色。F. 1/3。G. 還元焼成。H. 覆土。
4	須恵器 環	A. 口径(12.8)。底径(6.8)。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・黒色粒子・石英。E. 内外一灰黄色。F. 1/2。G. 還元焼成。外面口縁部に黒斑あり。H. 覆土。
5	甕	A. 口径(21.2)。残存高11.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ・上位ナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部破片。G. 外面胴部にスス付着。H. カマド。
6	土鏝	A. 残長6.1。幅1.5。厚0.6。重13.24。B. 手摺ね。C. ナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. にぶい黄橙色。F. 4/5。G. 焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	刀子	A. 長10.1。幅1.2。厚0.4。重18.60。F. ほぼ完形。H. 覆土。

116号住居跡(第177・178図、図版19)

位置：調査区の南に位置し、北壁に接している。101号住居跡・106号住居跡・117号住居跡と重複する。117号住居跡より新しく、他の住居跡よりも古い。形態・規模：不明。主軸方位：N-68°-E。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖である。燃焼部は住居外で立ち上がる。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。

117号住居跡(第177・178・179図、図版19・43)

位置：調査区の南に位置し、北壁に接している。101号住居跡・106号住居跡・116号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態・規模：不明。主軸方位：N-70°-E。カマド：東壁に付設される。袖は住居壁に粘土を貼付したものである。燃焼部の中央ピットは支脚の抜き取り痕であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。



106号住居跡 カマド

- 1層 埴粉色土層 埴土粒子・埴土ブロックを中量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 2層 埴粉色紅土層 ロームブロックを少量。埴土粒子・埴土ブロック・赤色粒子を微量含む。粘性・しまり強。
- 3層 埴粉色紅土層 2層に似るが、埴粉色土・炭化物粒子の混入が認められる。粘性・しまりやや強。
- 4層 埴粉色土層 1層に類似するが、色調が暗く、白色粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 5層 埴粉色土層 埴土粒子・埴土ブロックを中量含む。粘性・しまりやや強。
- 6層 埴粉色土層 ローム粒子を少量。炭化物粒子・埴土粒子を微量含む。粘性弱。しまりなし。
- 7層 埴粉色土層 埴土ブロックを中量含む。粘性弱。しまりなし。
- 8層 埴粉色土層 埴赤褐色土粒子・炭化物粒子をごく微量含む。粘性弱。しまりなし。
- 9層 埴灰色土層 3層に類似する。
- 10層 埴粉色紅土層 埴粉色土を含む。粘性あり。しまりやや強。
- 11層 埴灰色土層 埴土粒子を微量含む。粘性・しまりやや強。



106号住居跡

- 1層 埴粉色土層 ローム粒子・埴土粒子・埴土ブロック・白色粒子を中量含む。粘性弱。しまりやや強。
- 2層 埴粉色土層 1層に類似するが、含有物が少ない。粘性あり。しまりやや強。
- 3層 埴粉色土層 1層に類似するが、含有物がやや少ない。粘性弱。しまりやや強。
- 4層 埴粉色土層 1層に類似するが、炭化物粒子を含む。粘性強。しまりやや強。
- 5層 埴粉色土層 1層に類似するが、埴土粒子・ローム粒子の含有が少ない。粘性あり。しまりやや強。
- 6層 埴粉色土層 埴り方層。
- 7層 埴粉色土層 ローム粒子・埴土粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 8層 埴粉色土層 埴土粒子を少量。ローム粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 9層 埴粉色土層 ローム粒子・埴土粒子を含む。粘性あり。しまり強。
- 10層 埴粉色土層 3層に類似する。粘性あり。しまり強。
- 11層 埴粉色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 12層 明褐色土層 ローム粒子・埴土粒子・炭化物粒子を少量。ロームブロックを微量含む。粘性あり。しまりやや強。

116号住居跡

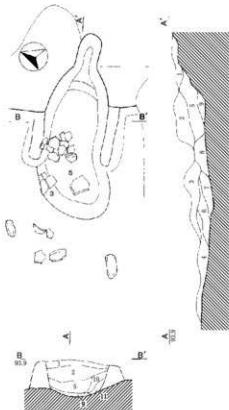
- 13層 埴粉色土層 ローム粒子・埴土粒子を少量。炭化物粒子を微量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 14層 埴粉色土層 ローム粒子を少量。埴土粒子を微量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 15層 明褐色土層 ローム粒子を少量。埴土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性あり。しまりやや強。

117号住居跡

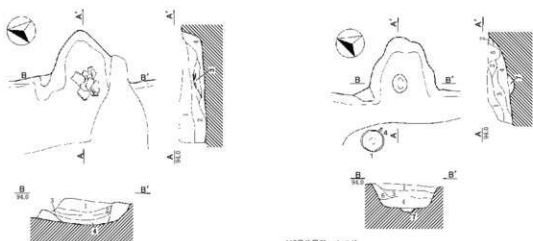
- 16層 埴粉色土層 ローム粒子・埴土粒子を少量。炭化物粒子を微量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 17層 明褐色土層 ローム粒子を中量。埴土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 18層 埴粉色土層 ローム粒子・ロームブロックを含む。粘性あり。しまりやや強。

123号住居跡

- 19層 土層に似なし。



第177図 106号・116号・117号・122号・123号住居跡



116号住居跡 カマド

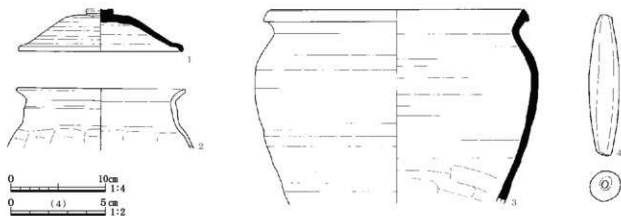
- 1層 暗褐色土層 粘土粒子・白色土粒子を少量含む。粘性弱。しまりや中強。
 2層 暗褐色土層 1層に似るが、ロームブロックを少量含む。粘性弱。しまりや中強。
 3層 暗褐色土層 ロームブロック・粘土ブロックを中量。ローム粒子を微量に含む。粘性あり。しまりや中強。
 4層 暗褐色土層 ロームブロックを含む。粘性・しまりあり。

117号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 ローム粘質土と粘土ブロックを中量含む。天井敷部土層。粘性あり。しまり弱。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子を中量。粘土粒子を微量に含む。粘性・しまりや中強。
 3層 暗褐色土層 粘土粒子・粘土ブロックを多量。炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりや中強。
 4層 暗褐色土層 ロームブロックを多量。粘土粒子・粘土ブロックを少量含む。粘性・しまりや中強。
 5層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりや中強。
 6層 暗褐色土層 ローム粒子・粘土粒子を少量。粘土ブロックを微量含む。粘性あり。しまりや中強。
 7層 暗褐色土層 粘土粒子を少量含む。支脚痕跡。粘性あり。しまりや中強。



第178図 116号住居跡・117号住居跡 カマド



第179図 117号住居跡 出土遺物

117号住居跡 出土遺物観察表

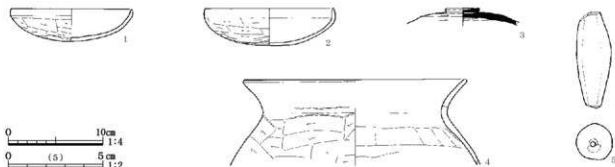
1	須恵器 坏蓋	A. 口径17.3。横み径3.0。器高4.5。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 片岩・角閃石・黒色粒子。E. 内外一灰白色。F. 完形。G. 還元焼成。H. カマド。
2	甕	A. 口径(17.8)。残存高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 破片。H. カマド。
3	須恵器 甕	A. 口径(26.8)。残存高20.6。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
4	土錘	A. 長7.4。幅1.6。厚0.7。重17.13。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. にぶい褐色。F. 完形。G. 焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

123号住居跡(第177図、図版19)

位置：調査区の南に位置する。106号住居跡・122号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。切り合いにより南西コーナーの一部が残存する程度である。形態・規模・主軸方位：不明。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。

122号住居跡(第177・180図、図版20・44)

位置：調査区の南に位置し、北壁に接している。106号住居跡・123号住居跡と重複し、前者より古く後者より新しい。住居の北半は調査区外となり、東部分は切り合いによって破壊されているので南壁の一部を検出したのみである。形態・規模：不明。主軸方位：N-88°-E。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：奈良時代。



第180図 122号住居跡 出土遺物

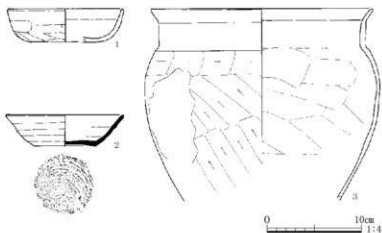
122号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.8)。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 1/2。G. 内外面、粘土付着。H. 覆土。
2	坏	A. 口径13.6。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-橙色。外-にぶい橙色。F. 4/5。G. 内外面、粘土付着。H. 覆土。
3	須臾器蓋	A. 横み径3.6。残存高1.9。B. ロクロ成形。C. 外面、横み部回転ナデ。天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 還元焙焼成。内外面二次被熱か。H. 覆土上層。
4	甕	A. 口径(23.6)。残存高9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内-にぶい橙色。外-橙色。F. 破片。G. 外面二次被熱。H. 覆土。
5	土鍾	A. 残長5.0。幅1.9。厚0.9。重15.03。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 片岩・白色粒子・角閃石。E. 橙色。F. 4/5。G. 器面の荒れ著しい。H. 覆土。

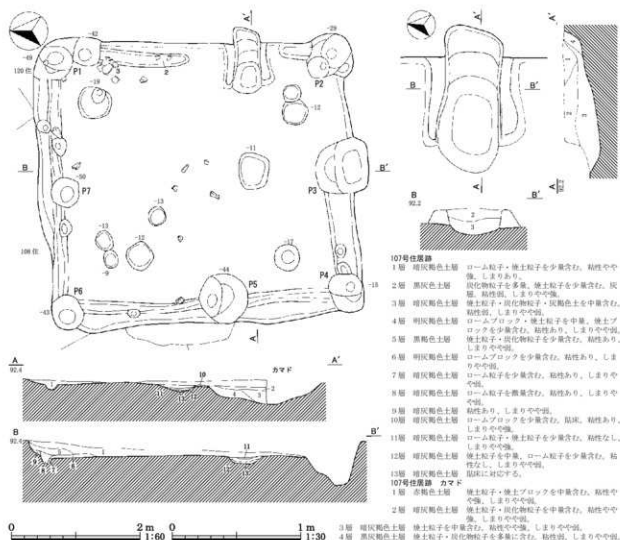
107号住居跡(第181・182図、図版19・43)

位置：調査区の東に位置している。82号・108号・109号・110号・120住居跡と重複する。82号住居跡より古く、他の住居跡よりは新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-87°-E。規模：長軸

4.96m、短軸4.44m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は一段下がりがり、住居外へと延びる煙道へと立ち上がる。柱穴：15本確認される。このうち住居の四隅とその中間にあるP1~7が支柱穴であろう。周溝：カマド周辺と南壁の一部以外で検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



第181図 107号住居跡 出土遺物



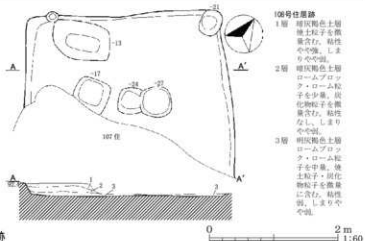
第182図 107号住居跡

107号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.4)。器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄褐色。F. 1/5。G. 内面に黒色の付着物あり。H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径(12.6)。底径6.6。器高3.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英。E. 内外一灰白色。F. 3/4。G. 還元焼成。H. 覆土。
3	甕	A. 口径(23.6)。残存高20.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリー上位ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部~胴部下位1/5。G. 外面胴部に粘土付着・二次被熱。H. 覆土。

108号住居跡(第183図、図版19)

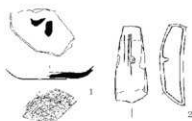
位置：調査区の東に位置している。82号住居跡・107号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-56°-E。規模：長軸3.24m、短軸2.35m以上。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



第183図 108号住居跡

109号住居跡(第184・186図、図版19・43)

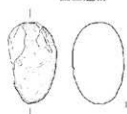
位置：調査区の東に位置している。82号住居跡・107号住居跡・110号住居跡と重複し、前者2軒より古く後者1軒より新しい。形態：方形を呈する。主軸方位：N-85°-E。規模：長軸3.46m、短軸3.04m。カマド：東壁に付設される。袖は残存していない。燃焼部は床面から5cm程下がり、住居外へと延びる煙道へと立ち上がる。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より墨書土器や磁石が出土している。時期：平安時代。



0 10cm
1:4
第184図 109号住居跡
出土遺物

110号住居跡(第185・186図、図版43)

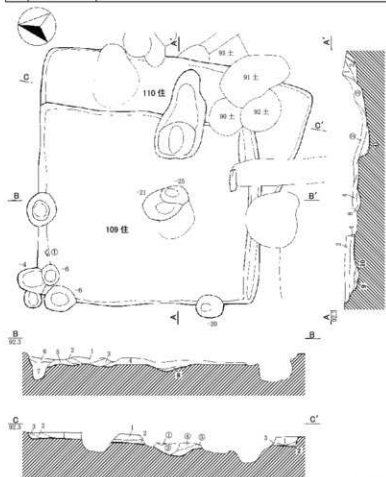
位置：調査区の東に位置している。107号住居跡・109号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。切り合いにより住居の西半は消滅している。形態：不整形だが方形を呈するだろう。主軸方位：N-10°-E。規模：長軸4.25m埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から土器片とともに軽石が出土している。時期：古墳時代か。



0 10cm
1:4
第185図 110号住居跡
出土遺物

110号住居跡 出土遺物観察表

1	軽石	A. 長8.6、幅5.1、厚5.4、重124.44、D. 輝石安山岩、F. 1/2、H. 覆土。
---	----	--



109号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒を少量、ロームブロックを散見に含む。粘性あり。しまりやや強。
- 2層 黄褐色土層 暗褐色土粒を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 3層 明褐色土層 ローム粒・黄褐色土粒を少量含む。粘性・しまりやや強。
- 4層 明褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性・しまりやや強。
- 5層 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 6層 暗褐色土層 ロームブロックを散見に含む。粘性あり。しまりやや強。
- 7層 明褐色土層 ローム粒・黄褐色ブロックを散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 8層 黄褐色土層 ローム粒を散見に含む。粘性・しまりやや強。
- 9層 暗褐色砂質土層 マンガン粒を含む。
- 10層 黄褐色土層 埋土。

110号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粒・粘土粒を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 2層 黄褐色土層 暗褐色土ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 土層注記なし
- 109号住居跡 カマド
- ①層 暗赤褐色土層 焼土粒を中量、焼土ブロックを散見に含む。粘性あり。しまりやや強。焼土ブロック・焼土粒を中量。炭化物粒を散見に含む。粘性あり。しまりやや強。
- ②層 暗褐色土層 焼土粒を中量、ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- ③層 暗褐色土層 ②層に類似するが、焼土粒・焼土ブロックを散見に含む。粘性あり。しまりやや強。
- ④層 土層注記なし

0 2m
1:60

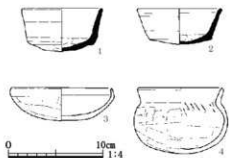
第186図 109号・110号住居跡

109号住居跡 出土遺物観察表

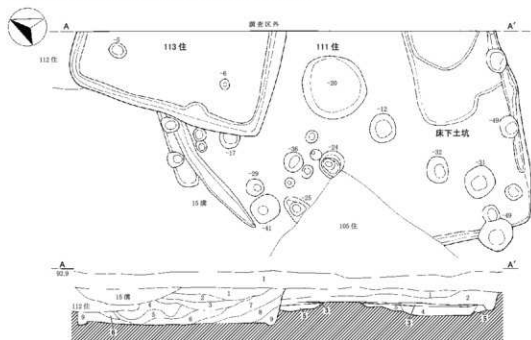
1	須恵器 環	A. 底径(6.0)。残存高1.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外-黄灰色。F. 破片。G. 還元焙焼成。見込みに墨書あり、文字は不明。H. カマド。
2	砥石	A. 長8.1、幅3.45、厚2.2。重72.99。D. 流紋岩。F. 完形。G. 全面が良く研磨される。未貫通の穿孔あり。H. 覆土。

111号住居跡(第187・188図、図版19・43)

位置：調査区の東に位置し、東壁と接している。105号住居跡・113号住居跡、15号溝と重複し、本遺構が古い。住居の東半分は調査区外となる。覆土は削平され、壁の残存状況は不良である。形態：方形を呈する。主軸方位：N-56°-E。規模：長軸5.66m、短軸3.26m以上。柱穴：15本確認される。周溝：コーナー部分では検出されない。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：土師器の他に小型の須恵器が2点出土している。時期：7世紀後半。



第187図 111号住居跡 出土遺物



113号住居跡

- 1層 暗灰褐色土層 鉄分を中量、ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 2層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 3層 暗灰褐色土層 ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 4層 暗黄褐色土層 ロームブロック・白色粘土ブロックを多量に含む。粘性・しりりあり。
- 5層 暗灰褐色土層 ロームブロック・白色粘土ブロックを微量に含む。粘性・しりりあり。
- 6層 暗褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しりりあり。
- 7層 暗褐色土層 鉄分を中量、ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 8層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 9層 暗褐色土層 ロームブロック・白色粘土ブロックを微量に含む。粘性・しりりあり。

111号住居跡

- 1層 暗黄褐色土層 鉄分を中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 2層 暗灰褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・鉄分を中量含む。粘性・しりりあり。
- 3層 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性・しりりあり。
- 4層 黒灰褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を微量に含む。粘性・しりりあり。
- 5層 暗黄褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しりりあり。



第188図 111号・113号住居跡

111号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	須恵器 環	A. 口径8.7。器高4.5。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ。体部ナデ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-灰色。F. 完形。G. 還元焙焼成。藤岡産。H. 覆土。
2	須恵器 環	A. 口径(9.0)。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ。体部ナデ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外-灰色。F. 1/3。G. 還元焙焼成。藤岡産。H. 覆土。

111号住居跡 出土遺物観察表(2)

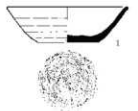
3	坏	A. 口径10.8. 器高3.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石. E. 内外一にぶい黄橙色. F. 完形. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	小形壺	A. 口径(9.1). 器高6.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヨコナデ→上位ヨコケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. 1/4. H. 覆土.

113号住居跡(第188図、図版19)

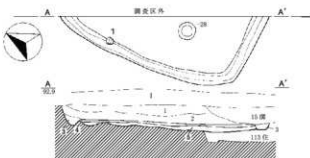
位置：調査区の東に位置し、東壁と接している。111号住居跡・112号住居跡と重複し、前者より新しく、後者より古い。15号溝とも重複し、本遺構が古い。東半は調査区外となるため全容は不明である。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-71°-E。規模：長軸3.24m、短軸1.50m以上。柱穴：2本確認される。周溝：調査範囲内で全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

112号住居跡(第189・190図、図版19・43)

位置：調査区の東に位置し、東壁と接している。113号住居跡と重複し、本遺構が新しい。13号溝・15号溝に切られる。住居の東は調査区外となっており、西壁へ南西コーナーの一部を検出した。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-4°-W。規模：長軸2.98m、短軸1.10m以上。柱穴：1本確認される。周溝：調査範囲内で全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：西壁沿いの覆土中層より須恵器の坏が出土している。時期：平安時代。



第189図 112号住居跡
出土遺物



第190図 112号住居跡

112号住居跡

- 1層 暗褐色土層
1層 暗褐色土層
2層 暗褐色土層
3層 暗褐色土層
4層 暗褐色土層
5層 暗褐色土層
- ローム粒子を中層、ローム粒子を中層に含む、粘性・しまりあり。
ツツ子・粘土を中層、ローム粒子・微土粒子を中層に含む、粘性・しまりあり。
ロームブロックを中層含む、粘性あり、しまりやや弱。
ロームブロックを中層含む、粘性・しまりあり。
ロームブロックを中層含む、灰化物質・微土粒子を中層に含む、粘性・しまりあり。

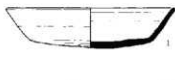


112号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(12.8). 底径6.4. 器高3.8. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転ネリ切り. D. 片岩・石英・角閃石・赤色粒子. E. 内外一灰黄色. F. 2/3. G. 還元塩焼成. H. 覆土.
---	----------	--

121号住居跡(第191・193図、図版44)

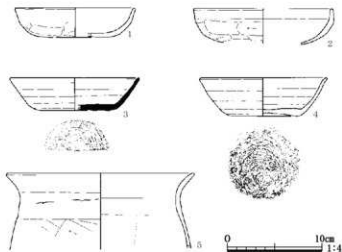
位置：調査区の中央より南に位置している。114号住居跡と重複し、本遺構が古い。覆土や壁は削平され、確認面で床面が露出していた。形態：方形を呈する。主軸方位：N-33°-W。規模：長軸4.54m。柱穴：1本確認される。埋没状況：不明。遺物：覆土が残存しておらず、遺物は確認面に露出して出土している。時期：奈良時代。



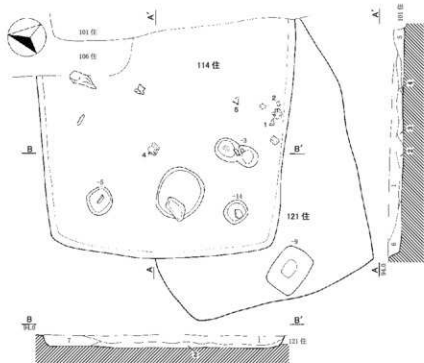
第191図 121号住居跡
出土遺物

114号住居跡(第192・193図、図版19・43)

位置：調査区の中央より南に位置している。101号住居跡・106号住居跡・121号住居跡と重複する。121号住居跡より新しく、他の住居より古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-9°-W。規模：長軸3.85m、短軸3.63m以上。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土師器・須恵器が出土している。南壁中央付近に集中する傾向がある。時期：平安時代。



第192図 114号住居跡 出土遺物



第193図 114号住居跡・121号住居跡

114号住居跡	
1層	埋褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性弱。しまりや中強。
2層	埋褐色土層 ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり。しまりや中強。
3層	埋褐色土層 2層に似るが、白色粒子も含まれる。粘性あり。しまりや中強。
4層	埋褐色土層 2層に似るが、3層よりも含有物が少ない。粘性あり。しまりや中強。
5層	埋褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性弱。しまりや中強。
6層	埋褐色土層 ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性あり。しまりや中強。
7層	埋黄褐色土層 ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりや中強。

114号住居跡 出土遺物観察表

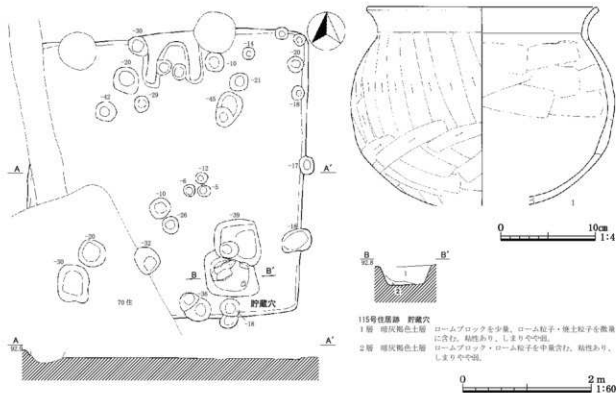
1	坏	A. 口径(12.8)。器高3.2。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 雲母・白色粒子。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 1/5。G. 外面体部にスス附着。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(14.7)。残存高3.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ・ケズリ。内面も、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 3/4。H. 覆土。
3	須恵器 坏	A. 口径(7.0)。器高3.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英。E. 内外一灰黄色。F. 1/5。G. 還元焼成。H. 覆土。
4	須恵器 坏	A. 口径13.5。底径7.0。器高4.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 4/5。G. 酸化焼成。H. 覆土。
5	甕	A. 口径(19.9)。残存高8.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 破片。H. 覆土。

121号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(17.6)。底径12.8。器高4.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ケズリ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外一暗灰黄色。F. 1/3。G. 内外面に焼成時の黒痕あり。H. 覆土。
---	----------	---

115号住居跡(第194図、図版43)

位置：調査区の東に位置している。70号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-4.5°-E。規模：長軸4.55m、短軸4.36m。カマド：北壁に付設される。袖から燃烧部の奥壁まで粘土を用いる。燃烧部は住居壁より内側で立ち上がる。貯蔵穴：南東コーナー付近に位置する方形のピットが貯蔵穴である。柱穴：25本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴から土師器の甕が出土している。時期：古墳時代後期。



第194図 115号住居跡・出土遺物

115号住居跡 出土遺物観察表

1	壺	A. 口径(24.6)。残存高20.9。B. 粘土組積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ・下位ナナメナデ→中位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
---	---	--

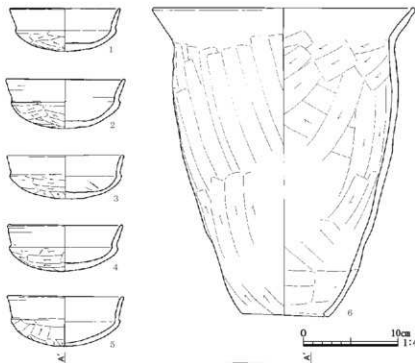
118号住居跡(第195・196図、図版20・43)

位置：調査区の南に位置している。86号住居跡・119号住居跡・124号住居跡と重複する。119号住居跡より新しく、これ以外の住居より古い。形態：方形を呈する。主軸方位：N-90°-E。規模：推定長軸4.78m、短軸4.50m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、住居壁に対してほぼ直角に付けられる。燃烧部は住居内に取り、住居壁と奥壁は立ち上がりと共にする。貯蔵穴：カマドに向かって右に位置する隅丸方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：3本確認され、いずれも主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドと貯蔵穴の周辺にまとも出土している。時期：古墳時代後期。

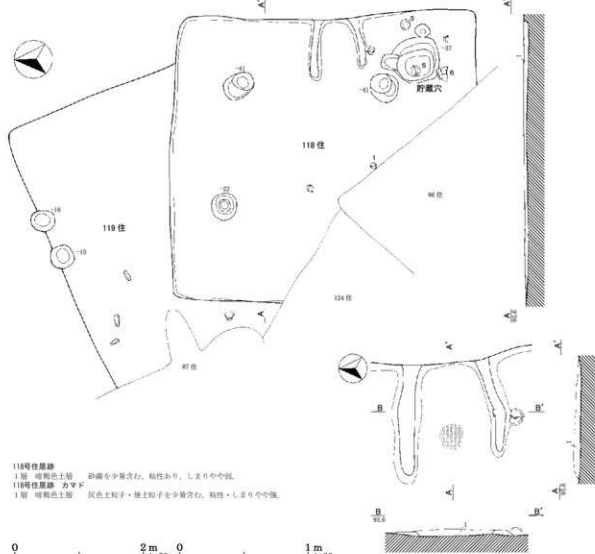
119号住居跡(第196図、図版20)

位置：調査区の南に位置している。87号住居跡・118号住居跡・124号住居跡等と重複し、本遺構が最

も古い。覆土は削平され、確認面の段階で床面が露出していた。形態：方形を呈する。主軸方位：N-23°-W。規模：不明。柱穴：2本確認される。埋没状況：不明。遺物：礫が床面から出土する。時期：古墳時代か。



第195図 118号住居跡
出土遺物



118号住居跡

- 1層 埴間色土層 砂礫を少量含む。粘性あり、しまりや中強。
 118号住居跡 カマド
 1層 埴間色土層 灰色土粒子・黒土粒子を少量含む。粘性・しまりや中強。

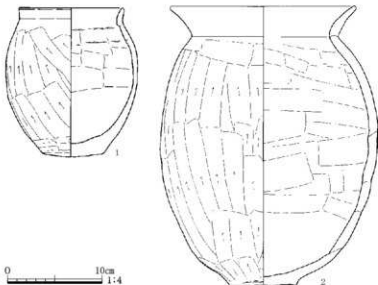
第196図 118号住居跡・119号住居跡

118号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径11.8. 器高4.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一明赤褐色. F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
2	坏	A. 口径(12.8). 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子. E. 内外一明赤褐色. F. 1/2. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
3	坏	A. 口径12.4. 器高4.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子. E. 内外一明赤褐色. F. 完形. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	坏	A. 口径12.3. 器高4.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石. E. 内外一明赤褐色. F. 4/5. H. 覆土.
5	坏	A. 口径12.4. 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ・ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内外一明赤褐色. F. 完形. H. 覆土・貯蔵穴.
6	大形甕	A. 口径(27.8). 底径9.3. 器高32.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 内面、上半タテ→ナメケズリ→下位ヨコナデ. D. 片岩・白色粒子・角閃石. E. 内外一褐色. F. 3/4. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.

120号住居跡(第197・198図、図版20・44)

位置：調査区の東に位置し、東壁に接している。107号・110号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。切り合い等により確認されたのは住居跡のごく一部、カマド周辺のみとなっている。形態・規模：不明。主軸方位：N-66°-W。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖である。燃焼部は住居外へと伸び緩やかに立ち上がる。支脚の礫が据えられ、その上位には長胴甕が出土している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド以外に覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



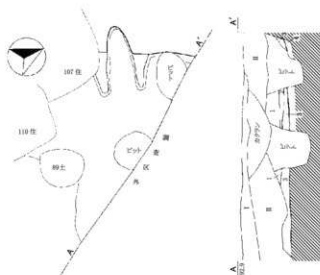
第197図 120号住居跡 出土遺物

120号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径11.0. 底径6.7. 器高15.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一にぶい褐色. 外一にぶい褐色. F. 完形. G. 外面胴部二次被熱. 内面胴部中位以上にヨゴレ. H. カマド.
2	甕	A. 口径(19.4). 底径7.0. 器高29.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→上位ヨコナデ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・白色粒子・角閃石. E. 内外一にぶい褐色. F. 4/5. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり. 外面・内面口縁部二次被熱. H. カマド.

127号住居跡(第199図)

位置：調査区の南に位置している。88号・104号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。調査終了間際に検出された住居跡であり、土層堆積状況の記録はなかった。形態：方形を呈するだろう。主軸方位：N-23°-W。規模：長軸5.33m。貯蔵穴：北東コーナー付近に位置するピットが貯蔵穴である。周溝：調査した範囲では全周している。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

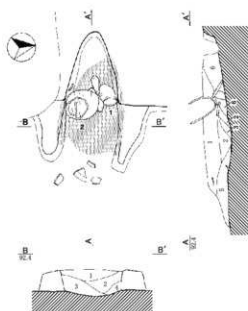


120号住居跡

- 1層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量、ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性や中強、しまりあり。
 2層 暗褐色土層 炭化物粒子を中量、焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまりや中強。
 3層 明褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性あり、しまりや中強。
 4層 黄褐色土層 ローム土層土の盛り戻層。暗褐色土ブロックを少量含む。粘性・しまりや中強。

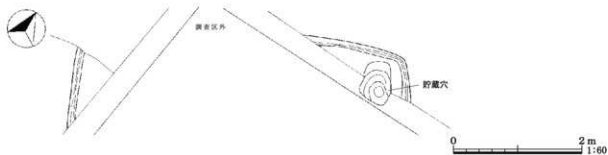


第198図 120号住居跡



120号住居跡 カマド

- 1層 暗黄褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性や中強、しまりや中強。
 2層 暗黄褐色土層 ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性や中強、しまりや中強。
 2'層 暗黄褐色土層 2層に準ずる。
 3層 暗赤褐色土層 焼土粒子・焼土ブロックを中量含む。粘性や中強、しまりや中強。
 4層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを少量含む。粘性や中強、しまりや中強。
 5層 暗黄褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を少量、ロームブロックを微量に含む。粘性や中強、しまりや中強。
 6層 暗黄褐色土層 4層に準ずるが、ロームブロックを含む。粘性・しまりあり。

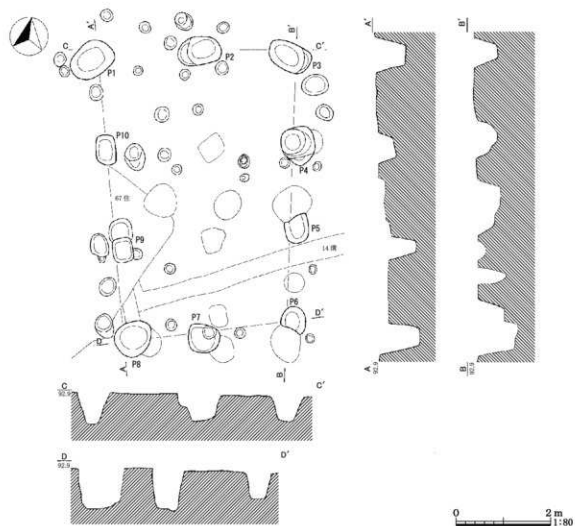


第199図 127号住居跡

2. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡(第200図、図版20・21)

位置：調査区の東に位置している。67号住居跡、2号掘立柱建物跡・3号掘立柱建物跡と重複し、住居跡より新しく、掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位： $N-7^{\circ}-W$ 。規模：長軸6.20m、短軸4.10～5.10mと不整形である。柱心間は東西一間1.50～2.10m、南北一間1.70～2.10mを測り、柱通りは不良。柱穴：直径50～80cm程度の楕円形または方形を呈し、深さは30～80cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古代か。



第200図 1号掘立柱建物跡

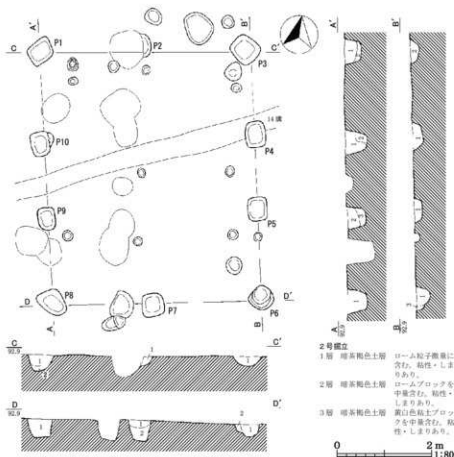
2号掘立柱建物跡(第201図、図版20・21)

位置：調査区の東に位置している。1号掘立柱建物跡・3号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位： $N-10^{\circ}-W$ 。規模：長軸5.85m、短軸4.95m。柱心間は東西一間2.10～2.30m、南北一間1.50～2.30mを測る。柱穴：直径50cm程度の方形を呈し、深さは30～40cm。覆土：柱痕や抜き取りの痕跡は観察できず、自然

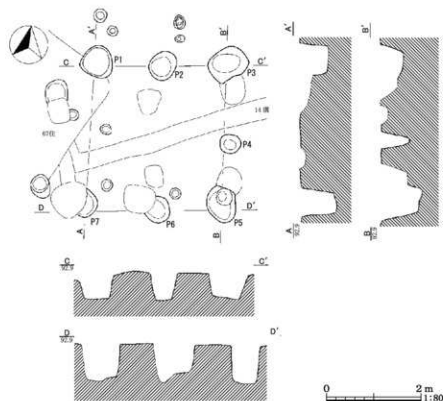
埋没である。なお、住居跡覆土に近似する。遺物：出土していない。時期：古代。

3号掘立柱建物跡(第202図、図版20)

位置：調査区の東に位置している。1号掘立柱建物跡・2号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向1間、東西方向2間の方形を呈する側柱式。長軸方位： $N-7^{\circ}-W$ 。規模：長軸3.70m、短軸3.60m。柱心間は東西1間1.20~1.50m、南北1間3.00mを測る。柱穴：直径50~80cm程度の円形を呈し、深さは50~80cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古代。



第201図 2号掘立柱建物跡

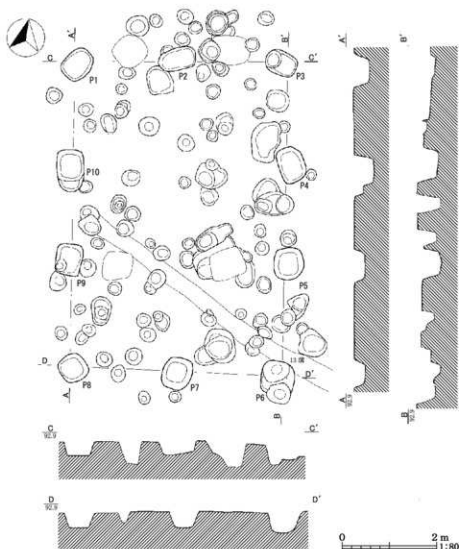


第202図 3号掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡(第203図、図版21)

位置：調査区の東に位置している。5号掘立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。形態：南北方向3間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位： $N-8^{\circ}-W$ 。規模：長軸7.04m、短軸5.00

m。柱心間は東西一間2.20m、南北一間2.20～2.40mを測り、柱通りは良好である。柱穴：直径60～70cm程度の方形ないしは長方形を呈し、深さは20～30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古代。



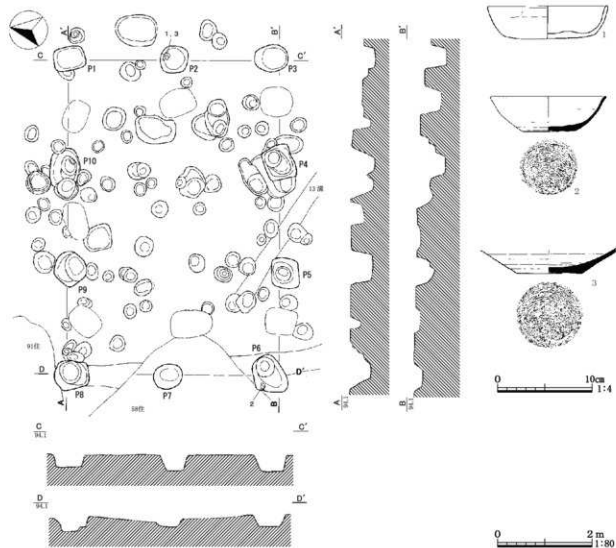
第203図 4号据立柱建物跡

5号据立柱建物跡(第204図、図版21・44)

位置：調査区の東に位置している。4号据立柱建物跡と重複し、新旧関係は不明。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-81°-E。規模：長軸6.70m、短軸5.00m。柱心間は東西一間2.20～2.40m、南北一間2.20mを測り、柱通りは良好である。柱穴：直径60～70cm程度の方形を呈し、深さは20～50cm。覆土：不明。遺物：P2とP6から出土している。時期：平安時代。

5号据立柱建物跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(12.7)。器高3.5。B. 粘土細積み上げ。C. 内外面、ナデ。D. 雲母・石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/5。G. 内面口縁部にスス?または黒斑あり。H. P2覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径12.4。底径5.7。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 2/3。G. 還元焼成。H. P6覆土。
3	須恵器 坏	A. 底径7.0。残存高2.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・石英・角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい黄褐色。外一灰色。F. 底部ほぼ完形。G. 還元焼成だが、外面やや還元不良。H. P2覆土。



第204図 5号掘立柱建物跡・出土遺物

3. 土坑

本遺跡では、98基の土坑を検出した。火葬墓と思われる土坑(99号～107号土坑)は楕円ないしは長方形を呈し、覆土に焼土・炭化物を含み壁面が被熱する傾向にある。分布としては、調査区の西3号住居跡・5号住居跡周辺に集中する。ただし、107号土坑のみ調査区の東で検出されている。

10号土坑(第205図・図版21・44)

位置：調査区の東に位置している。11号土坑と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸1.25m、短軸1.15m。埋没状況：不明。遺物：桶材と思われる板状の木製品が多数出土している。時期：近世。

11号土坑(第205図・図版21・44・45)

位置：調査区の東に位置している。10号土坑と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸1.38m、短軸1.20m。埋没状況：不明。遺物：10号土坑と同様に桶材と思しき板状の木製品が多数出土し、寛永通宝が1点確認された。時期：近世。

25号土坑(第205図・図版21・44)

位置：調査区の東に位置し、67号住居跡を切る。形態：平面形は円形を呈する。規模：径約1m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：土師器の坏が覆土より出土している。時期：古代。

46号土坑(第205図・図版22・45)

位置：調査区の東に位置している。66号住居跡・70号住居跡と重複し、出土遺物から判断して、本遺構が新しい。形態：平面形は円形を呈する。規模：径0.73m。埋没状況：不明。遺物：覆土より羽釜や須恵器の高台付碗が出土している。時期：古代10世紀以降。

71号土坑(第205図・図版22・44)

位置：調査区の東で検出された。他遺構との重複はないが、95号住居跡の貯蔵穴の可能性がある。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸0.48m、短軸0.44m。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より、土師器の坏・甗が出土している。時期：古墳時代。

86号土坑(第205図)

位置：調査区の南に位置している。他遺構との重複はない。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-58°-W。規模：長軸1.1m、短軸0.78m。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土師器の坏と須恵器の坏が出土している。時期：古代。

98号土坑(第205図・図版45)

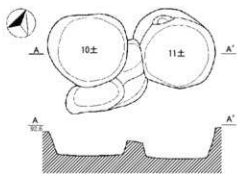
位置：調査区の南東に位置している。101号住居跡や22号溝と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-70°-E。規模：長軸1.70m、短軸1.10m。埋没状況：不明。遺物：土錐が出土している。時期：不明。

99号土坑(第205図)

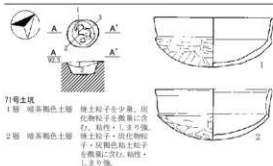
位置：調査区の西に位置している。形態：平面形は楕円形を呈する。主軸方位：N-65°-E。規模：長軸0.79m、短軸0.51m。埋没状況：地山土を多量に含む覆土により埋没している。自然埋没ではないだろう。遺物：覆土より土師器の小片が出土している。時期：古代以降の火葬墓であろう。

100号土坑(第205図)

位置：調査区の西に位置している。形態：平面形は楕円形を呈する。主軸方位：N-12.5°-W。規模：長軸0.88m、短軸0.55m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を多量に含む土坑の壁面も被熱している。

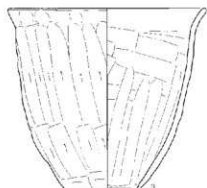


10号・11号土坑

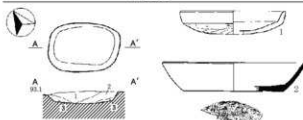


71号土坑

- 1層 暗茶褐色土層 粘土粒子を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
2層 暗茶褐色土層 粘土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。



71号土坑



86号土坑

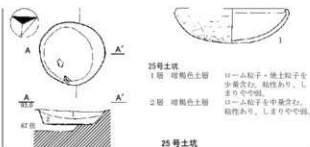
- 1層 暗褐色土層 粘土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
2層 暗褐色土層 粘土粒子・炭化物粒子を少量含む。ローム粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
3層 暗褐色土層 粘土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。

86号土坑

0 2m 1:60

0 10cm 1:4

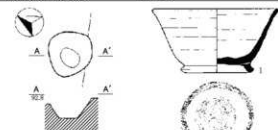
0 (11土8・98土1) 5cm 1:2



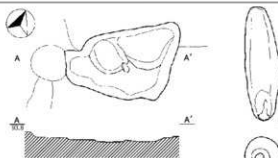
25号土坑

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・粘土粒子を少量含む。粘性あり、しまりやや強。
2層 暗褐色土層 ローム粒子を中量含む。粘性あり、しまりやや強。

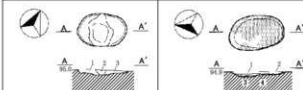
25号土坑



46号土坑



99号土坑



99号土坑

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子を少量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまり強。
2層 暗茶褐色土層 ローム粒子を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりやや強。
3層 暗茶褐色土層 2層に類似するが、粘土粒子・粘土粒子を少量含む。粘性・しまりやや強。

99号土坑

100号土坑

- 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘土粒子を中量含む。粘性やや強、しまり強。
2層 暗褐色土層 炭化物粒子を中量、ローム粒子・粘土粒子を微量に含む。粘性あり、しまり強。
3層 暗褐色土層 炭化物粒子を少量、ローム粒子・粘土粒子を微量に含む。粘性あり、しまりやや強。
4層 炭化物と粘土の混合層

100号土坑

第205図 土坑(1)

る。遺物：覆土より土師器の小片が出土している。時期：古代以降の火葬墓であろう。

101号土坑(第206図)

位置：調査区の西に位置している。5号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸0.78m、短軸0.47m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を多量に含む。遺物：覆土より土師器片が出土する。時期：古代以降の火葬墓であろう。

102号土坑(第206図・図版22・45)

位置：調査区の西に位置している。6号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈し、底部にピットが1本確認される。主軸方位：N-53°-E。規模：長軸1.13m、短軸0.73m。埋没状況：覆土1層に焼土・炭化物が含まれる。遺物：土師器の坏・台付甕、須恵器の坏が出土している。時期：古代の火葬墓であろう。

103号土坑(第206図)

位置：調査区の西に位置している。5号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-0°-E・W。規模：長軸0.86m、短軸0.64m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を顕著に含み、遺構の壁面も被熱している。遺物：土師器の小片が出土している。時期：古代以降の火葬墓だろう。

104号土坑(第206図・図版22)

位置：調査区の西に位置している。105号土坑と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は隅丸長方形を呈する。主軸方位：N-26°-W。規模：長軸0.98m、短軸0.69m。埋没状況：焼土・炭化物を多量に含んでいる。遺構の壁面も被熱する。遺物：覆土より土錘が出土している。時期：古代以降の火葬墓であろう。

105号土坑(第206図・図版45)

位置：調査区の西に位置している。104号土坑と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-82°-E。規模：長軸0.71m、短軸0.62m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を多量に含む。遺構の壁面も被熱する。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の火葬墓であろう。

106号土坑(第206図・図版22・45)

位置：調査区の西に位置している。4号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-56°-W。規模：長軸1.86m、短軸1.28m。埋没状況：焼土・炭化物を多量に含む。ただし、5・6層には黄色粘土ブロックを含み焼土は少ないことから、人為埋没の可能性もある。遺物：覆土より須恵器の破片が出土している。時期：古代以降の火葬墓であろう。

土坑計測表

遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
1号土坑	橢円形	100×73	12.5	N-60.5°-W
2号土坑	円形	102×90	12.5	N-50°-W
3号土坑	不整形	<105>×80	27.5	N-3°-E
4号土坑	橢円形	126×103	39.8	N-25.5°-W
5号土坑	不整形	85×57	74.8	N-75°-E
6号土坑	橢円形	161×67	26	N-65°-E
7号土坑	橢円形	256×93	59	N-21°-W
8号土坑	円形	70×64	24	N-56.5°-W
9号土坑	円形	93×86	38	N-73°-E
12号土坑	長方形	93×62	13	N-14°-W
13号土坑	長方形	90×55	11	N-16°-W
14号土坑	隅丸長方形	99×36	11.5	N-61°-E
15号土坑	隅丸方形	85×(55)	19	N-57.5°-E
16号土坑	隅丸長方形	80×45	26	N-80.5°-E
17号土坑	円形	<100>×90	48	N-25°-W
18号土坑	円形	70×64	19.5	N-0°-E・W
19号土坑	橢円形	75×55	11	N-31°-W
20号土坑	隅丸方形	133×109	30	N-27.5°-E
21号土坑	不整形	79×58	42.5	N-46°-W
22号土坑	方形	67×57	23	N-35°-W
23号土坑	隅丸方形	79×70	50.8	N-40°-E
24号土坑	不整形	106×98	47	N-30°-W
26号土坑	不整形	120×100	23.5	N-70°-E
27号土坑	円形	110×102	17.5	N-65.5°-E
28号土坑	橢円形	86×70	29	N-8.5°-E
29号土坑	円形	123×116	25	N-80°-E
30号土坑	隅丸方形	101×90	18.5	N-52°-E
31号土坑	円形	79×70	12	N-70°-E
41号土坑	隅丸方形	75×70	11	N-84°-W
33号土坑	橢円形	61×44	50.5	N-20°-E
34号土坑	円形	81×75	13.5	N-12.5°-W
35号土坑	不整形	116×55	30	N-41.5°-W
36号土坑	不整形	75×(30)	26.5	N-18°-W
37号土坑	円形	64×56	10	N-76.5°-E
38号土坑	隅丸長方形	306×96	31.5	N-24°-W
39号土坑	円形	85×	14	
40号土坑	不整形	192×102	52	N-24°-W
41号土坑	橢円形	(214)×150	49	N-17°-W
42号土坑	橢円形	(91)×102	44	N-58°-E
43号土坑	橢円形	(89)×96	47.5	N-18°-W
44号土坑	不整形	76×16	23.5	N-41.5°-E
45号土坑	長方形	(82)×66	14.5	N-67°-E
47号土坑	124住pitに変更。			
48号土坑	隅丸長方形	92×57	60.5	N-47°-W
49号土坑	橢円形	59×45	22.5	N-27.5°-E
50号土坑	隅丸方形	58×55	52	N-14.5°-E

遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
51号土坑	長方形	232×116	26.5	N-72.5°-E
52号土坑	不整形	162×98	30.5	N-33°-E
53号土坑	円形	89×87	31.5	N-4.5°-E
54号土坑	長方形	184×97	51.5	N-29.5°-W
55号土坑	欠番			
56号土坑	長方形	(260)×67	34	N-2.5°-W
57号土坑	長方形	75×63	41	N-87.5°-E
58号土坑	欠番			
59号土坑	不整形	90×80	70	N-52.5°-E
60号土坑	隅丸長方形	100×83	30	N-34.5°-E
61号土坑	不整形	87×60	56.5	N-80°-E
62号土坑	円形	63×58	29	N-53.5°-E
63号土坑	隅丸方形	77×67	31.5	N-37°-W
64号土坑	円形	48×43	30.2	N-10°-E
65号土坑	長方形	84×63	34.5	N-34.5°-W
66号土坑	円形	77×65	21.6	N-0°-E・W
67号土坑	円形	68×58	14	N-90°-E・W
68号土坑	橢円形	70×56	44	N-38°-W
69号土坑	隅丸長方形	75×49	12	N-26°-W
70号土坑	円形	62×	49.5	
72号土坑	欠番			
73号土坑	橢円形	64×40	30	N-61.5°-E
74号土坑	円形	56×52	16.5	N-52.5°-E
75号土坑	不整形	77×65	10.5	N-85°-W
76号土坑	長方形	72×52	11	
77号土坑	不整形	115×72	37	N-20°-W
78号土坑	隅丸方形	(30)×47	14.5	N-71.5°-E
79号土坑	欠番			
80号土坑	92住P4に変更。			
81号土坑	橢円形	92×(84)	35	N-18°-W
82号土坑	隅丸長方形	(124)×80	14.6	N-60°-E
83号土坑	欠番			
84号土坑	橢円形	131×55	17.8	N-50°-E
85号土坑	隅丸方形	91×76	24.9	N-74°-E
87号土坑	隅丸長方形	111×91	27	N-79°-E
88号土坑	欠番			
89号土坑	不整形	68×61	29.5	N-28°-E
90号土坑	円形	47×43	32	N-40°-E
91号土坑	円形	39×30		N-64°-E
92号土坑	橢円形	52×34	15.5	N-68°-E
93号土坑	長方形	90×(58)	14	N-49°-W
94号土坑	欠番			
95号土坑	欠番			
96号土坑	欠番			
97号土坑	隅丸長方形	66×50	35.3	N-27°-E

土坑 出土遺物観察表(1)

10土	1	桶材	A. 長20.0, 幅9.9, 厚2.1, F. 破片, H. 不明。
	2	桶材	A. 長20.0, 幅8.9, 厚2.1, F. 破片, H. 不明。
	3	桶材	A. 長26.1, 幅11.8, 厚1.9, F. 破片, H. 不明。
	4	桶材	A. 長26.7, 幅12.5, 厚2.2, F. 破片, H. 不明。

土坑 出土遺物観察表(2)

11土	1	板材	A. 長5.9, 幅5.5, 厚2.2, F. 破片。H. 不明。
	2	板材	A. 長9.6, 幅4.8, 厚2.3, F. 破片。H. 不明。
	3	板材	A. 長20.4, 幅10.4, 厚1.9, F. 破片。H. 不明。
	4	板材	A. 長29.3, 幅10.4, 厚1.9, F. 破片。H. 不明。
	5	板材	A. 長7.3, 幅11.4, 厚2.2, F. 破片。H. 不明。
	6	板材	A. 長7.1, 幅10.7, 厚2.1, F. 破片。H. 不明。
	7	板材	A. 長23.3, 幅11.2, 厚2.7, F. 破片。H. 不明。
	8	古銭	A. 径2.3, 厚0.1, 重3.61, D. 鋼製, F. 完形, G. 寛永通宝, H. 底面。
25土	1	坏	A. 口径11.7, 器高3.7, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. チャート・角閃石・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
46土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(13.4), 底径7.7, 器高6.7, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り→高台貼付, D. 白色粒子・黒色粒子, E. 内外一黄灰色, F. 1/5, G. 還元焼成, H. 覆土。
	2	羽釜	A. 口径(24.2), 残存高14.5, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 外面鈔は貼付, D. 石英・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 破片, G. 外面二次被熱, H. 覆土。
71土	1	坏	A. 口径12.7, 器高5.3, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・赤色粒子・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 完形, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
	2	坏	A. 口径12.4, 器高5.3, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一明赤褐色, F. 4/5, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
	3	甌	A. 口径21.0, 底径7.8, 器高19.1, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ, 内面, ヨコナデ→胴部下半タテナデ, D. 片岩・角閃石・石英, E. 内一にぶい橙色, 外一橙色, F. 1/2, G. 外面二次被熱か, H. 覆土。
86土	1	坏	A. 口径11.2, 器高2.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内外一橙色, F. 1/5, H. 覆土。
	2	須恵器 坏	A. 口径(15.2), 底径(10.7), 器高3.0, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転ヘラケズリ, D. 海綿骨針, E. 内外一灰色, F. 破片, G. 内外面, 研磨か? 摩滅する, H. 覆土。
98土	1	土鉢	A. 長6.1, 幅1.8, 厚0.9, 重18.60, B. 手捏ね, C. ナデ, D. 石英・角閃石・白色粒子・赤色粒子, E. にぶい黄褐色, F. ほぼ完形, G. 焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
102土	1	坏	A. 口径12.7, 底径8.6, 器高3.2, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・石英, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, H. 覆土。
	2	須恵器 坏	A. 口径12.0, 底径5.7, 器高3.4, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り, D. 片岩・石英・白色粒子, E. 内外一灰色, F. 2/3, G. 還元焼成, H. 覆土。
	3	甕	A. 口径13.3, 残存高16.0, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテ→ナメケズリ→上半ヨコケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子・赤色粒子, E. 内外一明赤褐色, F. 口縁部→胴部 4/5, G. 外面口縁部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
104土	1	土鉢	A. 長5.8, 幅1.95, 厚0.9, 重17.32, B. 手捏ね, C. ナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. にぶい黄褐色, F. 完形, H. 覆土。
106土	1	須恵器 甕	A. 口径(25.2), 残存高7.9, B. ロクロ成形, C. 外面, 口縁部ロクロ成形, 胴部上位平行タキ目→ナデ, 内面, 回転ナデ, D. 石英・白色粒子, E. 内外一灰色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土。

4. 溝

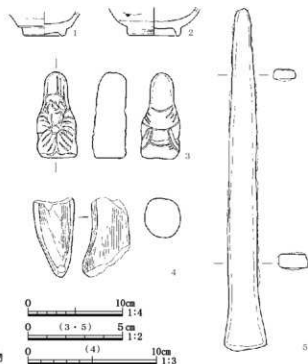
1号溝(第207・208図・図版22・45)

位置: 調査区の西から北に位置している。1号住居跡・2号住居跡・11号住居跡・17号住居跡と重複し、本遺構が新しい。3号溝・4号溝とも重複するが、新旧関係は不明である。3ないしは4条の溝が併走する形で検出されており、同一の溝として調査した。形態: 底面は凹凸がある。壁は緩やかな箇所もあれば、急な立ち上がりを呈するところもあり、一定ではない。主軸方位: おおむねN-68°-Eを取る。等高線に対して縦走しており、西から東へと流れていたと考えられる。規模: 上幅75~170cm, 下幅15~130cm。確認面からの深さは5~25cmを測る。埋没状況: 覆土観察箇所が少なく、詳細は不明。砂礫を含む土で埋没している。遺物: 覆土より近世陶磁器片や鉄製品、埴輪片などが出土

している。時期：近世。

2号溝 (第208図)

位置：調査区の西に位置している。3号溝・4号溝・5号溝と併走している。形態：南北方向に直線的走る。底面は、ほぼ平坦で、ビット状の落ち込みを呈する部分もある。主軸方位：N-3°-E。等高線に対して、おおむね縦走している。規模：上幅30~50cm、下幅10~30cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：As-Bを含む土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：As-B降下以降の溝である。



第207図 1号溝 出土遺物

1号溝 出土遺物観察表

1	陶器 天目茶碗	A. 底径4.6。残存高2.5。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。体部に鉄軸。ケズリ出し高台。E. 内外一灰白色。軸一オリーブ黒色。F. 底部のみほぼ完形。G. 瀬戸・美濃系。H. 覆土。
2	磁器 染付碗	A. 底径(5.3)。残存高3.0。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面、腰部一重圈線。高台二重圈線。裏付無軸。E. 内外一灰黄色。F. 底部1/2。G. 肥前系。H. 覆土。
3	土人形	A. 長4.5。幅2.1。厚1.8。重13.19。B. 型作り成形。D. 角閃石・白色粒子。E. 橙色。F. 完形。H. 覆土。
4	形象埴輪 人物の手か	A. 長6.0。幅2.8。厚3.0。C. ハケ・ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 橙色。F. 破片。G. 左手の可能性あり。H. 覆土。
5	不明鉄製品	A. 長18.1。幅1.5。厚0.8。重85.46。F. 完形。H. 覆土。

3号溝 (第208図)

位置：調査区の西に位置している。4号住居跡と重複し、本遺構が新しい。1号溝との新旧関係は不明である。2号溝・4号溝・5号溝と併走する。形態：南北方向に直線的走る。底面はほぼ平坦で、壁面は段を持って立ち上がる。主軸方位：N-2°-E。等高線に対して縦走している。規模：上幅105~60cm、下幅40~60cm。確認面からの深さは5~20cmを測る。埋没状況：砂礫と鉄分を含む土で自然に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

4号溝 (第208図)

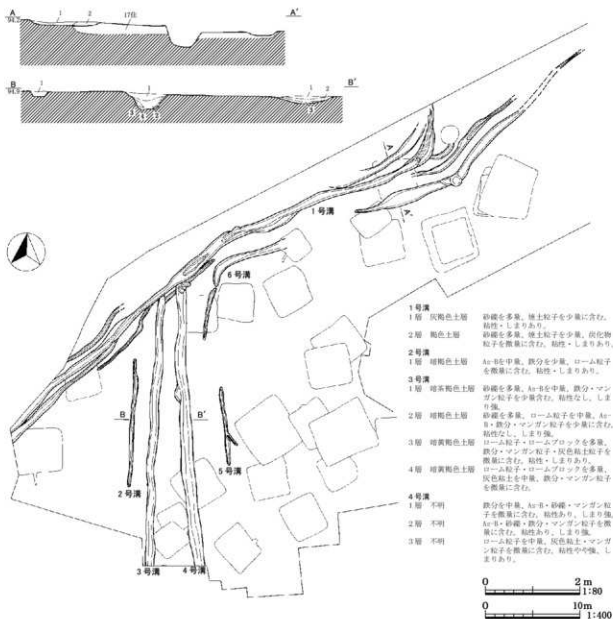
位置：調査区の西に位置している。3号住居跡・4号住居跡・10号住居跡と重複し、本遺構が新しい。1号溝との重複部分に土坑が集中しているが、これらの新旧関係は不明である。形態：南北方向に直線的走る。底面は皿状で立ち上がりもなだらかである。主軸方位：N-4°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅90~130cm、下幅20~60cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：As-Bを含む砂質土で埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：As-B降下以降の溝である。

5号溝 (第208図)

位置：調査区の西に位置している。2号溝・3号溝・4号溝と併走する。形態：南北方向に直線的走る。途中に分岐地点があるが、その溝は150cm程度で収束する。主軸方位：N-5°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30~50cm、下幅5~30cm。確認面からの深さは最大8cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

6号溝 (第208図)

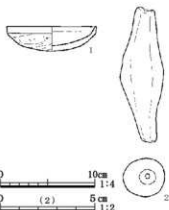
位置：調査区の西に位置している。10号住居跡・13号住居跡と重複し、本道構が新しい。形態：南北方向から約60°東に曲がる。主軸方位：N-63°-E。等高線に対して横走している。規模：上幅50~80cm、下幅40~70cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第208図 溝 (1)

11号溝 (第209・210図・図版22・45)

位置：調査区の北に位置している。形態：直線的に延びる溝である。断面は逆台形を呈し、底面は平坦である。主軸方位： $N-72^{\circ}-W$ 。等高線に対して、やや横走している。規模：上幅60~90cm、下幅20~60cm。確認面からの深さは5~20cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片のほか、土鍾が出土している。時期：不明。



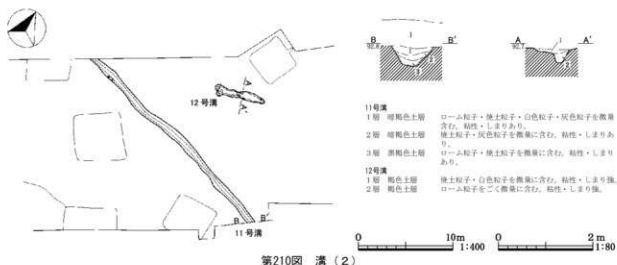
第209図 11号溝
出土遺物

11号溝 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径9.5, 器高2.6, B. 粘土組織み上げ。C. 外面, 口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面, ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一明褐色。F. 1/5。G. 内外面に粘土付着。H. 覆土。
2	土鍾	A. 長7.2, 幅2.3, 厚1.1。重23.5g。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。

12号溝 (第210図)

位置：調査区の北に位置している。形態：不整形な形態を呈する。底面は凹凸が多く、ビット状に落ち込む箇所も散見される。主軸方位： $N-80^{\circ}-E$ 。等高線に対して、縦走している。規模：上幅50~80cm、下幅20~60cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第210図 溝 (2)

13号溝 (第211・218図・図版46)

位置：調査区の東に位置している。112号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。東壁には、本遺構の覆土は確認されていないため、112号住居跡より古い可能性も考えられる。形態：蛇行せず、直線的に延びる溝である。主軸方位： $N-65^{\circ}-W$ 。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



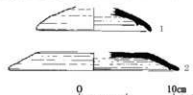
第211図 13号溝 出土遺物

13号溝 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径(20.4)。残存高7.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメズリ→上位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 破片。G. 内外面器面の荒れ著しい。H. 覆土。
---	---	--

14号溝 (第212・218図・図版45)

位置：調査区の南東に位置している。67号住居跡・68号住居跡・99号住居跡等と重複している。67号住居跡・68号住居跡より古い。形態：等高線に沿う形で東西方向から南北方向に緩やかに曲がっている。埋没谷へと合流する。掘り込みはしっかりしている。主軸方位：N-65° - EからN-12° - E。等高線に対して、併走している。規模：上幅40～80cm、下幅20～50cm。確認面からの深さは5～15cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以前。



第212図 14号溝 出土遺物

14号溝 出土遺物観察表

1	須恵器 坏蓋	A. 底径(12.2)。残存高2.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
2	須恵器 坏蓋	A. 底径(18.1)。残存高1.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。

15号溝 (第218図)

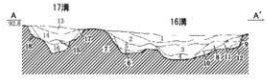
位置：調査区の東に位置している。111号住居跡・112号住居跡・113号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は不整形で、底面に凹凸があり、ビット状に落ち込む箇所も多い。主軸方位：N-37° - E。等高線と併走している。規模：上幅20～40cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：鉄分を含んだ覆土で埋没している。遺物：覆土より土器片が出土する。時期：古墳時代以降。

16号溝・17号溝 (第213～216・218図・図版22・23・45・46)

位置：調査区の南に位置している。北では16号溝・17号溝と分離しているが、南の埋没谷へと向かって合流している。埋没谷の覆土を切って構築される。形態：不整形を呈する。底面は起伏がある。17号溝は谷に向かって段をなして下る構造を呈する。主軸方位：N-20° - E。等高線に対して、縦走している。規模：16号溝部分・上幅50～310cm、下幅30～140cm。確認面からの深さは20～30cmを測る。17号溝部分・上幅50～120cm、下幅30cm。合流部分・上幅280～590cm、下幅180～540cm。確認面からの深さは20～30cmを測る。埋没状況：下層は泥砂層となっており、埋没谷に向かって水の流れがあったと思われる。上層はAs-Bを含む自然に埋没している。遺物：覆土より、土師器・須恵器・礫が出土している。時期：古墳時代後期以降。

16号溝 出土遺物観察表 (1)

1	坏	A. 口径(12.0)。残存高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 16号溝覆土。
2	坏	A. 口径11.6。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 16号溝覆土。
3	小形壺	A. 口径(10.5)。器高14.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 16号溝覆土。
4	高坏	A. 口径(20.6)。底径(15.7)。器高17.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。脚部上半タテナデ・下半ヨコナデ。内面、坏部ヨコナデ。脚部上半ヨコナデ・タテナデ・下半ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・赤色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 2/3。H. 16号溝覆土。

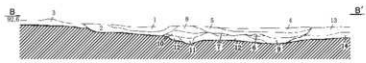


16号・17号溝 Aライン

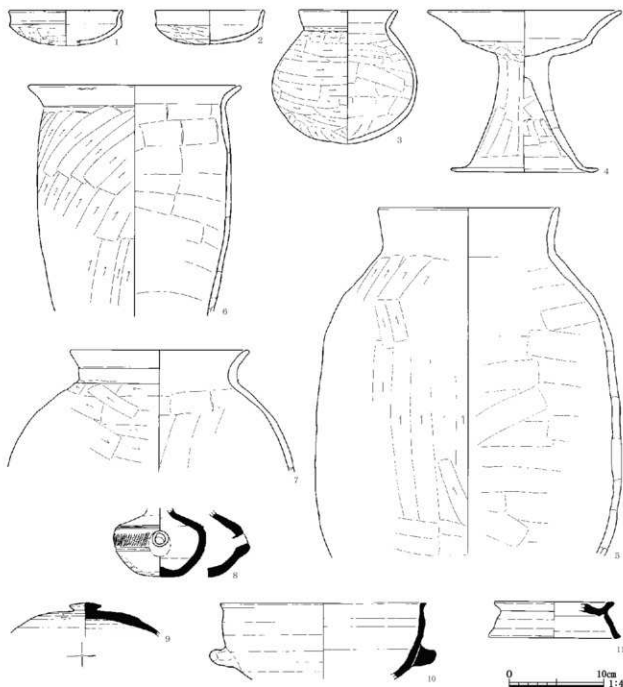
- 16号溝**
- 1層 明黒褐色土層 粘土粒子・炭化物粒子を少量、Ae-Bを微量、明黒色粘土ブロックを含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 明黒褐色土層 炭化物粒子・砂礫を少量、Ae-Bを微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 明褐色土層 炭化物粒子・砂礫を微量、鉄分を含む。粘性・しまり強。
 - 4層 明褐色土層 鉄分を多量、砂礫を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 - 5層 褐色土層 炭化物粒子・鉄分を少量、粘土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 - 6層 暗灰褐色土層 鉄分を中量、炭化物粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまり強。
 - 7層 茶褐色土層 明褐色粘土を中量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 - 8層 明黒褐色土層 砂礫・鉄分を中量、粘土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまり強。
 - 9層 暗褐色土層 砂礫を多量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 10層 暗褐色土層 砂礫を多量、鉄分を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 - 11層 暗褐色皮砂礫 砂礫主体層。鉄分を多量含む。粘性なし。しまり強。
 - 12層 茶褐色皮砂礫 砂土体層。鉄分を多量、砂礫を微量含む。粘性なし。しまりあり。
- 17号溝**
- 13層 明黒褐色土層 炭化物粒子を少量、Ae-Bを微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 14層 明黒褐色土層 砂礫を少量、炭化物粒子・Ae-Bを微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 15層 暗褐色土層 炭化物粒子・灰褐色粘土・鉄分を少量含む。粘性・しまり強。
 - 16層 暗灰褐色土層 炭化物粒子・灰褐色粘土を少量、砂礫を最下層に微量含む。粘性・しまり強。
 - 17層 暗茶褐色土層 炭化物粒子を少量、灰褐色粘土・鉄分を含む。粘性・しまりあり。
 - 18層 暗茶褐色土層 17層に類似するが、鉄分と炭化物粒子の含有が少くない。

Bライン

- 1層 暗茶褐色土層 粘土粒子・鉄分を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗茶褐色土層 鉄分を多量、炭化物粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
- 3層 明褐色土層 炭化物粒子を少量含む。粘性強。しまりあり。
- 4層 明黒褐色土層 砂礫を中量、炭化物粒子・Ae-Bを少量含む。粘性・しまりあり。
- 5層 明黒褐色土層 炭化物粒子・鉄分を少量、砂礫・Ae-Bを微量に含む。粘性・しまりあり。
- 6層 暗茶褐色土層 炭化物粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
- 7層 暗茶褐色土層 鉄分を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
- 8層 明褐色土層 鉄分を多量、炭化物粒子・砂礫を少量含む。粘性・しまりあり。
- 9層 明黒褐色土層 鉄分を少量、炭化物粒子・Ae-Bを微量に含む。粘性・しまりあり。
- 10層 暗褐色土層 砂礫・鉄分を少量、炭化物粒子を微量に含む。粘性強。しまりあり。
- 11層 茶褐色土層 砂礫・鉄分を中量、砂礫を少量含む。粘性やや弱。しまり強。
- 12層 暗赤褐色皮砂礫 砂礫主体層。鉄分を多量に含む。粘性なし。しまり強。
- 13層 灰白色砂利層 砂礫主体層。地山の一部分が粘性なし。しまり強。
- 14層 暗褐色皮砂利層 砂礫主体層だが、13層よりその割合が高い。粘性なし。しまり強。



第213図 溝 (3)



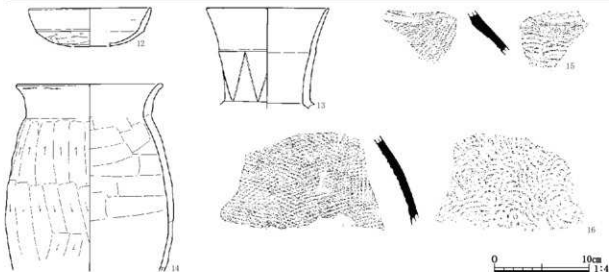
第214図 16号溝 出土遺物

16号溝 出土遺物観察表(2)

5	甕	A. 口径19.2, 残存高36.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテズリ→下位ヨコナデ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・白色粒子・角閃石, E. 内-にふい黄橙色, 外-にふい橙色, F. 1/5, H. 16号溝覆土。
6	甕	A. 口径(22.6), 残存高24.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部ナナメズリ, 内面、ヨコナデ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内外-橙色, F. 口縁部~胴部1/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 16号溝覆土。
7	壺	A. 口径(19.0), 残存高12.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部ナナメズリ, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・赤色粒子, E. 内外-橙色, F. 口縁部~胴部上半1/3, H. 16号溝覆土。
8	須恵器 甕	A. 残存高7.3, B. ロクロ成形, C. 外面、回転ナデ→胴部中位横走二重辻線間に櫛歯状工具による刺突, 胴部下位ヨコズリ, 内面、回転ナデ, D. 黒色粒子, E. 内外-灰色, F. 胴部完形, G. 還元焼成, 外面胴部上位に自然釉, 湖西部, H. 16号溝覆土。
9	須恵器 坏蓋	A. 横み径3.3, 残存高3.6, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 外面天井部回転ズリ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内-灰黄色, 外-灰オリーブ, F. 1/3, G. 還元焼成, 内面に焼成後線刻あり, H. 16号溝覆土。

16号溝 出土遺物観察表 (3)

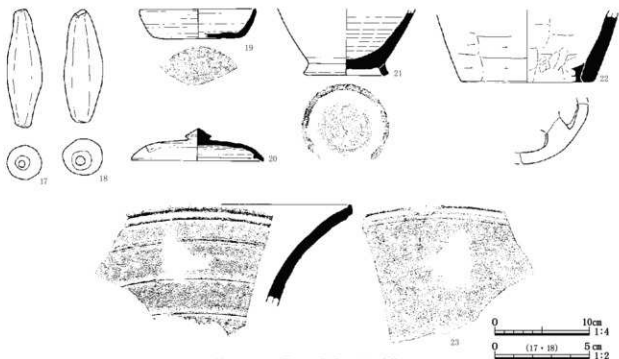
10	須恵器鉢	A. 口径21.8、残存高8.0、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ、外面、体部取手貼付。D. 角閃石・白色粒子・黒色粒子。E. 内外一灰白色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 16号溝覆土。
11	須恵器椀	A. 口径12.7、底径14.0、器高3.8、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 1/5。G. 還元焼成。H. 16号溝覆土。



第215図 17号溝 出土遺物

17号溝 出土遺物観察表

12	坏	A. 口径13.0、残存高4.0、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 17号溝覆土。
13	壺	A. 口径(13.0)、残存高10.6、B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ、口縁部突帯以下に細い線刻・刺歯文あり。D. 赤色粒子。E. 内外一橙色。F. 口径部1/2。H. 17号溝覆土。
14	甕	A. 口径15.5、残存高20.0、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一橙色。F. 口縁部~胴部上半1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 17号溝覆土。
15	須恵器壺	B. タタキ成形。C. 外面、縄目状工具によるタタキ→カキ目。内面、同心円文当て具痕。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 17号溝覆土。
16	須恵器壺	B. タタキ成形。C. 外面、縄目状工具によるタタキ→カキ目。内面、同心円文当て具痕。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 17号溝覆土。



第216図 16号・17号溝 出土遺物

16号・17号溝 出土遺物観察表

17	土鐘	A. 長6.2, 幅1.9, 厚0.8, 重17.47。B. 手握ね。C. ナデ。D. 石英・白色粒子・赤色粒子。E. 棕色。F. 完形。H. 16・17号溝覆土。
18	土鐘	A. 長6.0, 幅2.0, 厚1.1, 重17.47。B. 手握ね。C. ナデ。D. 片岩・白色粒子。E. にぶい黄棕色。F. 完形。H. 16・17号溝覆土。
19	須恵器 環	A. 口径(12.4)。底径(9.6)。器高3.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部ケズリ。D. 片岩・石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 1/5。G. 藤岡産。H. 16・17号溝覆土。
20	須恵器 環蓋	A. 換み径2.7。口径14.0。器高3.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一灰白色。外一灰色。F. 1/5。G. 還元焼成。藤岡産。H. 16・17号溝覆土。
21	須恵器 握ね鉢	A. 底径9.0。残存高7.0。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ。底部回転へラ切り→高台貼付。内面回転ナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内外一灰色。F. 胴部下位～底部ほぼ完形。G. 還元焼成。H. 16・17号溝覆土。
22	須恵器 甌	A. 底径(14.0)。残存高7.3。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→回転ケズリ。底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石・黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 16・17号溝覆土。
23	須恵器 壺	B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面に突帯と櫛齒状文。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 16・17号溝覆土。

21号溝 (第4図)

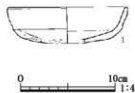
位置：調査区の中央に位置している。57号住居跡・78号住居跡・23号溝と重複する。住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。形態：やや蛇行するが、南東方向へと走る。主軸方位：N-52°-E・W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30～40cm、下幅10～20cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以降。

22号溝 (第4図)

位置：調査区の中央に位置している。114号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向に直線的に延びる溝である。主軸方位：N-3°-W。等高線と併走している。規模：上幅20～30cm、下幅10～20cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：不明。

23号溝 (第4・217図・図版46)

位置：調査区の中央に位置している。21号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：1m未満の溝である。主軸方位：N-90°-E・W。等高線に対して、縦走している。規模：非常に短い。上幅20cm、下幅10cm。確認面からの深さは5～15cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



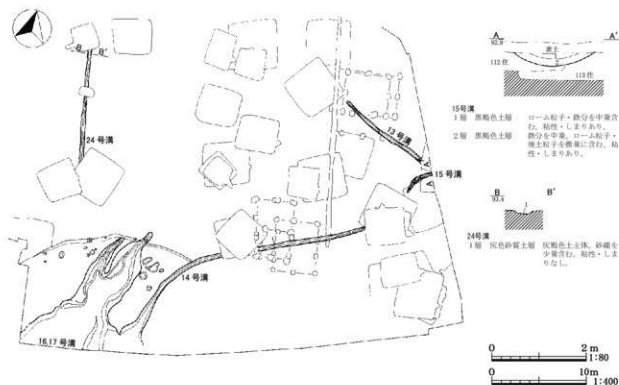
第217図 23号溝
出土遺物

23号溝 出土遺物観察表

1	環	A. 口径(12.7)。残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ→ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一明褐色。F. 1/3。H. 覆土。
---	---	---

24号溝 (第218図)

位置：調査区の中央よりやや東に位置している。55号住居跡・56号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：南北方向に直線的に延びる。底面は平坦である。主軸方位：N-8°-W。等高線と併走している。規模：上幅20～30cm、下幅10～20cm。確認面からの深さは最大5cmを測る。埋没状況：灰色の砂質土で埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以降。

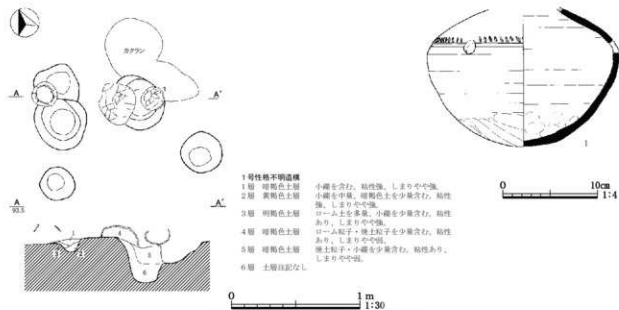


第218図 溝(4)

5. 性格不明遺構

1号性格不明遺構(第219図、図版23・46)

調査区の南で、ビット状の掘り込みとともに須恵器の大形甕と土師器が出土している。西に倒木痕が検出されており、何らかの関連性のあるものと思われる。



第219図 1号性格不明遺構・出土遺物

1号性格不明遺構 出土遺物観察表

1	須恵器 甕	A. 残存高14.7。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ→胴部上位櫛歯状工具による刺突文、下位はナデ。内面、回転ナデ→下位ニビオサエ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 胴部4/5。G. 還元焙焼成。孔は二つ。藤岡産。H. 覆土。
---	----------	--

第IV章 秋山諏訪平遺跡—D・E・F地点の調査—

第1節 遺跡の概要

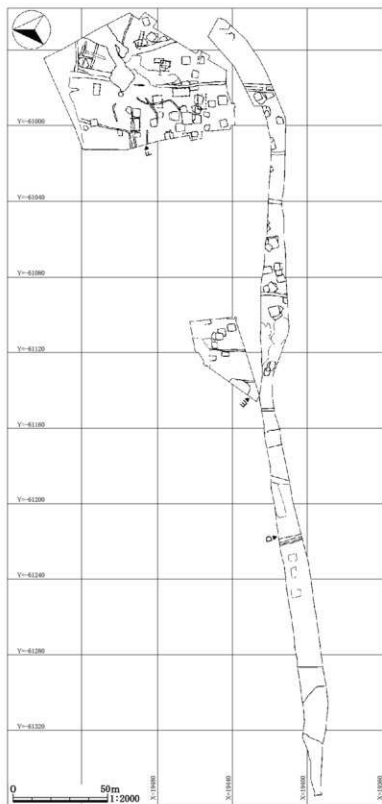
本報告では、秋山諏訪平遺跡の内、D・E・F地点を所収している。A～C地点は、諏訪山周辺に位置しており、D～F地点は、秋山諏訪平遺跡内においては最も北に立地してる。

本遺跡からは、竪穴住居跡が82軒(古墳時代後期38軒、奈良時代5軒、平安時代16軒、時期不明23軒)、掘立柱建物跡がF地点でのみ5棟、土坑が204基、溝が38条、井戸が5基、溜井が5基、道路状遺構が1条、性格不明遺構が1基検出された。

住居跡は、各調査地点で検出され、近接する秋山大町遺跡・秋山大町東遺跡ほどの軒数はないが、古墳時代後期から平安時代まで継続的に集落が展開している。

中でも特筆すべきは、灌漑施設である溜井と井戸である。溜井は、D地点に3基、E地点に1基、F地点に1基と合計で5基検出される。井戸はF地点で5基確認され、2～4号井戸は5号溜井内で、5号井戸もまた、溜井に近接して掘削されており、同等の性格を担っていたものと思われる。E地点の4号溜井からは、「中」の刻印のある平瓦が出土しており、国分寺瓦であろう。

F地点では、中世の掘立柱建物跡が検出される他、西には、溝・



第220図 秋山諏訪平遺跡 全体図

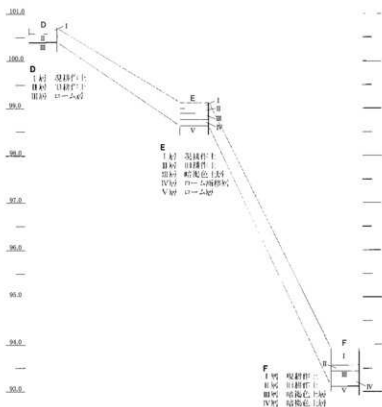
ピット・土坑の集中する地帯がある。ここに所在する39Pの覆土からは、金銅製の小仏像も出土している。

第2節 基本土層(第221図)

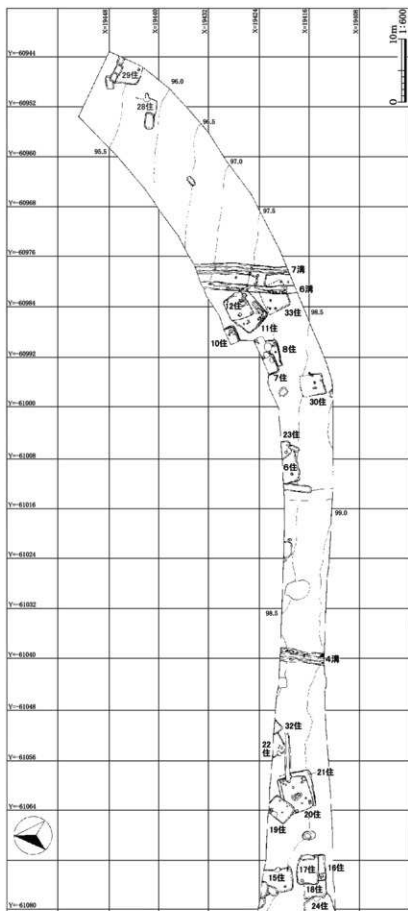
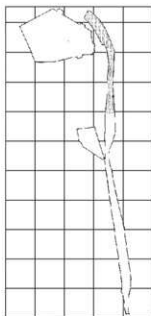
各調査区の基本層序は第221図の通りである。調査区ごとに基本層序を設定しているため、統一した層序とすることが困難であった。よって、各調査区ごとに異なる土層番号を付して報告する。

As-Aを含む耕作土を最上層とし、この下層には旧耕作土、暗褐色土層が確認される。E地点においては、ローム漸移層が残存しているが、この他の地点では削平され、耕作土・暗褐色土層直下が地山となるローム層となっている。基本的にローム層を遺構確認面としている。

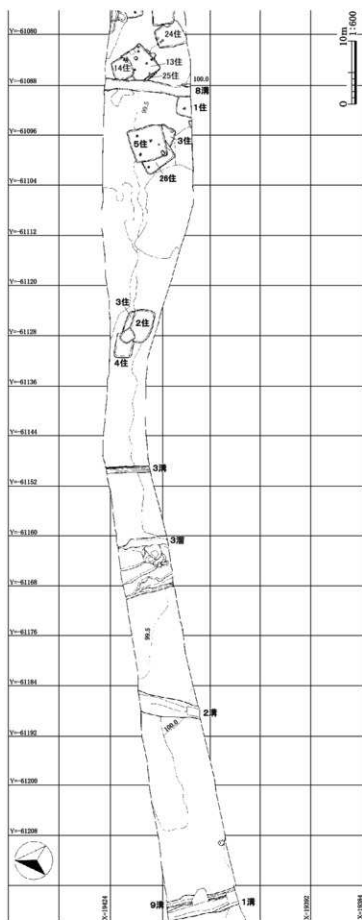
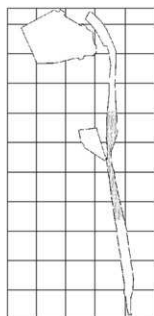
標高は101mから93m、西から東に傾斜する地形となっている。本遺跡の南には諏訪山が位置しており、周辺地形は南北に傾斜している。本遺跡においても、D地点の南東部で標高99m、F地点の北では91mを測り、南から北に向かって下っている。また、F地点の北は旧河道となっており、更に急激な落ち込みを呈している。



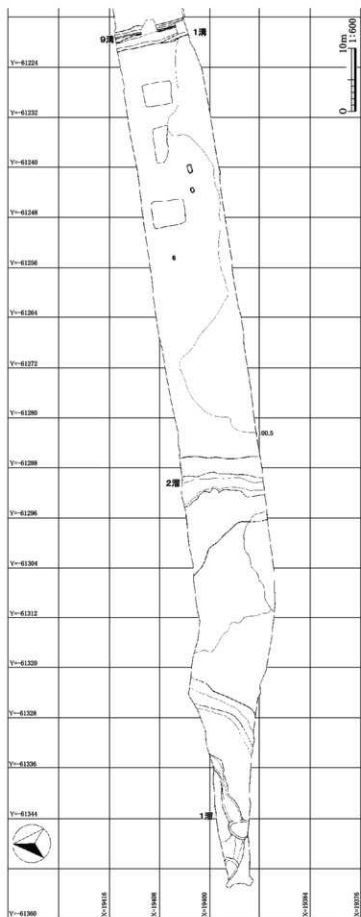
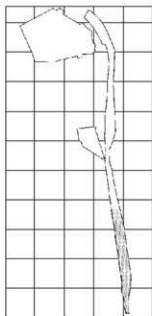
第221図 秋山諏訪平遺跡 基本土層



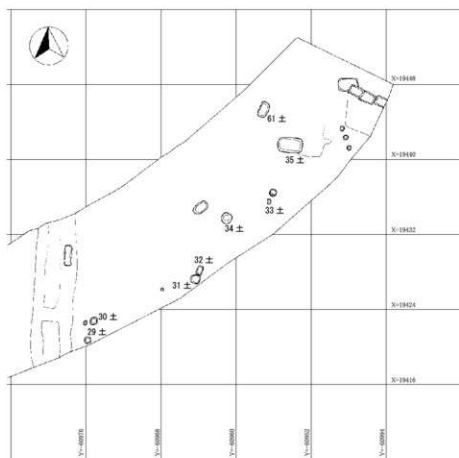
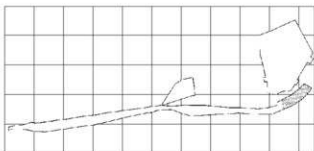
第222図 諏訪平遺跡 D地点 全体図①



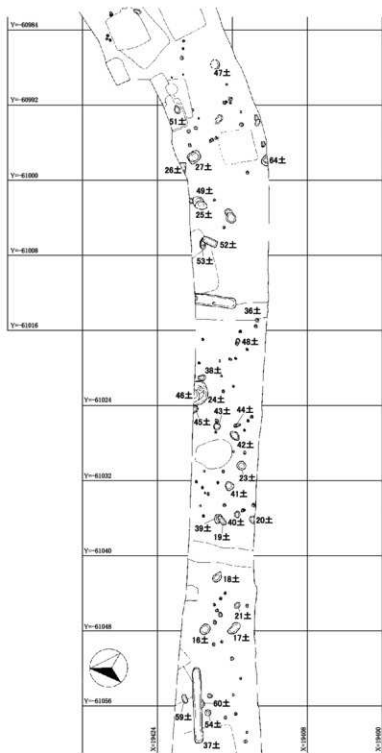
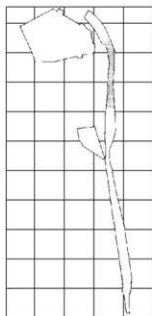
第223図 諏訪平遺跡 D地点 全体図②



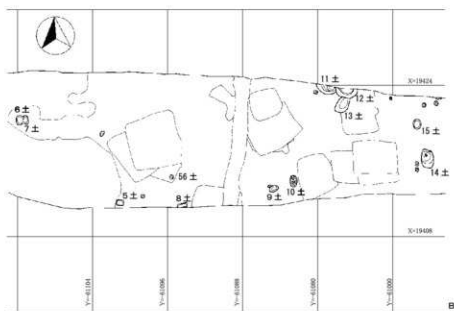
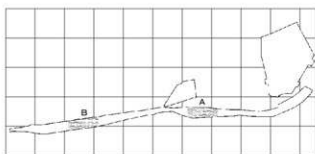
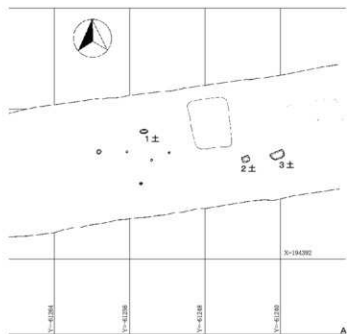
第224図 諏訪平遺跡 D地点 全体図③



第225図 諏訪平遺跡 D地点 土坑・ピット配置図①



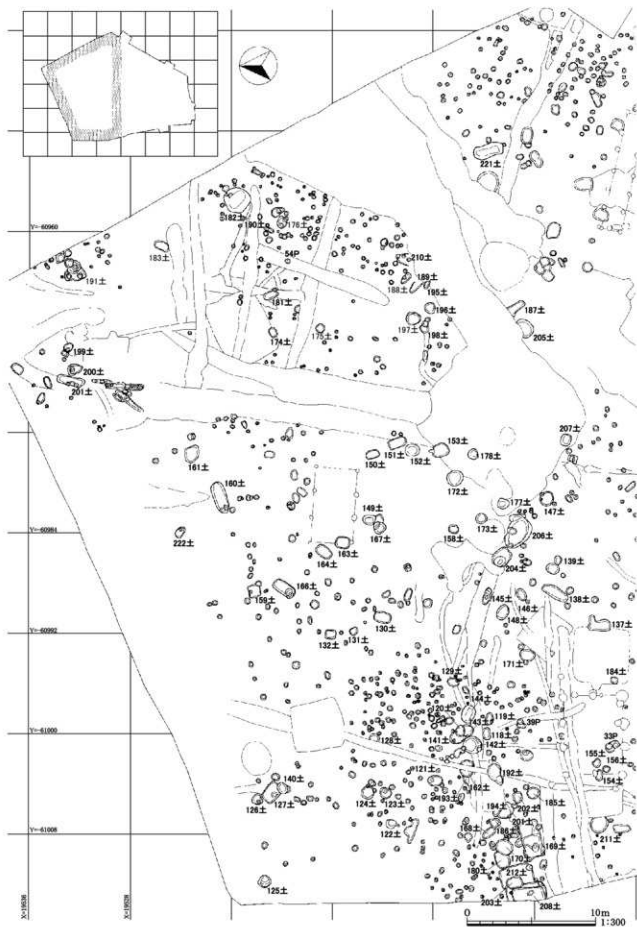
第226図 諏訪平遺跡 D地点 土坑・ピット配置図②



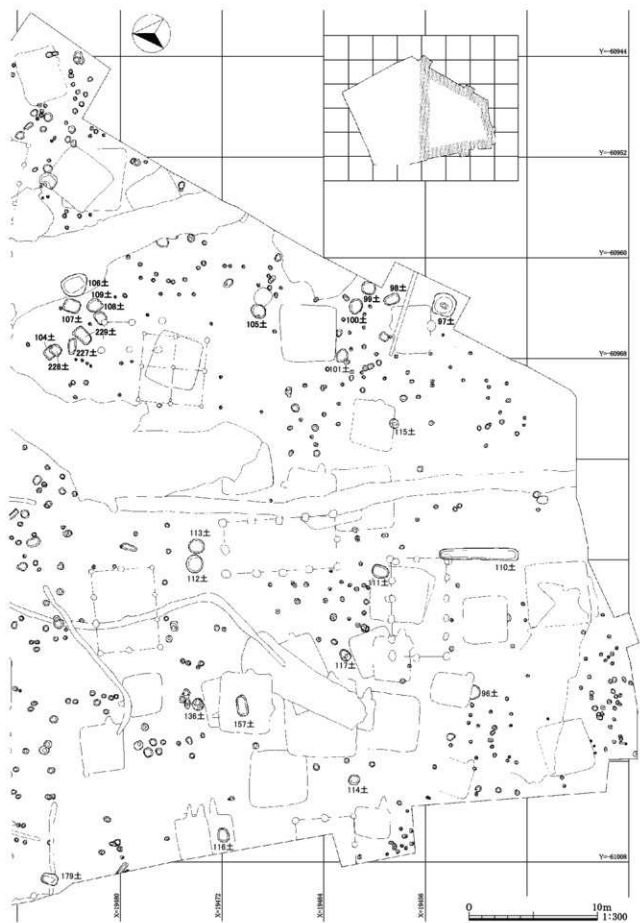
第227図 諏訪平遺跡 D地点 土坑・ピット配置図③



第229図 諏訪平遺跡 F地点 全体図



第230図 諏訪平遺跡 F地点 土坑・ピット配置図①



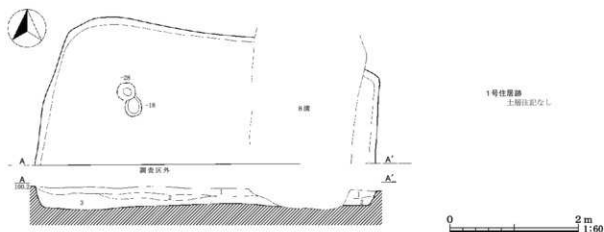
第231図 諏訪平遺跡 F地点 土坑・ピット配置図②

第3節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

1号住居跡 (第232図、図版48)

位置：D地点に位置している。8号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。規模：長軸5.30m。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土器片が出土している。いずれも小片のため図示できなかった。時期：不明。



第232図 1号住居跡

2号住居跡 (第233・234・235図、図版48・72・73)

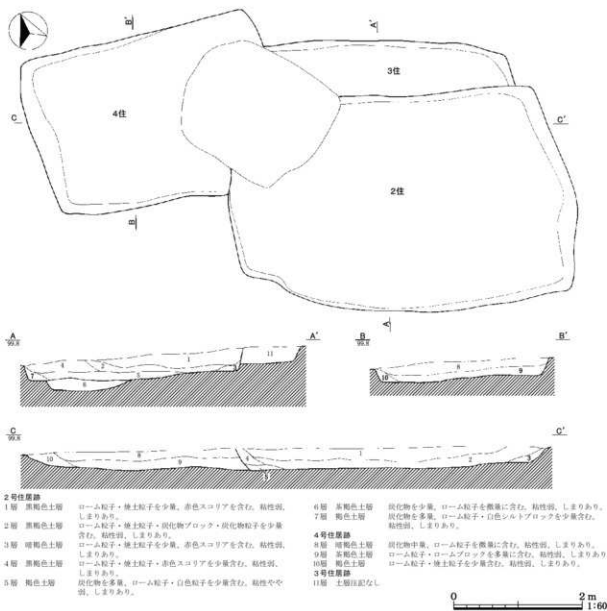
位置：D地点に位置している。3号住居跡・4号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-68°-W。規模：長軸5.55m、短軸3.45m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土中より多数出土している。しかし、3号・4号住居跡と一括で取り上げてしまっているため、帰属する遺構が不明となっている。時期：平安時代か。

3号住居跡 (第233・234・235図、図版48・72・73)

位置：D地点に位置している。2号住居跡と重複し、本遺構が古い。4号住居跡とも重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-70°-W。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：前述したように、遺物は2号・4号住居跡と一括して取り扱われている。時期：古墳時代。

4号住居跡 (第233・234・235図、図版48・72・73)

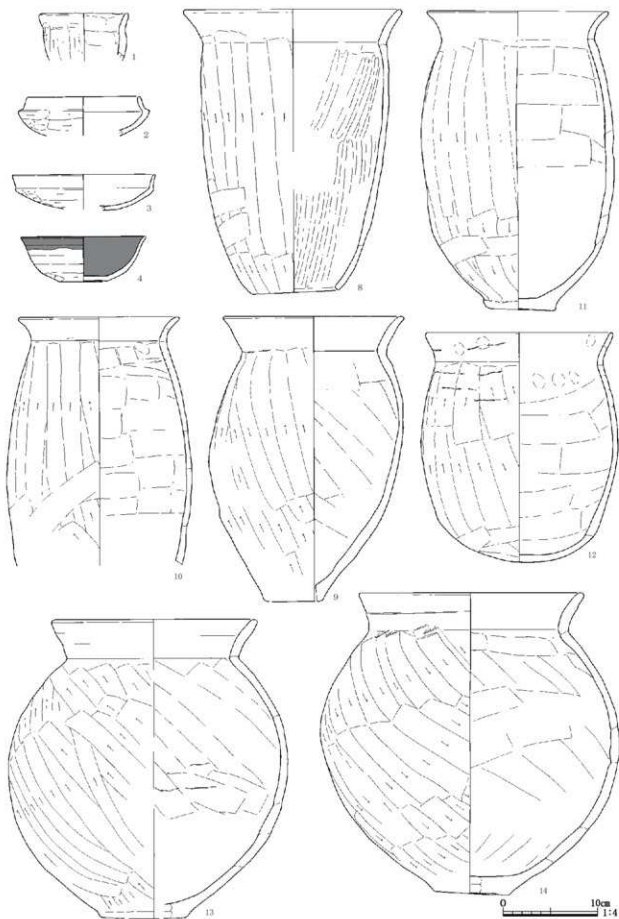
位置：D地点に位置している。2号住居跡と重複し、本遺構が古い。3号住居跡とも重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-81°-W。規模：長軸3.88m、短軸2.70m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：前述したように、遺物は2号・3号住居跡と一括して取り扱われている。時期：古墳時代。



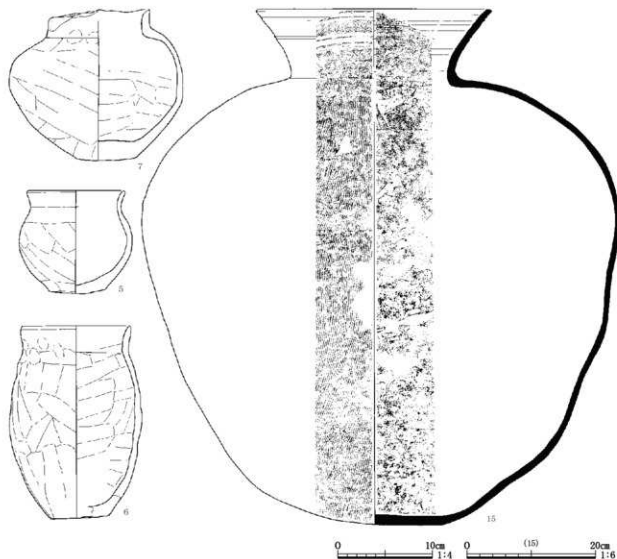
第233図 2号・3号・4号住居跡

2～4号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	ミニチュア	A. 口径9.4, 残存高5.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・白色粒子, E. 内外一褐色, F. 1/2, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
2	坏	A. 口径(11.8), 残存高4.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内一黄灰色, 外一褐色, F. 1/5, G. 内面, 黒色処理又は焼成時の黒斑, H. 覆土。
3	坏	A. 口径15.1, 残存高3.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石, E. 内外一にぶい褐色, F. 1/2, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
4	乳歯器 坏	A. 口径(13.2), 底径(5.1), 器高4.7, B. ロック形成, C. 外面, 回転ナデ→体部下ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・ナデ, E. 内外一にぶい褐色, F. 1/4, G. 内面・外面口縁部に黒色処理, 酸化塩焼成, H. 覆土。
5	小形甕	A. 口径(10.4), 底径6.0, 器高10.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ナメナデ→上位・下位ヨコナデ, 底部ケズリ・ナデ, 内面, ナデ, D. 片岩・石英, E. 内一にぶい赤褐色, 外一にぶい褐色, F. 2/3, G. 外面二次被熱か, 内面胴部にヨゴレ, H. 覆土。
6	小形甕	A. 口径(11.3), 底径6.1, 器高20.4, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部タテヘナメナデ, 底部ナデ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石, E. 内一褐色, 外一にぶい褐色, F. 3/4, G. 内外面器面荒れる, H. 覆土。
7	壺	A. 口径(10.7), 底径6.3, 器高16.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ナメナデ, 底部ケズリ・ナデ, 内面, ヨコナデ, D. 雲母・白色粒子, E. 内外一褐色, F. 3/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, 口縁部は, 輪積みで割れた部分を転用している, 疑口縁, H. 覆土。



第234图 2~4号住居跡 出土遺物(1)



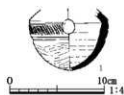
第235図 2～4号住居跡 出土遺物(2)

2～4号住居跡 出土遺物観察表(2)

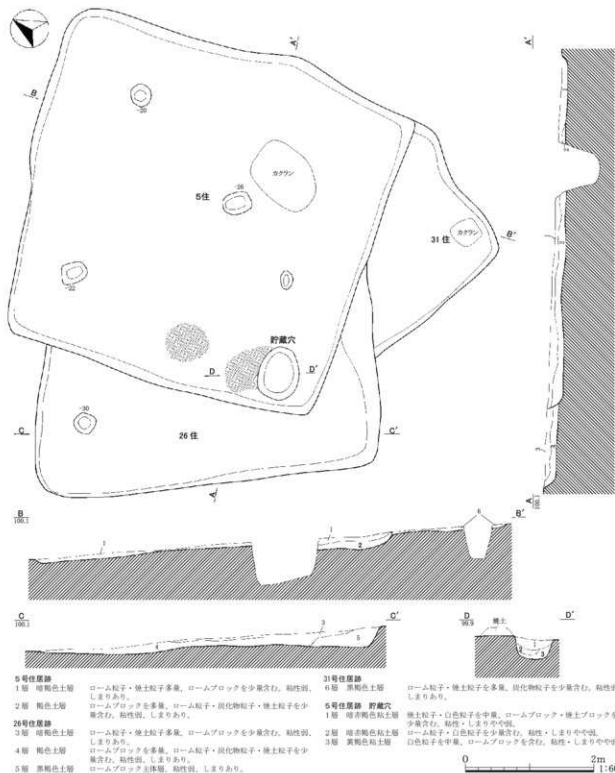
8	大形甕	A. 口径23.3, 底径9.2, 器高30.2, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→一部ヨコナデ, 内面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコナデ→タテミガキ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外一橙色, F. 4/5, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
9	甕	A. 口径(19.2), 底径(6.2), 残存高30.2, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, 口縁部～胴部上位ヨコナデ, 胴部タテ→ナメナデ, D. 石英・角閃石・白色粒子, E. 内一橙色, 外一にぶい赤褐色, F. 1/2, G. 外面胴部下位二次被熱か, H. 覆土。
10	甕	A. 口径(17.0), 残存高26.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→中位ヨコナデ, 内面, ヨコナデ, D. 白色粒子・石英, E. 内外一にぶい橙色, F. 口縁部～胴部上半2/3, H. 覆土。
11	甕	A. 口径19.2, 底径7.4, 器高31.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→一部ヨコナデ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・角閃石・片岩, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 3/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
12	甕	A. 口径(19.8), 器高24.4, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部タテケズリ→下位ヨコナデ, 内面, 口縁部～胴部上位ヨコナデ・ユビオサエ, 胴部ヨコナデ, D. 石英・片岩・白色粒子, E. 内外一橙色, F. 1/3, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
13	壺	A. 口径(21.7), 底径(9.4), 器高31.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ナメケズリ, 底部ナデ, 内面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ナメナデ, D. 石英・白色粒子・角閃石, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 1/2, G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
14	壺	A. 口径23.8, 底径(8.0), 器高32.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ナメケズリ, 底部ケズリ, 内面, ナデ, D. 片岩・石英・白色粒子, E. 内一明黄褐色, 外一灰黄褐色, F. 3/4, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
15	須恵器大甕	A. 口径(37.4), 器高80.5, B. 胴部タテキ成形, 口縁部ロク口成形, C. 外面, 口縁部回転ナデ→櫛描波状文, 胴部平行タテキ目→一部ナデ, 内面, 口縁部回転ナデ, 胴部同心円文当て具痕→ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一灰色, G. 胴部下半に2カ所, 焼き台のへこみあり, 陶色産か, F. 3/4, H. 覆土。

5号住居跡 (第236・237図、図版48・72)

位置：D地点に位置している。26号住居跡・31号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-80.5°-W。
規模：長軸5.68m、短軸5.42m。カマド：西壁に周辺に焼土の分布がみら



第236図 5号・26号住居跡 出土遺物



第237図 5号・26号・31号住居跡

れる。カマドの痕跡だと考えられる。貯蔵穴：カマド跡に向かって左に位置する楕円形のピットが貯蔵穴であろう。西側には焼土が厚く堆積している。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から出土している。時期：古墳時代。

26号住居跡（第236・237図、図版48・72）

位置：D地点に位置している。5号住居跡・31号住居跡と重複し、前者より古く、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位：N-37°-W。規模：長軸5.45m。柱穴：1本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

31号住居跡（第237図、図版48）

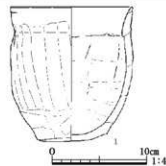
位置：D地点に位置している。5号住居跡・26号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。主軸・規模：不明。形態：南東コーナーのみの残存のため、平面形は不明だが方形を呈すると思われる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。

5号・26号住居跡 出土文物観察表

1	須恵器 壺	A. 残存高6.5。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ一胴部中位横走沈線内に櫛状工具にゆる刺突文、胸部下位ヨコケズリ。内面、回転ナデ。D. 黒色粒子。E. 内外一灰色。F 破片。G. 外面胸部に自然釉。購入、東海産。H. 覆土。
---	----------	--

6号住居跡（第238・240図、図版48・72）

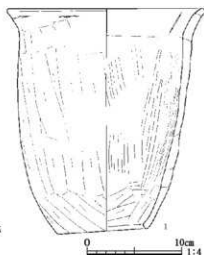
位置：D地点に位置し、北半分は調査区外となる。23号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-12.5°-W。規模：不明。柱穴：4本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第238図 6号住居跡 出土遺物

23号住居跡（第239・240図、図版52・75）

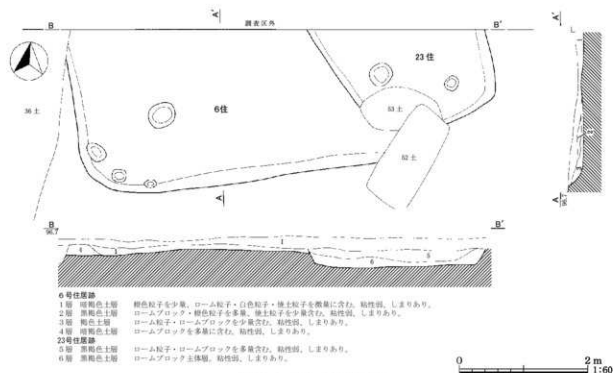
位置：D地点に位置し、北半分は調査区外へと延びる。6号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-24°-W。規模：長軸2.34m。柱穴：2本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



第239図 23号住居跡
出土遺物

6号住居跡 出土文物観察表

1	小形壺	A. 口径13.1。底径7.3。器高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胸部下位ヨコナデ→中位以上タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内一に赤い褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ方形。G. 外面二次被熱。内面、口縁部～胸部中位スス付着。H. 覆土。
---	-----	---



第240図 6号・23号住居跡

23号住居跡 出土遺物観察表

1	大形瓶	A. 口径21.0、底径9.4、器高23.8。B. 粘土粘り上げ。C. 外面、口縁部コナダ。胴部タテケズリ。内面、口縁部コナダ。胴部ナデータテミガキ。胴部下位コケズリ。D. 石英・チャート・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一褐色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒炭あり。H. 覆土。
---	-----	--

7号住居跡 (第241図、図版48・49)

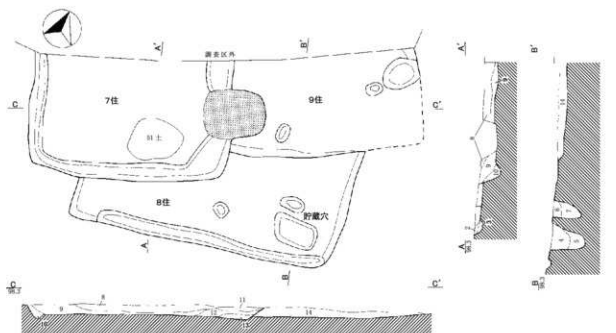
位置：D地点に位置している。9号住居跡・8号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-67°-E。規模：長軸3.14m。カマド：東壁に付設される。周溝：カマド部分以外から検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

8号住居跡 (第241・242図、図版48・49・72)

位置：D地点に位置している。7号住居跡・9号住居跡と重複する。7号住居跡よりも古く、9号住居跡との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈すると思われる。主軸方位：N-79°-E。規模：長軸4.21m。貯蔵穴：南東コーナーに位置する長方形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：2本確認される。周溝：南壁沿いに検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴内より須恵器・土師器が集中して出土している。時期：古墳時代後期。

9号住居跡 (第241図、図版48)

位置：D地点に位置している。南東コーナーは削平により消滅しており、残存状況はあまり良くない。7号住居跡・8号住居跡と重複している。7号住居跡よりも古く、8号住居跡との新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-68°-E。規模：不明。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



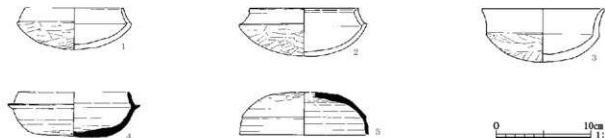
8号住居跡

- 1層 褐色土層
2層 暗褐色土層
3層 褐色土層
4層 褐色土層
5層 暗褐色土層
6層 褐色土層
7層 茶褐色土層
- ローム粒子主体層、粘性弱、しまりあり。
ローム粒子を少量、炭化物粒子・黄色粒子を散在に含む、粘性弱、しまりあり。
ローム粒子を多量に含む、粘性弱、しまりあり。
ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子・炭化物粒子・焼土粒子を少量含む、粘性弱、しまりあり。
しまりあり。
ローム粒子・黄色粒子を少量含む、粘性弱、しまりあり。
ローム粒子・ロームブロック・黄色粒子を少量含む、粘性弱、しまりあり。

7号住居跡

- 8層 暗褐色土層
9層 茶褐色土層
10層 暗褐色土層
11層 暗褐色土層
12層 暗褐色土層
13層 茶褐色土層
14層 暗褐色土層
- ローム粒子を多量、炭化物を少量含む、粘性弱、しまりあり。
ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を少量含む、粘性弱、しまりあり。
ローム粒子・ロームブロックを少量含む、粘性弱、しまりあり。
焼土粒子・炭化物粒子を少量含む、粘性弱、しまりあり。
炭化物粒子・炭化物ブロックを多量、ローム粒子・焼土粒子を少量含む、粘性弱、しまりあり。
炭化物を少量含む、粘性弱、しまりあり。
ロームブロックを多量、炭化物を少量含む、粘性あり、しまりあり。

第241図 7～9号住居跡



第242図 8号住居跡 出土遺物

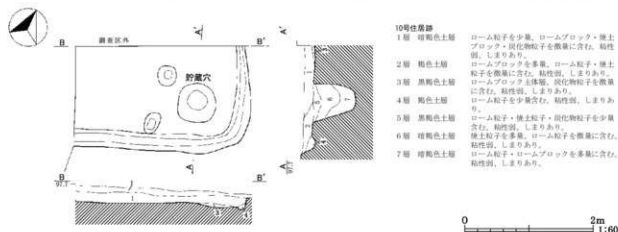
8号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径10.4. 器高4.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内一黒褐色. 外一灰黄褐色. F. ほぼ完形. H. 覆土.
2	坏	A. 口径(11.6). 器高5.1. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内一黒褐色. 外一褐灰色. F. 4/5. H. 柱穴.
3	坏	A. 口径13.0. 器高5.7. B. 粘土組織み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一棕色. F. 完形. G. 内外面痕痕状に剝離する. H. 覆土.
4	須恵器 坏身	A. 口径(11.6). 器高4.8. B. ロクロ成形. C. 外面、回転ナデ→底部回転ケズリ. 内面、回転ナデ. D. 石英. E. 内外一灰色. F. 2/3. G. 摺入品. H. 貯蔵穴.
5	須恵器 坏蓋	A. 口径(13.8). 器高4.5. B. ロクロ成形. C. 外面、回転ナデ→天井部回転ケズリ. 内面、回転ナデ. D. 白色粒子. E. 内外一灰色. F. 1/2. G. 外面に自然粘. 摺入品. H. 貯蔵穴.

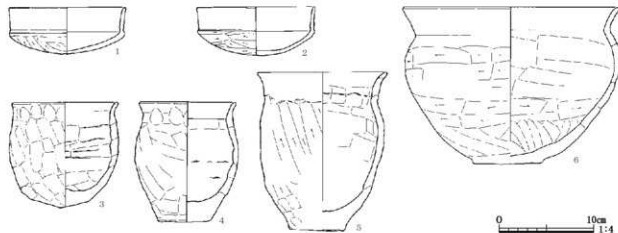
10号住居跡 (第243・244図、図版49・74)

位置：D地点に位置している。全体の1/4程度、南東コーナー部分のみの検出である。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-65°-E。規模：不明。貯蔵穴：南東コーナーに位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：2本確認される。周溝：検出された部分では全周している。

埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴から土器が多数出土している。時期：古墳時代後期。



第243図 10号住居跡



第244図 10号住居跡 出土遺物

10号住居跡 出土遺物観表

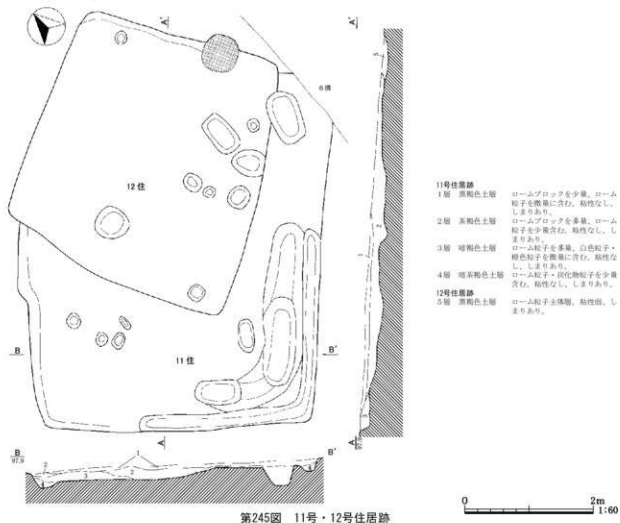
1	坏	A. 口径12.4. 器高4.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. ほぼ完形. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.
2	坏	A. 口径12.5. 器高5.1. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子. E. 内外一橙色. F. 4/5. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
3	小形甕	A. 口径11.2. 器高11.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ. 胴部タテナデ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 4/5. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	小形甕	A. 口径10.2. 底径5.6. 器高12.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ. 胴部タテナデ. 底部下ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一にぶい赤褐色. F. 2/3. G. 内外面二次被熱. H. 貯蔵穴.
5	小形甕	A. 口径13.8. 底径6.0. 器高16.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ナデ. 底部ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・片岩. E. 内外一にぶい橙色. F. 2/3. G. 外面胴部下位に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
6	鉢	A. 口径22.9. 底径7.3. 器高16.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部下位ナメナデ→上中位ヨコケズリ. 底部ケズリ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヨコケズリ→上位ヨコナデ・下位タテナデ. D. 白色粒子. E. 内一にぶい赤褐色. 外一赤褐色. F. 2/3. G. 内外面二次被熱. H. 覆土.

11号住居跡 (第245図、図版49)

位置：D地点に位置している。12号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-49°-E。規模：長軸5.54m、短軸4.53m。柱穴：6本確認される。周溝：南東コーナー部分に二重に検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴より土器師の坏が出土しているようだ。時期：古墳時代。

12号住居跡 (第245図、図版49・50)

位置：D地点に位置している。11号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-58°-E。規模：長軸4.13m、短軸3.32m。カマド：東壁に付設される。柱穴：9本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：貯蔵穴より土師器の坏が出土しているようだ。時期：古墳時代。



13号住居跡 (第246・247図、図版50・74)

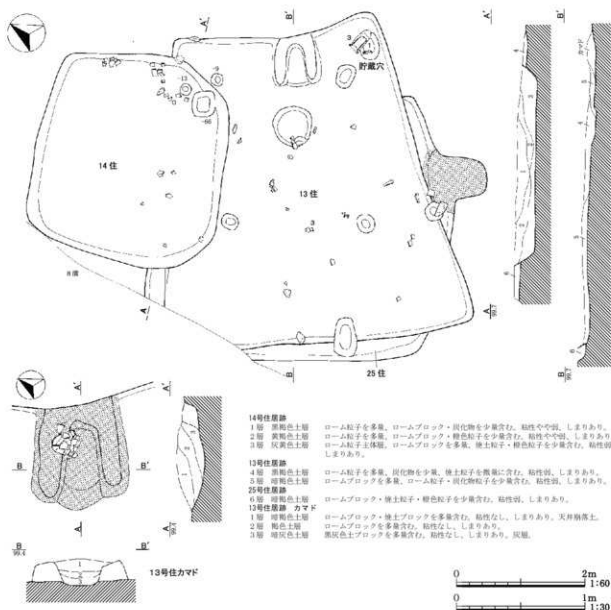
位置：D地点に位置している。14号住居跡・25号住居跡と重複する。14号住居跡より古く、25号住居跡より新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-56°-E。規模：長軸5.01m、短軸4.57m。カマド：東壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される楕円形のピットが貯蔵形であろう。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：貯蔵穴よりほぼ完形の坏と甕が出土した。時期：古墳時代。

14号住居跡 (第246・247図、図版50・75)

位置：D地点に位置している。13号住居跡・25号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-14°-W。規模：長軸3.32m、短軸3.03m。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：東壁周辺に分布する。時期：平安時代。

25号住居跡 (第246図、図版53)

位置：D地点に位置している。13号住居跡・14号住居跡と重複し、本遺構が最も古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-33°-E。規模：長軸4.50m、短軸4.12m。カマド：南壁に付設される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



14号住居跡

1層 赤褐色土層
2層 灰褐色土層
3層 灰黄色土層

ローム粒子を多量、ロームブロック・炭化物を少量含む。粘性やや弱、しまりあり。
ローム粒子を多量、ロームブロック・褐色粒子を少量含む。粘性やや弱、しまりあり。
ローム粒子を多量、ロームブロックを多量、焼土粒子・褐色粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。

13号住居跡

4層 赤褐色土層
5層 赤褐色土層

ローム粒子を多量、炭化物を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性弱、しまりあり。
ロームブロックを多量、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。

25号住居跡

6層 赤褐色土層

ロームブロック・焼土粒子・褐色粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。

13号住居跡 カマド

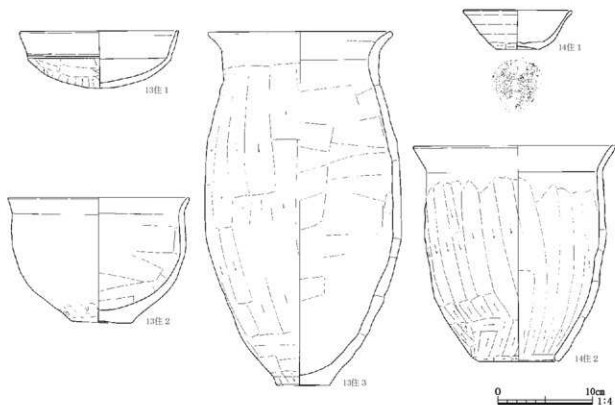
1層 赤褐色土層
2層 褐色土層
3層 暗灰色土層

ロームブロック・焼土ブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。天井崩壊土。
ロームブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。
黒灰色土ブロックを多量含む。粘性なし、しまりあり。灰層。

第246図 13号・14号・25号住居跡

13号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径16.7、器高6.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリー上位ナデ、内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。
2	鉢	A. 口径19.2、底径6.4、器高13.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、胴部下位ユビオサエ以外調整不明。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 内外面二次被熱。H. カマド。
3	甕	A. 口径(19.6)、底径5.8、器高37.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリー下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. チャート・白色粒子。E. 内一にぶい黄褐色。外一にぶい褐色。F. 2/3。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土・貯蔵穴。



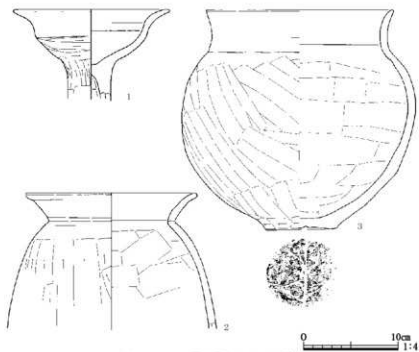
第247図 13号・14号住居跡 出土遺物

14号住居跡 出土遺物観察表

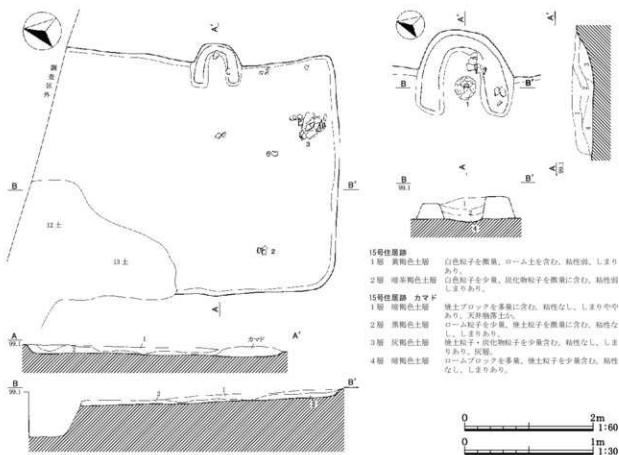
1	須恵器 環	A. 口径(11.6)。底径4.8。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、回転ナデー体部下位ヨコケズリ。底部回転糸切り。内面、回転ナデ。D. チャート・角閃石。E. 内外一褐色。F. 1/2。G. 酸化焙焼成。外面底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	中形甎	A. 口径(21.6)。底径8.4。器高22.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ一下位ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデー一下位タテケズリ。D. 石英・橙色粒子。E. 内一褐灰色。外一に白い褐色。F. 1/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

15号住居跡 (第248・249図、
図版50・74)

位置：D地点に位置している。北壁は調査区外となっている。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-80°-E。規模：長軸一不明、短軸3.70m。カマド：東壁に付設される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：住居跡の南半に遺物が分布している。時期：古墳時代後期。



第248図 15号住居跡 出土遺物



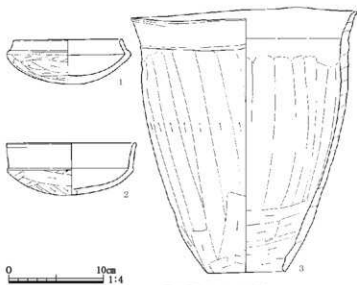
第249図 15号住居跡

15号住居跡 出土遺物観察表

1	高坏	A. 口径16.6, 残存高9.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 体部ヨコケズリ, 脚部タテケズリ→下位ヨコナデ, 内面、口縁部ヨコナデ, 脚部ヨコケズリ, D. 角閃石, E. 内外一橙色, F. 坏~脚部上半4/5, G. 二次被熱か, H. カマド
2	甕	A. 口径18.2, 残存高14.4, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・角閃石, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 口縁部~胴部上半1/4, H. 覆土
3	壺	A. 口径19.6, 底径7.4, 器高23.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→ナメナデ→下位ヨコケズリ, 底部木葉痕, 内面、ヨコナデ, D. 片岩・角閃石・石英, E. 内一橙色, 外一にぶい赤褐色, F. 4/5, G. 外面に焼成時の黒斑あり, H. 覆土

16号住居跡 (第250・251図、図版50・74)

位置：D地点に位置している。17号住居跡・18号住居跡と重複する。前者よりも古く、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-84°-E。規模：長軸4.23m。貯蔵穴：南西隅の方形ピットが貯蔵穴と思われる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴周辺から出土している。時期：古墳時代後期。



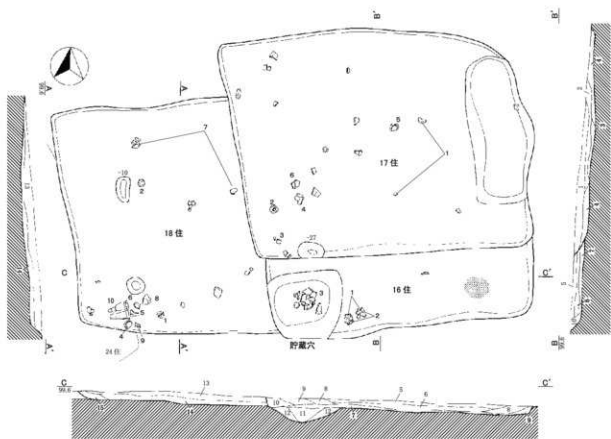
第250図 16号住居跡 出土遺物

17号住居跡 (第251・252図、図版50・74)

位置：D地点に位置している。16号住居跡・18号住居跡と重複し、本遺構が最も新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-85°-E。規模：長軸4.69m、短軸3.53m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代。

18号住居跡 (第251・253図、図版50・51・75)

位置：D地点に位置している。16号住居跡・17号住居跡・24号住居跡と重複し、前2者より古く、後者より新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-82°-E。規模：長軸3.63m。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：南西コーナー付近に遺物が集中している。時期：古墳時代後期。



17号住居跡

- 1層 黒褐色土層 ローム粘土・ロームブロックを多量、炭化物・褐色粘土を中量含む。粘性弱、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロックを多量、ローム粘土・褐色粘土を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 3層 灰褐色土層 ローム粘土・炭化物ブロックを多量、ロームブロックを少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 4層 黒褐色土層 ローム粘土を多量、ロームブロックを少量含む。粘性弱、しまりあり。

16号住居跡

- 5層 暗褐色土層 ローム粘土を多量、粘土ブロック・炭化物ブロックを少量含む。粘性・しまり弱。
- 6層 黒褐色土層 ローム粘土を多量、粘土粘土を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 7層 灰り床層 ロームブロック主体層、ローム粘土を多量に含む。粘性弱、しまりあり。
- 8層 黒褐色土層 ロームブロック・ローム粘土・粘土粘土を多量に含む。粘性なし、しまりあり。
- 9層 暗褐色土層 ローム粘土・炭化物粘土・褐色粘土を多量、白色粘土を少量含む。粘性なし、しまりあり。
- 10層 黒褐色土層 粘性弱、しまりあり。
- 11層 黄褐色土層 黒褐色土を多量に含む。粘性弱、しまりあり。
- 12層 黄褐色土層 黒褐色土ブロックを多量、褐色粘土・白色粘土を少量含む。粘性弱、しまりあり。

18号住居跡

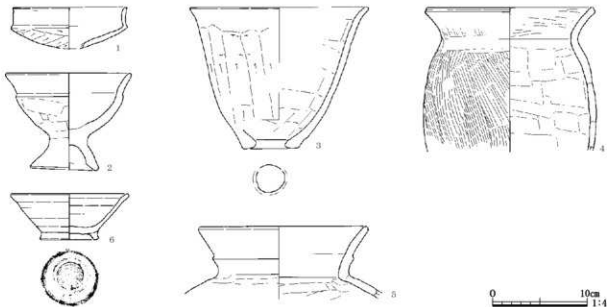
- 13層 黒褐色土層 ローム粘土・ロームブロックを多量に含む。粘性弱、しまりあり。
- 14層 黒褐色土層 ローム粘土を少量、ロームブロック・褐色粘土を微量に含む。粘性弱、しまりあり。
- 15層 暗褐色土層 褐色粘土を多量、ローム粘土・ロームブロックを少量含む。粘性なし、しまりあり。

第251図 16号・17号・18号住居跡

0 2m 1:60

16号住居跡 出土土物観察表

1	坏	A. 口径11.6. 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内一赤褐色. 外一灰褐色. F. 3/4. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
2	坏	A. 口径13.8. 器高5.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石. E. 内一明赤褐色. 外一橙色. F. 2/3. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
3	大形瓶	A. 口径24.0. 底径8.2. 器高28.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→下位ヨコナデ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデ→下位ヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内一にぶい赤褐色. 外一明赤褐色. F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.



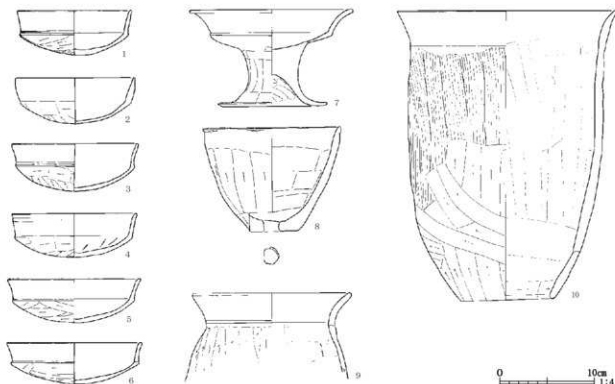
第252図 17号住居跡 出土土物

17号住居跡 出土土物観察表

1	坏	A. 口径12.1. 残存高4.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一橙色. F. 1/2. H. 覆土.
2	高坏	A. 口径13.3. 底径(7.2). 器高10.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 内外面、ヨコナデ. D. 石英・片岩・角閃石. E. 内一橙色. 外一にぶい赤褐色. F. 4/5. G. 坏部内面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
3	小形瓶	A. 口径(19.0). 底径6.0. 器高15.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部タテケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・石英. E. 内外一明赤褐色. F. 1/4. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	甕	A. 口径(18.0). 残存高15.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテハケ・内面、口縁部ヨコハケヨコナデ. 胴部ヨコナデ. D. 石英. E. 内外一にぶい橙色. F. 口縁部～胴部上位1/3. H. 覆土.
5	壺	A. 口径(18.1). 残存高7.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 内外面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一にぶい橙色. F. 口縁部～胴部上位1/3. H. 覆土.
6	須恵器 高台付碗	A. 口径12.5. 底径6.2. 器高4.9. B. ロクロ成形. C. 内外面回転ナデ. 底部回転糸切り一高台貼付. D. 角閃石. E. 内一にぶい橙色. 外一橙色. F. 完形. G. 酸火焼成. 外面二次被熱か. H. 覆土.

18号住居跡 出土土物観察表 (1)

1	坏	A. 口径12.1. 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石. E. 内外一橙色. F. 3/4. H. 覆土.
2	坏	A. 口径12.6. 器高4.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. 完形. H. 覆土.
3	坏	A. 口径13.4. 器高5.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子・橙色粒子. E. 内外一橙色. F. 3/4. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	坏	A. 口径13.3. 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石. E. 内外一橙色. F. 4/5. H. 覆土.
5	坏	A. 口径14.0. 器高4.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一橙色. F. 4/5. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
6	坏	A. 口径14.3. 器高3.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・石英. E. 内外一橙色. F. 4/5. G. 内外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.



第253図 18号住居跡 出土遺物

18号住居跡 出土遺物観察表 (2)

7	高坏	A. 口径17.4, 底径11.6, 器高10.3, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 脚部上半タテナデ→下半ヨコナデ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石・片岩・白色粒子, E. 内一橙色, 外一明赤褐色, F. 4/5, H. 覆土。
8	小形瓶	A. 口径14.7, 底径5.1, 器高11.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ナデ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英, E. 内一にぶい橙色, 外一橙色, F. 4/5, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
9	甕	A. 口径17.0, 残存高9.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・片岩, E. 内一にぶい黄橙色, 外一にぶい黄色, F. 口縁部へ胴部上位2/3, G. 内外面に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。
10	大形瓶	A. 口径23.1, 底径9.7, 器高30.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテハケ→下半タテケズリ→ナナメケズリ, 内面, ヨコナデ→胴部タテナデ→胴部下位ヨコケズリ, D. 石英・片岩・角閃石, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土。

19号住居跡 (第254・255図、図版51・75)

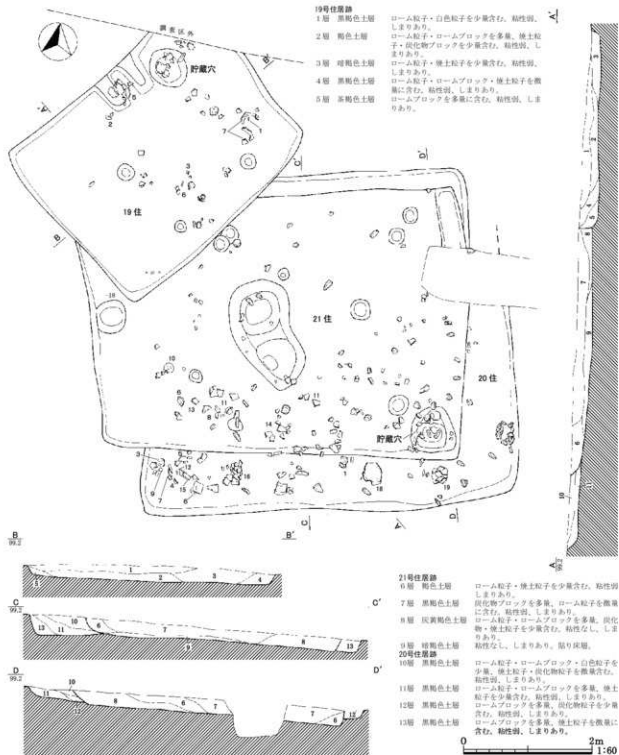
位置：D地点に位置している。21号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-47°-W。規模：長軸3.82m、短軸3.13m。カマド：西壁に付設される。燃烧部は住居内に収まり、中央からは支脚に用いられたであろう高坏が逆位で出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に配される円形ピットが貯蔵穴だと推定される。柱穴：3本確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。土器とともに滑石製の紡錘車も出土している。時期：古墳時代後期。

20号住居跡 (第254・256・257図、図版51・52・75・76)

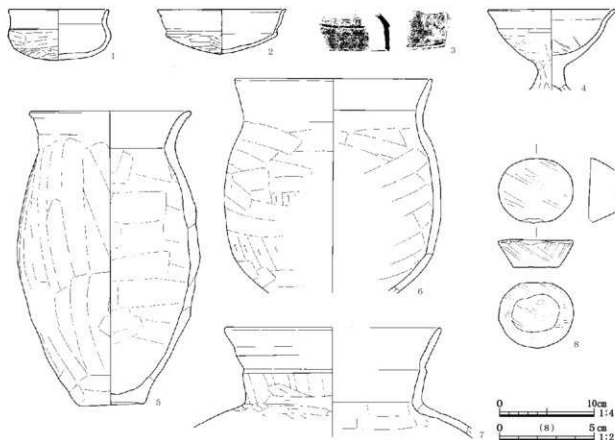
位置：D地点に位置している。21号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-82°-E。規模：長軸5.93m。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：遺物は21号住居跡と一緒に取り上げられている。住居跡南側に集中している。東壁には編み物石の集中箇所が見られる。時期：古墳時代後期。

21号住居跡 (第254・256・257図、図版51・52・75・76)

位置：D地点に位置している。19号住居跡・20号住居跡と重複する。19号住居跡より古く、20号住居跡より新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-78°-E。規模：長軸5.89m、短軸4.46m。貯蔵穴：南東隅のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：7本確認される。周溝：東壁の一部で検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：遺物は、20号住居跡と一括して取り上げられているが、貯蔵穴中心に南半分に集中する傾向にある。時期：古墳時代後期。



第254図 19号～21号住居跡



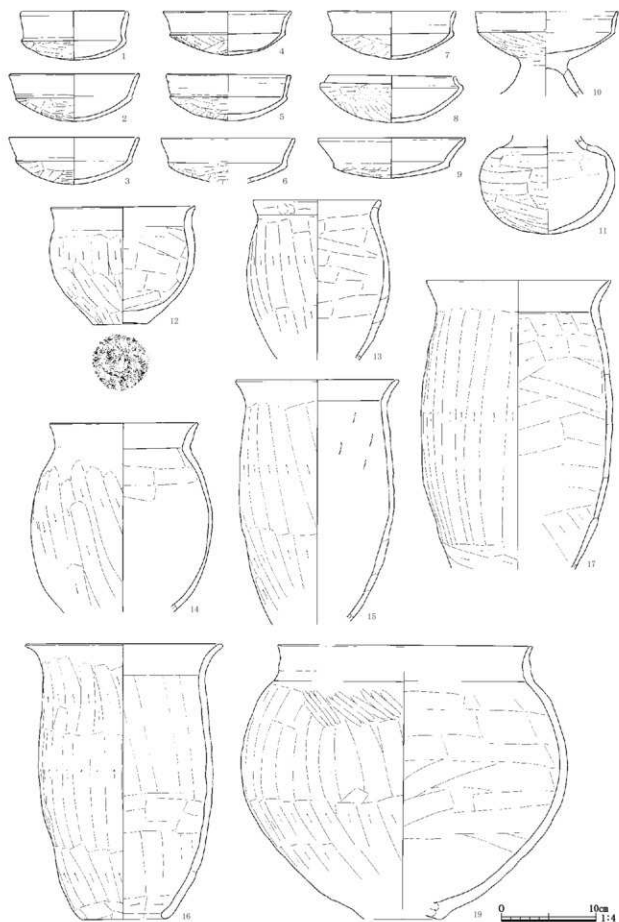
第255図 19号住居跡 出土遺物

19号住居跡 出土遺物観察表

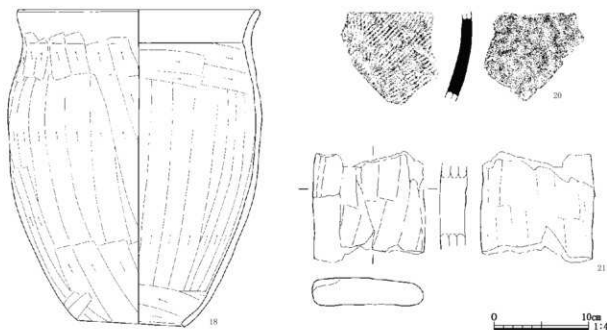
1	坏	A. 口径(10.5). 器高5.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. チャート. E. 内外一橙色. F. 2/3. H. 覆土.
2	坏	A. 口径(13.7). 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・チャート. E. 内外一明赤褐色. F. 1/4. G. 内面にスス付着. H. 覆土.
3	須恵器 蓋	A. 残存高3.9. B. ロコロ成. C. 内外面、回転ナデ. D. 白色粒子・片岩. E. 内外一灰色. F. 破片. G. 藤岡産. H. 覆土.
4	高坏	A. 口径13.6. 残存高8.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ. 脚部タテナデ・ユビオサエ. D. 石英・角閃石目石英. E. 内一にぶい橙色. 外一褐色. F. 坏部完形. G. 内外面二次被熱. H. カマド.
5	甕	A. 口径17.1. 底径7.2. 器高31.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・片岩. E. 内外一にぶい褐色. F. 4/5. G. 外面胴部二次被熱. H. カマド.
6	甕	A. 口径(21.0). 残存高22.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデケズリ・ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内一にぶい黄褐色. 外一灰黄褐色. F. 口縁部～胴部1/3. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
7	壺	A. 口径23.1. 残存高11.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 頸部タテナデ→胴部上位ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石・白色粒子. E. 内外一にぶい橙色. F. 口縁部～胴部上位3/4. G. 内外面. 焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
8	石製紡車	A. 長さ4.0. 短径3.5. 厚1.5. 重3.03. B. 滑石製. C. 全体的に良く研磨される. F. 完形. H. 覆土.

20号・21号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	坏	A. 口径11.3. 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・片岩・白色粒子. E. 内外一橙色. F. ほぼ完形. H. 覆土.
2	坏	A. 口径13.8. 器高5.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. 完形. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.
3	坏	A. 口径13.8. 器高4.9. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・チャート. E. 内外一橙色. F. ほぼ完形. G. 内面口縁部に痘痕状に剥離. 内外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
4	坏	A. 口径13.6. 器高4.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. チャート・角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. ほぼ完形. G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
5	坏	A. 口径13.3. 器高4.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 石英・角閃石・白色粒子. E. 内外一橙色. F. ほぼ完形. G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.



第256圖 20号・21号住居跡 出土遺物(1)



第257図 20号・21号住居跡 出土遺物(2)

20号・21号住居跡 出土遺物観察表(2)

6	坏	A. 口径14.3, 残存高4.7, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土。
7	坏	A. 口径13.7, 器高5.2, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴・覆土。
8	坏	A. 口径13.5, 器高5.0, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
9	坏	A. 口径15.7, 器高4.3, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. 完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴・覆土。
10	高坏	A. 口径15.1, 残存高9.0, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコケズリ。脚部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 脚部下半以外4/5。H. 覆土。
11	埴	A. 残存高10.4, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、頸部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・チャート。E. 内一にぶい褐色。外一褐色。F. 胴部3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
12	鉢	A. 口径15.3, 底径6.0, 器高12.4, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部木葉痕一部分的にケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱。内面にヨゴレ。H. 貯蔵穴・覆土。
13	小形甕	A. 口径13.6, 残存高16.9, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・チャート。E. 内一褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部→胴部中位4/5。G. 外面二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
14	甕	A. 口径15.7, 残存高20.0, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. 口縁部→胴部中位2/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
15	甕	A. 口径17.4, 残存高25.5, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい褐色。F. 底部以外3/4。G. 外面二次被熱。内面胴部にヨゴレ。H. 覆土。
16	大形甕	A. 口径20.8, 底径9.0, 器高29.2, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→中位ヨコケズリ・下位ヨコケズリ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面口縁部→胴部上位にスス付着。H. 貯蔵穴・覆土。
17	甕	A. 口径19.4, 残存高30.6, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位ヨコケズリ・下位ナメケズリ。D. 石英・片岩・チャート。E. 内外一褐色。F. 底部以外ほぼ完形。H. 覆土。
18	大形甕	A. 口径(25.6), 底径11.2, 器高33.6, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ・ケズリ→上位・下位ヨコケズリ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一にぶい黄褐色。外一褐色。F. 1/3。G. 外面二次被熱か。焼成時の黒斑もあり。H. 覆土。
19	甕	A. 口径(26.9), 底径(8.9), 器高29.1, B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位ナメケズリ・下位ナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一褐色。F. 1/3。G. 外面胴中位以下にスス付着。H. 覆土。

20号・21号住居跡 出土文物観察表(3)

20	須恵器 甕	B. タタキ成形。C. 外面、平行タタキ。内面、ナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一灰色。F. 破片。 G. 外面自然軸。H. 覆土。
21	不明土製品	A. 幅11.9。厚2.9。C. 内外面ナデ。D. 片岩・チャート・角閃石。E. 内一灰褐色。外一橙色。F. 破片。G. 焼火筒焼成。H. 覆土。

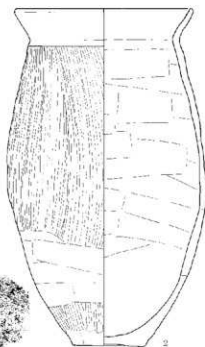
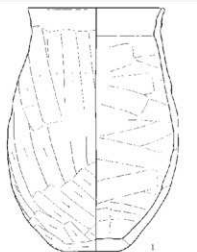
24号住居跡 (第258・259図、図版51・77)

位置：D地点に位置している。18号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は不整だが長方形を呈する。主軸方位：N-69°-E。規模：長軸4.51m、短軸3.48m。カマド：東壁に付設される。柱穴：5本確認される。埋没状況：自然埋没と思われる。遺物：カマドから長胴甕が2個体出土している。時期：古墳時代後期。



24号住居跡
1甕 赤褐色土 rome 粗子を器内に含む。
粘性や硬弱、しまりあり。

第258図 24号住居跡



第259図 24号住居跡 出土遺物



24号住居跡 出土文物観察表

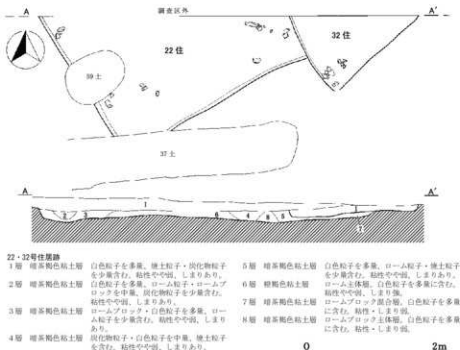
1	甕	A. 口径(14.4)。底径(5.9)。器高25.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテへナナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・片岩。E. 内一褐色。外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
2	甕	A. 口径18.9。底径7.8。器高35.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ中位ヨコナデ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土・カマド。

22号住居跡 (第260図、図版52)

位置：D地点に位置している。32号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-23°-W。規模：長軸4.56m。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代。

32号住居跡（第260図、
図版52）

位置：D地点に位置している。22号住居跡と重複し、本遺構が新しい。南西コーナーのみの検出で大部分は調査区外へと延びる。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-23°-W。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：南西コーナー部分より土器が出土している。時期：古墳時代。



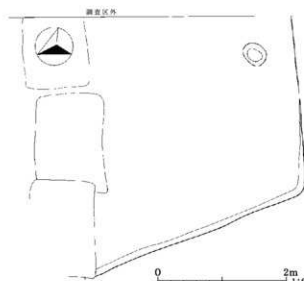
第260図 22号・32号住居跡

28号住居跡（第261図、図版53）

位置：D地点に位置している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-83°-E。規模：不明。カマド：東壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のピットが貯蔵穴であろう。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



第261図 28号住居跡



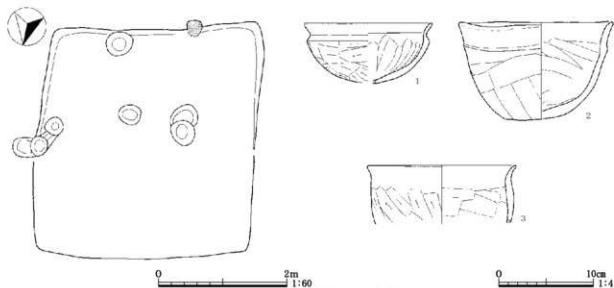
29号住居跡（第262図、図版53）

位置：D地点に位置している。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸・規模：不明。柱穴：I本確認された。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。

第262図 29号住居跡

30号住居跡 (第263図、図版53・77)

位置：D地点に位置している。北半分は削平を受ける。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-7°-W。規模：長軸3.43m。カマド：南壁に付設される。柱穴：4本確認される。埋没状況：不明。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



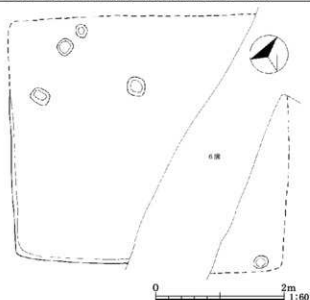
第263図 30号住居跡 出土遺物

30号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径(13.6)。残存高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内-にぶい褐色。外-褐色。F. 1/2。H. 覆土。
2	鉢	A. 口径16.4。底径6.3。器高10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上半ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコ→ナメナデ。D. 石英・角閃石。E. 内-にぶい赤褐色。外-にぶい褐色。F. 4/5。G. 内面胴部中に帯状にヨゴレ付着。H. 覆土。
3	甕	A. 口径(15.8)。残存高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英。E. 内外-にぶい褐色。F. 口縁部→胴部上位1/2。H. 覆土。

33号住居跡 (第264図、図版52)

位置：D地点に位置している。南西コーナーのみの検出で、これ以外は削平を受けて消滅してしまっている。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-67°-E。柱穴：5本確認されている。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。



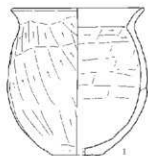
第264図 33号住居跡

34号住居跡 (第265・266図、図版53・54・77)

位置：E地点に位置している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-80°-W。規模：長軸4.25m、短軸3.91m。

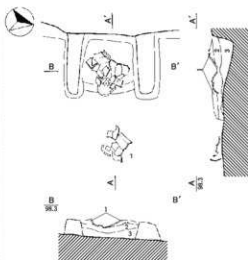
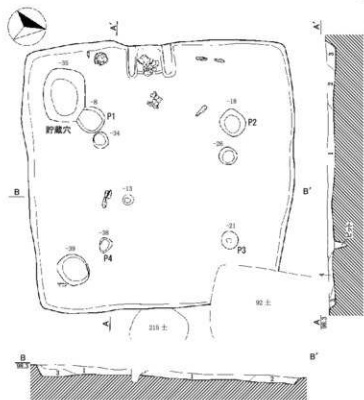
カマド：西壁に付設される。燃焼部は住居内に収まり、内部より土器がまとまって出土している。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：8本確認される。こ

のうちP1～4が支柱穴であろう。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド周辺から土器が出土している。時期：古墳時代後期。



第265図
34号住居跡 出土遺物

0 10cm
1:4



- 34号住居跡
- 1層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
- 34号住居跡 カマド
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
 - 2層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、炭化物粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりや中あり。
 - 3層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを少量含む。粘性・しまりや中あり。

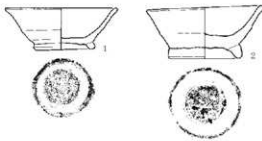
第266図 34号住居跡

34号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径14.1、底径(5.8)。器高15.5。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ・上位ヨコケズリ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい黄橙色。F. 3/4。G. 外面胴部下半二次焼成。器面の荒れ激しい。H. 覆土
---	-----	--

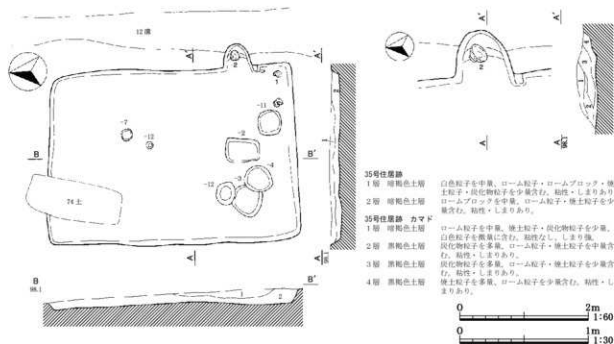
35号住居跡 (第267・268図、図版54・77)

位置：E地点に位置している。12号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-89°-E。規模：長軸3.92m、短軸2.73m。カマド：東壁に付設される。袖は片袖のみ残存し、燃焼部が住居外へと延びる構造となっている。柱穴：7本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド周辺に集中している。時期：平安時代。



0 10cm
1:4

第267図 35号住居跡 出土遺物



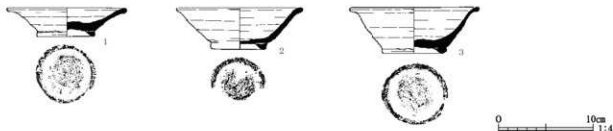
第268図 35号住居跡

35号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	A. 口径11.9. 底径6.5. 器高4.5. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 白色粒子・片岩・チヤート. E. 内一橙色. 外一明黄褐色. F. ほぼ完形. G. 酸火焙焼成. 内外面に黒斑あり. H. 覆土.
2	須恵器 高台付碗	A. 口径12.4. 底径7.8. 器高5.6. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 3/4. G. 酸火焙焼成. 内外面に黒斑あり. H. 覆土・カマド.

36号住居跡 (第269・270図、図版54・77)

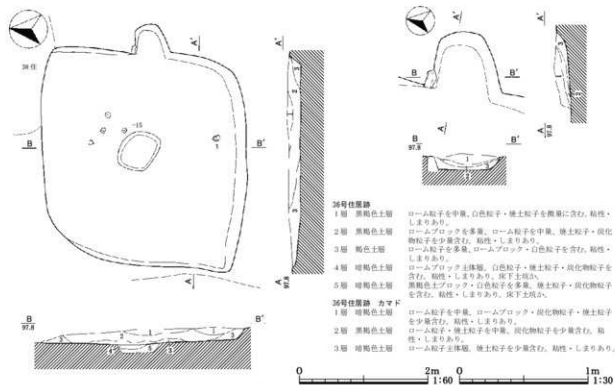
位置：E地点に位置している。38号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-90°-E。規模：長軸3.37m、短軸3.21m。カマド：東壁に付設される。住居壁面に礫を据え、袖としている。燃烧部・煙道は住居外へと延びている。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居跡の中心部分に遺物が集中している。時期：平安時代。



第269図 36号住居跡 出土遺物

36号住居跡 出土遺物観察表

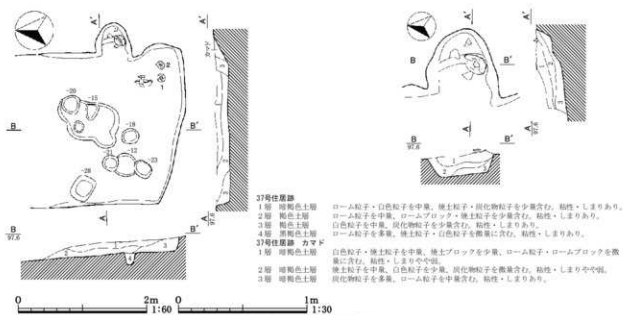
1	須恵器 高台付皿	A. 口径12.7. 底径6.1. 器高3.1. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 角閃石・石英. E. 内一にぶい黄褐色. 外一灰黄色. F. 3/4. G. 還元焙焼成. H. 覆土.
2	須恵器 高台付皿	A. 口径13.5. 底径5.9. 器高4.4. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 石英・白色粒子. E. 内外一灰色. F. ほぼ完形. G. 還元焙焼成. H. 覆土.
3	須恵器 高台付碗	A. 口径(13.8). 底径6.9. 器高4.9. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 角閃石・白色粒子・片岩. E. 内外一灰色. F. 1/3. G. 還元焙焼成. H. 覆土.



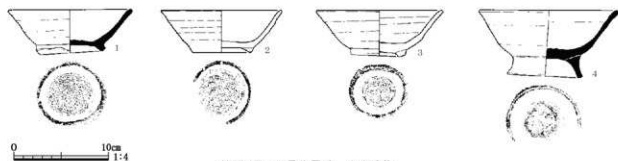
第270図 36号住居跡

37号住居跡 (第271・272図、図版54・77)

位置：E地点に位置している。溝と重複し、北半分を削平される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-89°-E。規模：長軸2.45m。カマド：東壁に付設される。袖は残存していないが、向かって右側は地山掘り残しの袖の可能性ある。燃焼部は住居壁より外側となっている。柱穴：6本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド及び、南東コーナー部分から遺物が集中する。時期：平安時代。



第271図 37号住居跡



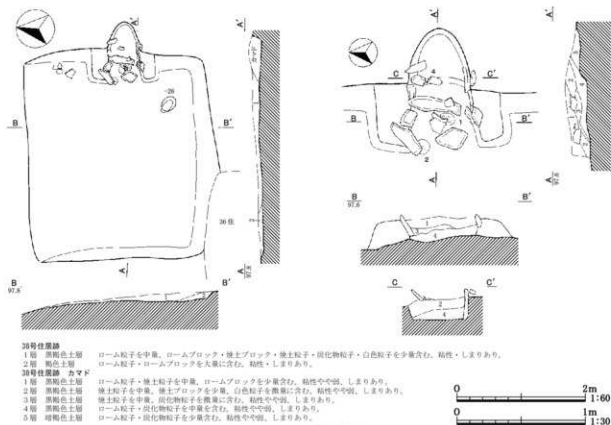
第272図 37号住居跡 出土遺物

37号住居跡 出土遺物観察表

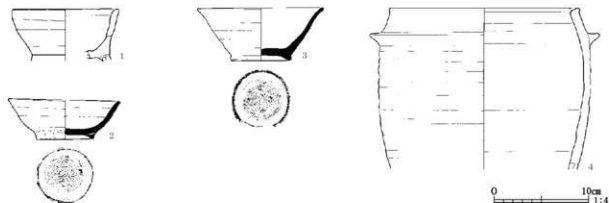
1	須恵器 高台付碗	A. 口径13.1, 底径7.3, 器高4.7, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り一高台貼付, D. 白色粒子・石英, E. 内外一黄灰色, F. ほぼ完形, G. 還元焙焼成, H. 覆土
2	須恵器 高台付碗	A. 口径12.9, 底径6.2, 器高4.5, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り一高台貼付, D. 角閃石・石英, E. 内外一にぶい黄褐色, F. ほぼ完形, G. 酸化焙焼成, 内外面に黒斑あり, H. 覆土
3	須恵器 高台付碗	A. 口径13.5, 底径5.8, 器高4.9, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り一高台貼付, D. 角閃石・石英, E. 内外一橙色, F. ほぼ完形, G. 還元焙焼成, 内外面に黒斑あり, H. 覆土
4	須恵器 高台付碗	A. 口径14.8, 底径8.0, 器高7.3, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り一高台貼付, D. 角閃石・片岩・白色粒子, E. 内一灰黄褐色, 外一灰色, F. 3/4, G. 還元焙焼成, H. 覆土

38号住居跡 (第273・274図、図版54・55・77)

位置：E地点に位置している。36号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-90°-E。規模：長軸3.19m、短軸2.93m以上。カマド：東壁に付設される。袖は暗褐色土を主体とし灰白色粘土を貼る。焚き口・燃焼部の袖の内面には、補強材として礫を据えている。煙道は住居外へと延びる。柱穴：1本確認された。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド内より遺物が出土している。時期：平安時代。



第273図 38号住居跡



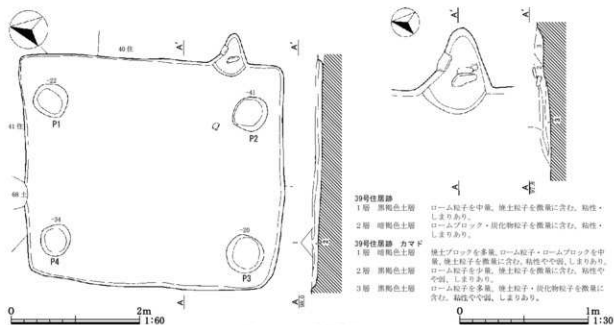
第274図 38号住居跡 出土遺物

38号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	A. 口径11.3. 残存高5.5. B. 粘土組織み上げ→ロクロ成形. C. 外面, 回転ナデ. 底部回転ナデ→高台貼付. 内面, 回転ナデ. D. 片岩・白色粒子・石英. E. 内一にぶい赤褐色. 外一褐色. F. 2/3. G. 酸火焼成. H. 覆土・カマド.
2	須恵器 高台付碗	A. 口径11.8. 底径6.0. 器高4.8. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付→高台エビオサエ. D. 角閃石・石英・白色粒子. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土・カマド.
3	須恵器 高台付碗	A. 口径13.4. 底径6.4. 器高5.6. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 片岩・チャート・角閃石. E. 内一褐色. 外一にぶい褐色. F. 2/3. G. 内外面に粘土附着. 還元焼成後二次被熱か. H. 覆土.
4	羽釜	A. 口径(20.1). 残存高17.0. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. D. 白色粒子・チャート・角閃石. E. 内一黒色. 外一にぶい褐色. F. 破片. G. 内面スス附着. H. 覆土・カマド.

39号住居跡 (第275図、図版55)

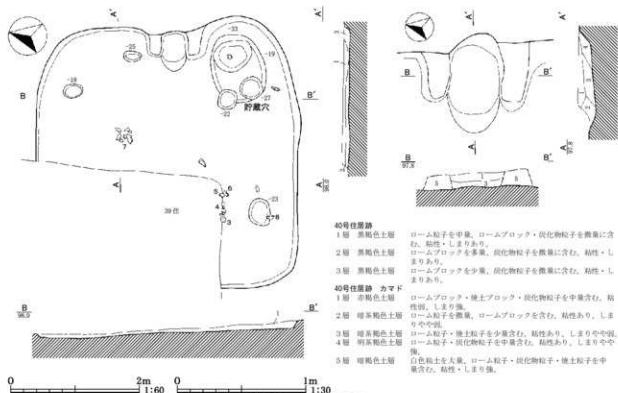
位置：E地点に位置している。40号住居跡・41号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-86°-E。規模：長軸4.05m、短軸3.63m。カマド：東壁に付設される。袖は残存せず、燃焼部は住居外へと延びる。柱穴：4本確認され、いずれも主柱穴である。埋没状況：自然埋没を呈するであろう。遺物：カマドや覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



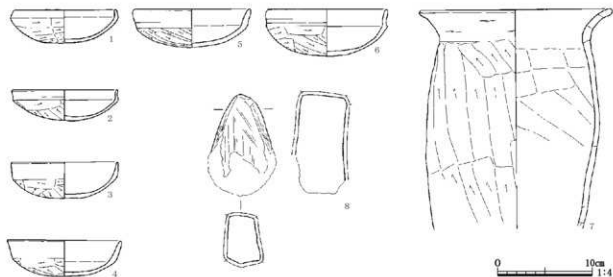
第275図 39号住居跡

40号住居跡 (第276・277図、図版55・77)

位置：E地点に位置している。39号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形隅丸は方形を呈する。主軸方位：N-74°-E。規模：長軸4.30m、短軸4.20m。カマド：東壁に付設される。袖には白色粘土を用いる。燃焼部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって右側にある楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：39号住居跡と重複する箇所より土器が出土している。時期：古墳時代後期。



第276図 40号住居跡



第277図 40号住居跡 出土遺物

40号住居跡 出土遺物観察表 (1)

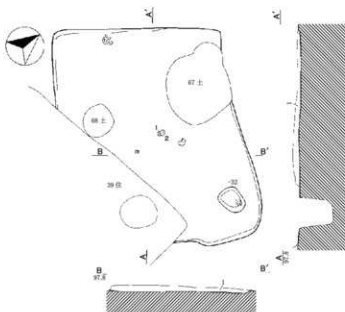
1	坏	A. 口径10.8、器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 完形。H. 覆土。
---	---	--

40号住居跡 出土遺物観察表 (2)

2	坏	A. 口径11.2, 器高3.2, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5, H. 覆土。
3	坏	A. 口径11.3, 器高3.8, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形, H. 覆土。
4	坏	A. 口径(12.1)。器高3.8, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	坏	A. 口径12.5, 器高4.0, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2, G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径12.8, 器高5.0, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 完形, G. 内外面、体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	甕	A. 口径20.4, 残存高23.1, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。D. 角閃石・石英。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁部～胴部上半4/5, G. 内外面、口縁部にスス付着。外面胴部に粘土付着。H. 覆土。
8	砥石	A. 残長10.6, 残幅7.3, 厚5.4, B. 流紋岩。C. 全体的に良く研磨される。F. 1/3, H. 覆土。

41号住居跡 (第278・279図、図版55・77)

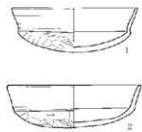
位置：E地点に位置している。39号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は不整形ながらも方形を呈する。主軸方位：N-37°-E。規模：長軸3.38m、短軸2.84m。柱穴：1本確認される。



41号住居跡
1層 暗褐色土層 コーア粒子を中層、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。

0 2m 1:60 第278図 41号住居跡

埋没状況：自然埋没であろう。遺物：住居の中央部分から土器が出土する。時期：古墳時代後期。



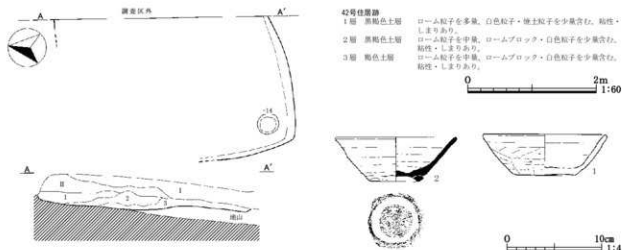
0 10cm 1:4
第279図 41号住居跡 出土遺物

41号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径13.3, 器高4.7, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ一部分的にミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一明赤褐色。外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径14.2, 器高4.4, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

42号住居跡 (第280図、図版55・77)

位置：E地点に位置している。住居跡の東半は調査区外となり、北部分は削平を受ける。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：N-13°-W。規模：推定長軸3.50m、柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から須恵器と土器器が出土している。時期：平安時代。



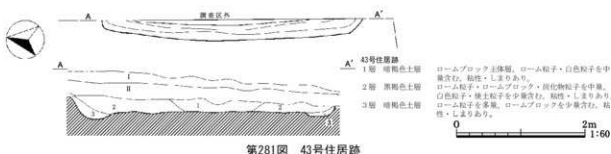
第280図 42号住居跡・出土遺物

42号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径13.2, 底径6.3, 器高4.3. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, 口縁部回転ナデ一体部ココケズリ, 底部ケズリ. 内面, 回転ナデ. D. 石英・角閃石. E. 内外一橙色. F. 1/2. G. 酸火焼成. H. 覆土.
2	須臾器 高台付碗	A. 口径13.0, 底径6.0, 器高4.6. B. ロクロ成形. C. 内外面, 回転ナデ. 底部回転糸切り→高台貼付. D. 角閃石. E. 内一灰黄色, 外一灰白色. F. 3/4. G. 還元焼成. H. 覆土.

43号住居跡 (第281図、図版55)

位置：E地点に位置している。西壁のみの検出で、大半は調査区外となっている。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-6°-W。規模：長軸4.21m。周溝：西壁沿いに確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代か。



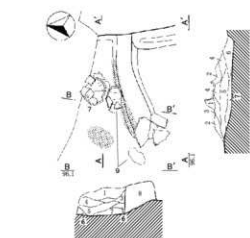
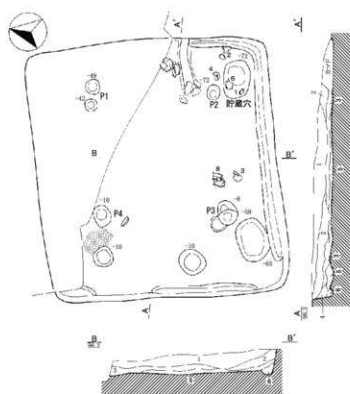
第281図 43号住居跡

44号住居跡 (第282・283図、図版56・77・78)

位置：F地点に位置している。北半分は後世の土採りにより消滅している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-74°-E。規模：長軸4.15m、短軸3.71m。カマド：東壁に付設され、北半分はカクランにより破壊される。袖には白色粘土を用いる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：8本確認される。周溝：南西コーナーと西壁中央付近で切れるが、ほぼ全周する。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマドと貯蔵穴を中心に住居跡の南側から出土している。時期：古墳時代後期。

44号住居跡 出土遺物観察表 (1)

1	環	A. 口径12.6, 底径7.5, 器高4.5. B. 粘土組織み上げ. C. 外面, ヨコナデ. 底部ケズリーナデ, 内面, ヨコナデ. D. 角閃石・片岩. E. 内一にぶい褐色, 外一にぶい黄褐色. F. ほぼ完形. G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
---	---	---



44号住居跡

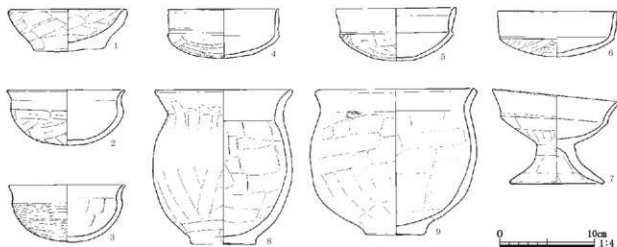
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・白色粘土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 3層 暗褐色土層 ローム粒子・白色粘土を中量含む。粘性・しまりなし。
 4層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
 5層 暗褐色土層 炭化物粒子を多量、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 6層 暗褐色土層 ローム土層。

44号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・白色粘土粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 2層 白色粘質土層 白色粘土ブロックを主体とする。粘性・しまりなし。
 3層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを多量含む。粘性・しまりなし。
 4層 暗褐色土層 焼土粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
 5層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 6層 暗褐色土層 ローム粒子を多量、炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 7層 暗褐色土層 炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
 8層 白色粘質土層 白色粘土ブロックを主体とする。粘性なし。しまりなし。

0 2m 1:60 0 1m 1:30

第282図 44号住居跡



第283図 44号住居跡 出土遺物

44号住居跡 出土遺物観察表(2)

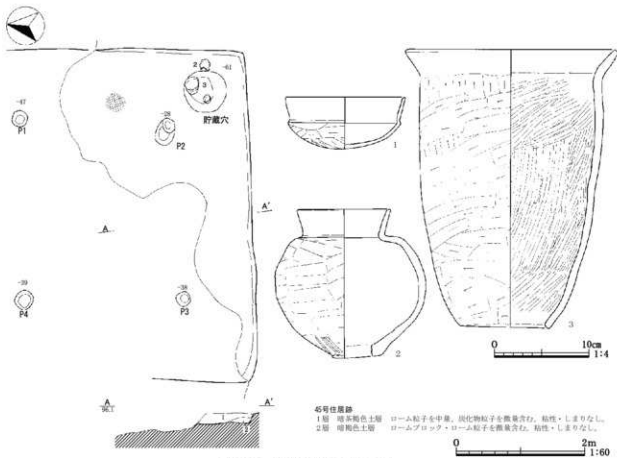
Number	Type	Description
2	杯	A. 口径12.5, 器高5.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一明赤褐色。外一赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	杯	A. 口径12.3, 器高6.0, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナゲズリ・ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	杯	A. 口径(11.8), 器高5.2, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・チャート。E. 内外一橙色。F. 2/3, H. 覆土。
5	杯	A. 口径12.8, 器高5.5, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
6	杯	A. 口径12.6, 器高4.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・褐色粒子。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。器面の摩耗が著しい。H. 覆土・貯蔵穴。

44号住居跡 出土遺物観察表(3)

7	高坏	A. 口径13.4. 底径10.0. 器高10.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部背ヨコナデ. 体部タテケズリ→ヨコナデ. 胴部ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内外一橙色. F. 4/5. G. 内外面に黒色付着物あり. H. 覆土・カマド.
8	小形甕	A. 口径14.6. 底径6.8. 器高16.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテナデ→下位ヨコナデ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. チャート・角閃石. E. 内一にぶい褐色. 外一灰褐色. F. 4/5. G. 胴部上半スス付着. 下半二次被熱. H. 覆土.
9	鉢	A. 口径(17.2). 底径6.2. 器高15.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部ヨコナデ・胴部タテナデ→上半ヨコナデ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・黒色粒子. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 2/3. G. 外面胴部下二次被熱. 内面胴部ヨゴレ. H. 覆土・カマド.

45号住居跡(第284図、図版56・78)

位置：F地点に位置している。大部分はカクランにより消滅している。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-86°-E。規模：長軸5.19m。カマド：カマド自体は確認出来なかったが、東壁周辺に焼土集中箇所があり、ここに付設されたものと思われる。貯蔵穴：南東コーナーに位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の主柱穴を確認することができた。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴から出土している。時期：古墳時代後期。



第284図 45号住居跡・出土遺物

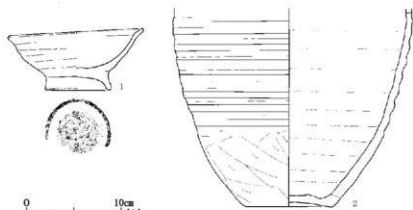
45号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.8. 器高5.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石・石英. E. 内外一橙色. F. 完形. G. 外面体部に焼成時の黒斑あり. H. 覆土.
2	小形甕	A. 口径10.0. 底径5.4. 器高15.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部ヨコナデ→下位タテミガキ. 底部焼成前穿孔. 内面、ナデ. D. 角閃石. E. 内一にぶい赤褐色. 外一明赤褐色. F. ほぼ完形. H. 覆土.
3	大形甕	A. 口径22.4. 底径9.3. 器高29.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ→ヨコナデ. 内面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテミガキ→上位ヨコミガキ. D. 角閃石・片岩. E. 内外一橙色. F. 完形. G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり. H. 貯蔵穴.

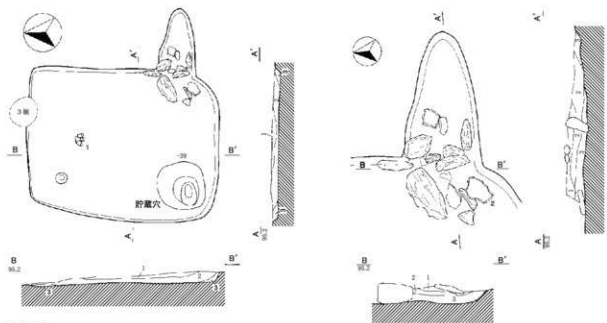
46号住居跡(第285・286図、図版56・78)

位置：F地点に位置している。3号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：S-85°

-E。規模：長軸3.06m、短軸2.45m。カマド：東壁に付設される。袖はなく、礫を多用する構造である。柱穴：2本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマドから羽釜が出土している。時期：平安時代。



第285図 46号住居跡 出土遺物



- 46号住居跡
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子を中量。炭化物粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 3層 暗赤褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりなし。
- 46号住居跡 カマド
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 2層 暗赤褐色土層 焼土粒子を多量含む。粘性・しまりなし。
 3層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を多量含む。粘性・しまりなし。

第286図 46号住居跡

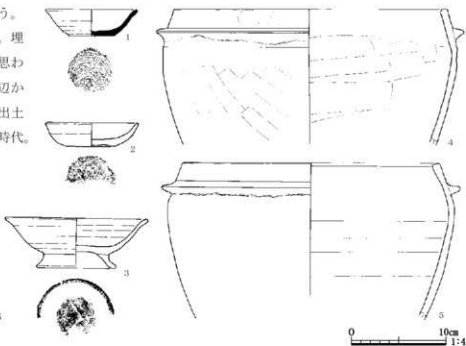
46号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	A. 口径14.4。底径7.0。器高6.5。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 酸火焼成。H. 覆土。
2	羽釜	A. 底径9.2。残存高21.0。B. ロクロ成形。C. 外面、強い回転ナデ→下位ナメケズリ。底部ケズリ。内面、回転ナデ。D. 石英・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一橙色。F. 胴部下半→底部2/3。G. 内外面二次被熱。H. カマド。

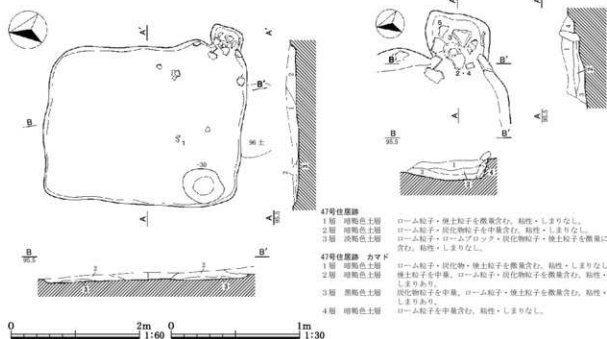
47号住居跡(第287・288図、図版57・78)

位置：F地点に位置している。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-78° -E。規模：長軸3.18m、短軸2.48m。カマド：南東隅に付設される。袖はなく、住居の壁面に石や土器片を貼付す

る構造のカマドであろう。
柱穴：1本確認される。埋
没状況：自然埋没だと思わ
れる。遺物：カマド周辺か
ら羽釜や須恵器の碗が出土
している。時期：平安時代。



第287図
47号住居跡
出土遺物



- 47号住居跡
1 須恵色土層 ローム粒子・焼土粒子を微塵含む、粘性・しまりなし。
2 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を中量含む、粘性・しまりなし。
3 淡褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子・焼土粒子を微塵に
含む、粘性・しまりなし。
- 47号住居跡 カマド
1 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物・焼土粒子を微塵含む、粘性・しまりなし。
2 暗褐色土層 焼土粒子を中量、ローム粒子・炭化物粒子を微塵含む、粘性・
しまりあり。
3 黒褐色土層 炭化物粒子を中量、ローム粒子・焼土粒子を微塵含む、粘性・
しまりあり。
4 暗褐色土層 ローム粒子を中量含む、粘性・しまりなし。

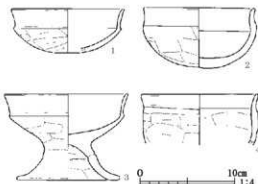
第288図 47号住居跡

47号住居跡 出土遺物観察表

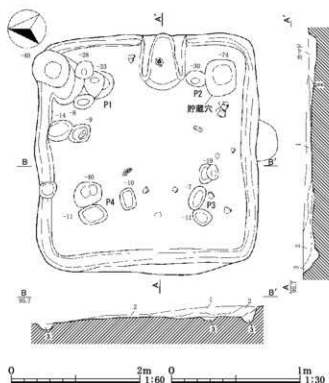
1	須恵器 環	A. 口径(9.8)。底径5.1。器高2.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. チャート・石英・片岩。E. 内外一暗灰褐色。F. 2/3。G. 還元焼成。内外面、二次被熱。H. 覆土。
2	須恵器 環	A. 口径9.9。底径5.4。器高2.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 酸火焼成。H. カマド。
3	須恵器 高台付碗	A. 口径(15.2)。底径(8.4)。器高5.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部調整不明一高台貼付。D. 橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 酸火焼成。内面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	羽釜	A. 口径(29.0)。残存高14.4。B. ロクロ成形。C. 外面、口縁部回転ナデ→ユービオサエ。鈔貼付一回転ナデ。胴部回転ナデ→ナメナデ。内面、回転ナデ→胴部ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 1/2。G. 外面胴部に二次被熱、黒色付着物あり。H. 覆土。
5	羽釜	A. 口径(27.4)。残存高16.5。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。鈔貼付。D. 石英。片岩。E. 内外一橙色。F. 破片。G. 外面二次被熱。H. 覆土・カマド。

48号住居跡(第289・290図、図版57・78)

位置：F地点に位置している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-89°-E。規模：長軸3.72m、短軸3.48m。カマド：東壁に付設される。燃烧部は一段窪み、立ち上がりは住居の壁と一致する。中央には支脚であろう高坏が逆位で出土している。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する方形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：11本確認される。P1~4が支柱穴である。ピット同士の重複が多いので、建て替えの可能性もある。周溝：カマド部分以外全周する。埋没状況：自然埋没と思われる。遺物：住居内に土器片が散在し、炭化材も見られた。時期：古墳時代後期。



第289図 48号住居跡 出土遺物



第290図 48号住居跡

- 48号住居跡
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量に含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化樹皮を少量に含む。粘性・しまりあり。
 - 3層 暗赤褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量含む。粘性・しまりなし。
- 48号住居跡 カマド
- 1層 暗褐色土層 白色粘土ブロック・白色粘土粒子を中量。焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 暗褐色土層 焼土粒子を中量。白色粘土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 - 3層 暗褐色土層 粘土ブロック・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりなし。
 - 4層 暗赤褐色土層 ローム粒子を中量。焼土粒子・炭化樹皮を微量含む。粘性・しまりなし。
 - 5層 白色粘質土層 白色粘土ブロックを中量に含む。粘性ややあり。しまり強。

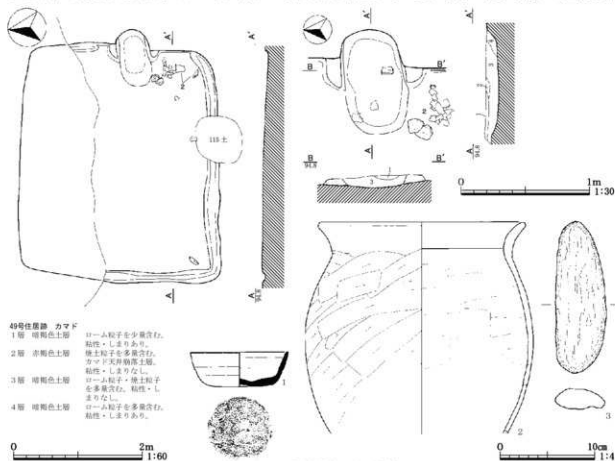
48号住居跡 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径12.0。残存高4.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3。G. 外面体部に痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(11.8)。器高6.4。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 内外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	高坏	A. 口径13.2。底径10.9。器高9.3。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・棕色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面体部・坏部内面に痘痕状の剥離あり。H. 覆土・カマド。
4	小形甕	A. 口径12.4。残存高5.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一明赤褐色。F. 口縁部~胴部上位4/5。G. 内外面、口縁部に黒色の付着物あり。H. 覆土。

49号住居跡(第291図、図版57・78)

位置：F地点に位置している。北半分は削平される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：S-84°-E。規模：長軸3.68m。カマド：東壁に付設される。燃烧部は一段窪み、住居外へと

延びる。袖は付け袖である。周溝：カマド部分以外は全周する。埋没状況：覆土はほとんど残存しておらず、不明である。遺物：カマドに向かって右側から出土している。時期：平安時代。7世紀後半。



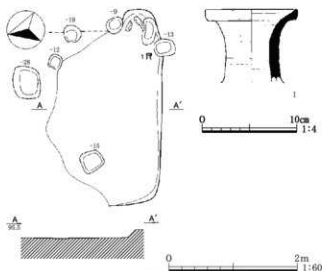
第291図 49号住居跡・出土遺物

49号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 環	A. 口径10.4。底径6.7。器高3.7。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転へら切り。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一暗灰色。外一暗黄灰色。F. ほぼ笠形。G. 還元焼成。H. 覆土。
2	甕	A. 口径(22.1)。残存高22.4。B. 粘土紐積み上層。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメクスリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一棕色。F. 口縁部～胴部中位1/2。G. 内外面、焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	編み物石	A. 長16.1。幅5.4。厚2.1。重277.38。D. 結晶片岩。H. 覆土。

50号住居跡(第292図、図版57・78)

位置：F地点に位置している。北半分は削平される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：S-74°-E。規模：長軸2.88m。カマド：南東コーナーに付設される。両脇のピットは袖石の抜き取り痕の可能性もある。柱穴：4本確認される。埋没状況：覆土がほとんど残っていないため、不明である。遺物：カマド周辺から須恵器が出土している。時期：平安時代。



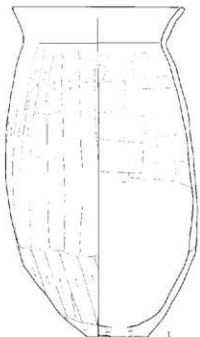
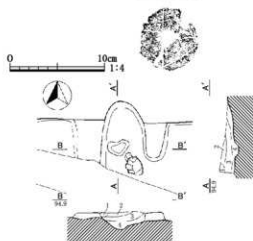
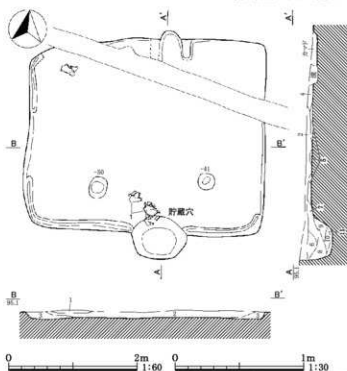
第292図 50号住居跡・出土遺物

50号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 長頸壺	A. 口径(9.6)。残存高7.8。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英。E. 内外一 ぶい黄褐色。F. 口縁部~頸部3/4。G. 還元焙焼成。H. 覆土。
---	------------	---

51号住居跡(第293・294図、図版58・78)

位置：F地点に位置している。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-2°-W。規模：長軸3.81m、短軸3.04m。カマド：北壁に付設される。燃烧部は住居外へと延びる。向かって左側の袖は溝との重複により破壊される。貯蔵穴：カマドの対面にあるピットが貯蔵穴の可能性ある。柱穴：2本確認される。周溝：南壁と西壁の一部が検出される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマドや貯蔵穴周辺から土師器が出土している。時期：古墳時代後期。

第293図
51号住居跡 出土遺物

- 51号住居跡
- 1層 褐色土層
 - 2層 褐色土層
 - 3層 褐色土層
 - 4層 褐色土層
 - 5層 黄色土層
 - 6層 褐色土層
 - 7層 褐色土層
 - 8層 褐色土層
 - 9層 褐色土層
 - 10層 褐色土層
 - 11層 褐色土層
- 51号住居跡 カマド
- 1層 褐色土層
 - 2層 褐色土層
 - 3層 赤褐色土層
 - 4層 明黄褐色土層

ローム粒子を含む、粘性・しまりあり。
ローム粒子を多量、焼土ブロックを少量、炭化物粒子を微量含む、粘性・しまりあり。
ローム粒子・ロームブロックを少量含む、粘性・しまりあり。
焼土ブロックを多量、ローム粒子を少量含む、粘性あり、しまりやや強。
ローム粒子を多量含む、粘性あり、しまり強。
ローム粒子・炭化物粒子を少量含む、粘性・しまり強。
ローム粒子を多量含む、粘性・しまり強。
ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む、粘性・しまり強。
ローム粒子を少量含む、粘性あり、しまり強。
ローム粒子を少量含む、粘性あり、しまり強。
ローム粒子を多量、焼土粒子を微量含む、粘性弱、しまり強。
焼土ブロックを多量、ローム粒子を少量含む、粘性・しまり強。
ローム粒子を多量、焼土粒子を少量含む、粘性・しまり強。
ローム粒子を多量含む、粘性・しまり強。

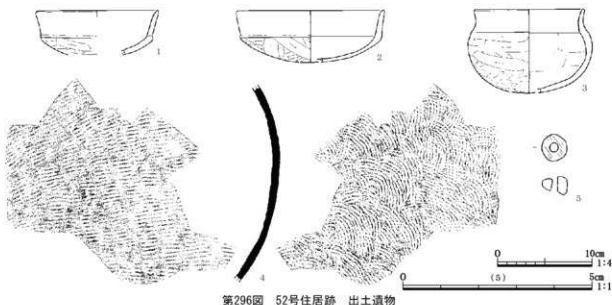
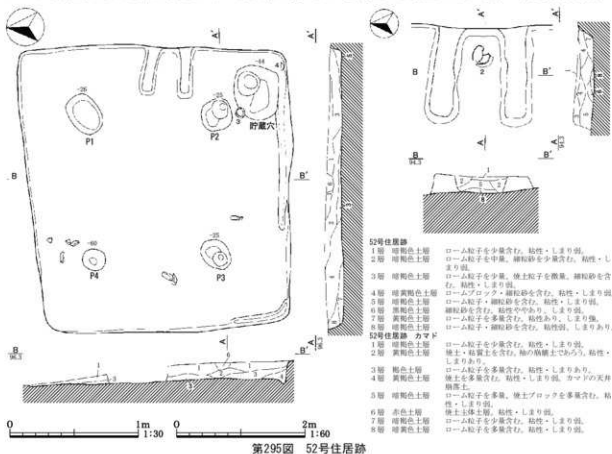
51号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径18.1。底径6.5。器高34.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部木葉痕。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・チャート。E. 内外一ぶい褐色。F. 1/3。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
---	---	---

第294図 51号住居跡

52号住居跡(第295・296図、図版58・78)

位置：F地点に位置している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-89°-E。規模：長軸4.39m、短軸4.13m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖で、 combustion部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の主柱穴が確認される。周溝：南壁の一部と南西コーナー部分から検出される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマドや貯蔵穴より土器が出土している。滑石製の白玉も覆土から出土した。時期：古墳時代後期。

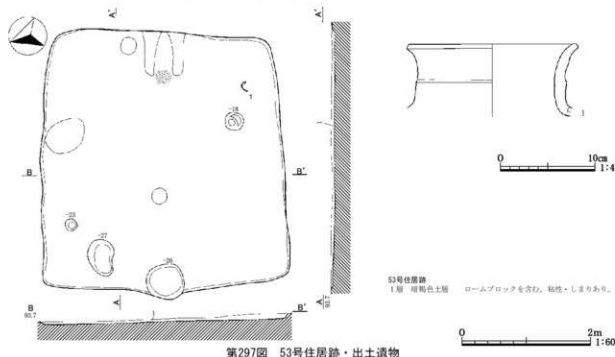


52号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径(13.0)。器高4.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. 1/5。G. 内外面に黒色付着物あり。黒色処理か。H. カマド。
2	環	A. 口径15.8。残存高5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 内外面に黒色付着物あり。黒色処理か。H. 覆土・カマド。
3	小形壺	A. 口径11.7。残存高8.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑。内面胴部上位にスス付着。H. 覆土・貯蔵穴。
4	須恵器 甕	B. タタキ成形。C. 外面、平行タタキ目。内面、同心円状の当て具痕。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
5	石製品・白玉	A. 径0.7。厚0.5。重0.32。D. 蛇紋岩。F. 完形。H. 覆土。

53号住居跡(第297図、図版58・78)

位置：F地点に位置している。1号掘立柱建物跡・2号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。確認面の段階で床面がほぼ露出していた。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-69°-E。規模：長軸3.98m、短軸3.88m。カマド：東壁に付設される。焼土と袖の痕跡を検出した程度であった。柱穴：4本確認される。埋没状況：覆土の残存状況が良くないが、自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代。



54号住居跡 出土遺物観察表

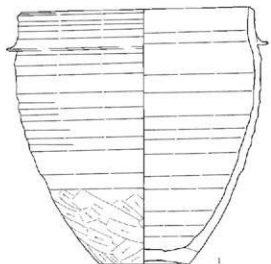
1	壺	A. 口径18.6。残存高7.6。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部1/2。G. 内面口縁部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
---	---	--

54号住居跡(第298・299図、図版58・80)

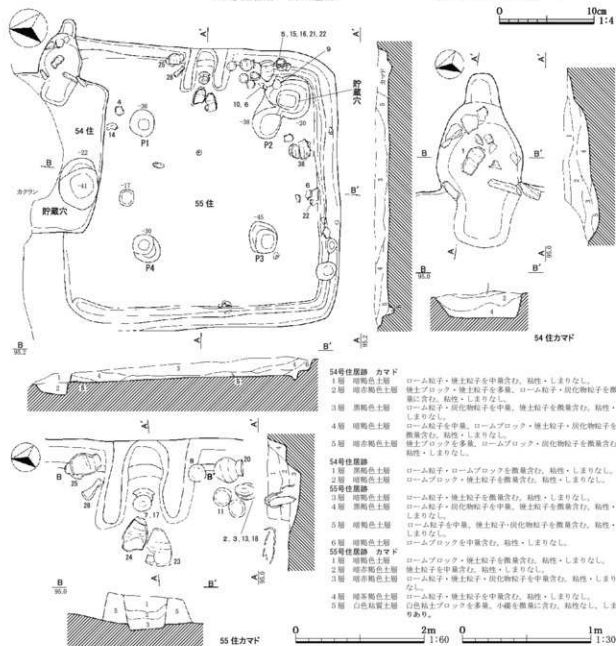
位置：F地点に位置している。55号住居跡と重複し、本遺構が新しい。住居跡の北半分はカクランによって破壊される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：S-73°-E。規模：長軸2.45m。カマド：東壁に付設される。袖は無く、住居の壁面に礫を据えて補強している。燃焼部は一段掘り窪められ、住居外へと延びる。煙道も確認された。貯蔵穴：南壁に接する円形のピットが貯蔵穴だと思われる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド内より羽釜が出土している。時期：平安時代。

55号住居跡(第299~301図、図版58・59・79・80)

位置：F地点に位置している。54号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-84°-E。規模：長軸4.41m、短軸4.35m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内に取まり、奥壁を住居の壁と共にする。その中央には、支脚の礎が据えられ、小形甕が逆位の状態で被せられていた。小形甕の中から坏も出土している。袖は



第298図
54号住居跡 出土遺物



54号住居跡 カマド

- 1層 暗褐色土層 ローム粘土・焼土粘土を中量含む。粘性・しまりなし。焼土ブロック・焼土粘土を多量。ローム粘土・炭化物粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗赤褐色土層 ローム粘土・炭化物粘土を中量。焼土粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 ローム粘土を中量。ロームブロック・焼土粘土・炭化物粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 ローム粘土を中量。ロームブロック・焼土粘土・炭化物粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗赤褐色土層 ローム粘土を多量。ロームブロック・炭化物粘土を微量含む。粘性・しまりなし。

54号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粘土・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粘土を微量含む。粘性・しまりなし。

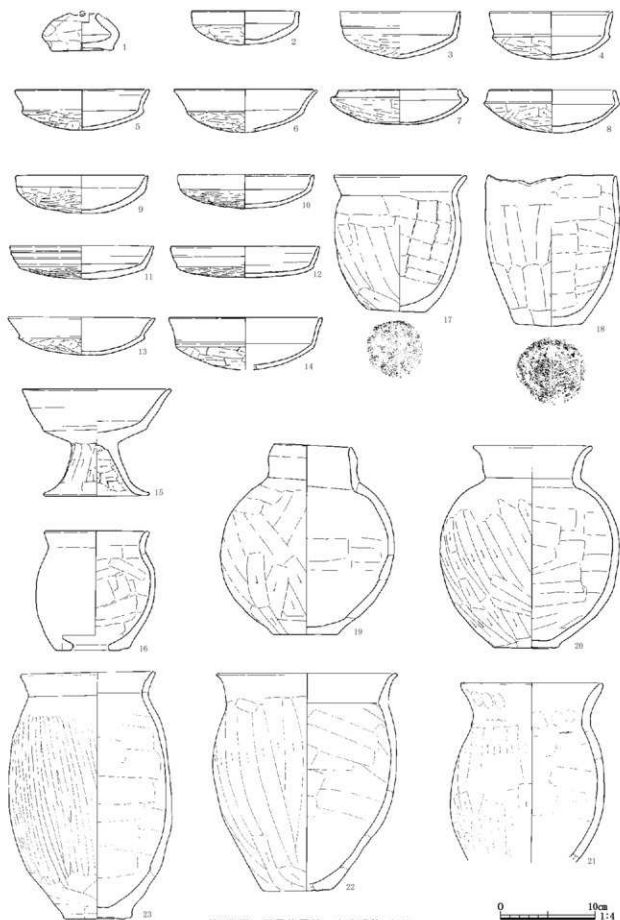
55号住居跡

- 1層 暗褐色土層 ローム粘土・焼土粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 ローム粘土・炭化物粘土を中量。焼土粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 ローム粘土を中量。ロームブロック・炭化物粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 ローム粘土を中量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗赤褐色土層 ローム粘土を多量。小礫を微量含む。粘性なし。しまりあり。

55号住居跡 カマド

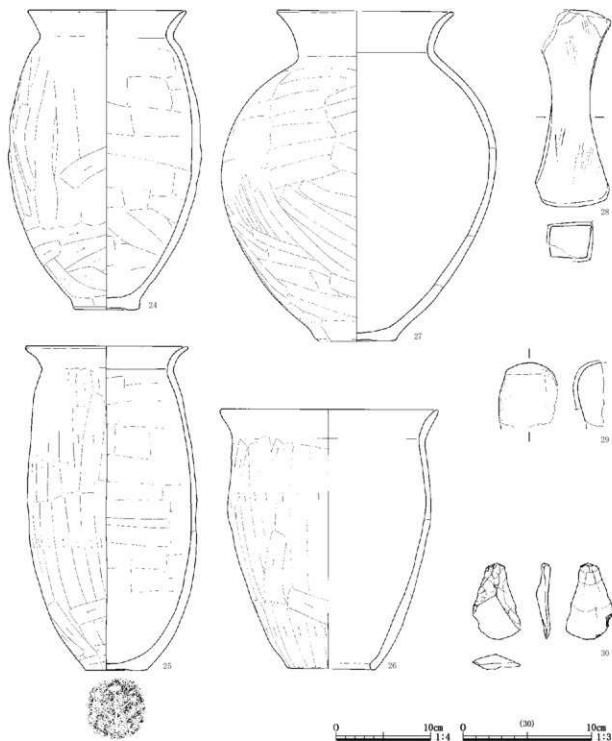
- 1層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 2層 暗赤褐色土層 焼土粘土を中量含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗赤褐色土層 ローム粘土・焼土粘土を中量含む。炭化物粘土を微量含む。粘性・しまりなし。
- 4層 暗赤褐色土層 ローム粘土・焼土粘土を中量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 白色粘質土層 白色粘土ブロックを多量。小礫を微量含む。粘性なし。しまりあり。

第299図 54号・55号住居跡



第300图 55号住居跡 出土遺物(1)

白色粘土を用いた付け袖である。貯蔵穴：カマドに向かって右側の隅丸方形のピットが貯蔵穴だと
 思われる。テラス状に一段下がり、中心部は20cm程の深さを測る。柱穴：4本の主柱穴が確認される。
 周溝：北壁とカマド部分以外で全周する。住居の壁よりやや内側に掘削されている。埋没状況：自然
 埋没であろう。遺物：カマドと貯蔵穴周辺から遺物が集中して出土している。時期：古墳時代後期。



第301図 55号住居跡 出土遺物（2）

54号住居跡 出土土物観察表

1	羽釜	A. 口径(25.0)、底径9.2、器高(27.9)。B. ロコロ成形。C. 外面、回転ナデ→髹貼付。底部ケズリ、内面、回転ナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 外面胴部二次被熱。H. カマド。
---	----	---

55号住居跡 出土土物観察表(1)

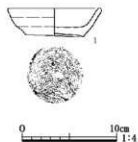
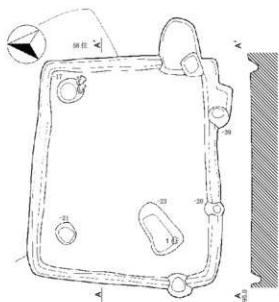
1	ミニチュア	A. 底径6.5、残存高4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ナデ。底部木炭痕。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外一にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。G. 外面底部焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径11.5。器高3.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・褐色粒子。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 外面体部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径12.8。器高5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 内面口縁部に痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
4	坏	A. 口径13.2。器高5.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面、黒色処理。H. 覆土。
5	坏	A. 口径(14.3)。器高4.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 完形。G. 外面黒色処理あり。H. 覆土。
6	坏	A. 口径15.3。器高4.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	坏	A. 口径13.1。器高3.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一灰褐色。外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理あり。H. 覆土・カマド。
8	坏	A. 口径(13.3)。器高4.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
9	坏	A. 口径14.0。器高4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→一部分にミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に黒色付着物あり。内面口縁部、痘痕状に剥離する。H. 覆土・貯蔵穴。
10	坏	A. 口径14.5。器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
11	坏	A. 口径15.2。器高3.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理あり。H. 覆土。
12	坏	A. 口径15.8。器高3.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→ミガキ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 内面体部に痘痕状の剥離あり。H. 覆土。
13	坏	A. 口径15.5。器高4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
14	坏	A. 口径16.3。残存高5.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. チャート・石英。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
15	高坏	A. 口径15.6。底径10.8。器高11.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上中下タテケズリ→下半ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部上半ヨコケズリ・下半ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5。G. 坏部内部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
16	小形甕	A. 口径11.1。底径7.6。器高12.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。底部ナデ→焼成前穿孔。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
17	小形甕	A. 口径13.8。底径6.0。器高14.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→上位ヨコナデ。下位ナメケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 完形。H. 覆土・カマド。
18	小形甕	A. 口径13.6。底径7.2。器高16.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ・ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。内面口縁部スス付着。H. 覆土。
19	甕	A. 口径(8.2)。底径7.0。器高(20.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテ→ナメケズリ→下位タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D.。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 外面二次被熱。内外面、口縁部器面剥離する。H. 覆土。
20	甕	A. 口径12.6。底径6.7。器高21.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部上位ナデ→中位以下タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・褐色粒子。E. 内外一褐色。F. 完形。G. 外面胴部二次被熱。H. 覆土。
21	甕	A. 口径15.1。残存高19.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 口縁部～胴部中位1/2。H. 覆土。
22	甕	A. 口径19.3。底径(7.2)。器高23.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英・片岩。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 内外面胴部上位にスス付着。下半は二次被熱。内面胴部上位にヨゴレ。H. 覆土。
23	甕	A. 口径14.4。底径7.3。器高26.2。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→中位以上タテミガキ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・石英。E. 内外一褐色。F. 2/3。G. 外面胴部二次被熱。内面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土・カマド。

55号住居跡 出土土物観察表(2)

24	甕	A. 口径(16.4)。底径6.4。器高31.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部上申タテナデ・下半ヨコヘナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 1/2。G. 外面胴部下半に焼成時の黒斑・二次被熱。H. 覆土・カマド。
25	甕	A. 口径(17.1)。底径6.4。器高34.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。底部木炭痕。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 外面胴部下半二次被熱。H. 覆土。
26	大形瓶	A. 口径23.1。底径9.3。器高27.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一橙色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
27	甕	A. 口径(18.5)。底径8.7。器高35.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→下半タテヘナメナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。内部胴部痕痕状に剥離する。H. 覆土。
28	砥石	A. 長20.9。幅7.8。厚3.5。重632.85。D. 流紋岩。G. 全面が良く研磨される。H. 覆土。
29	磨石	A. 残長6.7。幅6.3。残厚2.7。重154.7。D. 砂岩。G. 3面摩耗。H. 覆土。
30	スクレイパー	A. 長6.0。幅3.8。厚1.1。重15.38。D. 頁岩。H. 55倍覆土。

57号住居跡(第302・303図、図版59・80)

位置：F地点に位置している。58号住居跡・4号掘立柱建物跡と重複し、前者より新しく、後者より古い。確認面の段階で床面が露出していた。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-90°-E。規模：長軸3.61m、短軸2.96m。カマド：南東コーナー付近の東壁に付設される。袖は無く、燃焼部は住居外へと掘り込まれる。柱穴：3本確認される。周溝：カマド部分以外は全周している。埋没状況：覆土がほとんど残存していないため、詳細は不明である。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：平安時代。

第302図 57号住居跡
出土遺物

57号住居跡 カマド

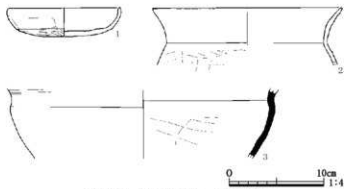
- 1層 黒褐色土層 炭化物粒子を多量、ローム粒子・粘土粒子を懸濁含む、粘性・しまりなし。
2層 暗赤褐色土層 粘土粒子を多量含む、粘性・しまりあり。
3層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、粘土粒子・炭化物粒子を懸濁含む、粘性・しまりなし。

第303図 57号住居跡

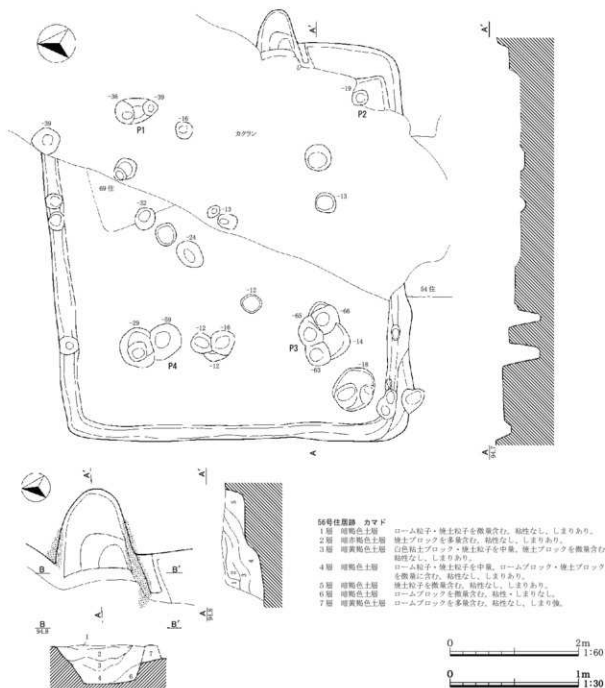
57号住居跡 出土土物観察表

1	須恵器 鉢	A. 口径9.9。底径6.1。器高3.0。B. コクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・チャート・白色粒子・橙色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄褐色。F. 完形。H. 柱穴。
---	----------	--

56号住居跡(第304・305図、図版59・80)
 位置：F地点に位置している。69号住居跡・62号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。北東コーナーから南壁に走るカクランに破壊される。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-88°-E。規模：長軸6.30m、短軸5.54m。カマド：東壁に付設され、片袖をカクラ



第304図 56号住居跡 出土遺物



第305図 56号住居跡

ンに破壊される。柱穴：16本確認され、P1～4が支柱穴であろう。周溝：南東コーナー以外で検出され、ビット状に深くなる箇所がある。埋没状況：覆土の残存状況が悪く、詳細は不明である。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。

56号住居跡 出土土物観察表

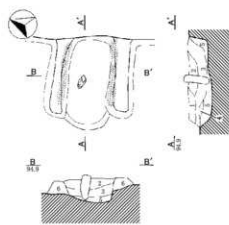
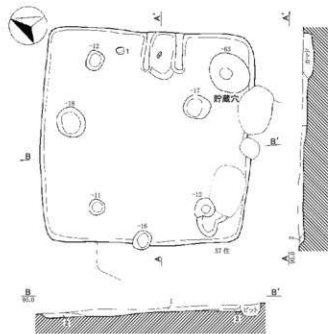
1	坏	A. 口径(12.0)。器高3.1。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土。
2	甕	A. 口径(20.1)。残存高6.2。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土。
3	須恵器鉢	A. 残存高7.4。B. タタキ成形。C. 内外面、ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。H. 覆土。

58号住居跡(第306・307図、図版59・60・80)

位置：F地点に位置している。57号住居跡・4号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-70°-E。規模：長軸3.38m、短軸3.30m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は土坑状に掘り込まれ、立ち上がりは住居の壁と一致する。また、燃焼部の中央には支脚であろう礎が据えられている。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のビットが貯蔵穴であろう。柱穴：6本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第306図
58号住居跡 出土土物



- 58号住居跡
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を豊富含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 暗褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しまりなし。
- 58号住居跡 カマド
- 1層 白色粘質土層 白色粘土ブロック主体土層。粘性や中あり。しまりあり。
 - 2層 暗褐色土層 ローム粒子・炭土粒子を豊富含む。粘性・しまりなし。
 - 3層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を中量含む。粘性・しまりなし。
 - 4層 暗褐色土層 粘土ブロック主体土層。
 - 5層 暗褐色土層 ロームブロックを中量含む。粘性・しまりなし。
 - 6層 白色粘質土層 白色粘土ブロックを多量含む。粘性・しまりあり。

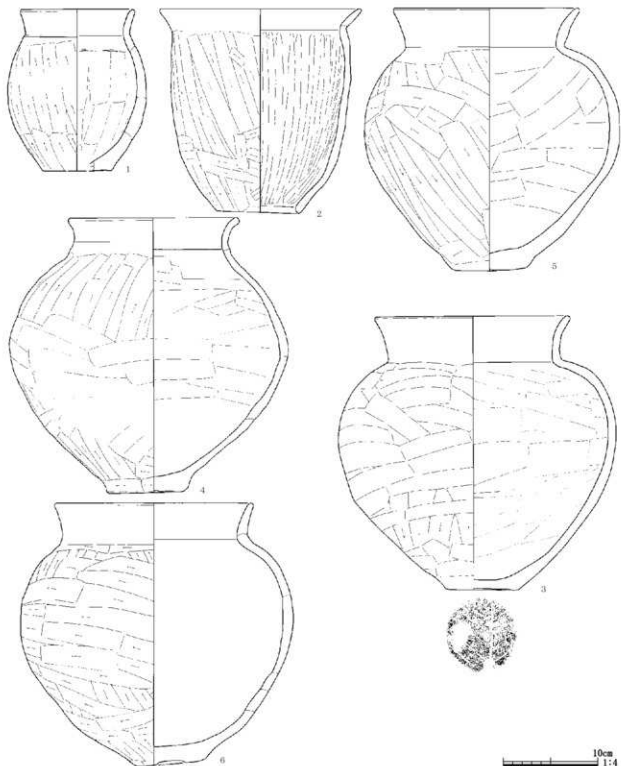
第307図 58号住居跡

58号住居跡 出土土物観察表

1	坏	A. 口径12.0。器高5.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石・石英。E. 内一明赤褐色。外一褐灰色。F. 4/5。G. 外面黒色処理か。H. 覆土。
---	---	--

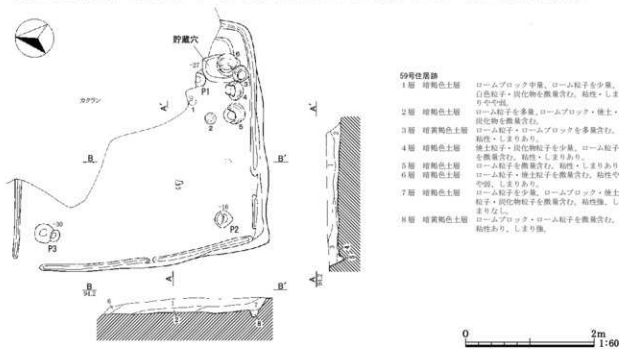
59号住居跡(第308・309図、図版60・81)

位置：F地点に位置している。北東コーナーを中心にカクランによって破壊される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-84°-E。規模：長軸4.05m、短軸3.68m。カマド：残存はしていないが東壁に付設されていたであろう。貯蔵穴：南東コーナー付近にある長方形ピットが貯蔵穴であろう。柱穴：3本確認され、いずれも主柱穴だと思われる。周溝：検出された住居部分ではほぼ全周してい



第308図 59号住居跡 出土遺物

る。北西コーナー周辺は削平を受ける。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：貯蔵穴と南壁沿いから完形の土師器壺が4点出土している。どれも床面直上からの検出である。時期：古墳時代後期。



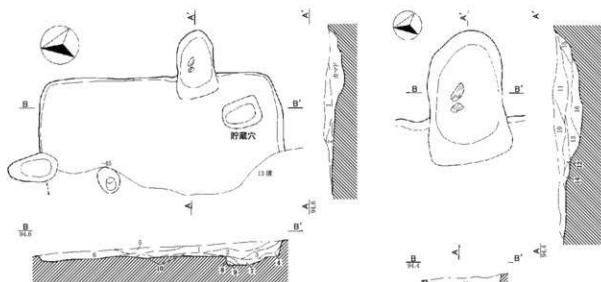
第309図 59号住居跡

59号住居跡 出土土物観察表

1	小形甕	A. 口径(12.2)。底径7.4。器高17.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。D. 角四石・片岩。E. 内一灰褐色。外一にぶい橙色・褐灰色。F. 1/2。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	中形甕	A. 口径21.5。底径8.7。器高21.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部タテナデ。D. 石英・片岩・橙色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部にスス付着。内面口縁部にスス・胴部上位にコケ付着。H. 覆土。
3	壺	A. 口径20.7。底径7.7。器高29.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→ヨコナデ。底部木炭痕。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角四石。E. 内一にぶい橙色。外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面二次被熱。内面底部にヨゴレ。内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
4	壺	A. 口径(18.1)。底径8.0。器高29.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→中位ヨコナデ・下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角四石。E. 内一にぶい褐色。外一橙色。F. 4/5。G. 外面胴部下半二次被熱。内面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	壺	A. 口径(19.8)。底径7.6。器高27.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→上位・下位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角四石。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部二次被熱。内面口縁部痕状の剥離あり。H. 覆土。
6	壺	A. 口径21.2。底径7.4。器高27.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→ヨコケズリ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一明赤褐色。F. 完形。G. 外面胴部中位に帯状にスス付着。内面胴部痕状の剥離あり。H. 覆土・貯蔵穴。

60号住居跡(第310図、図版60)

位置：F地点に位置している。13号溝と重複し、西半分を破壊される。形態：平面形は方形を呈するであろう。主軸方位：S-78°-E。規模：長軸3.88m。カマド：北壁と東壁に付設される。北壁のものは規模が小さい。袖は無く、燃焼部は住居の壁外へと延びる。東壁のものは、北壁のそれよりも規模は大きいのが構造はほぼ同じである。燃焼部に支脚であろう礎が据えられている。貯蔵穴：南東コーナー付近にある楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：1本確認された。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代か。



- 60号住居跡**
- 1層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土ブロックを少量、炭化物を散見含む。粘性あり、しまりなし。
- 2層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを少量、焼土粒子・焼土ブロックを散見含む。粘性・しまりなし。
- 3層 暗褐色土層 ローム粒子を少量、ロームブロック・焼土を散見含む。粘性あり、しまりなし。
- 4層 暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
- 5層 暗褐色土層 ロームブロックを少量、ローム粒子・焼土粒子を散見含む。粘性弱、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを少量、焼土粒子を散見含む。
- 60号住居跡 貯蔵穴**
- 7層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子・焼土ブロックを含む。粘性あり、しまりやや強。貯蔵穴底土。
- 8層 暗褐色土層 ロームブロックを中量、焼土粒子・焼土ブロックを含む。粘性・しまりやや強。貯蔵穴底土。
- 9層 暗黄褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を散見含む。粘性やや強・しまりなし。

60号住居跡 カマド

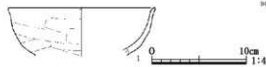
- 10層 暗褐色土層 洗褐色粘土ブロック・ロームブロックを中量、焼土ブロック・炭化物粒子を散見含む。しまり・粘性あり。
- 11層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中量、焼土粒子・焼土ブロックを散見含む。ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 12層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性・しまりなし。
- 13層 暗黄褐色土層 灰を少量、ローム粒子を中量、焼土ブロック・焼土粒子を散見含む。粘性・しまりなし。
- 14層 暗褐色土層 灰層。
- 15層 暗褐色土層 灰を少量、焼土粒子を散見含む。粘性・しまりなし。
- 16層 暗黄褐色土層 ロームブロックを少量、焼土粒子を散見含む。粘性・しまりあり。
- 17層 暗黄褐色土層 ロームブロックを含む。粘性なし、しまりあり。
- 18層 灰層



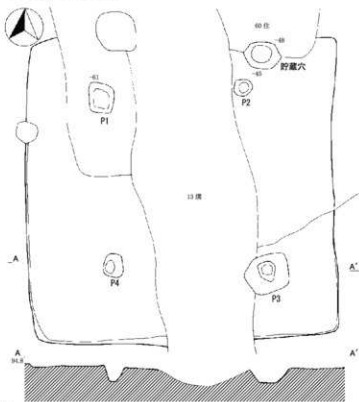
第310図 60号住居跡

61号住居跡(第311・312図、図版60・80)

位置：F地点に位置している。13号溝と重複し、南壁から北壁にかけて住居の中央を破壊される。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-5°-W。規模：長軸4.86m、短軸4.70m。貯蔵穴：北東コーナー付近の楕円形ピットが貯蔵穴であろう。柱穴：4本の柱穴が確認された。埋没状況：覆土がほとんど残存していなかったため、詳細は不明である。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



第311図 61号住居跡 出土遺物



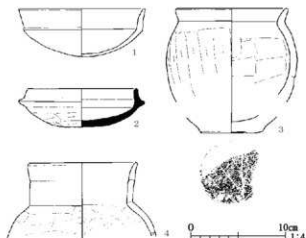
第312図 61号住居跡

61号住居跡 出土遺物観察表

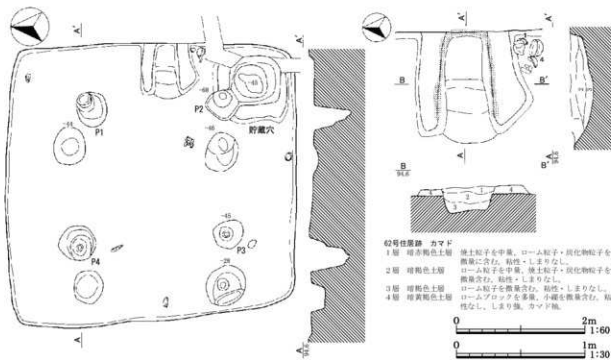
1	環	A. 口径(15.6)。残存高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、回転ナデ→下位ヨコナデ。内面、回転ナデ。D. 片岩・石英。E. 内外一明赤褐色。F. 1/5。G. 酸火焼成。外面焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
---	---	--

62号住居跡(第313・314図、図版60・61・80)

位置：F地点に位置している。56号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-88°-E。規模：長軸4.62m、短軸4.35m。カマド：東壁に付設される。焚き口部分が一段掘り下がる。燃焼部は住居内となり、立ち上がりは住居の壁と一致する。貯蔵穴：カマドに向かって右側にある隅丸方形のピットが貯蔵穴である。ローム土を充填した高さ5cm程の土手が回っている。柱穴：8本確認される。P1~4が主柱穴である。埋没状況：不明。遺物：カマドに向かって右袖の脇から環等が出土している。時期：古墳時代後期。



第313図 62号住居跡 出土遺物



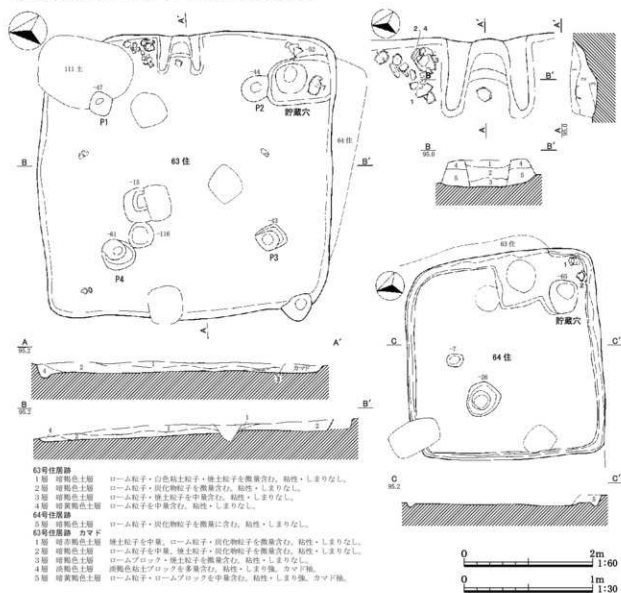
第314図 62号住居跡

62号住居跡 出土遺物観察表

1	環	A. 口径13.4。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、器面の荒れが著しい。D. 角閃石・片岩。E. 内外一褐色。F. 4/5。G. 器面が痙痕状に剥離する。H. 覆土。
2	須恵器 坏身	A. 口径11.7。器高4.1。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ一体部下半回転ケズリ。内面、同心円文当て具直→回転ナデ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 内外一灰色。G. 藤岡産。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径(11.9)。底径6.7。器高(13.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩。E. 内外一褐色。F. 1/3。G. 胴部と底部は接合しない。図上復元。H. 覆土。
4	小形壺	A. 口径11.7。残存高7.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ヨコナデ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部コビオサエ。D. 黒色粒子・角閃石。E. 内外一褐色。F. 口縁部~胴部上位4/5。H. 覆土。

63号住居跡(第315・316図、図版61・80)

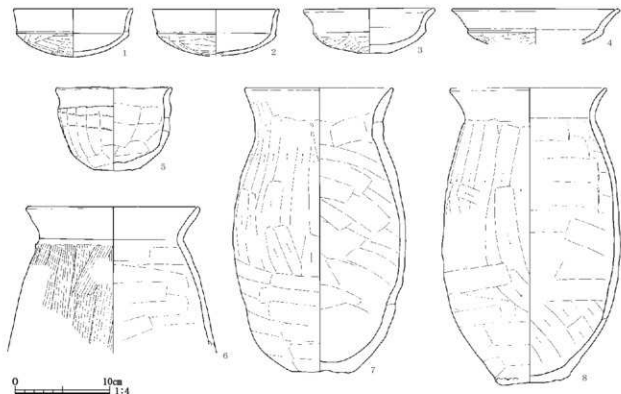
位置：F地点に位置している。64号住居跡・4号掘立柱建物跡と重複し、前者より新しく、後者より古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-81°-E。規模：長軸4.62m、短軸4.50m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内となり、煙道へは段を成して立ち上がっていく。貯蔵穴：カマドに向かって右側、南壁に接する隅丸長方形のピットが貯蔵穴である。柱穴：6本確認される。このうちP1~4が主柱穴であろう。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマドに向かって左側の袖脇に遺物が集中している。時期：古墳時代後期。



第315図 63号・64号住居跡

63号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	環	A. 口径12.7。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい赤褐色。外一明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	環	A. 口径13.5。器高(5.0)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内一にぶい橙色。外一にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に黒色付着物あり。H. 覆土。
3	環	A. 口径14.0。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部、ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。内面に黒色付着物あり。H. 覆土。



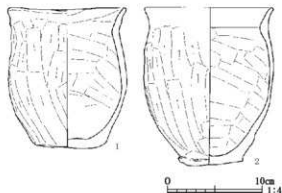
第316図 63号住居跡 出土遺物

63号住居跡 出土遺物観察表(2)

4	坏	A. 口径(17.8)。残存高3.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 口縁部～体部1/4。G. 内外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
5	鉢	A. 口径12.4。底径4.0。器高8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ユビオサエータテナデ→下位ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・石英。E. 内一褐色。外一にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 外面二次被熱。内外面焼成時の黒斑あり。H. 貯藏穴。
6	甕	A. 口径(18.3)。残存高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテハケ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・片岩。E. 内一にぶい赤褐色。外一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部上半2/3。G. 外面にスス付着。H. 覆土。
7	甕	A. 口径(15.7)。底径6.5。器高30.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半ヨコナデ。底部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 3/4。G. 外面胴部下半二次被熱。内面胴部下半ヨゴレ。内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
8	甕	A. 口径16.7。底径7.8。器高31.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→下半ヨコナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、口縁部ヨコナデ・胴部下半ナメケズリ→上半ヨコナデ。D. 片岩・白色粒子。E. 内一褐色。外一明褐色。F. 3/4。G. 外面胴部・底部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。

64号住居跡(第315・317図、図版61・81)

位置：F地点に位置している。63号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-71°-E。規模：長軸3.29m、短軸3.09m。カマド：東壁周辺より白色粘土ブロックの分布が見られた。63号住居跡の貯藏穴に破壊されたものと思われる。貯藏穴：南東コーナー付近の円形ビットが貯藏穴であろう。柱穴：1本確認される。周溝：ほぼ全周する。埋没状況：覆土の大半を63号住居跡に切られており、埋没状況は不明である。遺物：貯藏穴周辺から出土している。時期：古墳時代後期。



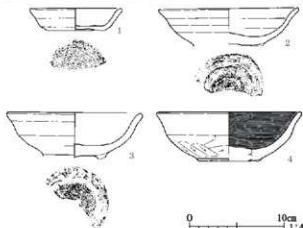
第317図 64号住居跡 出土遺物

64号住居跡 出土土物観察表

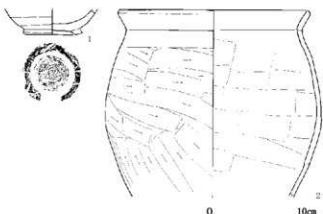
1	小形甕	A. 口径12.6, 底径6.8, 器高14.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ・ナデ, 内面、ヨコナデ, D. 石英・白色粒子, E. 内外一にぶい橙色, F. 4/5, G. 外面胴部二次被熱, 内面胴部下位以上ヨゴレ, H. 覆土。
2	小形甕	A. 口径(13.6), 底径6.6, 器高16.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ, 底部ケズリ, 内面、ヨコヘナナメナデ, D. 白色粒子・片岩, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 3/4, G. 外面胴部二次被熱, 内面胴部中位以上ヨゴレ, H. 覆土。

65号住居跡(第318・320図、図版61・81)

位置：F地点に位置している。66号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-81.5°-E。規模：長軸3.24m以上、短軸2.59m。カマド：東壁に新旧2つのカマドが付設される。北が旧カマド、南が新カマドとなる。2基とも燃焼部と煙道が住居外へと長く延びる構造を呈する。柱穴：3本確認される。周溝：新カマド部分以外は全周する。旧カマド下にも構築されている。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：新・旧カマド周辺に遺物が分布する。時期：平安時代。



第318図 65号住居跡 出土遺物



第319図 66号住居跡 出土遺物

66号住居跡(第319・320図、図版61・81)

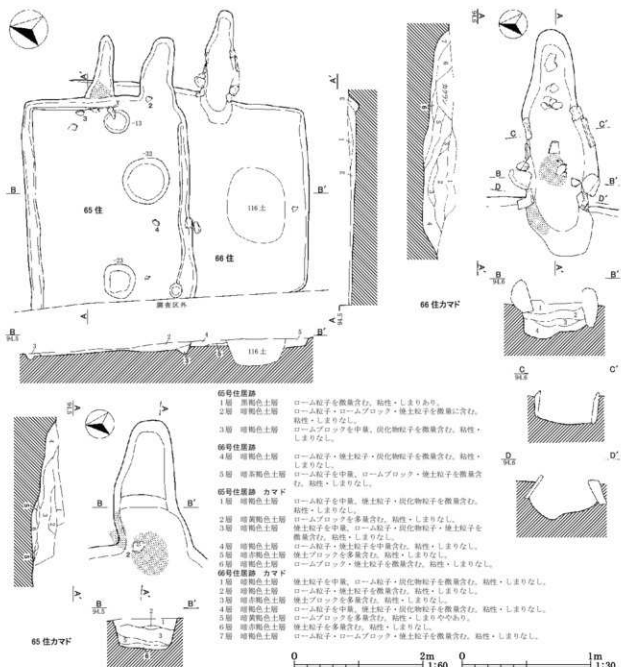
位置：F地点に位置している。65号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-86°-E。規模：短軸2.88m。カマド：東壁に付設される。袖は無く、住居の壁に礎を据える構造となっている。焚き口が一段落ち込み、燃焼部・煙道へ向かって緩やかに立ち上がる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド部分より土器等が出土している。時期：平安時代。

65号住居跡 出土土物観察表

1	須恵器 坏	A. 口径(9.8), 底径(6.0), 器高2.3, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 底部回転系切り, D. 角閃石・橙色粒子・石英, E. 内外一橙色, F. 1/2, G. 酸化焙焼成, H. 覆土。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径(14.9), 残存高3.9, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 底部回転系切り一高台貼付, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一にぶい橙色, F. 1/3, G. 酸化焙焼成, 内面黒色付着物あり, H. 覆土・カマド。
3	須恵器 高台付碗	A. 口径(14.4), 残存高4.7, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 底部回転系切り一高台貼付, D. 角閃石・石英・片岩, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 1/2, G. 酸化焙焼成, 外面底部黒色付着物, 内面体部にヌス付着, H. 覆土。
4	須恵器 高台付碗	A. 口径(15.4), 底径(6.5), 器高5.2, B. ロクロ成形, C. 外面、回転ナデー体部ナデータテケズリ, 底部高台貼付, 内面、回転ナデーヨコミガキ, D. 角閃石, E. 内一オリーブ黒, 外一橙色, F. 1/5, G. 酸化焙焼成, 内面・外面口縁部に黒色処理, H. 覆土。

66号住居跡 出土土物観察表

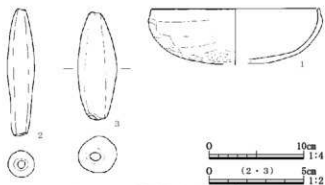
1	須恵器 高台付碗	A. 底径6.3, 残存高2.7, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ, 底部回転系切り一高台貼付, D. 白色粒子, E. 内外一橙色, F. 底部のみほぼ完形, 酸化焙焼成, H. カマド。
2	甕	A. 口径(20.3), 残存高19.8, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ一上位ヨコヘナナメナデ, 内面、ヨコナデ, D. 角閃石・橙色粒子, E. 内外一橙色, F. 口縁部~胴部中位1/3, H. カマド。



第320図 65号・66号住居跡

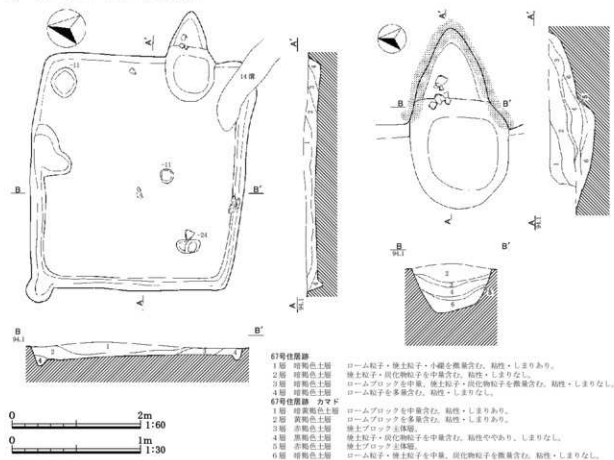
67号住居跡(第321・322図、図版62・82)

位置：F地点に位置している。14号溝と切り合い、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-86°-E。規模：長軸3.68m、短軸3.42m。カマド：東壁に付設される。焚き口が土坑状に掘りこぼまれ、住居外へとのびる燃焼部へと緩やかに立ち上がる。柱穴：3本確認される。周溝：北東コーナーから



第321図 67号住居跡 出土遺物

東壁以外で確認されている。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：カマド内から土器が、住居内には礫が散在する。時期：平安時代。



第322図 67号住居跡

67号住居跡 出土遺物観察表

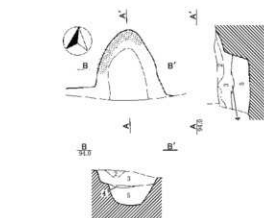
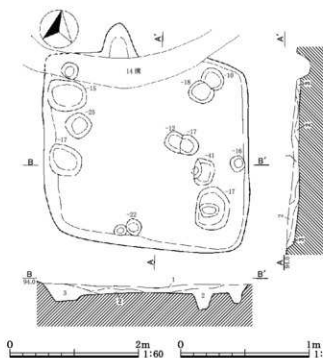
1	環	A. 口径(17.7)。残存高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. カマド。
2	土鍾	A. 長6.7。幅1.4。厚0.6。重12.29。C. ナデ。D. 石英。E. にぶい褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
3	土鍾	A. 長5.7。幅2.1。厚1.0。重18.70。C. ナデ。D. 白色粒子。E. にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。

68号住居跡(第323図、図版62)

位置：F地点に位置して。14号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-6.5°-W。規模：長軸3.24m、短軸3.11m。カマド：北壁に付設される。重複によって不明だが、袖はなく、燃焼部は住居外へと延びる。柱穴：13本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代か。

69号住居跡(第324図、図版62・82)

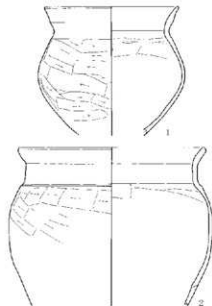
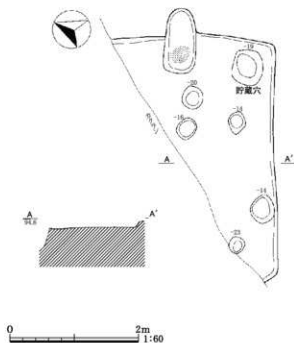
位置：F地点に位置している。カクランに大部分を破壊される。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-67°-E。規模：長軸3.79m。カマド：東壁に付設される。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：5本確認される。埋没状況：詳細は不明である。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



68号住居跡

- 1層 黒褐色土層 ローム粒子を散見含む、粘性・しまりなし。
 2層 暗赤褐色土層 ロームブロックを中集含む、粘性・しまりなし。
 3層 黒褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を散見含む、粘性・しまりなし。
 68号住居跡 カマド
 1層 暗赤褐色土層 ロームブロック主体土層、粘性・しまりあり。
 2層 暗赤褐色土層 焼土ブロックを多量に含む、粘性・しまりあり。
 3層 暗赤褐色土層 ローム粒子を中集、焼土粒子・炭化物粒子を散見含む、粘性・しまりあり。
 4層 暗赤褐色土層 焼土粒子を多量含む、粘性・しまりあり。
 5層 暗褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを中集、焼土粒子を散見含む、粘性・しまりあり。

第323図 68号住居跡



第324図 69号住居跡・出土遺物

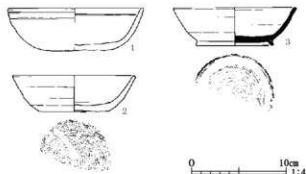
69号住居跡 出土遺物観察表

1	小形甕	A. 口径(14.2)。残存高13.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナナメ〜ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内一灰褐色。外一にぶい赤褐色。F. 口縁部〜胴部中位1/4。G. 外面胴部二次被熱。内面口縁部〜胴部上位スス付着。H. カマド。
2	甕	A. 口径(20.0)。残存高16.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 口縁部〜胴部中位1/5。G. 外面胴部に粘土付着。H. カマド。

70号住居跡(第325・326図、図版62・82)

位置：F地点に位置している。71号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：S-88°-E。規模：長軸4.81m、短軸4.01m。カマド：東壁と北壁に付設される。

北壁が旧カマド、東壁が新カマドとなる。新カマドの上部はカクランによって削平される。柱穴：12本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：覆土より土器が出土している。時期：平安時代。

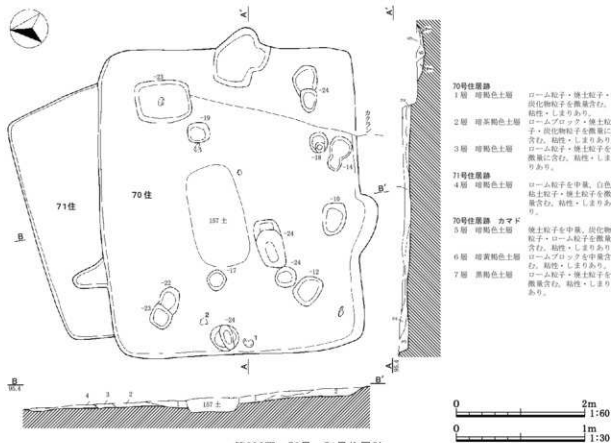


第325図 70号住居跡 出土遺物

71号住居跡(第326図、図版62)

位置：F地点に位置している。70号住居跡と重複し、本遺構が古い。重複により、住居の南半分は消滅する。形態：平面形は方形を呈するだろう。

重複し、本遺構が古い。重複により、住居の南半分は消滅する。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-77°-E。規模：長軸3.74m。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：重複関係から平安時代以前に比定される。



第326図 70号・71号住居跡

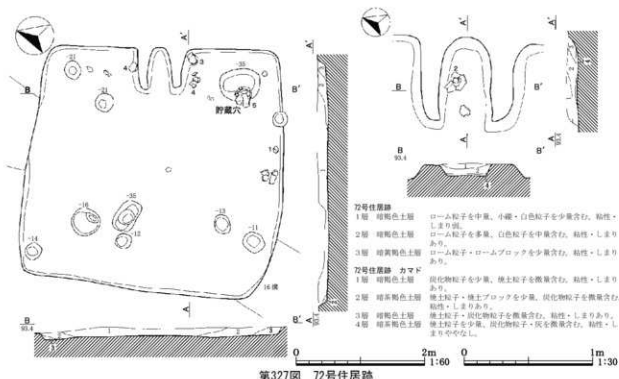
70号住居跡 出土遺物観察表

層	遺物	観察内容
1	環	A. 口径14.5、器高4.5、B. ロクロ成形、C. 内外面、回転ナデ、底部調整不明、D. 石英・片岩、E. 内-にぶい黄褐色、外-灰黄褐色、F. 4/5、G. 醜火焼成、内外面器面の剥落が著しい、H. 覆土。
2	須恵器環	A. 口径(13.0)、底径(7.3)、器高4.8、B. ロクロ成形、C. 内外面、回転ナデ、内外面器面の剥落が著しい、D. 片岩・石英、E. 内-褐色、外-にぶい黄褐色、F. 1/3、G. 醜火焼成、H. 覆土。
3	須恵器高台付碗	A. 口径(13.0)、底径(8.2)、器高4.0、B. ロクロ成形、C. 内外面、回転ナデ、底部回転糸切り-高台貼付一回転ケズリ、D. 石英・片岩・海綿骨針、E. 内-褐色、外-にぶい黄褐色、F. 1/3、G. 還元焼成、H. 覆土。

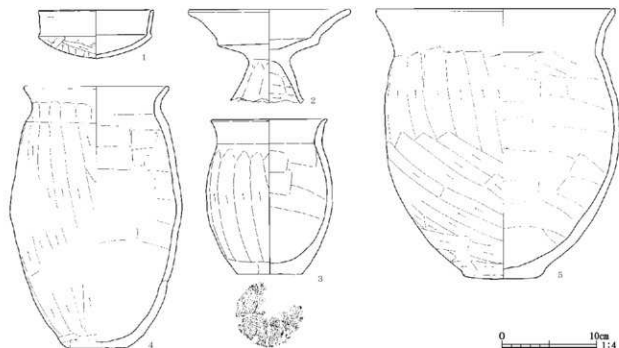
72号住居跡(第327・328図、図版63・82)

位置：F地点に位置している。16号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-75°-E。規模：長軸4.11m、短軸3.92m。カマド：東壁に付設される。地山掘り残しの

袖を持つ。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する楕円形のピットが貯蔵穴であろう。柱穴：9本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド及び貯蔵穴周辺に遺物が分布している。時期：古墳時代後期。



第327図 72号住居跡



72号住居跡 出土遺物観察表(1)

1	環	A. 口径(12.2)。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
2	高環	A. 口径(17.3)。残存高9.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ヨコナデ。脚部タテナデ。内面、環部ヨコナデ。脚部ヨコナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 環部～脚部上位4/5。G. 外面二次被熱。内面環部に粘土付着。脚部は打ち欠きか。H. カマド。

72号住居跡 出土土物観察表(2)

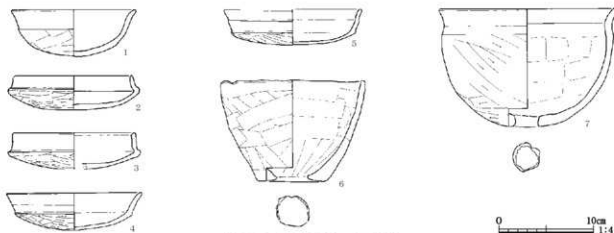
3	小形甕	A. 口径(12.4)。底径(6.9)。器高16.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテズリ→下位ヨコナデ、底部木炭痕。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石。E. 内一明赤褐色。外一褐色。F. 1/2。G. 内外面、二次被熱。H. 覆土・カマド。
4	甕	A. 口径(15.4)。底径5.9。器高27.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテズリ→下位ヨコナデ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 3/4。G. 外面胴部下半二次被熱。H. カマド。
5	甕	A. 口径(25.0)。底径8.6。器高28.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテズリ→下半ナメズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・角閃石・白色粒子。E. 内外一褐色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 貯蔵穴。

73号住居跡(第329・330図、図版63・82)

位置：F地点に位置している。74号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-42°-W。規模：長軸4.15m、短軸4.04m。カマド：西壁に付設される。袖は付け袖で、燃焼部は住居内に収まる。貯蔵穴：カマドに向かって左に位置する長方形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：15本確認される。このうちP1~4が主柱穴である。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：カマド覆土層から完形に近い土師器が3点出土する。時期：古墳時代後期。

74号住居跡(第330・331図、図版63・82)

位置：F地点に位置している。73号住居跡と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-87°-E。規模：長軸5.01m、短軸4.66m。カマド：東壁に付設される。袖は付け袖

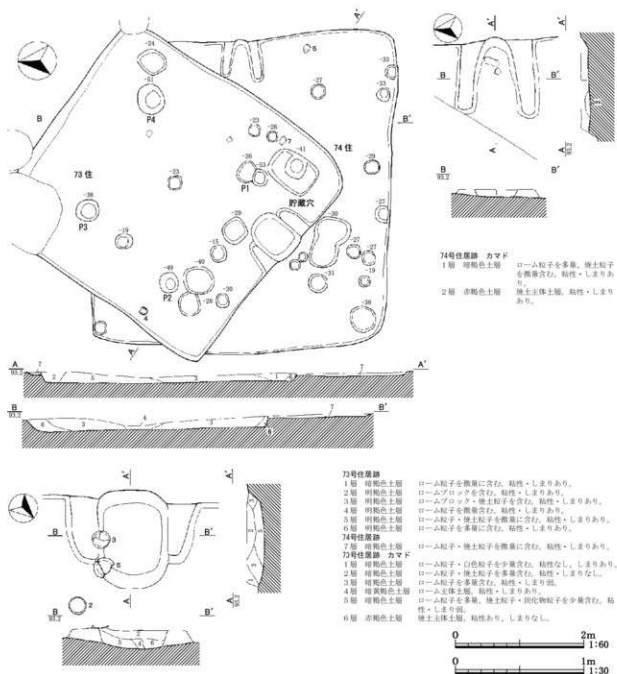


第329図 73号住居跡 出土土物

73号住居跡 出土土物観察表

1	坏	A. 口径13.2。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 角閃石・片岩・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/2。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	坏	A. 口径12.3。器高3.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一。外一。F. ほぼ完形。H. カマド。
3	坏	A. 口径12.8。残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
4	坏	A. 口径14.3。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面・ヨコナデ。D. 角閃石・片岩。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 外面体部にスス付着。H. 覆土。
5	坏	A. 口径14.6。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子・褐色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。
6	小形甕	A. 口径15.4。底径7.3。器高10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→ヨコナデ。内面、ヨコナデ。D. チャート・片岩・角閃石。E. 内外一にぶい赤褐色。F. 4/5。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
7	小形甕	A. 口径18.7。器高12.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ヨコナデ→ナメズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい褐色。F. 2/3。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. カマド。

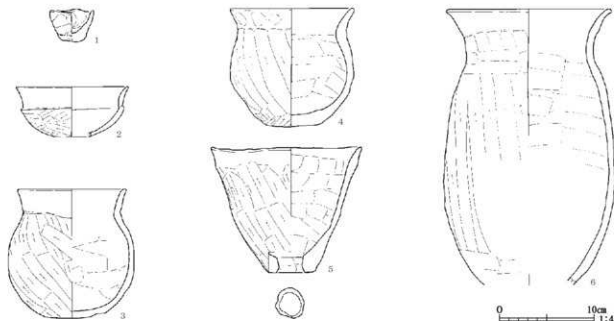
で、燃焼部は住居内に収まる。柱穴：14本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：覆土内より土器片が出土している。時期：古墳時代後期。



第330図 73号・74号住居跡

74号住居跡 出土遺物観察表 (1)

1	ミニチュア	A. 口径4.5。底径2.6。器高3.5。B. 手摺ね。C. 外面、ナデ・ユビオサエ。内面、ナデ。D. 角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい黄褐色。F. 完形。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
2	環	A. 口径(11.9)。残存高5.3。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 内一明赤褐色。外一褐色。F. 4/5。H. 覆土。
3	小形甕	A. 口径(11.4)。器高13.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内一にぶい褐色。外一にぶい褐色。F. 1/2。G. 内外面黒斑あり。H. 覆土。
4	小形甕	A. 口径(13.3)。底径(6.1)。器高12.6。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部ヨコナデ・ユビオサエ。胴部タテケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内一明褐色。外一にぶい褐色。F. 2/3。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。



第331図 74号住居跡 出土遺物

74号住居跡 出土遺物観察表 (2)

5	小形甕	A. 口径(16.1). 底径4.6. 器高13.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・片岩. E. 内-にぶい褐色. 外-にぶい黄褐色. F. 1/2. G. 口縁部内面に焼成時の黒斑あり. H. カマド.
6	甕	A. 口径(17.4). 残存高29.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 胴部タテケズリ-類部・下位ヨコナデ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・橙色粒子・白色粒子. E. 内外-橙色. F. 口縁部-胴部下位3/4. G. 外面に焼成時の黒斑あり. H. 覆土・道路状遺構との遺構間接合.

75号住居跡(第332・333図、図版63・83)

位置：F地点に位置し、単独で検出された住居跡である。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方

位：S-25°-E。規

模：長軸4.12m、短軸

3.09m。カマド：南壁

に付設される。焼

成部は住居外へと延び、

覆土上層より甕が2個

体出土している。柱

穴：7本確認される。埋

没状況：自然埋没である。

遺物：カマド以外に覆

土からも土器片は出土

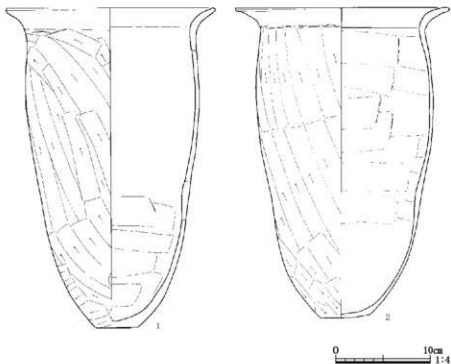
している。南西コー

ナ一付近には30cmほどの

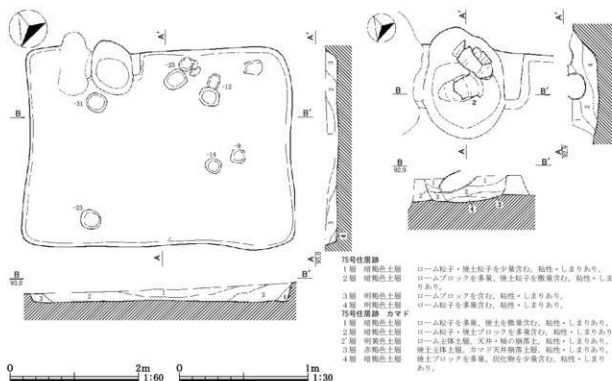
扁平な石が据えられて

いる。時期：古墳時代

後期。



第332図 75号住居跡 出土遺物



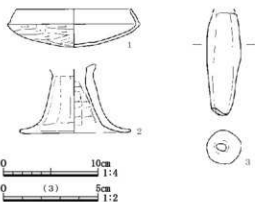
第333図 75号住居跡

75号住居跡 出土遺物観察表

1	甕	A. 口径22.1。底径4.4。器高33.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテへナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・チャート。E. 内外一灰黄褐色。F. 1/2。G. 外面胴部二次焼成。H. カマド。
2	甕	A. 口径(22.6)。底径5.5。器高32.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテへナメケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 3/4。G. 外面胴部スス付着・焼成時の黒灰あり。内面胴部にヨゴレ。H. カマド。

76号住居跡(第334・335図、図版63・64・83)

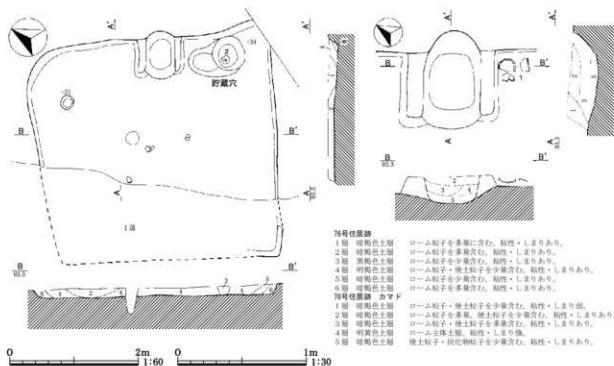
位置：F地点に位置している。道路状遺構と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-64°-E。規模：長軸3.84m、短軸3.70m。カマド：東壁に付設される。燃焼部は住居内に収まり、一段掘り下がる。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する円形のピットが貯蔵穴だろう。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没だと思われる。遺物：住居内に散在している。時期：古墳時代後期。



第334図 76号住居跡 出土遺物

76号住居跡 出土遺物観察表

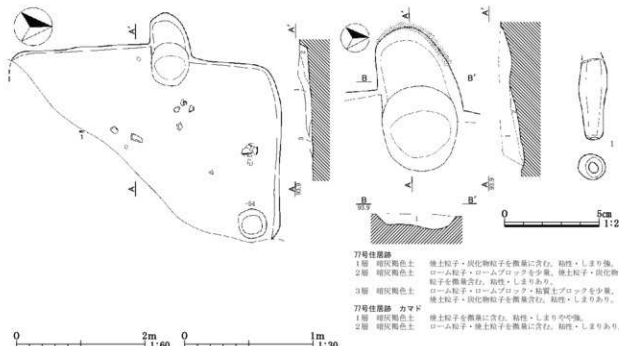
1	環	A. 口径12.4。器高4.0。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内一にぶい褐色。外一灰褐色。F. ほぼ完形。G. 内外面黒色処理か。H. カマド。
2	高坏	A. 底径11.8。残存高6.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、脚部上半タテナデ。下半ヨコナデ。内面、脚部上半ヨコケズリ。下半ヨコナデ。D. 白色粒子。E. 内外一橙色。F. 脚部ほぼ完形。G. 外面に焼成時の黒灰あり。H. 覆土・貯蔵穴。
3	土鏝	A. 残長5.4。幅1.8。厚0.8。重17.42。C. ナデ。D. 石英。E. にぶい黄褐色。F. 2/3。G. 黒灰あり。H. 覆土。



第335図 76号住居跡

77号住居跡(第336図、図版64・83)

位置：F地点に位置している。単独で検出されたが、住居の南半分は削平により消滅している。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：N-90°-W。規模：長軸4.15m。カマド：西壁に付設される。袖は残存していない。燃焼部は住居外へと延び、一段掘り下がる。柱穴：1本確認される。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：住居内に散在している。時期：古代か。



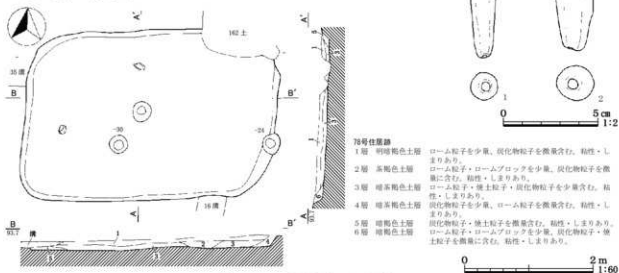
第336図 77号住居跡・出土遺物

77号住居跡 出土遺物観察表

1	土錘	A. 残長4.3, 幅.15, 厚0.6, 重8.48, C. ナデ, D. 白色粒子, E. にぶい橙色, F. 2/3, H. 覆土
---	----	--

78号住居跡(第337図、図版64・83)

位置：F地点に位置している。16号溝・35号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-86° - E。規模：長軸3.95m、短軸2.70m。柱穴：3本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土から土器片・土錘が出土している。時期：古代か。



第337図 78号住居跡・出土遺物

78号住居跡 出土遺物観察表

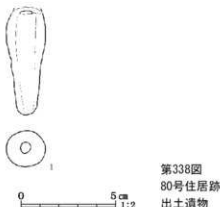
1	土錘	A. 長7.2, 幅1.5, 厚0.6, 重11.86, C. ナデ, D. 白色粒子, E. 橙色, F. 完形, H. 覆土。
2	土錘	A. 長6.4, 幅1.9, 厚0.9, 重20.19, C. ナデ, D. 角閃石, E. にぶい黄褐色, F. 完形, G. 黒泥あり, H. 覆土。

79号住居跡(第339図、図版64)

位置：F地点に位置している。16号・24号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-89° - E。規模：長軸2.95m以上、短軸2.46m。カマド：南東コーナーに付設される。袖等はなく、燃焼部が土坑状に一段下がる構造となっている。柱穴：床下土坑が1基確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：古墳時代。

80号住居跡(第338・340図、図版64・83)

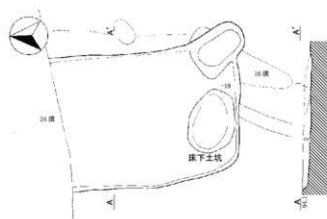
位置：F地点に位置している。住居の東壁のみを検出し、大半は調査区外となっている。形態：平面形は方形を呈するだろう。主軸方位：推定N-13° - W。規模：長軸5.05m。柱穴：壁面周辺に3本確認される。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土中より土器片が出土している。時期：古墳時代。



第338図
80号住居跡
出土遺物

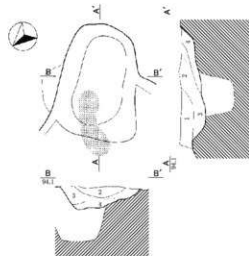
80号住居跡 出土遺物観察表

1	土錘	A. 残長5.7, 幅2.1, 厚0.8, 重17.53, C. ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. にぶい黄褐色, F. 1/2, H. 覆土。
---	----	---



79号住居跡

- 1層 増成褐色土層 焼土粒子・焼土ブロックを多数、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
2層 増成褐色土層 焼土粒子・焼土ブロックを少量、ローム粒子・ロームブロックを微量に含む。粘性・しまり強。

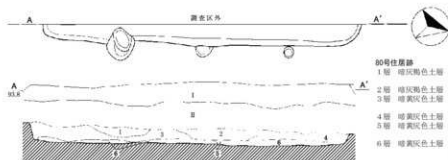


79号住居跡 カマド

- 1層 増成褐色土層 焼土粒子を多数に含む。粘性・しまり強。
2層 増成褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを少量含む。粘性・しまり強。
3層 増成褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性・しまり強。
4層 増成褐色土層 ローム粒子を含む。粘性・しまり強。



第339図 79号住居跡



80号住居跡

- 1層 増成褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
2層 増成褐色土層 1層に匹敵する。
3層 増成褐色土層 ローム粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
4層 増成褐色土層 3層に匹敵する。
5層 増成褐色土層 ローム粒子を多数、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまり強。
6層 増成褐色土層 ロームブロックを大量に含む。粘性・しまりあり。



第340図 80号住居跡

81号住居跡(第341・342図、図版64・83)

位置：F地点に位置している。東西方向に走るカクランに住居中央を破壊される。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-67°-E。規模：長軸5.46m、短軸4.28m。カマド：東壁に付設される。白色粘土を用いた付け袖で、補強材として石を使う。柱穴：10本確認される。P1~4は主柱穴で、P5は壁面が焼けている。周溝：西壁から南壁に検出される。西壁沿いは床が一段上がる状況となる。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：カマド周辺から土器が出土するほか、編み物石が散在している。時期：古墳時代。



第341図

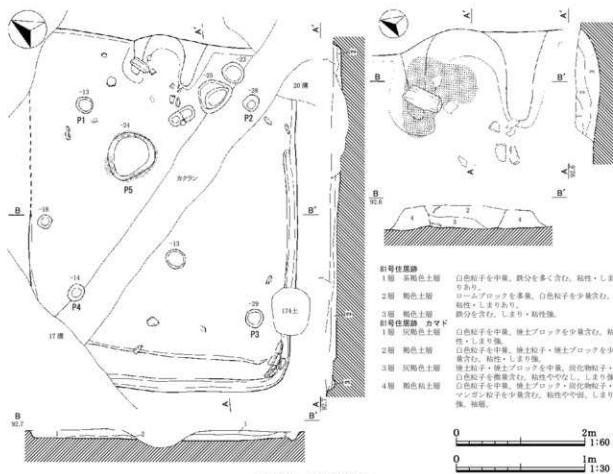
81号住居跡 出土遺物

81号住居跡 出土遺物観察表

1	土錘	A. 長4.5、幅1.3、厚0.5、重5.69。C. ナデ。D. 白色粒子。E. 橙色。F. 完形。H. 覆土。
---	----	--

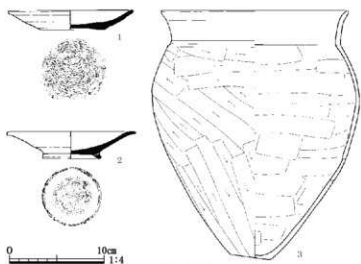
82号住居跡(第343・344図、図版65・83)

位置：F地点に位置している。単独で検出されたが、西半分は削平を受けている。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：S-88°-E。規模：長軸3.92m、短軸3.50m。カマド：東壁に付設される。袖は無く、住居壁に石を据える構造であろう。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する長方形の



第342図 81号住居跡

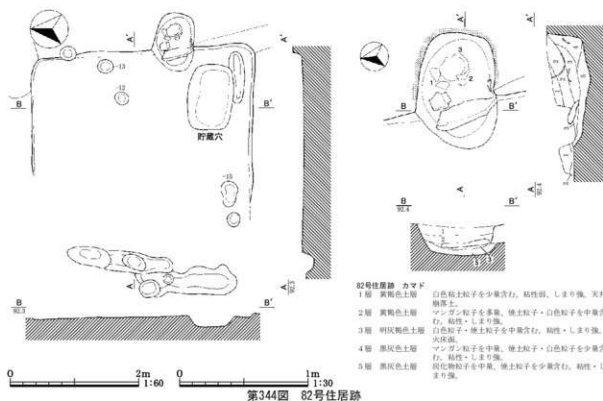
ピットが貯蔵穴だろう。柱穴：5本確認される。周溝：貯蔵穴の南と西壁に検出される。埋没状況：自然埋没。遺物：カマドを中心に土器等が出土している。時期：平安時代。



第343図 82号住居跡 出土遺物

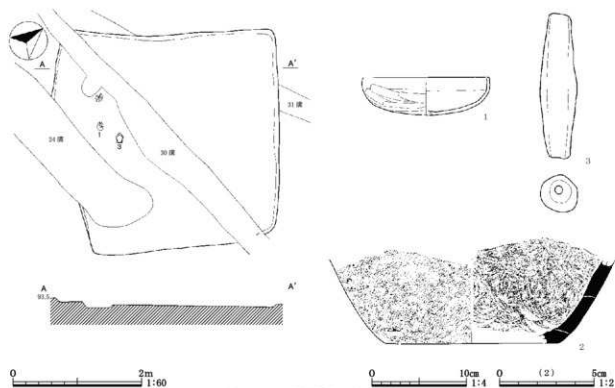
82号住居跡 出土遺物観察表

1	須恵器 皿	A. 口径13.4。底径6.7。器高2.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 片岩・白色粒子・黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 3/4。G. 還元焼成。H. カマド。
2	須恵器 高台付碗	A. 口径13.7。底径6.2。器高2.9。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 石英・白色粒子。E. 内外一にぶい褐色。F. 4/5。G. 還元焼成だが、焼成不良。H. カマド。
3	甕	A. 口径19.8。底径4.2。器高26.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部ナメ～タテケズリ→上位ヨコケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・褐色粒子。E. 内外一褐色。F. ほぼ正形。G. 外面二次被熱・焼成時の黒底あり。H. カマド。



83号住居跡(第345図、図版65・83)

位置：F地点に位置している。24号・30号・31号溝と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-41°-E。規模：長軸3.54m、短軸3.37m。埋没状況：覆土がほとんど残存していないため、詳細は不明である。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：平安時代。



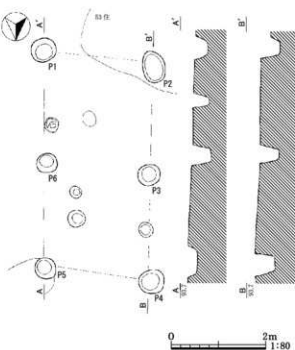
83号住居跡 出土遺物観察表

1	杯	A. 口径(13.5)。器高3.9。B. 粘土細積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。G. 外面口縁部に黒斑あり。H. 覆土。
2	須恵器 甕	A. 底径(18.3)。器高8.9。B. 粘土細積み上げ→タタキ成形。C. 外面平行タタキ目→ナデ。内面、同心円状の当て具痕。D. 片岩・白色粒子。E. 内外一黄灰色。F. 破片。H. 覆土。
3	土鍾	A. 長7.7。幅2.0。厚0.8。重25.58。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 橙色。F. 完形。H. 覆土。

2. 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡(第346図・図版65)

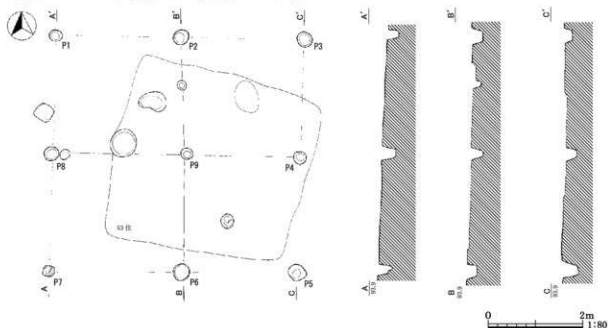
位置：F地点の東に位置している。53号住居跡・2号掘立柱建物跡と重複する。住居跡より新しく、掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。形態：南北方向2間、東西方向1間の長方形を呈する側柱式。長軸方位N-0°-E。長軸5.10m、短軸2.80m。柱心間は東西一間2.30m、南北一間2.20~2.30mを測る。柱穴：直径40~60cm程度の円形を呈し、深さは10~40cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：古墳時代以降。



第346図 1号掘立柱建物跡

2号掘立柱建物跡(第347図・図版65)

位置：F地点の東に位置している。53号住居跡・1号掘立柱建物跡と重複する。住居跡より新しく、掘立柱建物跡との新旧関係は不明である。形態：南北・東西方向2間の方形を呈する総柱式。長軸方位N-5°-E。長軸5.55m、短軸5.20m。柱

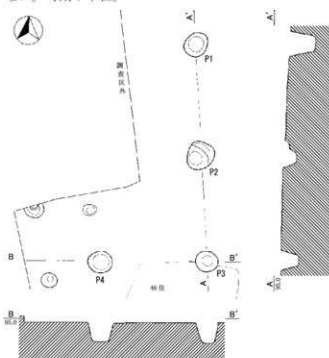


第347図 2号掘立柱建物跡

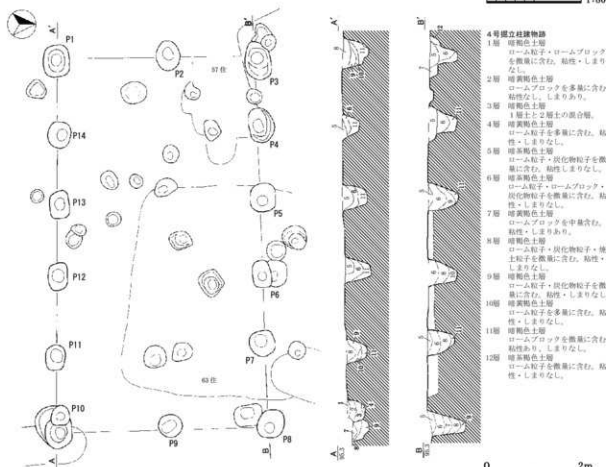
心間は東西一間2.50～2.80m、南北一間2.50mを測る。柱穴：直径30～40cm程度の円形を呈し、深さは20～30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

3号掘立柱建物跡(第348図・図版65)

位置：F地点の西に位置している。46号住居跡し、本遺構が新しい。形態：南北2間・東西方向2間以上の方形を呈する。全体を検出していないので、総柱式か側柱式かは不明。長軸方位N-4°-W。長軸5.05m、短軸4.10m以上。柱心間は東西一間2.20～2.40m、南北一間2.30mを測る。柱穴：直径56～60cm程度の円形を呈し、深さは30～50cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。



第348図 3号掘立柱建物跡



第349図 4号掘立柱建物跡

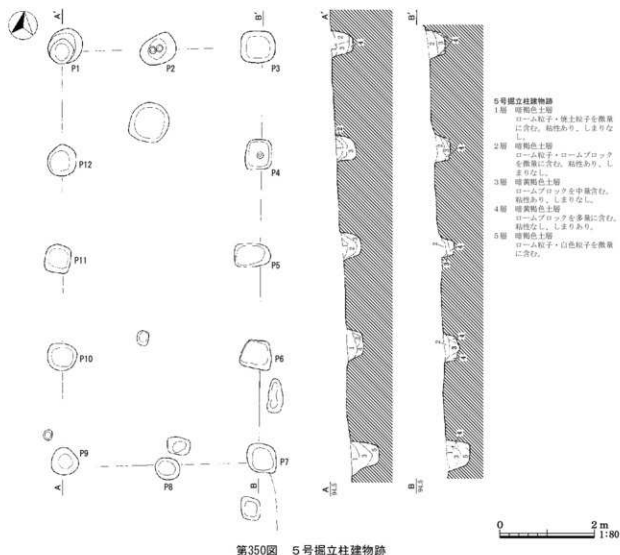
- 4号掘立柱建物跡
- 1層 暗褐色土層
ローム粒子・ロームブロックを機織りに含む。粘性・しまりなし。
 - 2層 暗褐色土層
ロームブロックを多量に含む。粘性なし。しまりあり。
 - 3層 暗褐色土層
1層土と2層土の混合層。
 - 4層 暗褐色土層
ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりなし。
 - 5層 暗褐色土層
ローム粒子・炭化物粒子を機織りに含む。粘性しまりなし。
 - 6層 暗褐色土層
ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を機織りに含む。粘性・しまりなし。
 - 7層 暗褐色土層
ロームブロックを中量含む。粘性・しまりあり。
 - 8層 暗褐色土層
ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を機織りに含む。粘性・しまりなし。
 - 9層 暗褐色土層
ローム粒子・炭化物粒子を機織りに含む。粘性・しまりなし。
 - 10層 暗褐色土層
ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりなし。
 - 11層 暗褐色土層
ロームブロックを機織りに含む。粘性あり。しまりなし。
 - 12層 暗褐色土層
ローム粒子を機織りに含む。粘性・しまりなし。

4号据立柱建物跡(第349図・図版65)

位置：F地点の中央より南に位置している。57号住居跡・63号住居跡・64号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：南北方向2間、東西方向5間の長方形を呈する側柱式。長軸方位：N-89°-E。長軸8.35m、短軸5.14m。柱心間は東西一間1.90~2.40m、南北一間1.40~1.90mを測る。柱穴：直径50~80cm程度の方形を呈し、深さは50~70cm。覆土：柱痕や抜き取りの痕跡はなく、自然埋没であった。遺物：出土していない。時期：古代以降。

5号据立柱建物跡(第350図・図版65)

位置：F地点の南に位置している。形態：南北方向4間、東西方向2間の長方形を呈する側柱式。長軸方位N-4°-W。長軸9.48m、短軸4.78m。柱心間は東西一間2.00~2.30m、南北一間2.00~2.20mを測る。柱穴：直径50~80cm程度の円形ないしは方形を呈し、深さは30~50cm。覆土：柱痕や抜き取りの痕跡はなく、自然埋没であった。遺物：出土していない。時期：中世。

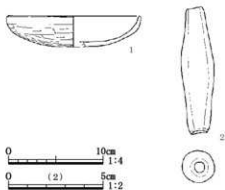


6号据立柱建物跡(第352図・図版65)

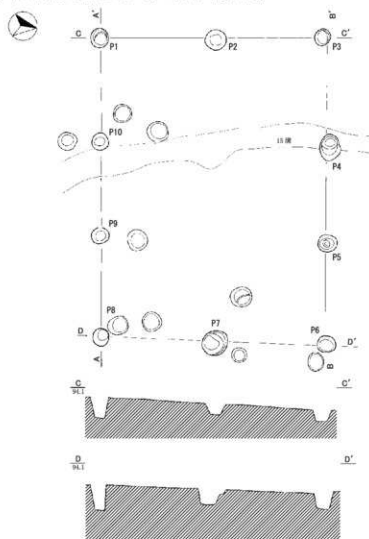
位置：F地点の中央付近に位置している。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する側柱式。長軸方位 $S-83^{\circ}-W$ 。長軸6.81m、短軸5.10m。柱心間は東西一間2.00~2.20m、南北一間2.30~2.60mを測る。柱穴：直径40~50cm程度の円形を呈し、深さは30~50cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

7号据立柱建物跡(第351・353図・図版66・83)

位置：F地点の西に位置している。形態：南北方向2間、東西方向3間の長方形を呈する側柱式。長軸方位 $N-89^{\circ}-W$ 。長軸6.96m、短軸5.36m。柱心間は東西一間2.00~2.30m、南北一間2.10~2.30mを測る。柱穴：直径50~90cm程度の円形を呈し、深さは40~60cm。覆土：P2・3・4・7・9は覆土観察が成されている。P4は柱痕が確認され、これ以外のピットは自然埋没であった。遺物：ピット覆土より、土師器坏と土錘が出土している。時期：平安時代。



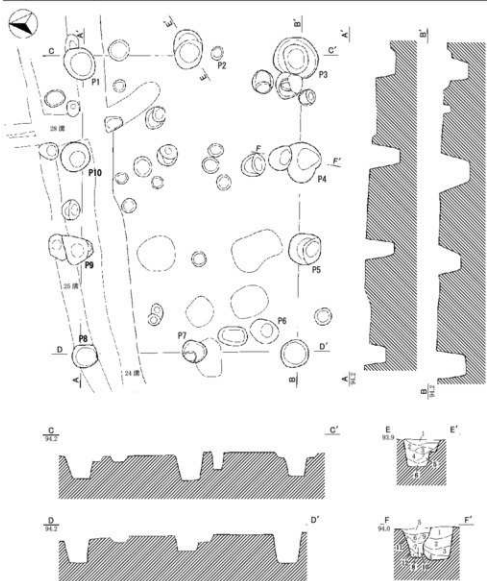
第351図 7号据立柱建物跡 出土遺物



第352図 6号据立柱建物跡

7号掘立柱建物跡 出土遺物観察表

1	杯	A. 口径(14.2)。残存高3.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. ビット覆土。
2	土鍾	A. 長6.7。幅1.7。厚0.7。重16.52。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 灰黄褐色。F. 完形。H. ビット覆土。



7号掘立柱建物跡

P2

- 1層 埴原褐色土層
ローム粒子・焼土粒子・焼土ブロックを少量。灰化植物粒子を微量含む。粘性・しまり強。
 - 2層 埴原褐色土層
ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックを少量集む。粘性・しまり強。
 - 3層 埴原褐色土層
ロームブロックを少量。ロームブロックを散在含む。粘性・しまり強。
 - 4層 埴原褐色土層
ロームブロック・焼土粒子・焼土ブロックを少量集む。粘性・しまり強。
 - 5層 埴原褐色土層
ロームブロックを少量。焼土粒子・焼土ブロックを散在含む。粘性・しまり強。
 - 6層 埴原褐色土層
ロームブロック・ロームを少量含む。粘性・しまり強。
- P4
- 1層 埴原褐色土層
焼土粒子・焼土ブロックを少量。灰化植物粒子を微量含む。粘性・しまり強。
 - 2層 埴原褐色土層
焼土ブロックを少量。ロームブロック・灰化植物粒子を微量含む。粘性・しまり強。
 - 3層 埴原褐色土層
焼土粒子を微量含む。粘性・しまり強。
 - 4層 埴原褐色土層
ローム粒子・ロームブロックを少量集む。粘性・しまり強。
 - 5層 埴原褐色土層
白色粒子を中量。ローム粒子・焼土粒子を少量集む。粘性・しまり強。
 - 6層 埴原褐色土層
ローム粒子・焼土粒子を散在含む。粘性・しまり強。
 - 7層 埴原褐色土層
ローム粒子・焼土ブロックを少量集む。粘性・しまり強。
 - 8層 埴原褐色土層
ローム粒子・ロームブロックを少量集む。粘性・しまり強。
 - 9層 埴原褐色土層
ローム粒子・ロームブロックを少量集む。粘性・しまり強。
 - 10層 埴原褐色土層
ローム粒子・ロームブロックを中量集む。粘性・しまり強。
 - 11層 埴原褐色土層
含有物なし。粘性・しまり強。
 - 12層 埴原褐色土層
ロームブロック・有白色焼土ブロックを少量集む。粘性・しまり強。

0 2m
1:80

第353図 7号掘立柱建物跡

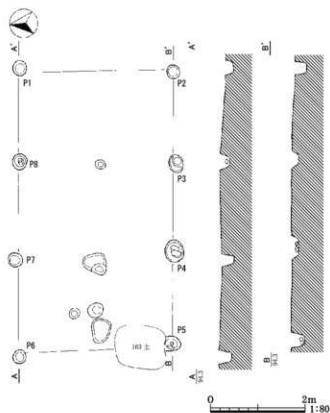
8号掘立柱建物跡(第354図)

位置：F地点の北西に位置している。形態：南北方向1間、東西方向3間の長方形を呈する側柱式。長軸方位N-85°-W。長軸6.00m、短軸3.52m。柱心間は東西一間3.20m、南北一間2.00mを測る。柱穴：直径30~40cm程度の円形を呈し、深さは10~30cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世。

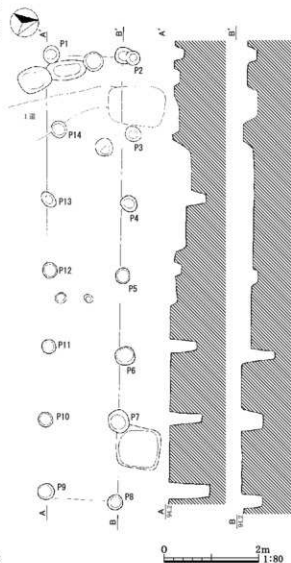
9号掘立柱建物跡(第355図)

位置：F地点の東に位置している。1号道路状遺構と重複し、新旧関係は不明である。形態：南北方向1間、東西方向6間の長方形を呈する側柱式。長軸方位N-79°-W。長軸9.53m、短軸1.80m。

柱心間は東西・南北一間1.50mを測る。柱穴：直径30～40cm程度の円形を呈し、深さは20～90cm。覆土：不明。遺物：出土していない。時期：中世か。



第354図 8号掘立柱建物跡



第355図 9号掘立柱建物跡

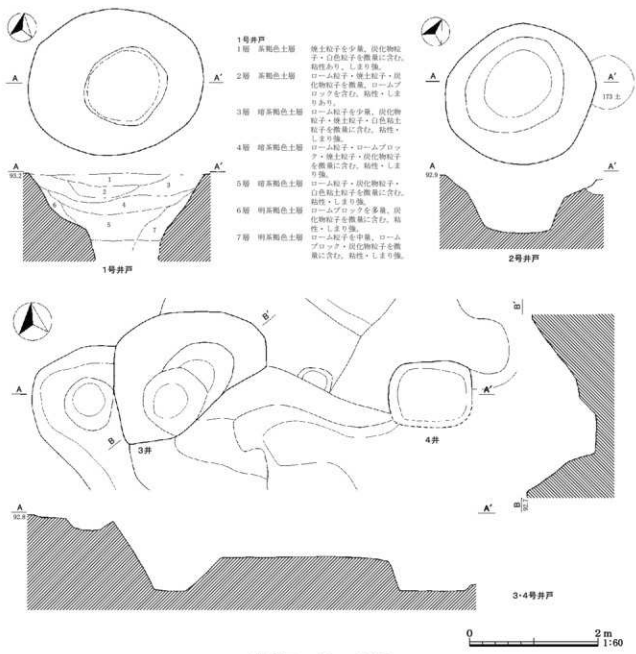
3. 井戸・溜井

1号井戸(第356図、図版66)

位置：F地点に北西において単独で検出された。形態：平面形は楕円形を呈する。規模：長軸2.74m、短軸2.19m。確認面から約1m掘り下げて掘削を中止した。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：出土していない。時期：不明。

2号井戸(第356図、図版66)

位置：F地点に位置している。173号土坑と重複し、本遺構が新しい。5号溜井に近接しており、何らかの関係があるだろう。形態：平面形は楕円形を呈する。規模：長軸2.42m、短軸2.20m。確認面からの深さは0.9mを測る。埋没状況：不明。遺物：不明。時期：不明。



第356図 1号～4号井戸

3号井戸(第356図、図版66)

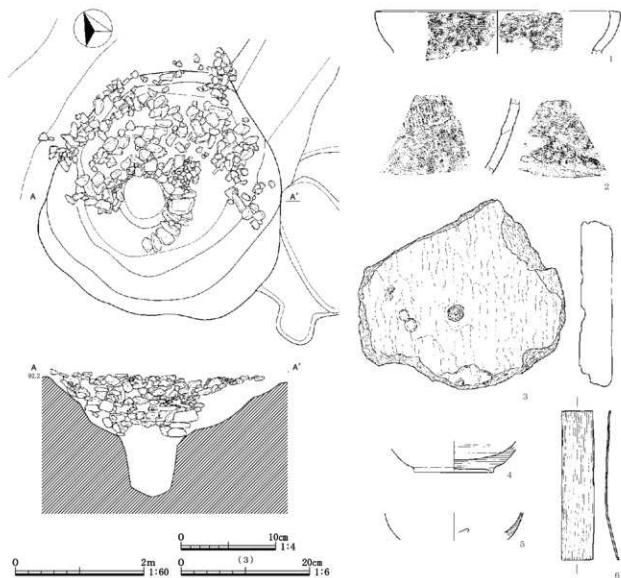
位置：F地点に位置している。5号溜井と重複し、新旧関係は不明。5号溜井の湧水点として利用されたものだろう。形態：平面形は不整形を呈する。規模：長軸2.52m、短軸1.75m。確認面からの深さは約1.2mを測る。埋没状況：不明。遺物：不明。時期：5号溜井と同時期であろう。

4号井戸(第356図、図版66)

位置：F地点に位置している。5号溜井と重複し、新旧関係は不明。3号井戸と同様に5号溜井の湧水点だろう。形態：平面形は方形を呈するだろう。規模：長軸1.30m。確認面からの深さは1.2mを測る。埋没状況：不明。遺物：不明。時期：5号溜井と同時期であろう。

5号井戸(第357図、図版66・83)

位置：F地点に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が新しい。形態・構造：平面形は円形を呈し、北側には石組が検出される。東は溝に繋がり、導水されていたであろう。5号溜井と同じ性格を持っていたと思われる。規模：長軸3.95m、短軸3.72m。確認面からの深さは1.95mを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より、土器片・木製品が出土している。時期：中世。



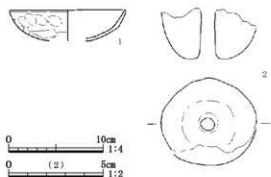
第357図 5号井戸・出土遺物

5号井戸 出土遺物観察表

1	軟質陶器 鍋	A. 口径(26.0)。残存高4.6。B. ロク口成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 角閃石・黒色粒子。E. 内外一灰白色。F. 破片。H. 覆土。
2	中世陶器	B. タタキ成形。C. 外面、押印文→ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。
3	多孔石	A. 残長30.4。残幅33.2。厚5.2。重7600。D. 結晶片岩。H. 覆土。
4	木製品 漆器境	A. 残存高3.1。B. ロク口挽き成形。C. 内面、成形痕が沈線として確認される。F. 底部1/2。G. 内外面、黒漆。H. 覆土中。
5	木製品 漆器境	A. 残存高2.8。B. ロク口挽き成形。F. 破片。G. 内外面、黒漆。内面には赤漆で文様あり。H. 覆土中。
6	木製品 板状	A. 長15.8。幅3.4。厚0.1。重5.84。H. 覆土。

1号溜井(第358・359図、図版66・83)

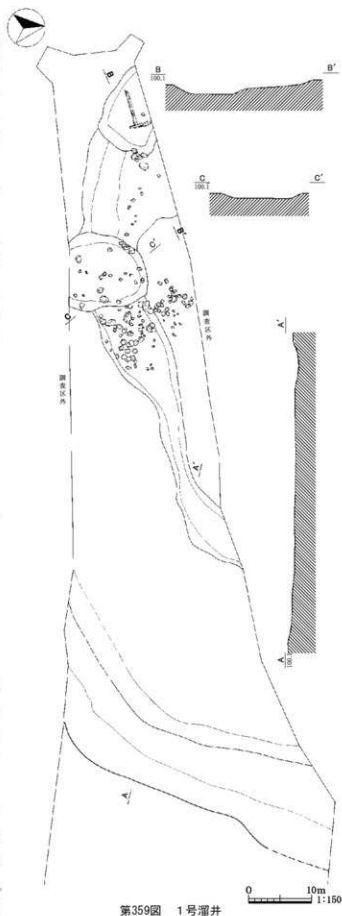
位置：D地点の最も西に位置している。規模：全体を検出したわけではないので、不明である。構造：遺構内より土坑状の掘り込みが2基検出される。この土坑が湧水口となっている。調査区北壁に接する1基は、土坑内から板材や木杭、礫が出土している。もう1基の周辺には、礫が多量に確認され、通路の礫敷を想起させる。これらの土坑を繋ぐように、溝が走っている。湧水した水を流すための水路だろう。埋没状況：不明。遺物：上層より平安時代の土師器・須恵器が、下層からは古墳時代後期の遺物が出土している。時期：平安時代を中心に数時期にわたって機能していたと思われる。



第358図 1号溜井 出土遺物

2号溜井(第360図、図版67)

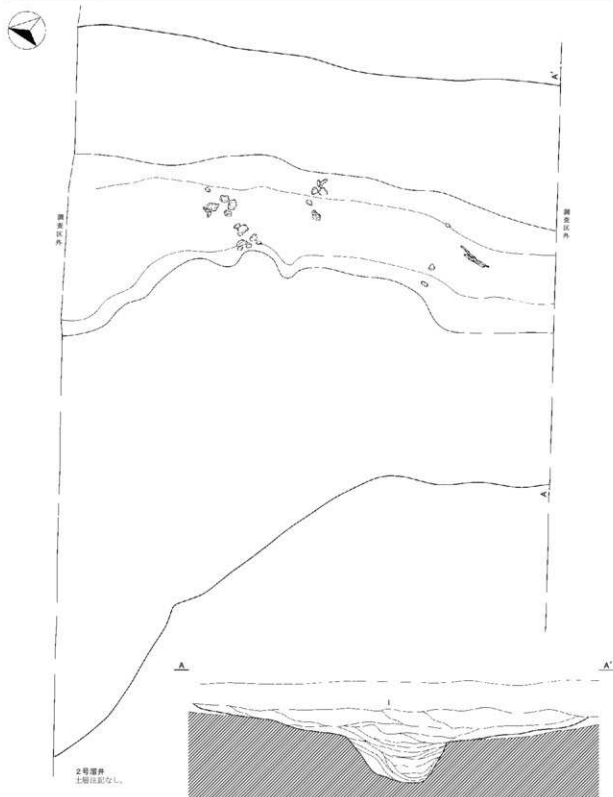
位置：D地点のやや西寄りに位置する。規模：幅8.4～15.4m。最深2.6mを測る。構造：南北方向に走る溝状を呈する。なだらかに落ち込み、中央部分は急な掘り込みを呈する。底面には砂礫層と鉄分の凝縮が確認され、流水を裏付けている。湧水点を掘り込んだ箇所は確認出来ず、どちらかと言えば地の小谷間を走る水路という印象が強い。埋没状況：覆土上層にAs-Bの純層が確認される。As-B以前もレンズ状の堆積を示し、自然に埋



第359図 1号溜井

1号溜井 出土物観察表

1	杯	A. 口径12.3. 器高3.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ユビオサエ. 体部ナデ. 内面、ヨコナデ. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一橙色. F. 破片. H. 覆土.
2	土玉	A. 径5.0. 孔径0.7. B. 手握ね. C. ナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一にふい黄橙色. F. 1/3. G. 外面に黒色の付着物あり. H. 覆土.

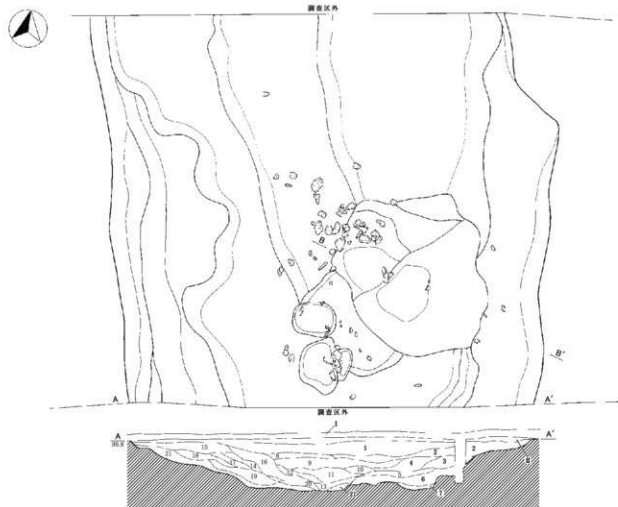


第360図 2号溜井

没したのであろう。遺物：As-B層以上の覆土中から中世遺物が、最下層より土器片が出土している。時期：最下層より出土した土器は古墳時代後期に比定され、この時期には機能していたものと思われる。

3号溜井(第361・362図、図版67・83)

位置：D地点の中央付近に位置している。規模：幅8.8~9.5m。最深1.6mを測る。構造：井戸状の掘り込みが湧水点となり、接続する溝を介して南から北へ流水している。湧水する掘り込みに接して



3号溜井

- 1層 黒褐色土層
ローム粒子・赤色粒子・白色軽石・鉄分を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 2層 暗褐色土層
白色軽石を多量、黄褐色を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 3層 暗褐色土層
白色軽石・鉄分を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 4層 暗褐色土層
白色軽石・炭化物粒子を多量、鉄分を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 5層 暗褐色土層
白色軽石を多量、炭化物粒子・鉄分を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 6層 暗褐色土層
鉄分を多量、白色軽石・炭化物粒子を少量含む。粘性弱、しまりあり。
- 7層 暗褐色土層
白色軽石を多量、灰色シルトブロックを少量含む。粘性、しまりあり。
- 8層 黒褐色土層
白色軽石を多量、黄灰色土ブロックを微量に含む。粘性ややあり、しまりあり。
- 9層 黒褐色土層
白色軽石を多量、黄灰色土ブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 10層 黒褐色土層
白色軽石を多量、黄灰色土ブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 11層 黒褐色土層
白色軽石を多量、黄灰色土ブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 12層 黄灰色土層
白色軽石を多量、黄灰色土ブロックを微量に含む。粘性やや強、しまりあり。
- 13層 黒褐色土層
白色軽石を多量、炭化物粒子を少量、灰色シルト粒子を微量に含む。粘性強、しまりあり。
- 14層 茶褐色土層
白色軽石を多量、炭化物ブロックを少量含む。粘性強、しまりあり。
- 15層 黒褐色土層
本層に準ずる。粘性強、しまりあり。

- 16層 暗褐色土層
8層に準ずる。粘性強、しまりあり。
- 17層 暗褐色土層
白色軽石を多量、白色土ブロックを少量含む。粘性強、しまりあり。
- 18層 茶褐色土層
白色軽石を多量、白色土ブロックを少量含む。粘性強、しまりあり。
- 19層 茶褐色土層
白色軽石を多量、白色土ブロックを少量含む。粘性強、しまりあり。
- 20層 茶褐色土層
白色軽石を多量、白色土ブロックを少量含む。粘性強、しまりあり。
- 21層 茶褐色土層
白色軽石を多量、白色土ブロック・炭化物粒子を少量、赤色粒子を微量に含む。粘性強、しまりあり。

第361図 3号溜井

0 2m 1:80

いる土坑に一時的に貯水し、冷え堀の役割を持っていたと思われる。E地点で検出された4号溜井に近い構造である。埋没状態：覆土上層はAs-Bを含む黒褐色土、中・下層は軽石を含まず鉄分が顕著であった。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：平安時代。



第362図 3号溜井 出土遺物

3号溜井 出土遺物観察表

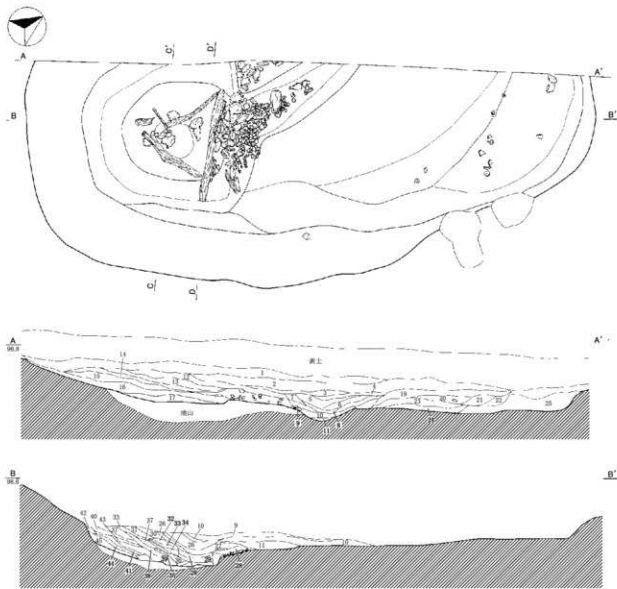
1	須恵器 甕	A. 口径(22.4)、残存高10.1。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。D. 石英。E. 内外一灰白色。F. 破片。G. 器面の摩耗著しい。H. 覆土。
2	土製支脚	A. 口径4.5。残存高9.0。B. 粘土紐積みみ上げ。C. 外面、上位ユビオサエ・中位タテナデ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2。G. 内外面二次被熱。H. 覆土。
3	瓦	B. 型作り成形。C. 凹面、布目。凸面、縄目。D. 白色粒子。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土。

4号溜井(第363・364・365図、図版7・68・84)

位置：E地点の南西隅に位置している。規模：幅約12m。最深1.7mを測る。構造：井戸状の掘り込みが湧水点となり、接続する溝を介して水を流す構造を呈する。溝との接点には、礫と木材が検出される。これは取水調節のために設置されたものと思われる。埋没状況：数時期に渡って使用され、自然埋没と掘り返しの痕跡が確認される。遺物：礫とともに土器等が出土している。国分寺創建期の献納瓦と考えられ、那珂郡を示す「中」の押印がある平瓦が出土している。時期：平安時代。

4号溜井 出土遺物観察表

1	須恵器 環	A. 口径13.3。底径8.6。器高3.4。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ。底部回転ヘラ切り。D. 石英・片岩・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 4/5。G. 還元焼成。H. 覆土下層。
2	須恵器 環	A. 口径11.9。底径5.8。器高4.4。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・石英。E. 内外一灰白色。F. 4/5。G. 還元焼成。内外面に黒斑あり。H. 覆土下層。
3	須恵器 環	A. 口径13.0。底径5.5。器高4.2。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 角閃石・白色粒子・石英。E. 内外一灰色。F. 4/5。G. 還元焼成。H. 覆土。
4	須恵器 高台付碗	A. 口径13.3。底径6.3。器高5.3。B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り。D. 白色粒子・角閃石・片岩。E. 内外一灰色。F. ほぼ完形。G. 還元焼成。H. 覆土。
5	瓦	A. 厚2.5。B. 型作り成形。C. 凹面、布目、型押印「□に中」。凸面、布目。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一灰色。F. 1/3。G. 還元焼成。H. 覆土。
6	瓦	A. 厚2.5。B. 型作り成形。C. 凹面、布目。凸面、縄目。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一ふい褐色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土上層。
7	瓦	A. 厚3.2。B. 型作り成形。C. 凹面、布目→ナデ。凸面、縄目→ナデ。「中」の押印あり。D. 石英・片岩・角閃石。E. 内外一灰色。F. 破片。G. 還元焼成。H. 覆土上層。



4号灌井

- 1層 暗褐色土層 白色粘土・片岩粘土を中量。塊土粘土・片岩を少量。灰白色粘土ブロックを微量に含む。粘性・しまり強。
 2層 暗褐色土層 塊土粘土・片岩粘土を少量。灰白色粘土ブロックを微量に含む。粘性やや強。しまり強。
 3層 暗褐色土層 マンガン粘土を中量。塊土粘土・炭化物粘土・灰白色土ブロックを少量含む。粘性やや強。しまり強。
 4層 淡黒褐色土層 灰白色土ブロックを中量。塊土粘土・片岩粘土・マンガン粘土を少量含む。粘性・しまりやや弱。
 5層 褐色土層 白色粘土・マンガン粘土を多量。褐色粘土を中量。塊土粘土・粘土ブロックを微量に含む。粘性・しまりやや弱。
 6層 淡黒褐色土層 白色粘土・片岩粘土・黄斑・砂礫を中量。Aa-Bを含む。粘性強。しまり強。
 7層 淡黒褐色土層 白色粘土・片岩粘土・黄斑・砂礫を中量。Aa-Bを含む。粘性強。しまり強。
 8層 淡黒褐色土層 Aa-Bの一次堆積層。白色粘土・黄斑・片岩粘土を少量。粘土を含む。粘性強。しまり強。
 9層 淡黒褐色土層 白色粘土を多量。塊土粘土・黄斑・片岩粘土を中量含む。粘性強。しまり強。
 10層 淡黒褐色土層 白色粘土を中量。塊土粘土・片岩粘土を少量含む。粘性強。しまり強。
 11層 灰褐色土層 塊土粘土・片岩粘土を多量。白色粘土を中量含む。粘性強。しまり強。
 12層 暗褐色土層 白色粘土を中量。片岩粘土・マンガン粘土を微量に含む。粘性強。しまり強。
 13層 淡黒褐色土層 白色粘土・マンガン粘土を少量含む。粘性強。しまり強。
 14層 淡黒褐色土層 白色粘土・灰白色粘土を少量含む。粘性強。しまり強。
 15層 褐色土層 白色粘土を中量。土層片を少量含む。粘性強。しまり強。
 16層 褐色土層 鉄分を多量。白色粘土・土層片を少量含む。粘性強。しまり強。
 17層 褐色土層 マンガン粘土・マンガンブロックを中量含む。粘性・しまり強。

- 18層 暗褐色土層 塊土粘土を中量。灰白色粘土・マンガン粘土・炭化物粘土を少量含む。粘性・しまり強。
 19層 褐色土層 塊土粘土・片岩粘土・白色粘土・マンガン粘土を少量含む。粘性・しまり強。
 20層 暗褐色土層 白色粘土を多量。塊土粘土・粘土ブロック・炭化物粘土・片岩粘土・マンガン粘土を微量に含む。粘性・しまり強。
 21層 暗褐色土層 白色粘土を多量。マンガン粘土を中量。炭化物粘土・塊土粘土・片岩粘土を微量に含む。粘性・しまり強。
 22層 暗褐色土層 マンガン粘土を多量。白色粘土を中量。黄斑・砂礫・塊土粘土を少量含む。粘性やや弱。しまり強。
 23層 暗黒褐色土層 ロームブロック・片岩粘土・褐色粘土・灰白色粘土を中量に含む。粘性やや強。しまり強。
 24層 暗褐色土層 白色粘土・マンガン粘土・褐色粘土を少量含む。粘性やや強。しまり強。
 25層 暗褐色土層 緑色帯を中量。マンガン粘土・白色粘土を少量。灰白色粘土ブロックを微量に含む。粘性やや弱。しまり強。
 26層 暗褐色土層 Aa-Bを多量。褐色粘土・黄斑を中量。塊土粘土を微量に含む。粘性・しまり強。
 27層 暗褐色土層 26層に似るが、Aa-Bの含有が少くない。Aa-Bを多量。褐色粘土を中量。白色粘土を微量に含む。粘性・しまり強。
 28層 淡灰褐色土層 褐色粘土を少量含む。粘性・しまり強。
 29層 淡灰褐色土層 褐色粘土を中量。白色粘土を少量含む。粘性・しまり強。
 30層 Aa-Bの一次堆積層 黄斑を少量含む。粘性弱。しまり強。
 31層 灰褐色土層 黄斑を多量。片岩粘土・マンガン粘土を少量含む。粘性・しまり強。
 32層 淡黒褐色土層 マンガン粘土を中量。白色粘土を少量含む。粘性・しまり強。

0 2m 1:80

第363図 4号灌井(1)



D'



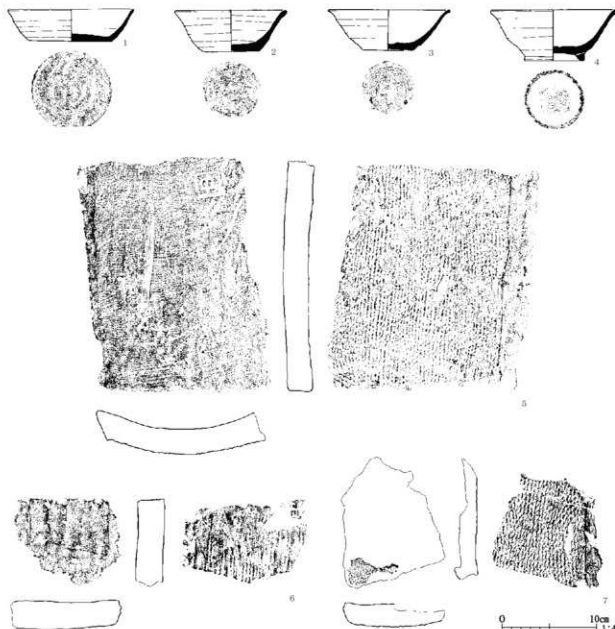
C'

- 33層 赤褐色土層 マンガン粒子を中量、炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 34層 黒灰色土層 褐色粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 35層 黒灰色土層 マンガン粒子を中量含む。粘性・しまり強。
 36層 黒灰色土層 褐色粒子・頁岩・マンガン粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 37層 赤褐色土層 黄褐色・褐色粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 38層 黒灰色土層 黄褐色・マンガン粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 39層 灰褐色土層 黄褐色・細砂を多量。片岩粒子・ka-bを少量含む。粘性・しまり強。
 40層 灰褐色土層 黄褐色・細砂を中量。炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。

- 41層 暗灰褐色土層 マンガン粒子を中量、黄褐色を少量含む。粘性・しまり強。
 42層 暗褐色粘土層 黄褐色・マンガン粒子・細砂を中量。木片を含む。粘性強。しまりやや強。
 43層 暗褐色粘土層 褐色粒子・細砂・黄褐色・マンガン粒子を中量。木片を含む。粘性強。しまりやや強。
 44層 黒灰色土層 黄褐色を中量。炭化物粒子を少量。木片を含む。粘性・しまりあり。
 45層 灰褐色土層 黄褐色・マンガン粒子を多量。灰白色粒子を少量含む。粘性やや強。しまりやや強。



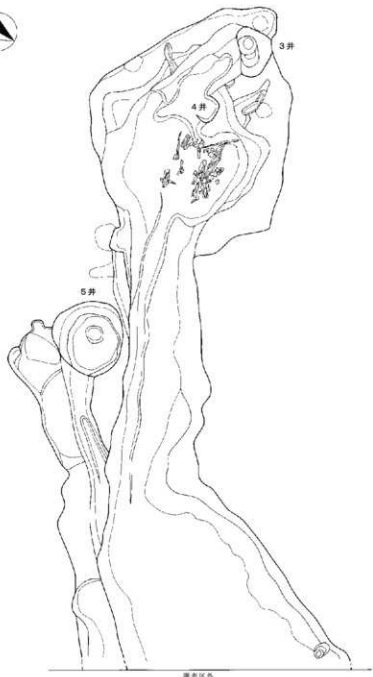
第364図 4号溜井(2)



第365図 4号溜井 出土遺物

5号溜井(第366~372図、図版
68・84~87)

位置：F地点の中央より東寄りに位置する。規模：幅4.4~10.6m。最深1.3mを測る。構造：2~4号井戸を湧水点とし、東の冷え堀と思われる掘り込みへと流れ込む。冷え堀内からは木材と礫が出土し、木杵状を呈する箇所もある。南は立ち上がり緩やかで礫敷を伴い、通路の可能性が高い。溝へと接続し、東に導水される。この溝は、少なくとも3度の掘り返しが確認されている。5号井戸も溜井と近い様相を呈する。井戸部分の南の土坑が冷え堀の役割となり、5号溜井の溝へと合流している。新旧関係は不明だが、出土遺物は本遺構が古い。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土中より、土師器や須恵器が出土している。時期：出土遺物は6世紀後半から11世紀と幅が広いが、古墳時代の遺物は流れ込みであろう。よって古墳時代後期から平安時代まで機能していたと考えられる。

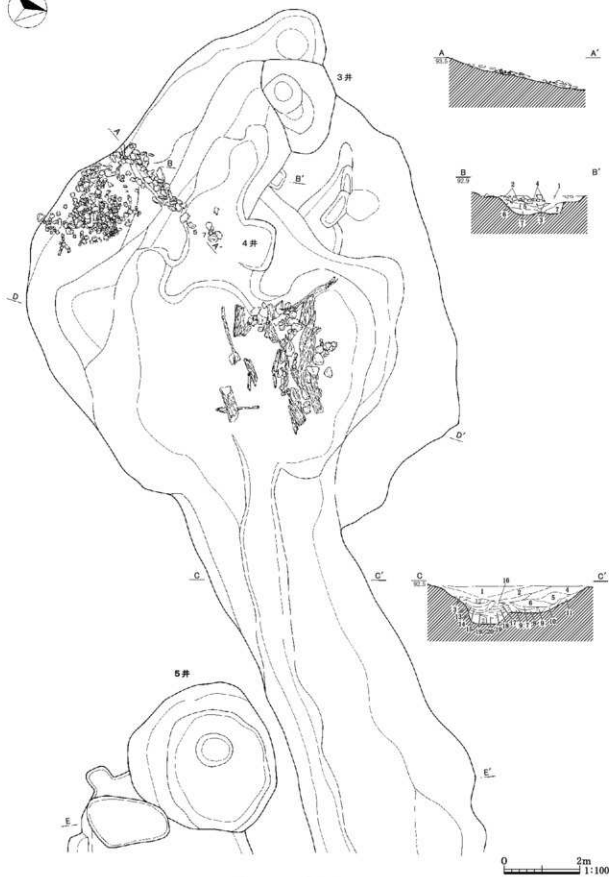


第366図 5号溜井(1)

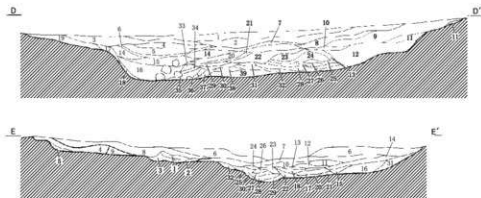
0 5m 1:200

5号溜井 出土遺物観察表(1)

1	環	A. 口径10.2. 器高4.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ナデ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面口縁部に鉄分付着。H. 左岸包含層。
2	環	A. 口径11.5. 器高5.0. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・石英。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 外面体部に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	環	A. 口径(11.7). 器高4.2. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. チャート。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2. G. 内外面口縁部に鉄分付着。H. 覆土下層。
4	環	A. 口径11.6. 器高4.6. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. チャート・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 4/5. G. 外面に鉄分付着。H. 覆土。
5	環	A. 口径12.2. 残存高4.9. B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ留内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. ほぼ完形。G. 内外面に焼成時の黒斑あり。外面口縁部に鉄分付着。H. 覆土。



第367图 5号溜井(2)



5号溜井 西ライン

- 1層 暗灰褐色土層 鉄塊を中量、炭化微粒子・小礫を微量に含む。粘性あり、しまりなし。
 2層 暗灰褐色土層 鉄塊を中量、細砂を微量に含む。粘性・しまりあり。
 3層 暗灰褐色土層 細砂・小礫を微量に含む。粘性あり、しまりなし。
 4層 赤灰褐色土層 鉄塊を多量に含む。粘性・しまりあり。
 5層 赤灰褐色土層 小礫を中量含む。粘性あり、しまりなし。
 6層 暗灰褐色土層 小礫・細砂を中量含む。粘性なし、しまりなし。
 7層 暗灰褐色土層 小礫・細砂を多量含む。粘性あり、しまりなし。

5号溜井 西ライン

- 1層 暗褐色土層 Aa-Baを中量、黄土粒子を微量に含む。粘性なし、しまりあり。
 2層 暗褐色土層 Aa-Baを中量、黄土粒子・小礫を微量に含む。粘性なし、しまりあり。

- 3層 暗赤褐色土層 Aa-Ba・鉄塊を中量、小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 4層 赤褐色土層 鉄塊・小礫を中量含む。粘性・しまりあり。
 5層 赤褐色土層 鉄塊を多量、細砂・礫を微量に含む。粘性なし、しまりあり。
 6層 赤灰褐色土層 細砂・小礫を中量、鉄塊を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 7層 赤灰褐色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりなし。
 8層 暗灰褐色土層 細砂・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 9層 暗灰褐色土層 小礫・鉄塊を微量に含む。粘性・しまりあり。
 10層 暗灰褐色土層 ローム粒子・鉄塊を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 11層 暗赤褐色土層 鉄塊を中量、ローム粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 12層 黒灰色土層 緑色片質粘土・炭化微粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 13層 黒灰色土層 小礫を中量、緑色片質粘土・炭化微粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

- 14層 黒灰色土層 炭化微粒子・細砂を微量に含む。粘性・しまりあり。
 15層 黒灰色土層 緑色・褐色片質粘土・細砂を中量含む。粘性・しまりあり。
 16層 黒灰色土層 緑色片質粘土・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 17層 黒灰色土層 細砂・小礫を中量、黄土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 18層 黒灰色土層 細砂・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 19層 黒灰色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりあり。
 20層 暗褐色土層 細砂主体層。粘性・しまりなし。
 21層 黒灰色土層 細砂・小礫を中量、緑色片質粘土を微量に含む。粘性あり、しまりなし。

5号溜井 西ライン

- 1層 暗褐色土層 Aa-Baを中量、黄土粒子を微量に含む。粘性なし、しまりあり。
 2層 暗褐色土層 Aa-Ba・黄土粒子を中量、炭化微粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 3層 暗赤褐色土層 Aa-Ba・鉄塊を中量含む。粘性・しまりなし。
 4層 暗褐色土層 Aa-Baを中量、鉄塊、炭化微粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
 5層 暗赤褐色土層 Aa-Baを中量、ローム粒子・炭化微粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 6層 暗赤褐色土層 Aa-Baを多量に含む。粘性あり、しまりなし。
 7層 暗赤褐色土層 鉄塊を中量、小礫・炭化微粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
 8層 暗赤褐色土層 鉄塊・小礫・炭化微粒子・黄土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 9層 暗赤褐色土層 鉄塊・小礫・炭化微粒子・黄土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 10層 暗赤褐色土層 鉄塊・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 11層 暗赤褐色土層 ローム・細砂を多量含む。粘性・しまりなし。
 12層 赤褐色土層 細砂主体層。小礫を中量含む。粘性・しまりなし。

- 13層 暗赤褐色土層 鉄塊を中量、ローム粒子・小礫を微量含む。粘性・しまりあり。
 14層 赤灰褐色土層 細砂を中量、小礫を中量含む。粘性・しまりあり。
 15層 暗赤褐色土層 鉄塊を中量、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりあり。

- 26層 黒灰色土層 細砂・ローム・小礫・炭化微粒子を中量含む。粘性・しまりあり。
 27層 暗褐色土層 細砂を多量、小礫を微量含む。粘性あり、しまりなし。
 28層 黒色土層 炭化微粒子を多量、黄土粒子・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。

- 29層 暗褐色土層 緑色片質粘土を中量、炭化微粒子・細砂を微量に含む。粘性・しまりあり。
 30層 暗褐色土層 細砂主体層。粘性・しまりなし。
 31層 暗褐色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりあり。
 32層 暗褐色土層 緑色片質粘土・小礫を中量、細砂・炭化微粒子を微量含む。粘性・しまりあり。

- 28層 暗褐色土層 緑色片質粘土・細砂を中量、小礫・炭化微粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 29層 黒灰色土層 細砂・小礫を微量に含む。粘性・しまりあり。
 30層 暗褐色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりあり。
 31層 暗褐色土層 細砂主体層。小礫を微量に含む。粘性・しまりなし。

- 32層 暗褐色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりなし。
 33層 黒灰色土層 鉄塊を中量、小礫を微量に含む。粘性・しまりなし。
 34層 暗褐色土層 緑色片質粘土を中量含む。粘性・しまりなし。
 35層 暗褐色土層 小礫・炭化微粒子を中量、炭化微粒子を微量含む。粘性あり、しまりなし。

- 36層 暗赤褐色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりなし。
 37層 暗赤褐色土層 細砂・小礫を中量含む。粘性・しまりなし。
 38層 暗赤褐色土層 細砂・小礫を中量、炭化微粒子を微量含む。粘性・しまりあり。
 39層 暗赤褐色土層 細砂・炭化微粒子を中量、礫を微量含む。粘性・しまりあり。

5号溜井 西ライン

- 1層 暗赤褐色土層 Aa-Ba・片質粘土を少量含む。砂質で微分の集積が認められる。粘性なし、しまりなし。
 2層 暗赤褐色土層 小礫を少量、砂を微量に含む。粘性・しまりなし。
 3層 暗赤褐色土層 小礫を少量、黄土粒子を微量に含む。砂質を呈する。粘性なし、しまりなし。

- 4層 暗赤褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・小礫を少量含む。砂質。粘性なし、しまりなし。
 5層 暗赤褐色土層 ローム粒子・炭化微粒子を少量、黄土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。

5号溜井

- 6層 暗赤褐色土層 Aa-Ba・片質粘土・緑褐色粘土・白色粘土・小礫を少量、黄土粒子・炭化微粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 7層 灰褐色土層 片質粘土・小礫・白色粘土を少量、黄土粒子・炭化微粒子・Aaを微量含む。微分の集積が認められる。粘性・しまりなし。

- 8層 暗赤褐色土層 Aa-Ba・片質粘土・小礫を少量、白色粘土・黄土粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。
 9層 暗赤褐色土層 ローム粒子・白色粘土を微量に含む。粘性・しまりなし。
 10層 暗赤褐色土層 7層に類似するが灰色が濃く、片質粘土を多量、黄土粒子・炭化微粒子を微量に含む。粘性・しまりなし。

- 11層 灰褐色土層 ローム粒子・白色粘土を微量に含む。粘性・しまりなし。
 12層 灰褐色土層 7層に似る。片質粘土・緑褐色粘土を多量含む。粘性・しまりなし。

- 13層 灰褐色土層 7層に似る。片質粘土・緑褐色粘土を微量に含む。全く砂質を呈する。粘性・しまりなし。
 14層 灰褐色土層 7層に似る。片質粘土・礫を少量、炭化微粒子・白色粘土を微量に含む。粘性・しまりなし。

- 15層 灰褐色土層 7層に類似するが灰色が濃く、片質粘土・礫を少量含む。粘性・しまりなし。
 16層 灰褐色土層 7層に類似するが灰色が濃く、片質粘土・礫を少量含む。粘性・しまりなし。

- 17層 赤黒褐色土層 片質粘土を少量、砂を含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。
 18層 赤黒褐色土層 片質粘土を少量、砂を含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。

- 19層 黒灰色土層 片質粘土を微量、砂を含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。
 20層 黒色土層 薄く砂を含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。
 21層 赤黒褐色土層 褐色粘土・片質粘土を含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。

- 22層 黒灰色土層 片質粘土・砂を少量、炭化微粒子を微量に含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。
 23層 黒灰色土層 片質粘土を少量、炭化微粒子を微量に含む。一部黒灰色と砂が互層・層積する。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。

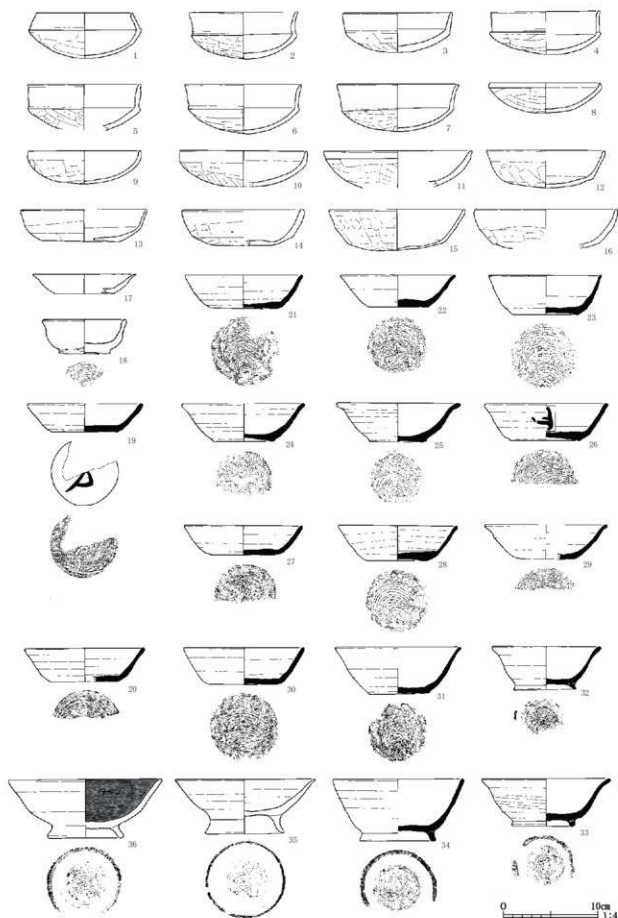
- 24層 暗褐色土層 片質粘土を少量、黄土粒子を少量、細砂・小礫を少量含む。粘性・しまりなし。
 25層 暗褐色土層 片質粘土を少量含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。
 26層 暗褐色土層 片質粘土・黄土粒子・炭化微粒子・砂を少量含む。しまりなく、ゼラチン質で粘性が強い。

- 27層 暗褐色土層 26層に類似する。粘性が強く、しまりなし。
 28層 赤黒褐色土層 片質粘土を多量に含む。砂質を呈する。粘性・しまりなし。
 29層 赤黒褐色土層 片質粘土を少量含む。一部砂と黒灰色土が互層・層積する。粘性・しまりなし。

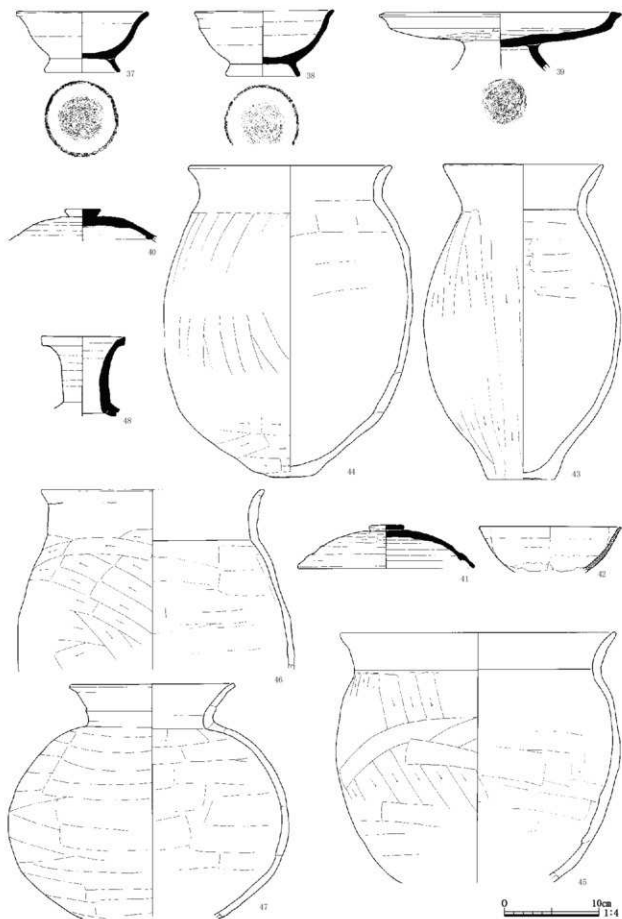
- 30層 暗赤褐色土層 片質・礫を少量含む。粘性・しまりなし。
 31層 暗赤褐色土層 小礫・ロームブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
 32層 暗赤褐色土層 小礫を少量含む。粘性・しまりなし。



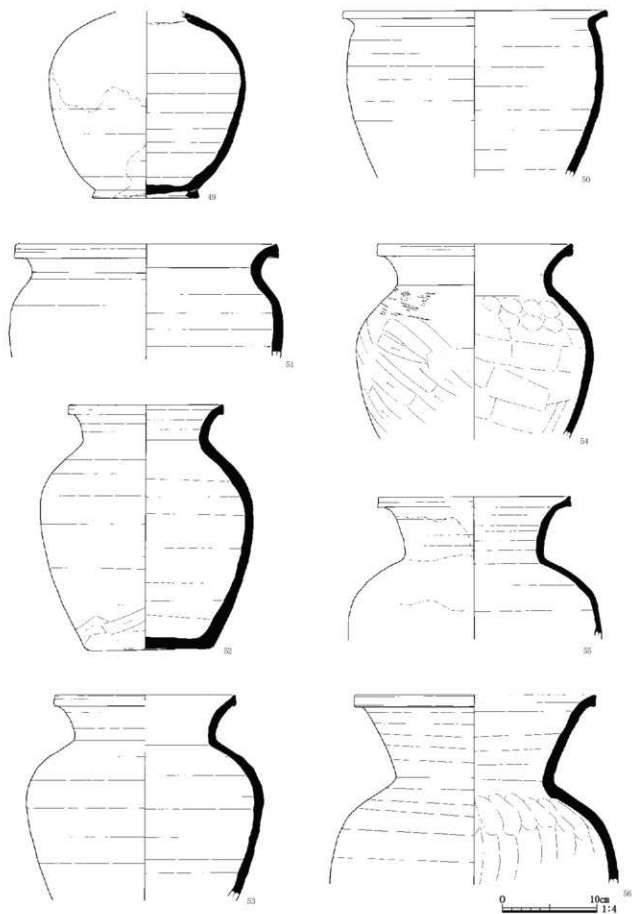
第368図 5号溜井 (3)



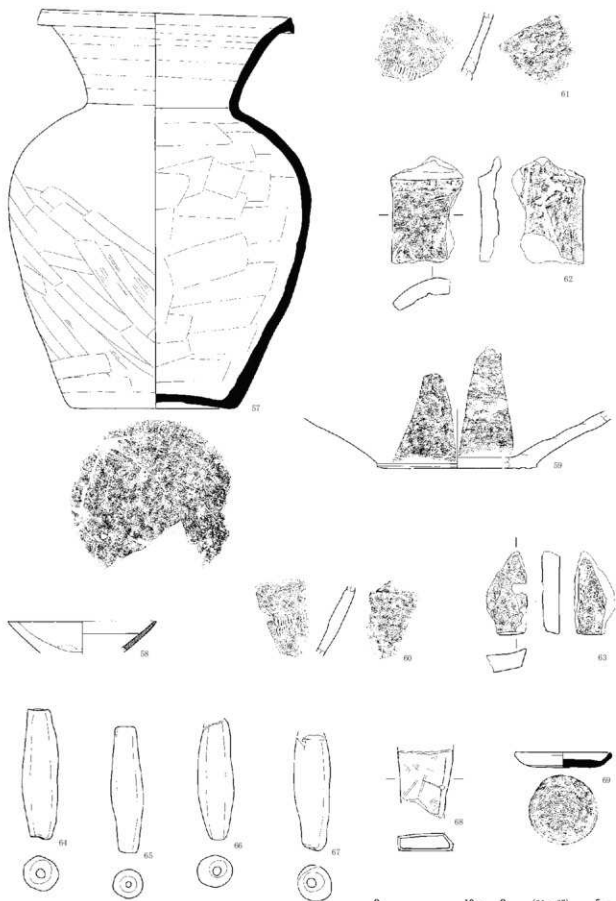
第369图 5号溜井 出土遗物(1)



第370图 5号溜井 出土遺物(2)



第371图 5号溜井 出土遗物(3)



第372图 5号溜井 出土遗物(4)

0 10cm 1:4 0 (64-67) 5cm 1:2

5号溜井 出土遺物観察表(2)

6	環	A. 口径(12.5). 器高5.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 褐色粒子. E. 内外一褐色. F. 4/5. G. 内外面口縁部に鉄片付着. H. 覆土.
7	環	A. 口径13.0. 器高5.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一褐色. F. 4/5. G. 内外面口縁部に鉄片付着. H. 覆土上層.
8	環	A. 口径(11.8). 器高3.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・石英. E. 内一にぶい褐色. 外一にぶい褐色. F. 4/5. H. 覆土上層.
9	環	A. 口径(11.8). 器高3.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一褐色. F. 1/2. H. 覆土上層.
10	環	A. 口径(13.5). 器高3.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石. E. 内外一褐色. F. 1/2. H. 覆土上層.
11	環	A. 口径(15.8). 残存高3.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子. E. 内外一褐色. F. 1/5. H. 覆土上層.
12	環	A. 口径(12.5). 器高4.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ・体部ナメナデ→下位ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・角閃石. E. 内外一にぶい褐色. F. 3/4. H. 覆土下層.
13	環	A. 口径13.4. 底径8.0. 器高3.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部→体部ケズリ. 底部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 褐色粒子・雲母. E. 内外一にぶい褐色. F. 4/5. H. 覆土下層.
14	環	A. 口径(13.0). 器高3.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 白色粒子・雲母. E. 内一褐色. 外一にぶい褐色. F. 1/3. H. 覆土下層.
15	環	A. 口径14.5. 器高4.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ→ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 角閃石・白色粒子・黒色粒子. E. 内外一にぶい褐色. F. 3/4. H. 覆土上層.
16	環	A. 口径(14.9). 残存高4.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面、口縁部ヨコナデ. 体部ケズリ. 内面、ヨコナデ. D. 褐色粒子・雲母. E. 内外一褐色. F. 1/3. H. 覆土下層.
17	須恵器 環	A. 口径(11.0). 底径(6.0). 器高2.1. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 白色粒子. E. 内外一褐色. F. 1/2. G. 酸火焼成. H. 覆土上層.
18	須恵器 環	A. 口径(8.9). 底径(5.4). 器高3.6. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英・雲母. E. 内外一にぶい褐色. F. 1/2. G. 酸火焼成. H. 覆土上層.
19	須恵器 環	A. 口径(12.1). 底径7.0. 器高3.0. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英・片岩. E. 内外一灰色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土上層・下層.
20	須恵器 環	A. 口径(12.7). 底径(7.2). 器高3.5. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英・片岩. E. 内外一灰色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土下層.
21	須恵器 環	A. 口径12.5. 底径7.3. 器高3.5. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英・片岩・黒色粒子. E. 内外一灰白色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土下層.
22	須恵器 環	A. 口径(12.2). 底径6.4. 器高3.4. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 片岩・石英・黒色粒子. E. 内外一灰色. F. 2/3. G. 還元焼成. H. 覆土下層.
23	須恵器 環	A. 口径(11.9). 底径6.8. 器高4.1. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 片岩・白色粒子. E. 内外一灰白色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土下層.
24	須恵器 環	A. 口径(13.0). 底径(6.5). 器高4.0. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英・片岩. E. 内外一灰色. F. 3/4. G. 還元焼成. H. 覆土上層.
25	須恵器 環	A. 口径(13.2). 底径6.0. 器高4.1. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 白色粒子. E. 内外一灰色. F. 3/4. G. 還元焼成. H. 覆土上層.
26	須恵器 環	A. 口径(13.1). 底径(7.2). 器高3.9. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英. E. 内外一灰白色. F. 1/2. G. 還元焼成. 外面体部に墨書あり. H. 覆土下層.
27	須恵器 環	A. 口径(12.6). 底径(6.5). 器高3.1. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 石英. E. 内外一浅黄色. F. 3/4. G. 還元焼成. だが、焼成が不良. H. 覆土.
28	須恵器 環	A. 口径12.7. 底径6.4. 器高3.7. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転ナデ. D. 角閃石・褐色粒子. E. 内外一灰黄色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土下層.
29	須恵器 環	A. 口径13.0. 底径(6.0). 器高3.6. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 白色粒子. E. 内外一灰白色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土上層.
30	須恵器 環	A. 口径12.8. 底径7.3. 器高3.9. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 片岩・石英・角閃石. E. 内外一灰白色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土下層.
31	須恵器 環	A. 口径13.4. 底径6.4. 器高4.9. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 褐色粒子・白色粒子・角閃石. E. 内外一褐色. F. ほぼ完形. 酸火焼成. H. 覆土上層.
32	須恵器 高台付碗	A. 口径11.5. 底径6.6. 器高4.7. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 褐色粒子・石英. E. 内外一灰白色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土上層.
33	須恵器 高台付碗	A. 口径13.6. 底径6.7. 器高5.1. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. D. 白色粒子・石英・角閃石. E. 内外一灰白色. F. 4/5. G. 還元焼成. H. 覆土上層.
34	須恵器 高台付碗	A. 口径13.9. 底径8.1. 器高6.5. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 高台貼付. D. 白色粒子・石英. E. 内外一灰色. F. 1/2. G. 還元焼成. H. 覆土上層.
35	須恵器 高台付碗	A. 口径14.8. 底径8.3. 器高5.7. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 高台貼付. D. 白色粒子. E. 内外一褐色. F. 3/4. G. 酸火焼成. H. 覆土下層.
36	須恵器 高台付碗	A. 口径(16.2). 底径7.9. 器高6.1. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 高台貼付. 内面、回転ナデ→ヨコナデ. 角閃石・片岩. E. 内一にぶい黄褐色・黒色. 外一褐色. F. 1/2. G. 酸火焼成. 内面黒色処理. H. 覆土下層.
37	須恵器 高台付碗	A. 口径(14.0). 底径8.0. 器高6.3. B. ロクロ成形. C. 内外面、回転ナデ. 底部回転系切り. D. 高台貼付. D. 片岩. E. 内外一にぶい黄褐色. F. 1/2. G. 還元焼成. だが、焼成不良. H. 覆土上層.

5号溜井 出土遺物観察表(3)

38	須恵器 高台付碗	A. 口径14.7, 底径8.0, 器高7.0, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ。底部回転糸切り一 高台貼付, D. 角閃石・石英・白色粒子, E. 内一浅灰色, 外一黄灰色, F. 4/5, G. 還元焼成, H. 覆土上層。
39	須恵器 高台付盤	A. 口径(25.6), 残存高6.5, B. ロクロ成形, C. 外面, 口縁部, 脚部回転ナデ。体部回転ケズリ, 内面回転ナデ, D. 白色粒子・片岩, E. 内外一灰色, F. 1/3, G. 還元焼成, H. 覆土上層。
40	須恵器 蓋	A. 横み径3.8, 残存高3.5, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 角閃石, E. 内外一灰白色, F. 1/5, G. 還元焼成, H. 覆土上層。
41	須恵器 蓋	A. 口径18.8, 横み径3.7, 器高4.5, B. ロクロ成形, C. 外面, 回転ナデ一天井部回転ケズリ, 内面, 回転ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一灰色, F. 1/4, G. 還元焼成, H. 覆土上層。
42	灰釉碗	A. 口径(15.0), 残存高4.8, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一 褐色灰色, F. 破片, G. 内外面に漬け掛け灰釉, H. 覆土上層。
43	甕	A. 口径(16.8), 底径7.1, 器高33.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タ テケズリ, 底部ナデ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・角閃石, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 3/5, G. 外面底部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土下層。
44	甕	A. 口径(21.6), 底径4.4, 器高33.1, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部上 位~中位タテナデ~下位ヨコケズリ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内一明褐色, 外一明赤褐色, F. 1/3, G. 内外面二次被熱, 外面胴部に焼成時の黒斑あり, 内面 胴部剥落部多数, H. 覆土下層。
45	甕	A. 口径(29.2), 残存高26.4, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケ ズリ~中位ヨコナデ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・片岩・褐色粒子, E. 内外一褐色, F. 口 縁部~胴部下位2/3, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土下層。
46	甕	A. 口径(23.6), 残存高19.2, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部ヨコヘ ナメケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 石英・白色粒子, E. 内外一にぶい赤褐色, F. 口縁部~胴部 上半2/3, G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり・粘土付着, H. 左片包含層。
47	壺	A. 口径17.5, 残存高24.8, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面, ヨコナデ, D. 角閃石, E. 内 外一褐色, F. 口縁部~胴部3/4, G. 内外面胴部に焼成時の黒斑あり, H. 覆土上層。
48	須恵器 長頸壺	A. 口径8.3, 残存高8.3, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 白色粒子・片岩・角閃石, E. 内外一灰色, F. 口縁部~頸部のみぼろ完形, G. 還元焼成, H. 覆土下層。
49	須恵器 壺	A. 底径11.4, 残存高19.7, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転~ヘラ切り一高台貼付, D. 黒色粒子, E. 内一灰色, 外一灰白色, F. 胴部~底部2/3, G. 還元焼成, 外面胴部に自然釉, H. 覆土下層。
50	須恵器 甕	A. 口径28.0, 残存高17.6, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一灰色, F. 口縁部~胴部中位1/3, G. 還元焼成, H. 覆土下層。
51	須恵器 甕	A. 口径27.3, 残存高11.9, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 石英, E. 内外一灰色, F. 口縁部~胴部上位1/3, G. 還元焼成, H. 覆土下層。
52	須恵器 甕	A. 口径16.4, 底径13.2, 器高25.9, B. ロクロ成形, C. 外面, 回転ナデ一胴部下位ヨコケズリ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 片岩・石英・白色粒子, E. 内外一灰色, F. 3/4, G. 還元焼成, H. 覆土下層。
53	須恵器 甕	A. 口径(19.3), 残存高21.6, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 白色粒子, E. 内 外一灰色, F. 口縁部~胴部中位1/3, G. 還元焼成, 内面胴部に黒色付着物あり, H. 覆土下層。
54	須恵器 甕	A. 口径(20.8), 残存高20.5, B. ロクロ成形, C. 外面, 口縁部回転ナデ, 胴部上位平行タタキ, 中位以下ナメケズリ, 内面, 口縁部回転ナデ, 胴部上位ユビオサエ, 中位以下ヨコナデ, D. 角閃石・ 石英・白色粒子, E. 内一にぶい褐色, 外一黄灰色, F. 口縁部~胴部上半1/5, G. 還元焼成, 二次被熱, H. 覆土下層。
55	須恵器 甕	A. 口径20.2, 残存高15.2, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一灰色, F. 口縁部~胴部中位1/3, G. 還元焼成, 外面口縁部・肩部, 内面口縁部に自然釉, H. 覆土下層。
56	須恵器 甕	A. 口径25.7, 残存高20.0, B. ロクロ成形, C. 外面, 回転ナデ, 内面, 口縁部回転ナデ, 胴 部上位タテナデ, D. 石英・片岩・白色粒子, E. 内外一灰色, F. 口縁部~胴部上位3/4, G. 還元焼成, H. 覆土下層。
57	須恵器 甕	A. 口径(26.5), 底径17.5, 器高42.2, B. タタキ成形→ロクロ成形, C. 外面, 口縁部回転ナデ, 胴部下半ナデ, 底部ケズリ・ナデ, 内面, 口縁部回転ナデ, 胴部ヨコナデ, D. 白色粒子, E. 内 外一灰色, F. 3/4, G. 還元焼成, H. 覆土下層。
58	青磁碗	A. 口径15.6, 残存高3.3, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, E. 内外一灰色・輪部分灰 オリブ色, F. 破片, G. 内外面に施釉, H. 覆土上層。
59	中世陶器 甕	A. 底径(17.0), 残存高6.1, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面, ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一 灰色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土上層。
60	中世陶器 甕	B. タタキ成形, C. 外面, ハケ一押圧印, 内面, ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一灰色, F. 破片, G. 還元焼成, 61と同一固体か, H. 覆土上層。
61	中世陶器 甕	A. 底径(17.0), 残存高6.1, B. 粘土組織み上げ, C. 内外面, ナデ, D. 白色粒子, E. 内外一 灰色, F. 破片, G. 還元焼成, 60と同一固体か, H. 覆土上層。
62	瓦	A. 厚1.7, B. 型作り成形, C. 凸面ナデ, 凹面布目, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一褐色灰色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土上層。
63	瓦	A. 厚1.6, B. 型作り成形, C. 凹凸面, ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 内外一褐色灰色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土上層。

5号溜井 出土遺物観察表(4)

64	土鍾	A. 長6.9, 幅1.9, 厚0.8, 重24.60, C. ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. にぶい橙色, F. 完形, G. 黒斑あり, H. 覆土上層。
65	土鍾	A. 長6.7, 幅1.6, 厚0.6, 重18.57, C. ナデ, D. 白色粒子, E. 橙色, F. 完形, H. 覆土上層。
66	土鍾	A. 残長6.4, 幅1.9, 厚0.9, 重21.26, C. ナデ, D. 白色粒子, E. にぶい黄橙色, F. ほぼ完形, G. 黒斑あり, H. 覆土上層。
67	土鍾	A. 残長6.0, 幅1.9, 厚0.9, 重23.08, C. ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. にぶい橙色, F. 3/4, G. 黒斑, H. 覆土上層。
68	砥石	A. 残長7.2, 幅5.9, 厚1.4, 重85.00, D. 流紋岩, G. 全面研磨される, 刃物痕あり, H. 覆土上層。
69	須恵器 転用硯	A. 口径(10.3), 底径7.4, 器高1.6, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り一縁辺部を回転ナデ, D. 石英, E. 内外一灰色・暗灰色, F. 3/4, G. 内外面に墨付着, 内面はよく研磨される, H. 覆土下層。

4. 土坑

24号土坑(第374図、図版68・87)

位置: D地点の西に位置している。45・46号土坑と重複し、前者より古く後者より新しい。形態: 平面形は隅丸方形を呈するだろう。主軸方位: N-25°-W。規模: 長軸1.60m以上、短軸2.40m。埋没状況: 単層だが自然埋没だと思われる。遺物: 須恵器の高台付碗が出土している。時期: 平安時代。

28号土坑(第373図、図版69・87)

位置: D地点に位置している。詳細な位置は不明だが、完形の土師器甕が正位で出土している。時期: 古墳時代後期。

78号土坑(第374図、図版69・87)

位置: E地点の西に位置する。形態: 平面形は長方形である。主軸方位: N-45°-E。規模: 長軸1.30m、短軸0.85m。埋没状況: 自然埋没であろう。遺物: 須恵器の高台付碗が出土した。時期: 平安時代。

80号土坑(第374図、図版87)

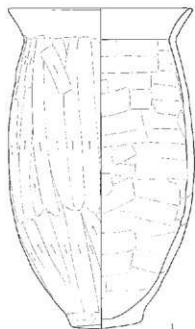
位置: E地点の西に位置している。81号土坑と重複し、本遺構が新しい。形態: 平面形は不整形を呈する。主軸方位: N-58°-E。規模: 長軸3.05m、短軸1.80m。埋没状況: 自然埋没だと思われる。遺物: 須恵器の高台付碗が出土している。時期: 平安時代。

82号土坑(第374図、図版69・87)

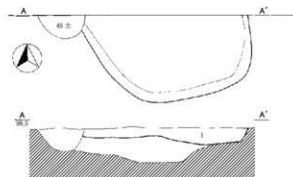
位置: E地点の西に位置している。形態: 平面形は円形を呈する。規模: 長軸0.82m、短軸0.73m。埋没状況: 自然埋没であろう。遺物: 須恵器の高台付碗が出土している。時期: 平安時代。

89号土坑(第374図、図版69・87)

位置: E地点の西に位置する。形態: 平面形は不整形である。主軸方位: N-84°-E。規模: 長軸0.91m、短軸0.80m。埋没状況: 自然埋没であろう。遺物: 須恵器の高台付碗が出土した。時期: 平安時代。



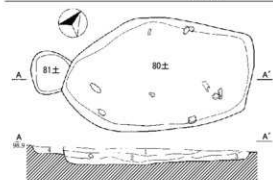
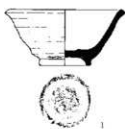
第373図 28号土坑 出土遺物



24号土坑

1層 黒褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多数に含む。粘性弱。しまりあり。

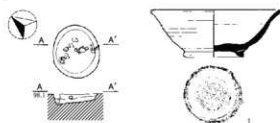
24号土坑



80号土坑

1層 黒褐色土層 白色粒子を中量。ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 3層 暗褐色土層 焼土粒子・白色粒子を微量に含む。粘性・しまり強。
 81号土坑
 4層 暗褐色土層 白色粒子を中量。マンガン粒子を少量含む。粘性・しまり強。

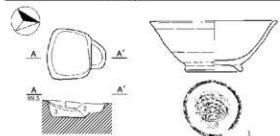
80号・81号土坑



82号土坑

1層 暗褐色土層 白色粒子を多量。ローム粒子・炭化物を少量含む。粘性強。しまりあり。
 2層 暗褐色土層 白色粒子を多量。ローム粒子・炭化物粒子を少量。焼土粒子・焼土ブロックを微量に含む。粘性あり。しまり強。

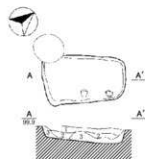
82号土坑



89号土坑

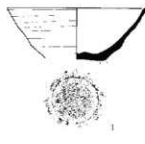
1層 黒褐色土層 ローム粒子を中量。焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を中量。白色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 3層 地山 硬り干灰。

89号土坑

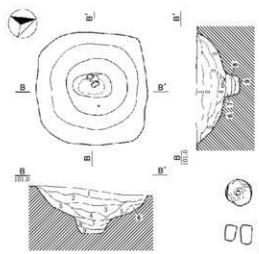


79号土坑

1層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子・白色粒子を少量含む。粘性弱。しまりややあり。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・棕色粒子を少量。炭化物粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性弱。しまりあり。
 3層 黄褐色土層 棕色粒子を少量含む。粘性・しまりあり。



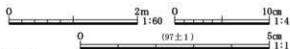
79号土坑



97号土坑

1層 暗褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性弱。しまりあり。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまり強。
 3層 暗褐色土層 ローム粒子を少量。焼土ブロックを微量含む。粘性・しまり強。
 4層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり。しまり強。
 5層 暗褐色土層 ローム粒子を多量。焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
 6層 暗赤褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
 7層 暗赤褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性あり。しまり強。
 8層 暗黄褐色土層 ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
 9層 黄色土層 地山の焼土層。

97号土坑



第374図 土坑(1)

97号土坑(第374図、図版87)

位置：F地点の南東に位置する。形態：平面形は方形、断面形は漏斗状である。主軸方位：N-18°-E。規模：一辺1.75m。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：滑石製の白玉が出土する。時期：古墳時代か。

137号土坑(第375図)

位置：F地点の西に位置している。77号住居跡号住居跡と重複するが、新旧関係は不明である。形態：長方形に北東隅が突出した平面形を呈する。主軸方位：N-2°-W。規模：長軸1.75m、短軸0.78m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物とともに土器片を顕著に含む。遺物：土器片が出土しているが、図示できる個体はなかった。時期：古墳時代以降。

140号土坑(第375図、図版87)

位置：F地点の北西に位置している。127号土坑と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は円形を呈する。主軸方位：N-0°-E。規模：長軸1.10m、短軸0.78m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より滑石製の紡錘車が出土している。時期：古墳時代以降。

142号土坑(第375図、図版69・87)

位置：F地点の西に位置している。34・35号溝と重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は円形を呈する。規模：長軸1.46m、短軸1.31m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より須恵器の環が出土している。時期：古墳時代後期。

149号土坑(第375図)

位置：F地点の北に位置している。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-4°-E。規模：長軸0.97m、短軸0.79m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物の他に、上層にAs-Bの混入が認められる。遺構の壁面は被熱している。遺物：覆土より土器片が出土する。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓だろう。

150号土坑(第375図)

位置：F地点の北に位置している。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-15°-W。規模：長軸1.03m、短軸0.67m。埋没状況：不明だが、覆土の上位に礫が集中している。壁も上位が良く被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓だろう。

151号土坑(第375図)

位置：F地点の北に位置している。形態：平面形は長方形を呈し、南壁の中央がピット状に突出している。主軸方位：N-22°-W。規模：長軸1.47m、短軸0.77m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物の他に、上層にAs-Bの混入が認められる。遺構の壁面は被熱する。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓だろう。

152号土坑 (第375図)

位置：F地点の北に位置する。形態：平面形は隅丸方形。主軸方位：N-23°-E。規模：長軸1.12m、短軸0.98m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物が顕著に見られ、3層は炭化物層となる。壁面上位は被熱する。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓だろう。

153号土坑 (第375図)

位置：F地点の北に位置している。形態：平面形は方形を呈し、北壁中央部が突出している。主軸方位：N-85°-E。規模：長軸1.59m、短軸1.14m。埋没状況：覆土には、焼土・炭化物が顕著に見られる。2・6層は焼土層、7層は炭化物層となる。壁は顕著に被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か中世の火葬墓だろう。

174号土坑 (第376図、図版69・87)

位置：F地点の北東に位置する。81号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-62°-E。規模：長軸0.74m、短軸0.76m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土錘が出土している。時期：古代か。

176号土坑 (第376図、図版70・87)

位置：F地点の北東に位置している。ピットと重複するが、新旧関係は不明である。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-87°-W。規模：長軸1.04m、短軸0.82m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より流紋岩製の砥石が出土している。時期：古代以降。

181号土坑 (第376図)

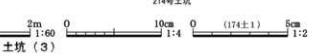
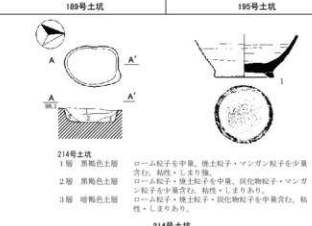
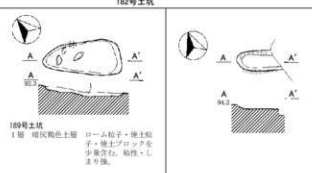
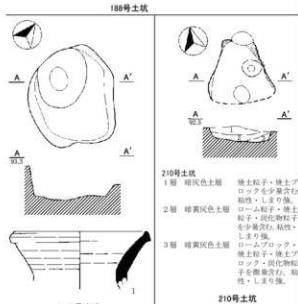
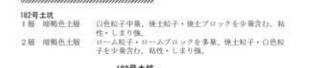
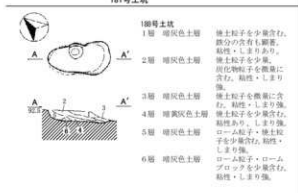
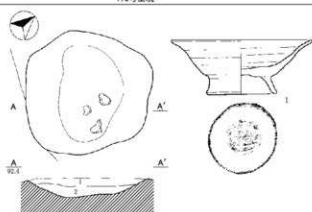
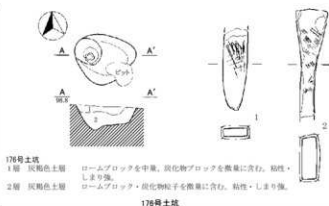
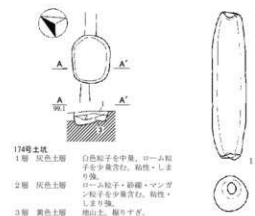
位置：F地点の北東に位置する。20号溝と重複し、新旧関係は不明。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-20°-W。規模：長軸1.15m、短軸0.59m。埋没状況：覆土に焼土を多量に含む。北西隅の壁が被熱している。遺物：土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓だろう。

182号土坑 (第376図、図版70・87)

位置：F地点の北東に位置している。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-6°-E。規模：長軸2.16m、短軸1.97m。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より酸火焔焼成の須恵器の高台付碗が出土している。時期：古代。

188号土坑 (第376図)

位置：F地点の北東に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が切られる。形態：平面形は楕円形を呈する。南壁と北壁はややオーバーハングする。主軸方位：N-44°-W。規模：長軸0.97m、短軸0.51m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を多く含む。壁も被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓か。



第376図 土坑 (3)

189号土坑(第376図)

位置：F地点の北東に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が切られる。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-46°-W。規模：長軸1.26m、短軸0.55m。埋没状況：焼土・焼土ブロックを含む土で一括して埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓であろう。

195号土坑(第376図)

位置：F地点の北東に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が切られる。形態：平面形は楕円を呈する。主軸方位：N-70°-W。規模：長軸0.64m以上、短軸0.32m。埋没状況：不明だが、壁面の被熱は確認される。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓であろう。

204号土坑(第376図、図版70・87)

位置：F地点のほぼ中央に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が切られる。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-19°-W。規模：長軸1.63m、短軸1.41m。埋没状況：不明。遺物：覆土より須恵器の口縁部片が出土している。時期：古代。

205号土坑(第377図、図版70・87)

位置：F地点の東に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が切られる。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-37°-E。規模：長軸1.50m、短軸1.19m。埋没状況：不明。遺物：覆土より多量の土器が出土している。時期：古代。

210号土坑(第376図)

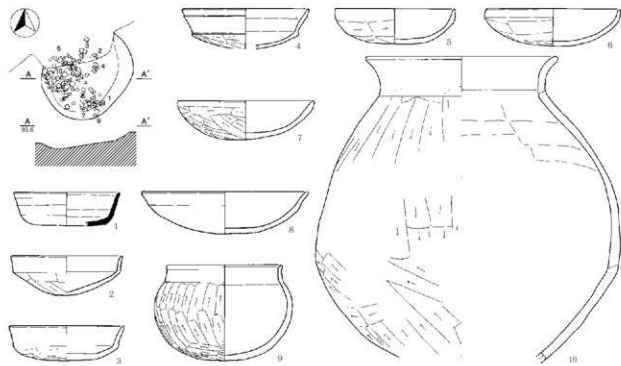
位置：F地点の北東に位置している。5号溜井と重複し、本遺構が切られる。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-6°-E。規模：長軸0.88m以上、短軸1.02m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を含み、壁は被熱している。遺物：覆土より土器片出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓であろう。

214号土坑(第376図、図版87)

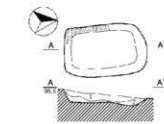
位置：E地点の西に位置している。4号溜井と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は隅丸方形を呈する。主軸方位：N-0°-E。規模：長軸0.79m、短軸0.76m。埋没状況：自然埋没を呈する。遺物：須恵器の高台付碗が出土している。時期：古代。

223号土坑(第377図)

位置：E地点の中央より南に位置している。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-1°-E。規模：長軸1.30m、短軸0.81m。埋没状況：覆土に焼土を含み、壁の一部が被熱している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓であろう。



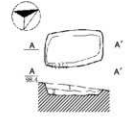
205号土坑



223号土坑

1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、焼土粒子・白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 黒褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロックを微量に含む。粘性・しまりあり。

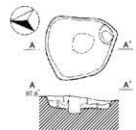
223号土坑



224号土坑

1層 暗褐色土層 ローム粒子を中量、ロームブロック・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。

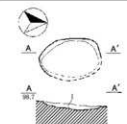
224号土坑



225号土坑

1層 暗褐色土層 炭化物粒子を中量、ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。粘性弱、しまり強。
 2層 黄褐色土層 炭化物粒子・マンガン粒子を中量、ローム粒子・白色粒子を微量に含む。粘性あり、しまり強。

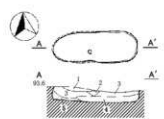
225号土坑



226号土坑

1層 暗褐色土層 炭化物粒子・焼土粒子・白色粒子を少量、ローム粒子を微量に含む。粘性弱、しまり強。

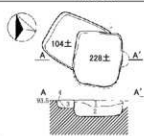
226号土坑



227号土坑

1層 暗褐色土層 焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまり強。
 2層 明黄色土層 ローム粒子を多量、焼土ブロックを少量含む。粘性あり、しまり強。
 3層 黄褐色土層 焼土粒子を多量、炭化物粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
 4層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土ブロックを少量含む。粘性・しまりあり。
 5層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりあり。

227号土坑



228号土坑

1層 暗褐色土層 焼土粒子を多量に含む。粘性あり、しまり強。
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を少量含む。粘性あり、しまり強。
 3層 暗褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子を微量に含む。粘性あり、しまり強。
 4層 明黄色土層 ローム粒子主体。粘性あり、しまり強。

104号・228号土坑



第377図 土坑(4)

224号土坑(第377図)

位置：E地点の中央より南に位置している。形態：平面形は長方形を呈する。主軸方位：N-27°-E。規模：長軸0.92m、短軸0.56m。埋没状況：覆土に焼土を含み、壁面の一部が被熱する。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓であろう。

225号土坑(第377図)

位置：E地点の南西に位置している。226号土坑と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は不整形を呈する。主軸方位：N-13°-W。規模：長軸1.18m、短軸1.03m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を含む。遺物：覆土から土器片が出土している。時期：古代。

226号土坑(第377図)

位置：E地点の南西に位置している。225号土坑と重複し、本遺構が古い。形態：平面形は楕円形を呈する。主軸方位：N-5°-W。規模：長軸0.96m、短軸0.64m。埋没状況：炭化物・焼土を含む。覆土の残存状況は不良であった。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代。

227号土坑(第377図)

位置：F地点の東に位置している。形態：平面形は楕円形を呈する。主軸方位：N-87°-W。規模：長軸1.34m、短軸0.54m。埋没状況：焼土・炭化物を含み、壁面の一部が被熱する。遺物：覆土より土器片が出土する。時期：古代以降の焼成遺構か火葬墓であろう。

228号土坑(第377図)

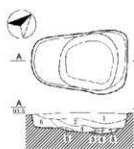
位置：F地点の東に位置している。104号土坑と重複し、本遺構が新しい。形態：平面形は方形を呈する。南壁はオーバーハングしている。主軸方位：N-58°-W。規模：一辺0.92m。埋没状況：覆土に焼土を多量に含む。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降。

229号土坑(第378図)

位置：F地点の東に位置している。形態：平面形は隅丸長方形を呈し、底面は土坑状に一段下がる。主軸方位：N-17°-E。規模：長軸1.56m、短軸1.02m。埋没状況：覆土に焼土・炭化物を多量に含む。6層は焼土層となる。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降。

230号土坑(第378図)

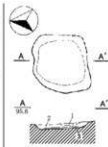
位置：E地点の東に位置している。形態：平面形は方形を呈する。主軸方位：N-43°-E。規模：長軸1.15m、推定短軸0.99m。埋没状況：覆土最下層は焼土・炭化物を主体としている。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古代以降。



229号土坑(国7号墳蔵)

- 1層 暗褐色土層
- 2層 暗褐色土層
- 3層 明黄色土層
- 4層 暗褐色土層
- 5層 赤褐色土層
- 6層 明褐色土層

229号土坑



230号土坑

- 1層 暗褐色土層
- 2層 黄褐色土層
- 3層 粘土・炭化物主体層

炭化物・白色粒子を多量。粘土粒子を少量含む。粘性あり。しまりあり。
白色粒子を少量。粘土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を微量に含む。粘性弱。しまりあり。

230号土坑

0 2m 1:60

第378図 土坑(5)

土坑 出土遺物観察表(1)

24土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(12.7)、底径5.6、器高5.9、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一黄灰色。F. 1/4。G. 還元焙焼成。内面体部に黒灰あり。H. 覆土。
28土	1	甕	A. 口径(13.4)、底径7.4、器高34.0、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ→ヨコナデ。底部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・チャート・角閃石。E. 内外一明赤褐色。F. 4/5、G. 胴部下半二次焙焼。H. 覆土。
78土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径14.7、残存高5.5、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一黄灰色。F. 高台部以外ほぼ完成。G. 還元焙焼成。H. 覆土。
80土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(15.3)、残存高5.2、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 片岩・角閃石。E. 内一灰黄褐色。外一明黄褐色。F. 1/4。G. 内面黒色処理。黒色の付着物あり。外面黒灰か。H. 覆土。
82土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(13.4)、底径6.4、器高4.0、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一灰白色。F. 2/3。G. 還元焙焼成。H. 覆土。
89土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(13.5)、底径6.2、器高5.4、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. チャート・片岩・橙色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。G. 酸火焙焼成。H. 覆土。
97土	1	石製白玉	A. 径0.7、厚0.5、重0.4、D. 滑石製。F. ほぼ完成。H. 覆土。
140土	1	土製紡錘車	A. 径6.5、厚2.4、重50.09。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/2。H. 覆土。
142土	1	須恵器 杯	A. 口径(9.7)、器高4.5、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ケズリ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 3/4。G. 搬入品。H. 覆土。
174土	1	土鉢	A. 長7.8、幅1.8、厚0.9、重26.01。C. ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. にぶい赤褐色。F. 完成。G. 黒灰あり。H. 覆土。
176土	1	砥石	A. 残長8.7、幅2.6、厚0.9、重44.10。D. 流紋岩。G. 全面研磨される。刃物痕顕著。鉄分の付着あり。H. 覆土。
	2	砥石	A. 残長11.5、幅4.5、厚1.5、重182.36。D. 流紋岩。G. 全面研磨される。刃物痕顕著。H. 覆土。
182土	1	須恵器 高台付碗	A. 口径(14.9)、底径7.5、器高5.8、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付。D. 角閃石・白色粒子・黒色粒子。E. 内外一橙色。F. 3/4。G. 酸火焙焼成。H. 覆土。
204土	1	須恵器 甕	A. 口径14.9、残存高6.0、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。外面頸部にタキキ目。D. 片岩・黒色粒子。E. 内外一灰白色。F. 口縁部4/5。G. 還元焙焼成。H. 覆土。
205土	1	須恵器 杯	A. 口径11.2、底径7.5、器高3.5、B. ロクロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転ヘラ切り→ナデ。D. 石英・白色粒子。E. 内外一灰色。F. 4/5。G. 還元焙焼成。H. 覆土。
	2	杯	A. 口径11.8、器高4.2、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ・ナデ。内面、ヨコナデ。D. 橙色粒子・角閃石・白色粒子。E. 内外一黄褐色。F. 3/4。H. 覆土。
	3	杯	A. 口径12.2、器高3.6、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面ヨコナデ。D. 角閃石・橙色粒子。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 1/2。H. 覆土。
	4	杯	A. 口径(13.5)、残存高4.2、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一にぶい橙色。F. 1/2。G. 内面口縁部に黒色の付着物あり。H. 覆土。
	5	杯	A. 口径12.8、器高3.7、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
	6	杯	A. 口径14.2、器高3.9、B. 粘土組織み上げ。C. 内外面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 2/3。H. 覆土。
	7	杯	A. 口径(14.1)、器高4.1、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/3。H. 覆土。
	8	皿	A. 口径17.8、器高4.4、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ→単位は摩滅。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。H. 覆土。
	9	鉢	A. 口径(12.3)、器高10.1、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテケズリ。内面、口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。D. 白色粒子。E. 内外一にぶい橙色。F. 3/4。G. 外面胴部に焼成時の黒灰あり。H. 覆土。
	10	壺	A. 口径(20.4)、残存高32.5、B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。胴部タテケズリ。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内外一褐色。F. 2/5。G. 外面胴部に焼成時の黒灰あり。H. 覆土。

土坑計測表(1)

地点	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
	1号土坑	隅丸長方形	80×40	10	N-89°-E
	2号土坑	長方形	80×60	15	N-72°-E
	3号土坑	長方形	140×85	27	N-70°-E
	4号土坑	横円形	105×90	20	N-8°-W
	5号土坑	隅丸長方形	85×55	25	N-90°-E
	6号土坑	横円形	100×80	23	N-1°-W
	7号土坑	横円形	90×50	14	N-7°-W
	8号土坑	長方形	110×50	20	N-82°-E
	9号土坑	横円形	107×75	17	N-75°-E
	10号土坑	横円形	120×75	14	N-9°-W
	11号土坑	横円形	160×(60)	70	N-79°-W
	12号土坑	横円形	160×(70)	37	N-88°-W
	13号土坑	不整形	130×(170)	70	N-26°-E
	14号土坑	横円形	215×140	15	N-22°-W
	15号土坑	円形	100×90	29	N-12°-W
	16号土坑	円形	115×100		N-26°-W
	17号土坑	不整形円形	150×95	40	N-25°-W
	18号土坑	不整形円形	118×82	28	N-53°-W
	19号土坑	横円形	110×60	45	N-55°-E
	20号土坑	横円形	(50)×80	32	N-3°-E
	21号土坑	円形	70×50	15	N-34°-W
	22号土坑	欠番			
	23号土坑	円形	100×98	20	N-0°-E・W
	25号土坑	不整形	130×100	34	N-3°-E
D	26号土坑	方形	(120)×(75)	30	N-85°-W
	27号土坑	長方形	141×125	28	N-33°-W
	28号土坑	不明			
	29号土坑	円形	70×70	55	N-42°-W
	30号土坑	円形	90×80	40	N-49°-E
	31号土坑	隅丸方形	108×90	40	N-68°-W
	32号土坑	長方形	90×59	23	N-20°-E
	33号土坑	円形	55×55	24	N-24°-E
	34号土坑	円形	118×115		N-0°-E・W
	35号土坑	隅丸長方形	220×150	57	N-85°-W
	36号土坑	隅丸長方形	(440)×124		N-8°-E
	37号土坑	隅丸長方形	798×88	55	N-88°-E
	38号土坑	横円形	85×60	17	N-16°-W
	39号土坑	横円形	108×70	37	N-46°-W
	40号土坑	横円形	65×55	16	N-73°-W
	41号土坑	不整形円形	90×89	15	N-6°-W
	42号土坑	不整形円形	110×80	10	N-46°-E
	43号土坑	円形	70×65	20	N-43°-W
	44号土坑	横円形	73×31	41	N-24°-W
	45号土坑	円形	(50)×80	30	N-15°-E
	46号土坑	円形	(57)×140	40	N-10°-E
	47号土坑	円形	100×(90)	7	N-78°-W
	48号土坑	円形	50×49	29	N-77°-E
	49号土坑	不整形円形	(70)×110	50	N-55°-E

地点	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
	50号土坑	欠番			
	51号土坑	不整形	90×68	40	N-34°-E
	52号土坑	長方形	160×80	55	N-24°-E
	53号土坑	横円形	135×70	53	N-89°-W
	54号土坑	円形	65×60	45	N-0°-E・W
	55号土坑	欠番			
	56号土坑	円形	50×45		N-25°-W
	57号土坑	欠番			
	58号土坑	欠番			
D	59号土坑	隅丸長方形	89×54	30	N-62°-E
	60号土坑	横円形	80×(30)		N-89°-W
	61号土坑	隅丸長方形	160×103	30	N-21°-E
	62号土坑	欠番			
	63号土坑	欠番			
	64号土坑	隅丸長方形	(70)×115		N-25°-W
	65号土坑	不整形	178×102	20	N-0°-E・W
	66号土坑	隅丸長方形	130×103	22	N-72°-W
	67号土坑	隅丸方形	132×106	76	N-35°-W
	68号土坑	円形	57×52	16	N-0°-E・W
	69号土坑	円形	74×60	26	N-90°-E
	70号土坑	長方形	257×110	45	N-90°-W
	71号土坑	長方形	246×125	38	N-14°-E
	72号土坑	長方形	(191)×98	22	N-0°-E・W
	73号土坑	横円形	94×79	23	N-1°-E
	74号土坑	長方形	151×60	19	N-15°-E
	75号土坑	隅丸方形	96×88	35	N-60°-W
	76号土坑	隅丸方形	105×80	52	N-60°-E
	77号土坑	不整形	78×63	31	N-30°-E
E	79号土坑	隅丸方形	91×73		N-37°-W
	81号土坑	円形	67×(60)	16	N-31°-W
	83号土坑	不整形円形	70×65	20	N-15°-E
	84号土坑	方形	100×81	20	N-90°-E
	85号土坑	円形	(76)×75	21	N-5°-W
	86号土坑	不整形	124×75	20	N-14°-W
	87号土坑	横円形	110×91	20	N-77°-E
	88号土坑	横円形	(89)×103	43	N-47°-W
	90号土坑	隅丸長方形	(87)×70	17	N-0°-E・W
	91号土坑	隅丸方形	(56)×60	14	N-75°-W
	92号土坑	長方形	192×120	29	N-0°-E・W
	93号土坑	横円形	222×50	32	N-87°-E
	94号土坑	長方形	106×(46)	18	N-89°-W
	95号土坑	隅丸方形	(46)×65	28	N-10°-W
	96号土坑	円形	120×108	15	N-9°-W
	98号土坑	不整形	125×83	13	N-21°-E
	99号土坑	円形	112×110	24	N-10°-W
F	100号土坑	円形	119×108	22	N-65°-W
	101号土坑	円形	101×97	15	N-74°-W
	102号土坑	欠番			

土壤計測表(2)

地点	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
	103号土坑	欠番			
	105号土坑	円形	125×117	21	N-40°-E
	106号土坑	隅丸方形	207×193	54	N-52°-W
	107号土坑	隅丸方形	125×105	25	N-11°-E
	108号土坑	隅丸長方形	123×82	45	N-63°-E
	109号土坑	隅丸方形	131×108	26	N-7°-W
	110号土坑	楕円形	628×102	43	N-0°-E・W
	111号土坑	隅丸長方形	152×112	25	N-15°-E
	112号土坑	円形	144×132	12.5	N-53°-W
	113号土坑	円形	126×118	26	N-30°-W
	114号土坑	円形	86×84	26	N-42°-W
	115号土坑	円形	84×74	68	N-52°-E
	116号土坑	楕円形	125×97	34	N-59°-E
	117号土坑	不整形	100×85	34	N-53°-E
	118号土坑	隅丸方形	92×67	22	N-88°-E
	119号土坑	楕円形	99×56	12	N-80°-W
	120号土坑	楕円形	86×67	20	N-88°-E
	121号土坑	楕円形	116×80	9	N-6°-E
	122号土坑	不整形	80×75	16	N-29°-W
	123号土坑	円形	93×86	52	N-45°-E
	124号土坑	円形	98×95	10	N-55°-W
	125号土坑	円形	96×95	27	N-80°-E
	126号土坑	不整形	85×73	25	N-13°-W
	127号土坑	長方形	165×115	40	N-50°-W
	128号土坑	隅丸方形	(63)×71	10	N-76°-W
	129号土坑	楕円形	98×(68)	15	N-6°-W
	130号土坑	隅丸長方形	137×85	20	N-13°-E
	131号土坑	円形	65×64	28	N-60°-W
	132号土坑	方形	80×70	12	N-0°-E・W
	133号土坑	欠番			
	134号土坑	欠番			
	135号土坑	欠番			
	136号土坑	不整形	102×87	36	N-60°-W
	138号土坑	隅丸長方形	220×80	19	N-25°-E
	139号土坑	円形	97×89	27	N-3°-E
	141号土坑	不整形	106×78	13	N-46°-E
	143号土坑	円形	102×93	32	N-33°-W
	144号土坑	楕円形	140×99	72	N-70°-W
	145号土坑	隅丸長方形	133×53	37	N-59°-W
	146号土坑	楕円形	102×78	32	N-55°-E
	147号土坑	不整形	118×110	29	N-34°-E
	148号土坑	隅丸長方形	118×80	23	N-70°-W
	154号土坑	隅丸長方形	80×(47)	17	N-85°-E
	155号土坑	隅丸方形	64×58	27	N-88°-E
	156号土坑	隅丸方形	77×68	39	N-4°-E
	157号土坑	長方形	160×94	24	N-61°-E

地点	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
	158号土坑	隅丸方形	80×65	33	N-30°-W
	159号土坑	方形	100×99	42	N-75°-W
	160号土坑	楕円形	254×108	35	N-71°-E
	161号土坑	不整形	146×115	26	N-61°-W
	162号土坑	不整形	139×126	42	N-48°-W
	163号土坑	隅丸方形	112×93	9	N-4°-E
	164号土坑	隅丸長方形	125×84	13	N-31°-E
	165号土坑	欠番			
	166号土坑	隅丸長方形	180×98	42	N-37°-E
	167号土坑	不整形	99×93	40	N-43°-E
	168号土坑	隅丸長方形	109×62	12	N-30°-W
	169号土坑	不整形	300×150	41	N-78°-E
	170号土坑	円形	136×117	31	N-42°-E
	171号土坑	円形	117×100	16.5	N-15°-E
	172号土坑	円形	130×124	57	N-25°-W
	173号土坑	円形	84×82	40	N-19°-W
	175号土坑	円形	70×59	26	N-41°-E
	177号土坑	円形	80×76	20	N-1°-W
	178号土坑	不整形	87×83	36	N-25°-E
	179号土坑	長方形	128×94	62	N-18°-E
	180号土坑	楕円形	142×100	17	N-65°-E
	183号土坑	隅丸長方形	117×71	11	N-15°-E
	184号土坑	円形	61×55	18	N-19°-E
	185号土坑	円形	90×88	15	N-25°-W
	186号土坑	不整形	70×69	29	N-27°-W
	187号土坑	不整形	(130)×89	27	N-31°-W
	190号土坑	不整形	103×67	47	N-23°-W
	191号土坑	不整形	155×150	35	N-28°-W
	192号土坑	不整形	164×114	46	N-62°-W
	193号土坑	楕円形	161×60	38	N-44°-E
	194号土坑	隅丸長方形	94×(37)	29	N-89°-W
	196号土坑	円形	91×87	11	N-50°-E
	197号土坑	円形	111×95	19	N-0°-E・W
	198号土坑	隅丸方形	73×(61)	21	N-29°-E
	199号土坑	楕円形	106×75	26	N-62°-E
	200号土坑	不整形	116×80	22	N-29°-W
	201号土坑	長方形	218×75	22	N-10°-E
	202号土坑	円形	86×75	18	N-70°-E
	203号土坑	隅丸方形	127×104	27	N-25°-E
	204号土坑	不整形	163×141	47	N-19°-W
	206号土坑	不整形	261×211	56	N-51°-W
	207号土坑	隅丸方形	194×89	37	N-46°-W
	208号土坑	長方形	250×(101)	35	N-4°-W
	209号土坑	不整形	143×142	36	N-50°-E
	211号土坑	円形	148×132	46	N-50°-W
	212号土坑	長方形	267×189	38	N-10°-W
	213号土坑	円形	90×76	28	N-17°-E
	215号土坑	円形	95×86	31	N-25°-W

土坑計測表(3)

地点	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
E	216号土坑	隅丸方形	95×67	19	N-1°-E
	217号土坑	隅丸 長方形	123×95	18	N-0°-E・W
	218号土坑	楕円形	105×86	14	N-7°-E

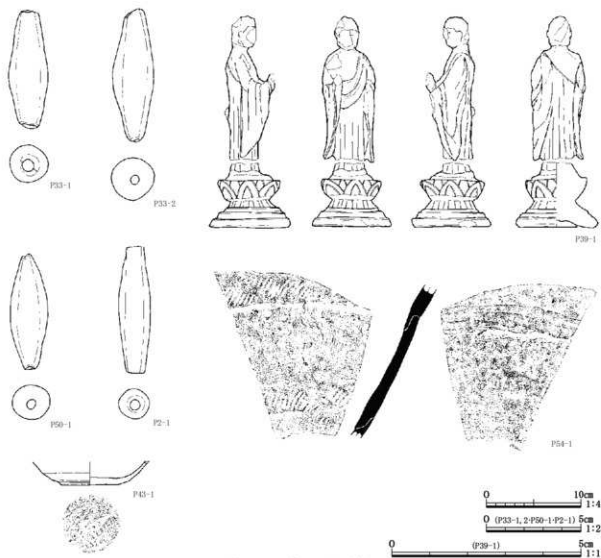
地点	遺構名	形態	規模	深さ	主軸方位
E	219号土坑	不整形	87×67	33	N-23°-W
	220号土坑	長方形	(171)×100	20	N-10°-W
F	221号土坑	長方形	238×105	56	N-9°-W
	222号土坑	楕円形	94×61	17	N-65°-W

土坑 出土遺物観察表(2)

214土	1	須恵器 高台付碗	A. 底径6.3, 残存高4.5, B. ロクロ成形, C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り→高台貼付, D. 片岩・石英・角閃石, E. 内外-灰色, F. 2/3, G. 還元焼成。外面に黒皮あり, H. 覆土。
------	---	-------------	---

5. ビット(第379図、図版88)

複数のビットから遺物が出土している。ビットは調査区全体で検出されたが、特に北西部に多く見られる傾向にある。出土した遺物は古墳時代よりも古代に属するものが多い。



第379図 ビット出土遺物

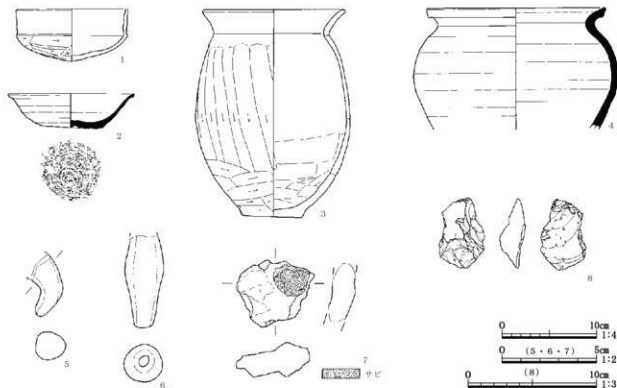
ピット 出土遺物観察表

P2	1	土鉢	A. 長6.7, 幅1.6, 厚0.7, 重16.62, C. ナデ, D. 角閃石・白色粒子, E. 橙色, F. 完形, G. 黒色付着物あり, 黒斑, H. 覆土。
P33	1	土鉢	A. 長6.2, 幅2.1, 厚0.8, 重20.18, C. ナデ, D. 角閃石, E. にぶい橙色, F. 完形, H. 覆土。
P33	2	土鉢	A. 長7.0, 幅2.2, 厚1.0, 重24.20, C. ナデ, D. 角閃石, E. 橙色, F. 完形, H. 覆土。
P39	1	銅製仏像	A. 推定長5.6, 幅2.2, 重35.16, B. 鋳造, F. ほぼ完形だが, 本体と足・蓮座が接合しない, G. 底部に鋳込み痕あり, 背中の突起は光背留めの可能性もあり, H. 覆土。
P43	1	須恵器 坏	A. 底径6.2, 残存高2.5, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り, D. 石英・角閃石・褐色粒子, E. 内外-にぶい黄褐色, F. 底部ほぼ完形, G. 酸欠焼成, H. 覆土。
P54	1	常滑窯系 甕	B. タタキ成形, C. 外面, 押印文→ナデ, 内面, ナデ, D. 白色粒子・黒色粒子, E. 内-灰白色, 外-黄灰色, F. 破片, G. 還元焼成, H. 覆土。
P50	1	土鉢	A. 長6.1, 幅2.0, 厚0.9, 重17.57, C. ナデ, D. 白色粒子, E. にぶい黄褐色, F. 完形, G. 黒斑あり, H. 覆土。

6. 道路状遺構

1号道路状遺構(第380・381図、図版88)

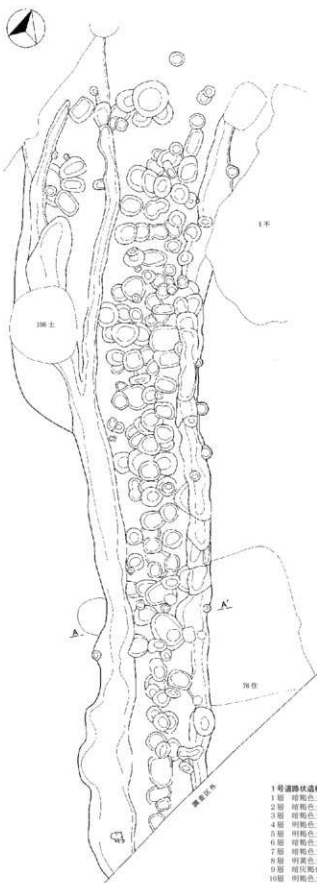
位置：F地点に位置している。北はカクランによって破壊され、5号溜井以北では検出されていない。



第380図 1号道路状遺構 出土遺物

1号道路状遺構 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(11.9), 器高5.5, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 体部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 角閃石, E. 内外-橙色, F. 1/2, H. 覆土。
2	須恵器 坏	A. 口径13.3, 底径6.2, 器高3.6, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, 底部回転糸切り, D. 石英・黒色粒子, E. 内外-灰色, F. 4/5, G. 還元焼成, H. 覆土。
3	甕	A. 口径15.2, 底径6.4, 器高21.9, B. 粘土組織み上げ, C. 外面, 口縁部ヨコナデ, 胴部タテケズリ→下位ヨコケズリ, 底部ケズリ, 内面, ヨコナデ, D. 白色粒子・角閃石, E. 内外-橙色, F. 4/5, G. 外面胴部中位に帯状にスス付着, 上位は二次被熱, 内面, 胴部中位以下にヨゴレ, H. 覆土。
4	須恵器 甕	A. 口径(19.0), 残存高12.8, B. ロクロ成形, C. 内外面, 回転ナデ, D. 片岩・白色粒子, E. 内外-灰色, F. 口縁部~胴部中位1/5, G. 還元焼成, H. 覆土。
5	土製勾玉	A. 残長3.3, 幅1.6, 厚1.5, 重7.26, C. ナデ, D. 白色粒子, E. にぶい橙色, F. 1/2, H. 覆土。
6	土鉢	A. 残長4.8, 幅2.0, 厚0.9, 重17.43, C. ナデ, D. 角閃石, E. 橙色, F. 2/3, H. 覆土。
7	陶形滓	A. 残長3.1, 残幅1.5, 厚1.8, 重18.32, F. 破片, G. 塊形滓か, H. 覆土。
8	フレイク	A. 長5.5, 幅3.55, 厚2.0, 重26.90, D. 黒曜石。



76号住居跡・106号土坑・1号性格不明遺構と重複する。住居跡より新しく、その他の遺構との新旧関係は不明である。形態：東西に側溝を有する。側溝は不整形で直線的ではない。底面もピット状に落ち込み箇所等あり、平坦ではない。西の溝は分岐している。上層は削平され、9層が道路の硬化面の残存層となる。道路部分は、掘り方だと思われる多数のピットが確認される。主軸方位：N-15°-W。等高線に対して縦走している。規模：幅：300~350cm。道路部幅：150~200cm。西側溝上幅：60~140cm。下幅：20~100cm。深さ：20~40cm。東側溝幅：40~80cm。下幅：10~50cm。深さ：5~35cm。北に行くにつれて側溝は浅くなっている。埋没状況：自然埋没ではないだろう。遺物：側溝より土師器・須恵器・土錘・土製勾玉・碗形滓が出土している。時期：平安時代。



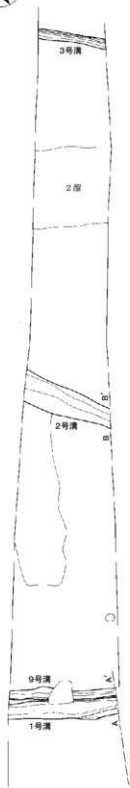
1号道路状遺構

- 1層 暗褐色土層
- 2層 暗褐色土層
- 3層 暗褐色土層
- 4層 明褐色土層
- 5層 明褐色土層
- 6層 暗褐色土層
- 7層 暗褐色土層
- 8層 明褐色土層
- 9層 暗褐色土層
- 10層 明褐色土層

- 1層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 2層 やや砂質を呈する。粘性・しまりやや弱。
- 3層 ロームブロックを含む。粘性・しまりあり。
- 4層 ロームブロックを多量に含む。粘性・しまりあり。
- 5層 ローム粒子を多量含む。粘性・しまりあり。
- 6層 ローム粒子・鉄分を少量含む。粘性あり。しまりやや強。
- 7層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまりあり。
- 8層 ロームブロック・マンガン粒子・鉄分を含む。粘性あり。しまり強。硬化面。
- 9層 鉄分・マンガンを多量に含む。砂質を呈する。粘性やや弱。しまりあり。
- 10層 ロームブロックを多量に含む。粘性・しまりあり。

0 2m
1:100

第381図 1号道路状遺構



7. 溝

1号溝 (第382図・図版70)

位置：D地点に位置している。9号溝と重複し、本溝構が新しい。形態：直線的である。底面は皿状を呈する。主軸方位： $N-13^{\circ}-W$ 。等高線に対して、縦走している。規模：上幅160～190cm、下幅80～120cm。確認面からの深さは約30cmを測る。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

2号溝 (第382図・図版70)

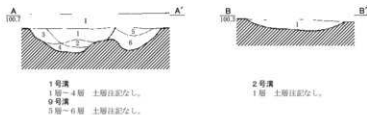
位置：D地点に位置している。形態：直線的だが、北にいくにつれて幅広になる。底面は平坦である。主軸方位： $N-15^{\circ}-W$ 。等高線に対して、縦走している。規模：上幅250cm～300cm、下幅60～120cm。確認面からの深さは約15cmを測る。埋没状況：同一の覆土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

3号溝 (第382図・図版70)

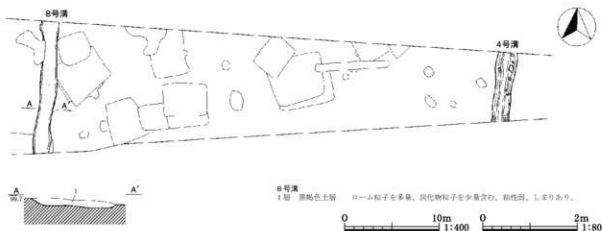
位置：D地点に位置している。形態：直線的である。底面は平坦である。主軸方位： $N-1^{\circ}-E-W$ 。等高線に対して、縦走している。規模：上幅80～100cm、下幅40cm。確認面からの深さは不明である。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

4号溝 (第383図・図版70)

位置：D地点に位置している。形態：直線的で、底面にはビット状の落ち込みが散見される。主軸方位： $N-7^{\circ}-E-W$ 。等高線に対して、縦走している。規模：上幅170～210cm、下幅40～50cm。確認面からの深さは不明である。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



第382図 溝 (1)



第383図 溝(2)

6号溝(第384図・図版71)

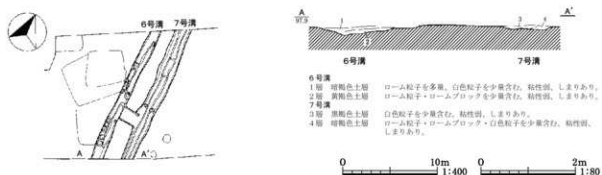
位置：D地点に位置している。7号溝と並走し、直交する溝で一部が繋がっている。形態：直線的であるが、底面は凹凸が激しい。主軸方位：N-3°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅100~130cm、下幅90~100cm。確認面からの深さ約10cmを測る。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

7号溝(第384図・図版71)

位置：D地点に位置している。6号溝と並走し、直交する溝で一部が繋がっている。F区の13号溝と同一遺構の可能性が有る。形態：直線的で、なだらかな立ち上がりを呈する。主軸方位：N-1°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅120~190cm、下幅50~60cm。確認面からの深さは約5cmを測る。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

8号溝(第383図・図版71)

位置：D地点に位置している。1号住居跡・25号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：直線的で、立ち上がりは非常に緩やかである。底面は平坦となる。主軸方位：N-5°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅150~180cm、下幅130~150cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：同一の覆土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期の住居跡を切ることから、平安時代以降の溝だと思われる。



第384図 溝(3)

9号溝(第382図・図版70)

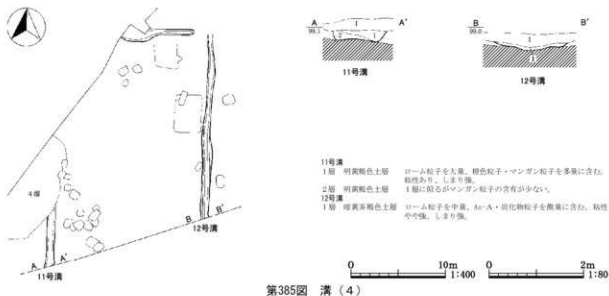
位置：D地点に位置している。1号溝と重複し、本遺構が古い。形態：やや蛇行し、壁面は段を成して立ち上がる。主軸方位：N-11°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅90~150cm、下幅20~50cm。確認面からの深さは約25cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

11号溝(第385図・図版71)

位置：E地点に位置している。4号溜井と重複し、新旧関係は不明である。溜井に水を引き入れている可能性もある。形態：底面は平坦を呈し、平面形はほぼ均一な幅で直線的である。主軸方位：N-0°。等高線に対して、縦走している。規模：上幅80cm、下幅50cm。確認面からの深さは約10cmを測る。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

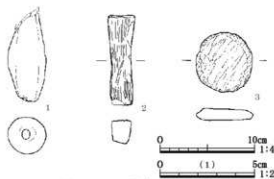
12号溝(第385図・図版71)

位置：E地点に位置している。35号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：幅は不均一だが直線的である。立ち上がりは緩やかでしっかりとしない。底面はやや凹凸がある。主軸方位：N-2°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅90~50cm、下幅20~50cm。確認面からの深さは約5cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



13号溝(第386・388図・図版88)

位置：F地点に位置している。60号住居跡・61号住居跡・5号溜井と重複する。住居跡より新しく、溜井との新旧関係は不明である。北は埋没谷へと続いていく。形態：幅は不均一であるが直線的である。F地点中央付近では検出されないうえ、北に行くにつれて再度掘り込みを確認した。主軸方



位：N-2°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅180×90cm、下幅20×80cm。確認面からの深さは10～15cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片とともに土錘や砥石が出土している。時期：古墳時代後期以降。

13号溝 出土遺物観察表

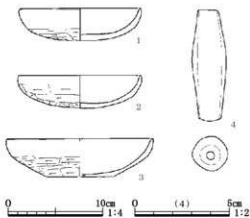
1	土錘	A. 残長4.9、幅2.0、厚0.8、重15.87。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒子・橙色粒子。E. にぶい橙色。F. 4/5。H. 覆土。
2	砥石	A. 残長9.55、幅2.95、厚2.4、重106.81。D. 流紋岩。G. 三面に歯状の工具痕。工具痕のない面は良く研磨される。H. 覆土。
3	円盤石	A. 径6.2、厚1.3、重74.09。D. 片岩。F. 完形。H. 覆土。

14号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。67号住居跡・68号住居跡と重複し、本遺構が新しい。15号溝の新旧関係は不明である。形態：68号住居跡と重複する付近で約105°曲がる。主軸方位：N-53°-EからN-55°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30×50cm、下幅10×40cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以降。

15号溝(第387・389図・図版88)

位置：F地点に位置している。14号溝と重複するが、新旧関係は不明である。形態：蛇行している。主軸方位：N-15°-EからN-20°-W。やや弧状を呈する。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40×60cm、下幅10×30cm。確認面からの深さは5～15cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より坏などの土師器、土錘が出土している。時期：古墳時代後期。7世紀前半。



第387図 15号溝 出土遺物

15号溝 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(13.0)。器高3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 内一橙色。外一にぶい橙色。F. 3/4。H. 覆土。
2	坏	A. 口径(13.2)。器高3.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石。E. 内外一橙色。F. 4/5。G. 外面に焼成時の黒斑あり。H. 覆土。
3	坏	A. 口径(15.6)。底径(7.2)。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。底部ケズリ。内面、ヨコナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 内外一橙色。F. 1/4。H. 覆土。
4	土錘	A. 長5.8、幅1.8、厚0.9、重16.94。C. 丁寧なナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 明黄褐色。F. 完形。H. 覆土。

16号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。72号住居跡・78号住居跡・79号住居跡と重複し、本遺構が新しい。形態：直線的で、北に行くにつれて幅広になる。主軸方位：N-16°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40×110cm、下幅30×60cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：古墳時代後期以降。

17号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。5号溜井と重複し、新旧関係は不明である。カクランとの切り合いよ

り北では続きが検出されていない。形態：やや蛇行し、北に行くにつれて幅が狭くなる。主軸方位：N-13°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅200~70cm、下幅20~40cm。確認面からの深さは平均して10cm未満となっている。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

19号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。17号溝・20号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：幅は均一で直線的である。主軸方位：N-74°-W。等高線に対して、横走している。規模：上幅90~110cm、下幅50~70cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

20号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。21号溝と重複し、新旧関係は不明である。重複する溝の間でのみ検出され、南北に続いていない。形態：幅は均一で直線的である。主軸方位：N-7°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅60~80cm、下幅30~60cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

21号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。81号住居跡、20号溝と重複する。住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。形態：幅が不均一で、20号溝と重複後に収束する。底面は平坦である。主軸方位：N-18°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅50~120cm、下幅30~90cm。確認面からの深さは5~10cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

23号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。179号土坑と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的で、底面にはビット状の落ち込みが散見される。主軸方位：N-89°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30~40cm、下幅20~30cm。確認面からの深さは平均5cm未満となる。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

24号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。79号住居跡・83号住居跡や多数の溝と重複する。住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。形態：幅は不均一だが、直線的である。主軸方位：N-84°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40~80cm、下幅20~60cm。確認面からの深さは5~20cmを測る。埋没状況：同一の覆土で一度に埋没している。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

25号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。多数の溝と重複するが、新旧関係は不明である。形態：やや蛇行する。主軸方位：N-73°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅20～50cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは2～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

26号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。16号溝と重複し、これより東には続かない。新旧関係も不明である。形態：幅は均一で直線的である。主軸方位：N-86°-E。等高線に対して、横走している。規模：上幅100～110cm、下幅50～80cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

27号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。25号溝と重複し、これより南には続かない。新旧関係は不明である。北は34号溝の手前で収束する。形態：やや蛇行する。主軸方位：N-1°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30cm、下幅20cm。確認面からの深さは2～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

28号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。24号溝・25号溝と重複し、新旧関係は不明である。24号溝と重複後収束する。形態：蛇行している。主軸方位：N-13°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅20～50cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは平均5cm未満であった。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

29号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。24号溝と重複し、新旧関係は不明である。重複後は東に続かず、一部のみの検出となっている。形態：直線的である。主軸方位：N-90°-E。等高線に対して、横走している。規模：上幅30cm、下幅10cm。確認面からの深さは3～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

30号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。83号住居跡・25号溝と重複し、住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。25号溝より派生し、住居との切り合いより東で収束する。形態：直線的である。主軸方位：N-84°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅50～30cm、下幅10～20cm。確認面からの深さは4～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

31号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。83号住居跡と重複し、本遺構が新しい。25号溝と同一遺構の可能性も考えられる。形態：弧状を呈する。主軸方位：N-84°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅50～30cm、下幅10～20cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

32号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。重複もなく、調査区内で収束する。形態：やや蛇行する。主軸方位：N-87°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30～40cm、下幅10～30cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土する。時期：不明。

34号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。35号溝・16号溝と重複し、新旧関係は不明である。土坑群との切り合いによって、北側の立ち上がりは不明。南側の立ち上りのみの検出である。形態：不明。主軸方位：N-90°-E・W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅・下幅不明。確認面からの深さは3～23cmを測る。埋没状況：不明。遺物：不明。時期：不明。

35号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。78号住居跡や多数の溝と重複する。住居跡より新しく、溝との新旧関係は不明である。形態：弧状を呈する。主軸方位：N-75°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30～50cm、下幅20～30cm。確認面からの深さは4～15cmを測る。埋没状況：自然埋没であろう。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

36号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。35号溝と重複し、新旧関係は不明である。しかし、35号溝との重複より北西に本遺構は続いている。南西部分はカクランに破壊される。形態：幅は不均一だが直線的である。主軸方位：N-69°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40～60cm、下幅30～50cm。確認面からの深さは平均5cm未満であった。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

37号溝(第389図)

位置：F地点に位置している。重複もなく、調査区内で収束する。主軸方位：N-88°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅40～50cm、下幅30～40cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

39号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。西端はカクランと重複する。形態：幅は不均一だが、直線的である。

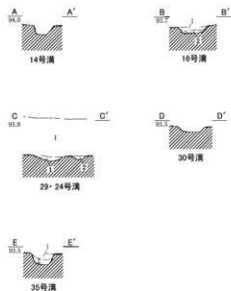
主軸方位：N-87°-E。等高線に対して、横走している。規模：上幅60～80cm、下幅40～70cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

40号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。5号井戸・41号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：幅が不均一でやや蛇行している。底面にビットが確認される。主軸方位：N-67°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅80～110cm、下幅20～50cm。確認面からの深さは10～20cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

41号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。40号溝と重複し、新旧関係は不明である。形態：直線的である。主軸方位：N-12°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅10～30cm、下幅5～20cm。確認面からの深さは平均5cm未満となっている。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。



- 16号溝
 1層 暗茶褐色土層 ローム粒子・白色粒子を少量、焼土粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 暗茶褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。粘性あり。しまり強。
 29号溝
 1層 暗灰褐色土層 マンガン粒子を少量含む。粘性・しまり強。
 24号溝
 2層 暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を微量に含む。粘性・しまりやや強。
 35号溝
 1層 明茶褐色土層 ローム粒子を少量、炭化物粒子・白色粒子を微量に含む。粘性・しまりあり。
 2層 暗茶褐色土層 ローム粒子・炭化物粒子を微量に含む。鉄分の凝縮あり。粘性・しまりあり。



第389図 溝(6)

42号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。重複はなく、北は埋没谷へと続く。形態：北に行くにつけて幅広となる。底面は平坦である。主軸方位：N-1°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅90～160cm、下幅80～150cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

43号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。重複はなく、北は埋没谷へと続く。形態：幅は不均一でやや蛇行する。主軸方位：N-10°-E。等高線に対して、縦走している。規模：上幅30～70cm、下幅10～60cm。確認面からの深さは5～10cmを測る。埋没状況：不明。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

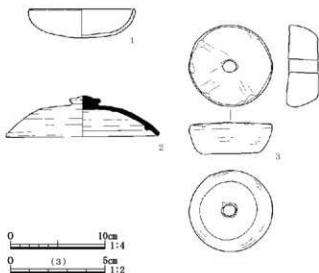
44号溝(第388図)

位置：F地点に位置している。重複はなく、北は埋没谷へと続く。形態：不整形でやや蛇行する。底面は皿状を呈する。主軸方位：N-20°-W。等高線に対して、縦走している。規模：上幅120～140cm、下幅70～110cm。確認面からの深さは5～15cmを測る。埋没状況：覆土に礫を多く含む。遺物：覆土より土器片が出土している。時期：不明。

8. 性格不明遺構

1号性格不明遺構(第390・391図・図版88)

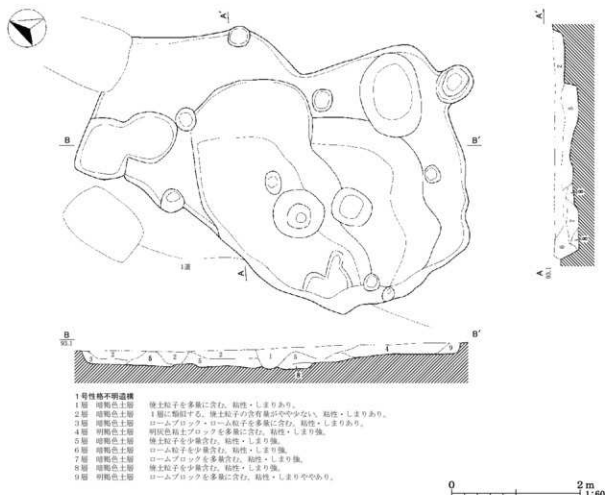
位置：F地点に位置している。1号道路状遺構と重複し、新旧関係は不明である。古代の住居跡の掘り方の可能性が高い。形態：平面形は不整形を呈し、底面も平坦ではない。主軸方位：N-21°-W。規模：長軸：6.15m。短軸：2.95m。埋没状況：自然埋没だろう。遺物：覆土より土師器坏・須恵器坏蓋・滑石製の紡錘車が出土している。時期：奈良時代。



第390図 1号性格不明遺構 出土遺物

1号性格不明遺構 出土遺物観察表

1	坏	A. 口径(11.3)、器高3.1。B. 粘土粒積み上げ。C. 内外面、厚減が著しく、調整不明。D. 角閃石・白色粒子・黒色粒子。E. 内外一褐色。F. ほぼ完形。H. 覆土。
2	須恵器蓋	A. 口径16.3、狭み径3.3、器高4.3。B. ロック成形。C. 外面、回転ナデ一天井部回転ケズリ。内面、回転ナデ。D. 片岩・白色粒子・黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 完形。H. 覆土。
3	石製紡錘車	A. 径4.4、厚1.7。重49.05。C. よく研磨される。D. 蛇紋岩製。F. 完形。H. 覆土。



1号性格不明遺構

- 1層 暗褐色土層 粘土粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 2層 暗褐色土層 1層に類似する。粘土粒子の含有量がやや少ない。粘性・しまりあり。
- 3層 暗褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりあり。
- 4層 明褐色土層 明褐色粘土ブロックを多量に含む。粘性・しまり強。
- 5層 暗褐色土層 粘土粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 6層 暗褐色土層 ローム粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 7層 暗褐色土層 ロームブロックを多量含む。粘性・しまり強。
- 8層 暗褐色土層 粘土粒子を少量含む。粘性・しまり強。
- 9層 明褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性・しまりややあり。

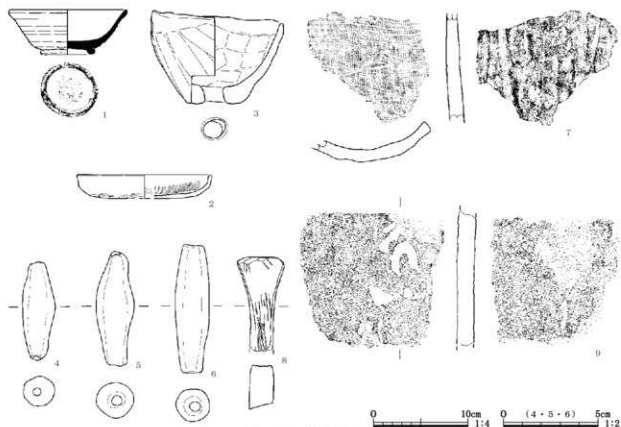
第391図 1号性格不明遺構

9. 遺構外出土遺物(第392図、図版88)

遺構外からも、多数の遺物が出土している。古墳時代後期から平安時代の土器が中心であったが、この中に板碑が含まれる。本報告で板碑はこれ1点となっている。

遺構外出土遺物観察表

1	須恵器 高台付碗	A. 口径(12.5)。底径5.3。器高4.7。B. ロックロ成形。C. 内外面、回転ナデ。底部回転糸切り一高台貼付。 D. 角閃石・白色粒子・黒色粒子。E. 内外一灰色。F. 2/3。G. 還元焼成。H. D区グリッド。
2	坏	A. 口径(14.3)。残存高2.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ→下半ケズリ。内面、ヨコナデ→放射状のミガキ。D. 白色粒子。E. 内外一明褐色。F. 1/5。H. 覆土。
3	小形瓶	A. 口径14.0。底径5.9。器高9.9。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ・胴部タテナデ。底部ケズリ→焼成前穿孔。内面、ヨコナデ。D. 片岩・石英・角閃石。E. 内一赤褐色。外一暗赤褐色。F. 4/5。G. 外面胴部に焼成時の黒斑あり。H. D区表採。
4	土鐘	A. 長5.2。幅1.7。厚0.8。重11.67。C. ナデ。D. 角閃石・白色粒子。E. 橙色。F. 完形。H. F区F70グリッド。
5	土鐘	A. 長6.0。幅2.0。厚0.9。重16.71。C. ナデ。D. 白色粒子。E. にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。H. F区F36グリッド。
6	土鐘	A. 長6.8。幅1.8。厚0.8。重20.06。C. ナデ。D. 白色粒子。E. 橙色。F. 完形。H. F区F141グリッド。
7	瓦	B. 型作り成形。C. 凹面、布目。凸面、縄目。D. 片岩・白色粒子。E. 内一赤褐色。外一明赤褐色。F. 破片。G. 酸化焼成。H. D区。
8	砥石	A. 残長10.0。幅5.0。厚4.7。重246.34。D. 流紋岩。G. 全体的に摩耗。刃痕あり。H. F区。
9	板碑	A. 残長14.6。残幅15.5。厚2.0。重856.55。D. 緑泥片岩。G. 種子・キリーク。蓮座あり。H. F区F13グリッド。



第392図 遺構外出土遺物

第V章 調査のまとめと成果

本報告で扱ってきた、秋山大町遺跡・秋山大町東遺跡・秋山諏訪平遺跡からは、断続的とはいえ縄文時代から中近世に至るまでの遺構・遺物を確認することが出来た。これらの遺跡群では、特に古墳時代後期から古代にかけての竪穴建物跡(以下住居跡と称する)が約340軒検出され、大規模な集落を展開していたことがわかった。また古代以降では、溜井、浅間B軽石(以下As-B)で埋没した水田址、中近世の建物群など多種多様の成果を得る結果となった。

本章では、これらのうち、古墳時代から古代の集落、溜井、中近世の建物群に関して一定の分析を加えることで、まとめにかえたい。

第1節 古墳～古代の集落について

1. 集落の変遷

前述したように、本遺跡群では多くの住居跡が確認された。ここでは、遺跡ごとの住居跡のまとまりを集落として捉え、その変遷を整理していこう。

まず、住居跡の切り合いに基づく新旧関係と出土した須恵器の相対年代、周辺遺跡の土器編年を参考にしてⅠ～Ⅺ期を設定した。Ⅰ～Ⅴ期の詳細は3で後述するが、全時期の概要をまとめたものが第393図である。Ⅰ～Ⅴ期が古墳時代後期、Ⅵ期が奈良時代、Ⅶ期以降が平安時代に比定される。なお、Ⅴ期・Ⅵ期間、Ⅵ期・Ⅶ期間には確実な空白があり、集落の断絶を認め、Ⅲ期・Ⅳ期間には若干の空

段階	出土遺物の特徴	竪穴建物の特徴	備考
I	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	5C末
	土師器 須恵器 その他	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	5C末 ～6C初頭
II	土師器 須恵器 その他	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	6C前葉
	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	6C後葉 ～7C初頭
III	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C前葉
	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C前葉
IV	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C前葉
	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C前葉
V	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C前葉
	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C前葉
VI	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C末 ～8C初頭
	土師器 須恵器	<p>平形 方形。 規 模 4～8m。 カマド 東壁付設。粘土使用袖。 燃焼部は住居内。</p> <p>主柱穴 4本。 貯蔵穴 カマドに向かって右。</p>	7C末 ～8C初頭
VII	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	8C末
	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	9C前半
VIII	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	9C後半
	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	9C後半
IX	土師器 須恵器 その他	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	10C前半
	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	10C前半
X	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	10C前半
	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	10C前半
XI	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	10C後半
	土師器 須恵器	<p>平形 長方形。 規 模 3～6m。 カマド 東壁隅付設。礫使用。 燃焼部は住居外。</p> <p>柱 穴 ランダムに配される。 貯蔵穴 なし。</p>	10C後半

第393図 遺跡群の概要

白期を想定している。

ちなみに、出土遺物や重複関係がなく詳細不明な住居跡も多い。秋山大町遺跡で24軒、秋山諏訪平遺跡で31軒、秋山大町東遺跡で35軒、計90軒にのぼる。これら住居跡に関しては今回の検討からは除外した。

(1) 古墳時代の集落

I期は、秋山大町遺跡では8・13・38・52・70・88・119・135号住居跡の8軒、秋山大町東遺跡では16・35・91号住居跡の3軒が該当し、秋山諏訪平遺跡では概期の住居跡は検出されていない。全体的に見て、住居跡は秋山大町遺跡B地点に集中する傾向にある。I期は合計しても11軒と、古墳時代後期の中では最も少ない。集落の出現が緩やかであったと推察できる。

II期は、秋山大町遺跡では、10・12・16・19・27・28・32・36・44・46・54・57・74・81・90・95・101・112・114・115・116・118・122・123・125・129・131・134・136・139・141・143号住居跡の32軒、秋山大町東遺跡では3・6・8・10・14・17～19・21・24・27・32～34・40・43・47・57・63・68・92・94・96・104・105・120・126号住居跡の27軒、秋山諏訪平遺跡では10・16・44・48・58・59号住居跡の6軒が該当する。合計66軒と各時期を通じて最も多く、爆発的とも言える増加である。集落が急激に展開し、最盛期を迎えたのだろう。

III期は、秋山大町遺跡では、20・21・26・30・31・43・48・49・51・59・60・65・77・79・85・92・99・102・105・111・121・124・130・150号住居跡の24軒、秋山大町東遺跡では7・9・11・12・20・22・25・38・41・56・65・69・70・76・97・188・128号住居跡の17軒、秋山諏訪平遺跡では8・20・30・45・52・62・63・72号住居跡の8軒が該当する。3遺跡を合計して49軒となり、II期に次ぐ住居軒数であるが、前段階と比較して住居跡は減少傾向にある。

IV期は、秋山大町遺跡では、6・9・18・22・24・25・29・39・47・56・58・62・64・66・69・83・87・89・93・104・110・117・126号住居跡の23軒、秋山大町東遺跡では1・23・55・59・64・81・86号住居跡の7軒、秋山諏訪平遺跡では13・15・18・19・21・24・41・51・55号住居跡の9軒が該当する。合計39軒となり、III期との間に、空白期が想定されるものの、減少傾向に変わりはない。

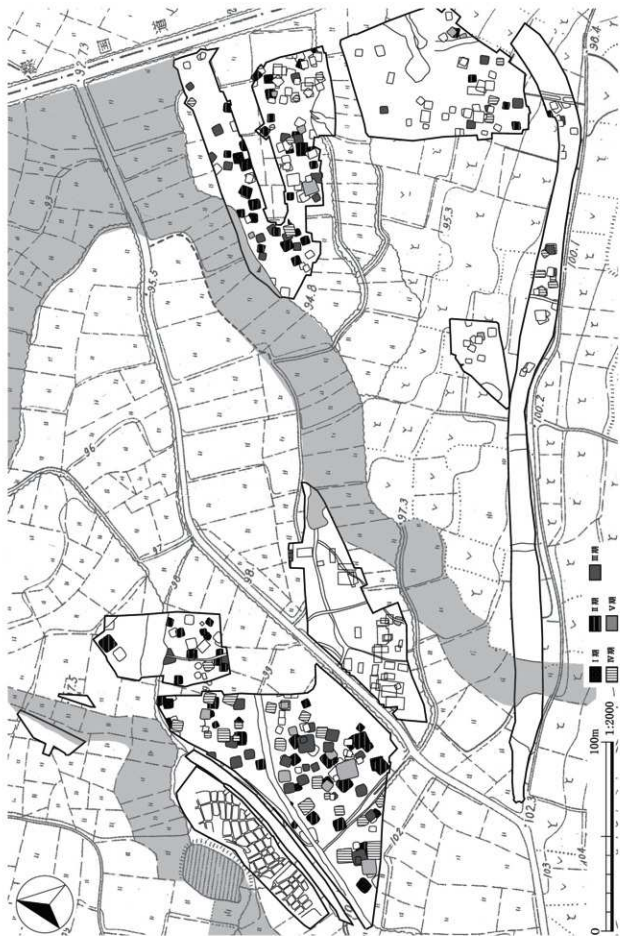
V期は、秋山大町遺跡では、15・41・55・68・72・82・97・100・148号住居跡の9軒、秋山大町東遺跡では13・53・62・73・85号住居跡の5軒、秋山諏訪平遺跡では40・73・76号住居跡の3軒が該当する。計17軒を数え、最盛期であるII期の1/4にまで落ち込む。本期をもって、古墳時代後期の集落は終息する。

(2) 古代の集落

古代になると、遺跡群の状況は一変する。古墳時代後期に大規模な集落を展開していた秋山大町遺跡から住居跡がなくなり、秋山大町東遺跡・秋山諏訪平遺跡においても住居跡は少ない。

以上のように、古代は遺構遺物ともに貧弱で、資料的制約が大きい。しかしここでは、集落の推移を把握することを目的としているため、大まかな年代でまとめた。

奈良時代に比定されるVI期は、秋山大町遺跡では147号住居跡1軒、秋山大町東遺跡では26・50・51・58・67・77・78・84・87・111・121号住居跡11軒、秋山諏訪平遺跡では75・83号住居跡の2軒が該当する。古墳時代後期の大規模集落を展開していた秋山大町遺跡は、概期の住居跡1軒のみで、集落と呼べる状況ではなくなる。一方、秋山大町東遺跡では、11軒の住居跡が確認されている。この軒



第394図 集落の変遷 古墳時代

数は、Ⅴ期における秋山大町遺跡・秋山大町東遺跡の合計住居数と大差なく、秋山大町東遺跡に集結したとも理解できようか。

Ⅵ期よりやや時期をおき、平安時代に比定されるⅦ期は、秋山大町東遺跡の114・122号住居跡、秋山諏訪平遺跡では49・56・67号住居跡で3軒、計5軒が検出されている。空白期を挟み、前段階のⅥ期と比較して、さらに住居数は少なくなる。

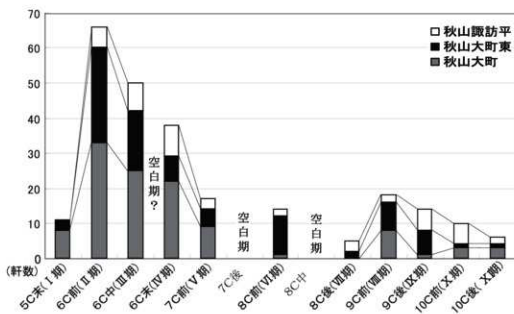
Ⅷ期は、秋山大町遺跡では71・75・91・94・96・98・151・153号住居跡の8軒、秋山大町東では4b・5・88・98・101・103・107・117号住居跡の8軒、秋山諏訪平遺跡では17・69号住居跡の2軒の15軒となっている。Ⅶ期より継続的に集落が営まれ始めたのだろうか、住居数は約3倍となっている。

Ⅸ期は、秋山大町遺跡の107号住居跡、秋山大町東遺跡では44・46・49・82・99・106・112号住居跡の7軒、秋山諏訪平遺跡では14・36・37・42・66・82号住居跡の6軒が該当する。合計で14軒である。Ⅷ期と時間的に連続し、住居数も大きく変化するものではない。

X期は、秋山大町遺跡では40・53・106号住居跡の3軒、秋山大町東遺跡では66号住居跡の1軒、秋山諏訪平遺跡では2・35・46・47・54・65号住居跡の6軒が該当する。Ⅷ期からの住居数はここでまた減少する。

XI期は、秋山大町遺跡では45・63・109号住居跡の3軒、秋山大町東遺跡では66号住居跡、秋山諏訪平遺跡では38・57号住居跡の2軒が該当する。計5軒となり、Ⅷ期以来の、平安時代の集落は終焉を迎える。

古代では、集落としての規模こそ小さいが、秋山大町遺跡C地点で水田址が、秋山大町遺跡B・D地点では大溝が、秋山大町遺跡E地点、秋山諏訪平遺跡の各地点では溜井が検出されるなど、水田に関連した遺構が目立つ。古墳時代後期とは遺跡自体の性格が異なるのだろうか。



第396図 住居軒数の推移

(3) 集落の変遷

ここまで述べたように、本遺跡群では古墳時代後期の住居跡をメインに平安時代にかけての多くの住居跡が存在している。これらの住居跡の分布や範囲、その推移をまとめてみたい。

これまでに述べた集落の変遷を全測図に示したものが第394・395図である。前者が古墳時代後期(I～V期)、後者が古代(VI～XI期)である。

秋山大町遺跡における古墳時代後期の住居分布は、B・D地点に偏り、E地点では数軒を数える程度である。また、住居跡の密度も濃く、重複も激しい結果となっている。I～III期はB・D地点全体に集落が広がるが、IV・V期になるとB地点に集約され、集落範囲の縮小傾向が見受けられる。古代においては、住居跡は非常に少なく、古代に帰属する1号溝より北には住居跡は分布しない。

秋山大町東遺跡の古墳時代後期の集落は、秋山大町遺跡と同じく密度が濃く重複も激しい。しかし、時期による住居の配置に差異はない。奈良時代に比定されるVI期には、住居跡が調査区南に集中して検出される。ここには、同時期の16・17号溝があり、何らかの関係性があるのだろう。平安時代では、VI期に引き続き調査区南側に住居跡が密集している。

秋山諏訪平遺跡は、D地点3号溜井より西に住居跡は見られず、E地点周辺とF地点周辺に二つのまとまりを見い出せる。前述した2遺跡と異なり、住居跡は少なく全時代を通しての分布はまばらであった。これに関しては、各遺跡の時期ごとの住居軒数を示した第396図を参照されたい。前述したように秋山大町遺跡・秋山大町東遺跡は住居軒数の増減が激しく、古墳時代後期に関してはその推移がおおむね一致している。一方、秋山諏訪平遺跡は住居軒数が少ないながらもその増減が少なく、小規模ながら集落を継続して展開していたと思われる。

2. 竪穴住居跡の特徴

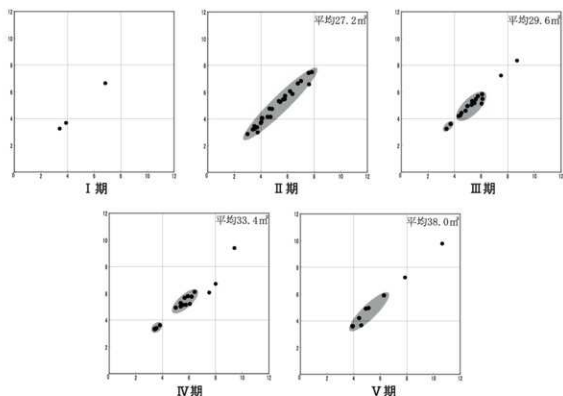
本書では、古墳時代後期から平安時代に至るまで339軒の住居跡について報告している。ここでは、これらの住居跡について分析を行っていく。

(1) 住居跡の規模と形態

検出された339軒のうち、半数の153軒が秋山大町遺跡に属している。秋山大町遺跡は最も調査面積が広く、集落内の住居跡を広範囲に検出できた。ここでは、秋山大町遺跡の住居跡の規模と形態について述べていく。

住居跡の長辺を横軸、短辺を縦軸にして時期別に示したのが第397図である。ほとんどの住居跡は、長辺と短辺の差が1m以内に収まり、正方形に近い形態を呈する。中には、長辺が短辺よりも2mほど長く、長方形となる住居跡もあるが一般的ではない。形態については、各時期とも大きな差異はないが、規模には若干の特徴がある。

I期は切り合いによって全体が残存していない住居跡が多いので、詳細は不明である。集落の全盛期であるII期は、一辺3～8mを測り、規模がまばらでまとまりはない。III期になると、一辺4～7m、4m以下、7m以上の住居跡に分けられるようになる。IV期は、III期よりもその差が明確化し、大型・中型・小型に区分できるようになる。一辺10mを測る大型住居跡も特徴的である。しかし、V期にはその差も、規模にもまとまりがなくなる。だが、住居跡の平面積が広がる傾向にあり、古墳時代後期の住居跡が大型化していく様子が読みとれた。



第397図 秋山大町遺跡における古墳時代後期の住居規模

(2) カマド

カマドの付設方位は東西南北すべて確認されたが、南北方向に設置されている住居跡は少ない。これは、本遺跡周辺の北西の風向きと関係しており、カマドの煙が住居内に入るのを防ぐため、西壁あるいは東壁にカマドを付設したと推測されている。

カマドを検出した住居跡は、3遺跡合わせると205軒を数える。東カマドの住居跡は122軒で全体の60%を占める。次いで西カマドが54軒で26%となる。北カマドは20軒で10%、南カマドは9軒で4%と最も少ない。秋山大町遺跡で5軒検出されている北カマドの住居跡のうち2軒が一辺9m以上の大型住居跡であることは特徴的である。

遺跡ごとに比較してみても、カマドの方位に関しては共通している。古代になると、住居跡自体の数が激減するが、東にカマドを設置する傾向に変化はない。

(3) 貯蔵穴

貯蔵穴は、3遺跡の住居跡のうち171軒から検出される。全容が不明の住居跡は94軒、貯蔵穴のない住居跡は81軒となっている。古墳時代だけに絞ってみると、貯蔵穴を持つ住居跡は157軒、持たない住居跡は31軒、不明は79軒となり、貯蔵穴を持つ住居跡が約60%を占めている。

形態は、円形や楕円形、方形を呈する。方形の掘りこみで一段テラスを持ち、内部がビット状に落ち込むタイプは、蓋の存在を想起させる例として取り上げられる。また、貯蔵穴周辺を囲むように土手が検出される住居跡や、カマドの対面に張り出しの貯蔵穴を持つ住居跡もあった。

貯蔵穴の設置される位置は、東カマドの場合は右に、西カマドの場合は左に配置している。これは、前者で81%、後者でも74%の確率で見られる。秋山大町遺跡B地点104号住居跡は、東壁と西壁から新旧のカマドが検出され、各々に対応する貯蔵穴も検出されている。東カマドには向かって右側に、西カマドには向かって左側に貯蔵穴は位置している。つまり、カマドに向かって右・左というより住

居内の南寄りに貯蔵穴を配そうとする意識が窺える。このような規則性は周辺遺跡においても認められる。南側に入出口があったと想定され、これと関係する場合が多いようだ。

なお、古代に入ると貯蔵穴をもつ住居跡は減り、貯蔵穴のない住居跡が一般的となる。

(4) 柱穴と壁周溝

住居跡からは、柱穴や周溝も検出されている。柱穴は4本主柱穴のものが116軒、柱穴に規則性が認められないものが141軒、無柱穴ものが24軒となっている。不規則に柱穴が配される住居跡が最も多い。

壁周溝が確認された住居跡は69軒、壁周溝のない住居跡は212軒となり、壁周溝のないものが主体的である。古代の住居跡からは主柱穴は検出されず、不規則に数本のピットを配する。壁周溝もほとんど見られない。

3. 遺物について—特にⅠ～Ⅴ期(古墳時代後期)に関して—

ここでは、集落変遷の基盤となった出土遺物の詳細を述べて行こうと思う。Ⅰでも触れたように、出土遺物の時期区分は住居跡の重複と出土した須恵器の相対年代から決定した。TK23型式並行段階の須恵器を出土した秋山大町遺跡52号住居跡(Ⅰ期)と49号・51号住居跡(Ⅲ期)の重複や、蓋模倣坏の主体の82号住居跡(Ⅳ期)と有段口縁坏を持つ83号住居跡(Ⅴ期)の重複等を判断材料として時期区分を行った。

各段階の特徴は以下の通りである。

Ⅰ期 土師器は、坏・高坏・埴・壺・小形甕・甕・大形甎で組成される。本遺跡では出土していないが、これに小形甎も加わると思われる。坏は須恵器の坏蓋を模倣した、蓋模倣坏が主体となっている。蓋模倣坏の特徴として、口端に明瞭な面取りを施し、身が深く、口縁部は直線的に立ち上がる。平底の坏は見られない。高坏は、いわゆる和泉式に多い高坏である。壺は、口縁部外面に段を持ち、球胴な器形を呈する。器高が低く、口縁部が大きい、広口壺とも呼べる器種もある。甕は、長胴を呈するが胴部に張りがあり、丸みを帯びる。大形甎も甕と同様に胴部に張りを持つ。TK23型式並行期(以下、期と略す)の須恵器と共存する。

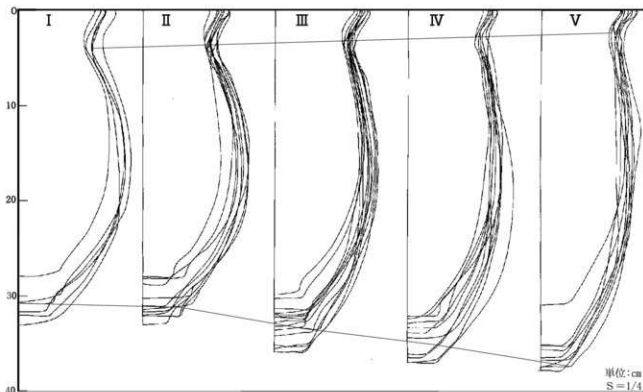
Ⅱ期 土師器の器種は、鉢が組成に加わる。蓋模倣坏の口端部に明瞭な面取りはなくなり、口縁部は外反傾向にある。身はⅠ期と比較して浅くなる。蓋模倣坏に加え、須恵器の坏身を模倣して身模倣坏が出現する。なお、秋山大町遺跡135号住居跡5は内斜口縁の坏である。壺もまた、前段階から変化に乏しい。秋山大町遺跡118号住居跡の広口壺は大形で外面に二次被熱の痕跡が見受けられる。高坏は蓋模倣坏に脚が付くタイプが出現する。同じように内斜口縁坏に脚が付く高坏もある。甕はやや長胴化しているが、球胴の範囲である。口径よりも胴部最大径が勝り、底部が突出する。大形甎は胴部の張りが弱まる。鉢の底部に焼成前穿孔を施す小形甎も組成される。韓式系土器の甎に由来する口縁部を持たない取手付の甎も出土する。鉢は九底を呈し、口縁部は外反する。TK47～MT15期の須恵器と共存し、藤岡産が多いことが特筆される。(注1)

Ⅲ期 土師器の器種組成に大きな変化はない。蓋模倣坏はⅡ期よりも口縁部が外反し、身が浅くなる傾向にある。身模倣坏もまた、身が浅くなっている。壺は、口縁部外面の稜が形骸化して目立たなくなる。甕は長胴化し、口径と胴部最大径がおおむね一致する。底部は突出するものとししないものが共

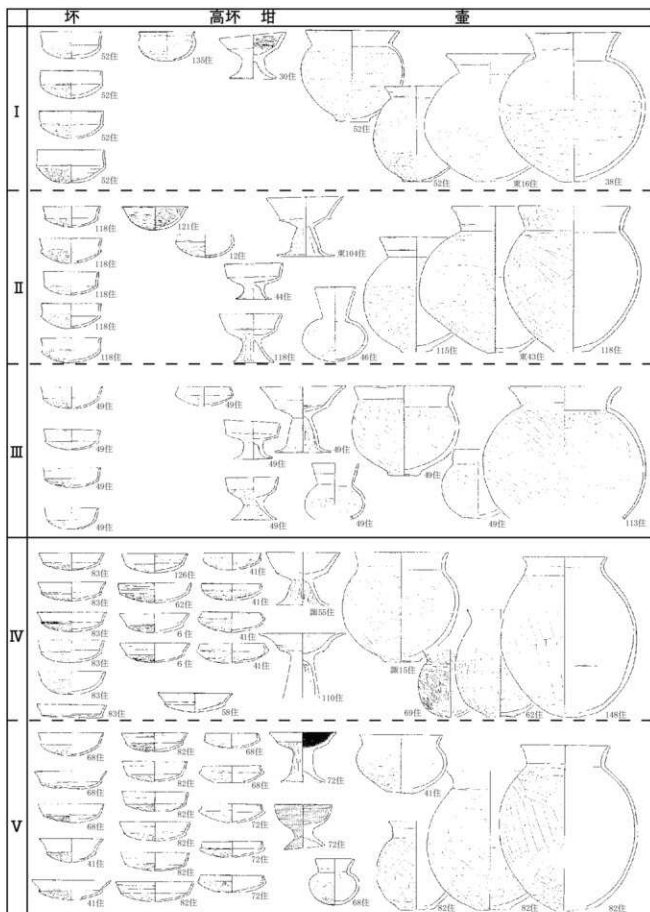
存している。大形甗は前段階と比較して胴部の張りがなくなり、直線的に立ち上がる。また、器高20cm未満の中形甗がある。これは、鉢形を呈する小形甗とは異なり、大形甗と同じ形を呈する。取手付甗には、大きく外反はしない口縁部が付される。鉢はⅡ期よりも大形化する。

Ⅳ期 土師器の器種組成自体はまた、前段階と大きな変化はないが、後述する有段口縁甗の形態からはⅢ期との間に若干の隔絶を認める。甗には蓋模倣甗と身模倣甗があるが、ここに有段口縁の蓋模倣甗(以下有段口縁甗と称する)が加わる。蓋模倣甗の口縁部は外反し、Ⅲ期よりもさらに浅く扁平化している。体部が平底のもの(83住居跡13・17)、口縁部が長く、外反が顕著なもの(68号住居跡10)もあり、これまで齊一的に見られた蓋模倣甗にバリエーションが認められるようになる。須恵器の高甗の影響を受けた長脚の高甗が出現する。壺は、Ⅲ期まで継続的に確認できた口縁部外面の稜がなくなり、球胴だった底部は肩の張らない甕に近い器形となる。甕は長胴化が進み、頸部直下に変換点があるタイプが目立つ。口径が胴部最大径よりも大きく、底部の突出は見られなくなる。甗はⅢ期と同様に大形から小形がある。取手付甗には明確な口縁部が成立する。

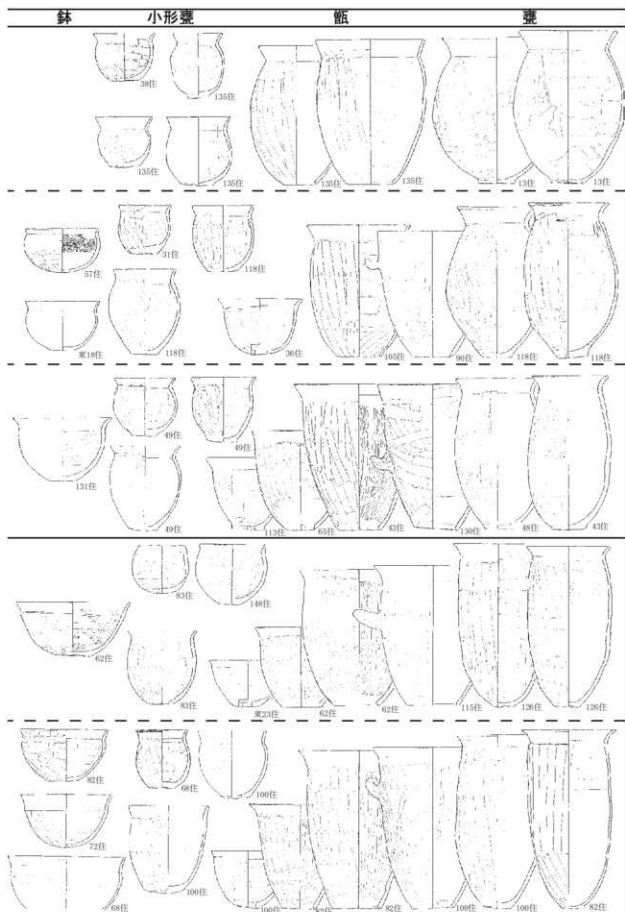
Ⅴ期 依然として土師器の器種組成には、大きな変化はない。甗は蓋模倣甗が減少し、有段口縁甗と身模倣甗が主体となる。蓋模倣甗の形態は変わらないが、身模倣甗は口縁部の内傾が強くなる。高甗は、Ⅳ期で出現した長脚高甗はあるが、Ⅱ期以降継続してあった和泉式の系統の高甗と蓋模倣甗に脚が付く高甗は見られない。なお、内外面に赤彩を施したり、内面黒色処理をした高甗が出土している。壺はⅣ期と比較して胴部が丸みを帯びる。鉢は口縁部から体部に変化はないが、底部が丸底になる。甕は、口縁部の外反が顕著で口径が胴部最大径よりも大きい。底部の突出するタイプはなくなり、底径は小さくなる。大形甗も甕の長胴化に呼応して、器高が長くなる。また、中形・小形も引き続き確認される。なお、鉢や小形甕、小形壺、甗に有段口縁を施す個体があり、有段口縁甗の影響だと思われる。



第398図 長胴壺の器形変化



第399図 古墳時代後期の土器編年(1)



第400図 古墳時代後期の土器編年(2)

ここまで見てきたように、古墳時代後期における土師器の変遷において、形態変化の流れを追えるものは甕の長胴化や坏の扁平化であることは既に指摘されている。そこで、Ⅰ～Ⅴ期の長胴甕の器形をトレースしてみたものが第398図である。これを見ると、甕の長胴化とともに肩の張りがなくなり、口縁部の高さも短くなっていく様子がよくわかる。以上のような形態変化が、7世紀以降の武蔵型甕へと転換していくのであろう。

第2節 溜井について

秋山大町遺跡・秋山諏訪平遺跡からは、合計6基の溜井が検出されている。これらは、Ⅱ章歴史的環境でも述べられたように、生活用水の確保とともに、灌漑用の機能を有していたと考えられる。事実、秋山大町遺跡C地点では、谷地を利用した水田址が発見されており、本遺跡周辺には他にも水田が存在していると思われる。ここでは、検出された溜井の構造と周辺の環境をまとめてみたい。

1. 検出された溜井の構造

では、溜井とは一体何なのか。一般的には、灌漑する目的を持って雨水、溪流等を貯蓄する為に特定地に構築した狭義の池とされ、水田に利用するために、冷水を一時的に貯水し、暖めるための温め構造を有する遺構と定義付けられる(東日本埋蔵文化財研究会1998)。

第401図は本遺跡群で検出された溜井の模式図である。以下、順を追って事実記載を補っていきたい。まず、秋山大町遺跡E地点の1号溜井である。本溜井は上面と下面の2時期が確認され、少々違った構造を呈している。上面は、自然流路とされる24号溝と、古墳時代後期(V期)の住居跡を切る26号溝からの流水および3基の井戸からの湧水を、最も深い調査区壁附近に流し、温め構造としている。覆土の上層にはAs-Bが見られるため、火山灰降下以前に機能していたと思われる。一方下面は、24号溝から温め構造であろう木枠を有する土坑に水を引き込み、溝を介して調査区外へと流れさせる構造となる。古墳時代後期6世紀前半(Ⅱ・Ⅲ期)の遺物を中心に大量の土師器が出土している。だが、溜井周辺に同時期の住居跡はなく、水辺での祭祀関連の遺物だと思われる。温め構造の南には、通路であろうスロープがある。

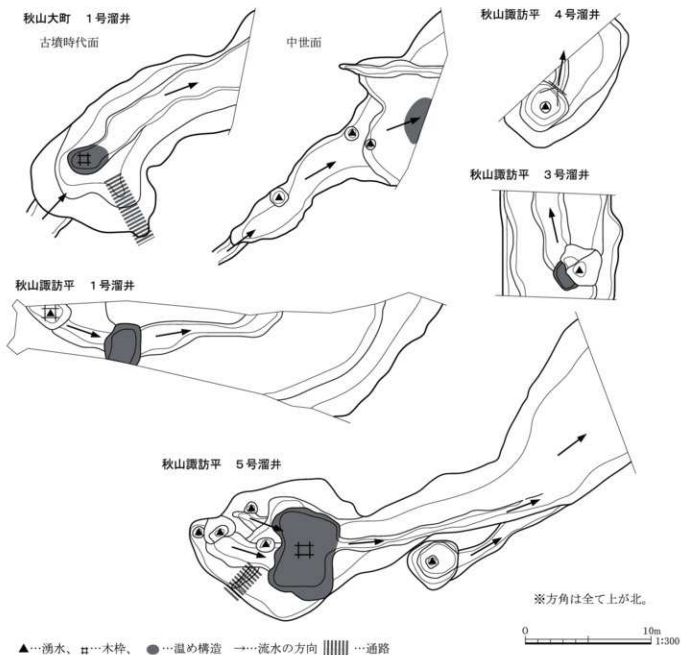
秋山諏訪平遺跡D地点には3基の溜井がある。1号溜井は、土坑状の掘り込みと、これに接する溝に水を流す構造となる。土坑状の掘り込みのうち1カ所は木枠を持つ。高低差から、木枠のない土坑が温め構造の役割なのだろう。出土遺物は、9世紀から10世紀代(Ⅷ期～Ⅹ期)に比定される。2号溜井は、湧水点はなく幅の広い溝状を呈する。調査所見によると、覆土・底面に砂礫や鉄分等、流水の痕跡が確認され、水路とされている(松澤1998)。つまり、2号溜井とされた遺構は溜井ではない可能性が高い。調査区外で確認できる旧河道の痕跡もこの遺構と一致し、その可能性を高めている。従って2号溜井は溜井ではない遺構として扱う方が適切だと思われる。なお、遺構底面より古墳時代後期の土器が出土している。3号溜井は、2号溜井のように幅の広い溝を呈するが、内部には湧水する土坑に接しての温め構造の土坑が検出されている。出土遺物は7世紀から8世紀(Ⅵ期～Ⅶ期)に属する。

秋山諏訪平遺跡E地点には4号溜井がある。掘り鉢状の掘り込みが湧水点となり、これに接する溝に流水を促す構造である。溝と土坑の接点には、木材と礫が確認され、取水設備だと思われる。土坑

などの温め構造は検出されていないが、調査区外にある可能性が高い。出土遺物は9世紀代に属し、国分寺瓦も出土している。

秋山諏訪平遺跡F地点からは、5号溜井が検出されている。3基の井戸を湧水点とし、木枠を有する温め構造、溝を介して水の流出を促す構造となる。また、温め構造の南には、礫敷きの通路跡が検出され、生活用水としての利用を窺わせる。出土遺物は8世紀代のものが主である。なお隣接する5号井戸も、温め構造はないものの、湧水を溝へと流す構造を呈している。井戸として報告したが、ここでは溜井として扱うこととする。出土遺物に漆碗が含まれ、中世に帰属する。

これらの溜井は、秋山大町1号溜井が古墳時代後期となる以外は、すべて古代以降に帰属している。また、構造的に類似点は少ないが、湧水点と温め構造を有し、導水する溝と接続する点は共通する。

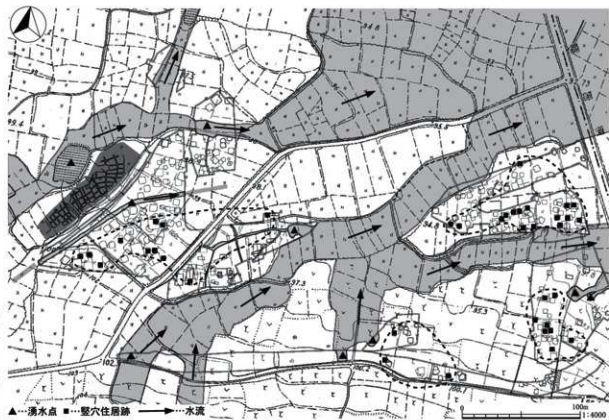


第401図 各溜井の模式図

溜井は、その場所に応じて臨機応変に構造を変えていたことがうかがわれる。

2. 旧河道の復原

では、溜井の水はどこへ流れたのだろうか。ここまで述べてきたように本遺跡群周辺には、埋没した旧河道が存在している。旧河道跡を推定復原し、溜井と湧水点、古代の溝と集落を示したものが第402図である。秋山大町遺跡C地点で検出された水田址のように河川跡の間間を利用して水田を営んでいたと思われる。となると、第402図で推定した旧河道跡のアミカケのない場所には、古墳時代から古代の水田址が眠っている可能性が高い。いずれにせよ、本遺跡群周辺では、溜井によって灌漑される谷水田が展開していたのであろう。これは、女堀川流域等に大規模に広がる同時期の条里制水田と対極をなす現象として注目されよう。



第402図 旧河道跡と溜井・古代の集落

第3節 中近世の掘立柱建物群

秋山大町遺跡E地点からは、多数の掘立柱建物跡が検出されている。これらの掘立柱建物跡は出土遺物も少なく、時期・先後関係の決定は困難である。ここでは、主軸方位、主屋と付属屋、重複関係から、同時期存在の可能性を考えていきたい。

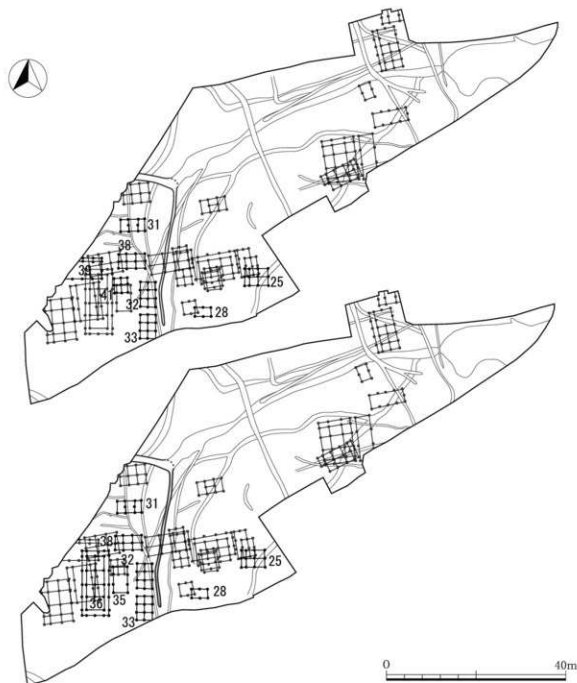
1. 主屋と付属屋

中近世の掘立柱建物群では、規模の大きな主屋に対して数軒の付属屋が伴う形が一般的である。今回は、底を持ち、側柱・総柱以外で平面規模が45㎡以上の掘立柱建物跡を主屋として扱うこととする。

付属屋は側柱と総柱の掘立柱建物跡が想定される。

主屋は13・17・18・21・20・34・36・37号掘立柱建物跡が該当する。どれも庇を持つという共通点以外、構造や柱穴の配置は一致しない。26号掘立柱建物跡・21号掘立柱建物跡は庇は付くものの面積が狭いため、主屋ではなく付属屋だろう。

付属屋の側柱掘立柱建物跡は3間×1間が15・16・23号掘立柱建物跡、長方形の2間×1間は14・24・28号掘立柱建物跡、方形の2間×1間は22・29号掘立柱建物跡となっている。総柱の掘立柱建物跡は2間×2間が41号掘立柱建物跡の1軒、2間×3間が32・33・35・38・40号掘立柱建物跡となり、これらの総柱掘立柱建物跡は規模がみな近似している。



第403図 秋山大可遺跡E地点の掘立柱建物群(1)

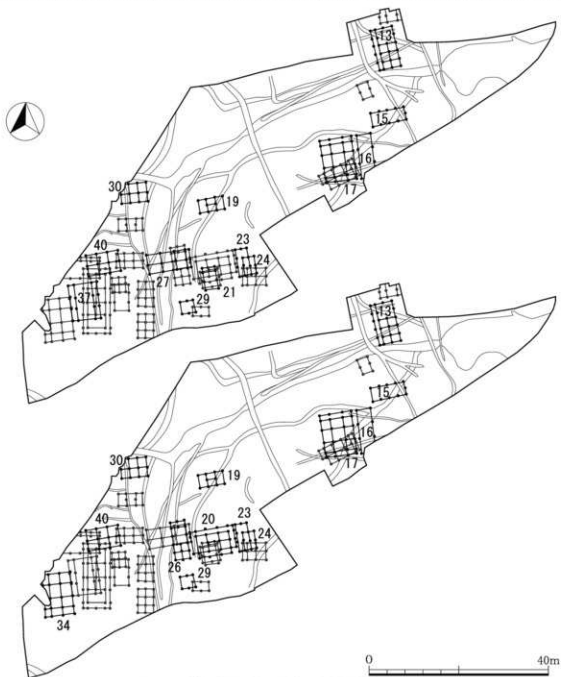
2. 主軸方位

竪穴住居跡でもそうだが、主軸を共にする建物跡は同時期に存在していた可能性が高い。本遺跡では、主軸方位は大きく2群に分けられる。第403図に示した建物群は南北軸のもの、第402図が主軸が南北方向よりやや西に逸れる建物群である。

(1) 南北軸から西に逸れる一群(第404図)

まず、17号掘立柱建物跡周辺に着目してみる。17号掘立柱建物跡は、底を持つ主屋である。西に側柱の15・16号掘立柱建物跡が位置し、付属屋としてL字状に配置されている。この3棟は主軸を共にし、重複もしていないため、同時期と考えたい。

20号・23号・26号・27号掘立柱建物跡も南北軸を取る。26号・27号掘立柱建物跡、20号と21号掘立



第404図 秋山大町遺跡E地点の掘立柱建物群(2)

柱建物跡は重複しており、同時期の可能性は低い。26号掘立柱建物跡は、庇を持つ建物であるが、規模が小さいので20号掘立柱建物跡の付属屋だと思われる。23号掘立柱建物跡はどの建物とも重複せず、同時に存在しうる建物である。これら3棟の距離は近く、20～50cmを測るが、前述した16号・17号掘立柱建物跡についても主屋と付属屋間の距離は50cmとなっており、近接していても問題ないだろう。やや距離は離れるが、19号・29号掘立柱建物跡も共伴する建物群として捉えられよう。

27号掘立柱建物跡は、20号・26号掘立柱建物跡と重複しており、共伴しない。21号・22号掘立柱建物跡が付属屋として配されるのだろう。やや離れるが、19号・23号・29号掘立柱建物跡も20号掘立柱建物跡とほぼ軸を共にするため、27号掘立柱建物跡に付属する可能性がある。

また、34号・37号掘立柱建物跡は庇付で規模も大きく主屋と考えられるが、周辺に同軸の付属屋が見られない。20号・27号掘立柱建物跡と軸は共通しており、同時期の可能性も考えられる。

(2) 南北軸の一群(第403図)

36号掘立柱建物跡は、本遺跡内で最大規模の建物跡である。37号・39号・40号掘立柱建物跡と重複する。32号・33号・35号・38号掘立柱建物跡が、軸・距離も考慮して付属屋と見て良いだろう。24号溝の一部と33号溝は、これらの建物跡を囲うように配されているため、区画溝の可能性が濃厚である。溝よりも西だが、25号・28号掘立柱建物跡も軸を共にしており、同一の建物群に属するかもしれない。

36号掘立柱建物跡と重複する主屋である39号掘立柱建物跡についても32号・33号・35号・38号掘立柱建物跡が付属屋となる可能性がある。

3. 時期と性格

以上のように、主軸の方位と主屋・付属屋を割り当てると、複数時期の可能性が考えられた。中近世における掘立柱建物跡の事例から、身舎が側柱の掘立柱建物跡が古相となり、身舎が総柱の掘立柱建物跡がそれに後続し、総柱の柱穴が欠落し土間状となるものに至る。これをふまえると、37号・39号掘立柱建物跡→17号・27号・37号掘立柱建物跡→13号・36号掘立柱建物跡となる。当遺跡からは、出土遺物が少ないため、時期を明言することは困難だが、掘立柱建物跡の構造から17世紀以降の建物群だと思われる。

検出された掘立柱建物跡群は、南方向に開く配置をしている。これは南がオモテとして開いていることを示しているのではないだろうか。しかし、遺跡の周辺には鎌倉街道上道が通っており、本建物群も何らかの関係性があるものと思われる。

第4節 まとめ

冒頭に触れたように本章では、古墳時代後期から古代の集落、出土遺物、溜井、掘立柱建物群についてまとめを行ってきた。やはり、注目されるべき事項は古墳時代後期の集落であろう。

特に秋山大町遺跡では、須恵器鈴付器台や子持ち勾玉、一辺10m以上の大型住居が検出されるなど、特殊な性格も見える。第2章歴史的環境でも述べられているが、本遺跡群の東西には、広木大町古墳群、秋山古墳群が立地している。これらの古墳群の時期は6～7世紀と、本遺跡群の古墳時代後期の集落と同時期である。今回は、集落と古墳群の直接的な関係を示すような成果は得られなかった。し

かし、東の広木大町古墳群が6世紀初頭の大規模群集墳であり、時期的には本遺跡群のⅠ～Ⅲ期の集落のピークと一致している。これは、対応集落である可能性が高く、当該期の出土品に優品が多い点も注目されよう。なお、秋山古墳群は、TK10段階期の前方後円墳である秋山諏訪山古墳、6世紀末に比定され、二重周溝を持つ円墳の秋山庚申塚古墳を含むが、報告例が少なく不明点が多い。しかし、断片的な情報からは、本遺跡群のⅣ～Ⅴ期に対応するようである。これについては今後の課題となろう。

注1) 本報告書に掲載した須恵器に関しては、藤野一之氏の所見をいただいている。

【参考文献】

- 柿沼幹夫他 1979 『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 下田・諏訪』埼玉県発掘調査報告書第21集、埼玉県教育委員会
- 梶原勝 2001 『多摩地域における近世の掘立柱建物』『埋もれた中近世の住まい』同成社
- 工業普通 1991 『水田の考古学』考古学講座12、東京大学出版
- 恋河内昭彦 2007 『経川坊田遺跡』本庄市遺跡調査会報告書第15集、本庄市遺跡調査会
- 恋河内昭彦 2008 『七色塚遺跡（B1地点）・北畠新田前遺跡（A1地点）』本庄市埋蔵文化財報告書第7集、本庄市教育委員会
- 板井元子 2002 『埼玉県本庄市天神林Ⅱ遺跡出土の三足鉢型土器』『埼玉考古』37、埼玉県考古学会
- 塩野博 2004 『小山川（身願川）右岸の古墳』『埼玉の古墳 児玉』、さきたま出版
- 鈴木徳雄 1984 『いわゆる北武蔵系土師器環の動態—古代武蔵国における土師器生産と交易—』『土曜考古』9、土曜考古学研究会
- 鈴木徳雄 1983 『古代北武蔵における土師器製作技法の両期』『土曜考古』7、土曜考古学研究会
- 鈴木徳雄 1993 『鬼高式における大形鉢の意義—調理形態の多様化に関する一視点—』『土曜考古』17、土曜考古学研究会
- 鈴木徳雄 2003 『児玉条里縁辺部における土地利用の変化—古田林地区の海抜と開発の推移—』『児玉条里遺跡—古田林堂ノ西地区—』児玉町遺跡調査会報告書第15集、埼玉県児玉町遺跡調査会
- 鈴木徳雄 2007 『秋山諏訪平遺跡—C地点の調査—』本庄市遺跡調査会報告書第17集、本庄市遺跡調査会
- 滝瀬芳之他 1997 『今井川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第191集、埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 田中広明 1995 『関東西部における律令制成立までの土器様相と歴史的動向—群馬・埼玉を中心として—』『東国土器研究』4号、東国土器研究会
- 利根川章彦 1982 『古墳時代集落構成の一考察—児玉地方の5～8世紀の集落群の動態と土師器の変遷を中心として—』『土曜考古』5、土曜考古学研究会
- 羽柴直人 2000 『岩手県における中近世集落の掘立柱建物』『東北地方南部における中近世集落の諸問題—掘立柱建物を中心として—』福島県考古学会中近世部会平成12年度研究セミナー、福島県考古学会中近世部会
- 中村會司 1979 『宇佐久保遺跡』埼玉県遺跡調査会報告書第38集、埼玉県遺跡調査会
- 中村會司 1984 『器種組成の変遷と時期区分—古代北武蔵の例から—』『土曜考古』9、土曜考古学研究会
- 中村會司 1982 『大形塚—埼玉県を中心として—』『土曜考古』5、土曜考古学研究会
- 松澤浩一 1988 『諏訪平遺跡D地点』『治水・利水遺跡を考える』第7回 東日本埋蔵文化財研究会
- 宮崎朝雄・立石盛詞他 1983 『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ 後張』埼玉県発掘調査報告書第26集、埼玉県教育委員会

写真図版



全景 (1)



全景 (5)



全景 (2)



全景 (6)



全景 (3)



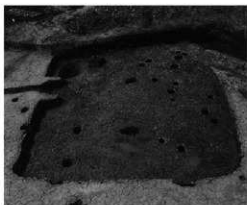
全景 (7)



全景 (4)



全景 (8)



1号住居跡 全景



3号住居跡 全景



1号住居跡 カマド



3号住居跡 カマド



2号住居跡 全景



4a号住居跡 全景



2号住居跡 カマド



4b号住居跡 全景



4b号住居跡 カマド



7号住居跡 カマド



5号住居跡 全景



8号住居跡 全景



5号住居跡 カマド



8号住居跡 カマド



7号住居跡 全景



9・10号住居跡 全景



9号住居跡 カマド



12号住居跡 カマド



10号住居跡 カマド



13号住居跡 カマド



11号住居跡 全景



14号住居跡 全景



12号住居跡 全景



14号住居跡 カマド



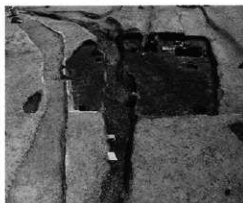
14号住居跡 貯蔵穴



16号住居跡 カマド



15号住居跡 全景



17号住居跡 全景



15号住居跡 カマド



17号住居跡 カマド



16号住居跡 全景



17号住居跡 貯蔵穴



18号住居跡 全景



20号住居跡 全景



18号住居跡 カマド



20号住居跡 カマド



19号住居跡 全景



21号住居跡 全景



19号住居跡 カマド



21号住居跡 カマド



22号住居跡 全景



24号住居跡 全景



22号住居跡 カマド・貯蔵穴



24号住居跡 カマド



23号住居跡 全景



25号住居跡 全景



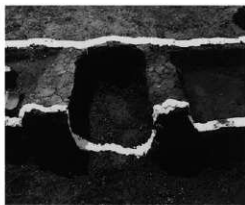
23号住居跡 カマド



25号住居跡 カマド



26号住居跡 全景



28号住居跡 カマド



27号住居跡 全景



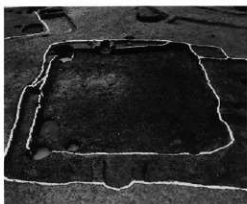
30号住居跡 全景



27号住居跡 カマド



30号住居跡 カマド



28・29号住居跡 全景



31号住居跡 全景



31号住居跡 貯蔵穴



35号住居跡 全景



32号住居跡 全景



38号住居跡 全景



33号住居跡 全景



38号住居跡 カマド



34号住居跡 全景



38号住居跡 貯蔵穴



39号住居跡 全景



42号住居跡 全景



40号住居跡 全景



43号住居跡 全景



40号住居跡 カマド



43号住居跡 カマド



41号住居跡 全景



44号住居跡 全景



45号住居跡 全景



47号住居跡 カマド



45号住居跡 カマド



49号住居跡 全景



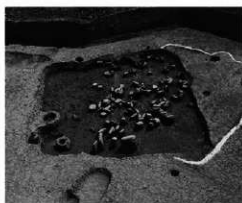
46号住居跡 全景



50・59・60号住居跡 全景



47号住居跡 全景



51号住居跡 全景



51号住居跡 カマド



54号住居跡 全景



52号住居跡 全景



55号住居跡 全景



52号住居跡 カマド



56号住居跡 全景



53号住居跡 全景



57号住居跡 全景



57号住居跡 カマド



63号住居跡 カマド



57号住居跡 貯蔵穴



64号住居跡 全景



58号住居跡 全景



64号住居跡 カマド



63・46・85号住居跡 全景



65号住居跡 全景



65号住居跡 カマド



70号住居跡 全景



66号住居跡 全景



71・72号住居跡 全景



69号住居跡 全景



71号住居跡 カマド



69号住居跡 カマド



72号住居跡 全景



73号住居跡 全景



76号住居跡 カマド



75号住居跡 全景



76号住居跡 貯蔵穴



75号住居跡 カマド



77号住居跡 全景



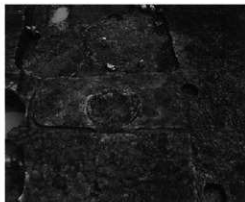
76号住居跡 全景



78号住居跡 全景



78号住居跡 カマド



83号住居跡 全景



78・77号住居跡 全景



84号住居跡 全景



81号住居跡 全景



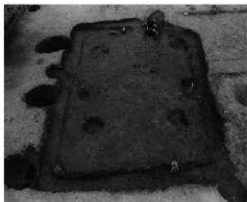
86号住居跡 全景



82号住居跡 全景



86号住居跡 カマド



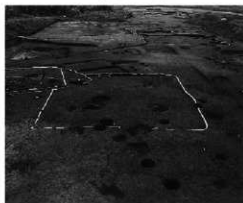
87号住居跡 全景



91号住居跡 全景



87号住居跡 カマド



92号住居跡 全景



88号住居跡 全景



92号住居跡 カマド



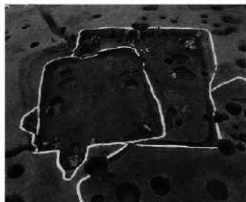
90号住居跡 全景



94・128・129号住居跡 全景



99号住居跡 全景



105号住居跡 全景



101号住居跡 全景



105号住居跡 カマド



103号住居跡 全景



104号住居跡 全景



103号住居跡 カマド



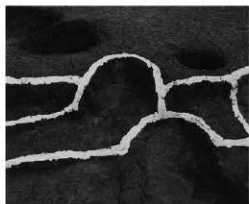
104号住居跡 カマド



106・116・117・123号住居跡 全景



111号住居跡 全景



116号住居跡 カマド



112号住居跡 全景



117号住居跡 カマド



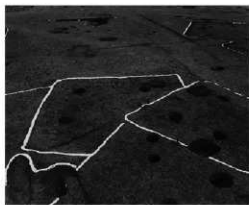
113号住居跡 全景



107・108・109号住居跡 全景



114号住居跡 全景



118号住居跡 全景



122号住居跡 全景



118号住居跡 全景



124号住居跡 全景



119号住居跡 全景



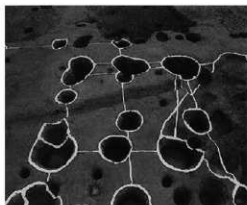
125・126号住居跡 全景



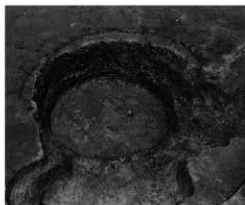
120号住居跡 全景



1・2・3号獨立柱建物跡 全景



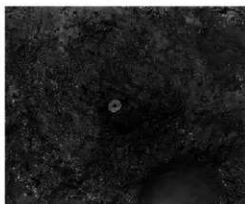
1号掘立柱建物跡 全景



10号土坑 全景



2号掘立柱建物跡 全景



11号土坑 遺物出土状況



4・5号掘立柱建物跡 全景



11号土坑 全景



10・11号土坑 全景



25号土坑 遺物出土状況



46号土坑 遺物出土状況



106号土坑 遺物出土状況



71号土坑 遺物出土状況



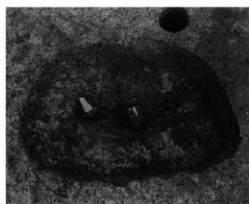
1号溝 全景



102号土坑 遺物出土状況



11号溝 全景



104号土坑 遺物出土状況



16・17号溝 全景



16・17号溝 全景



1号性格不明遺構 遺物出土状況



16・17号溝 遺物出土状況(1)



1号性格不明遺構 遺物出土状況



16・17号溝 遺物出土状況(2)



作業風景



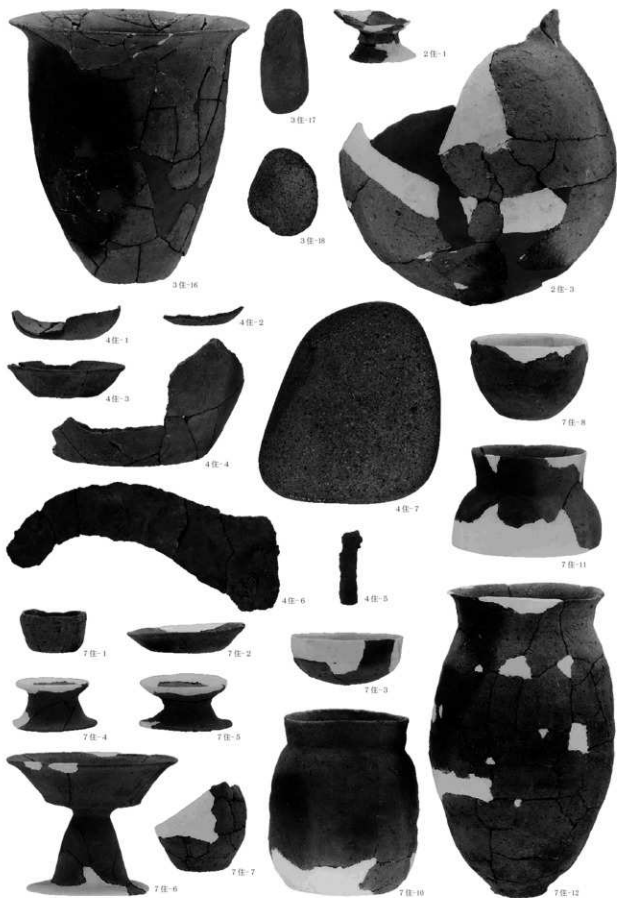
1号性格不明遺構 遺物出土状況(1)



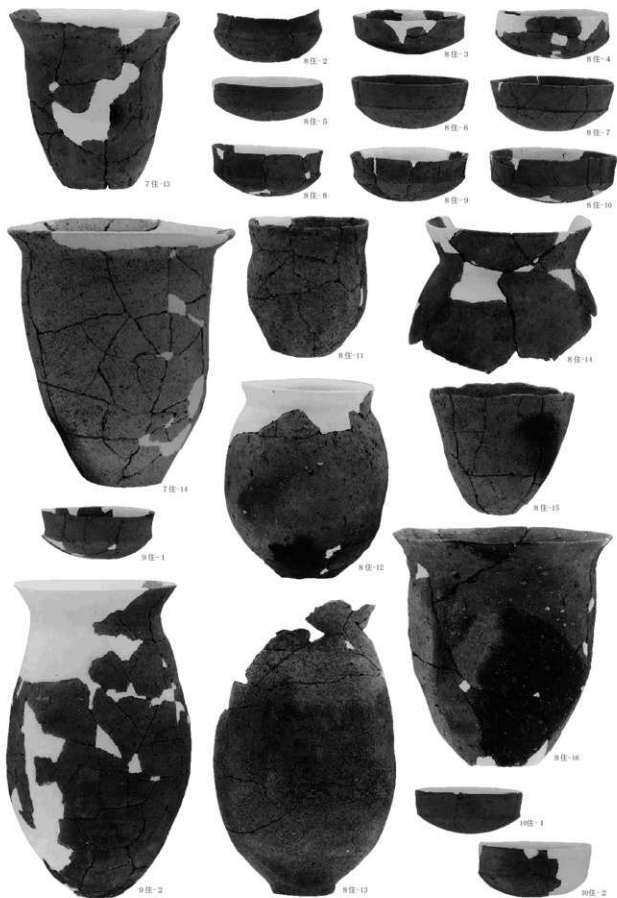
作業風景



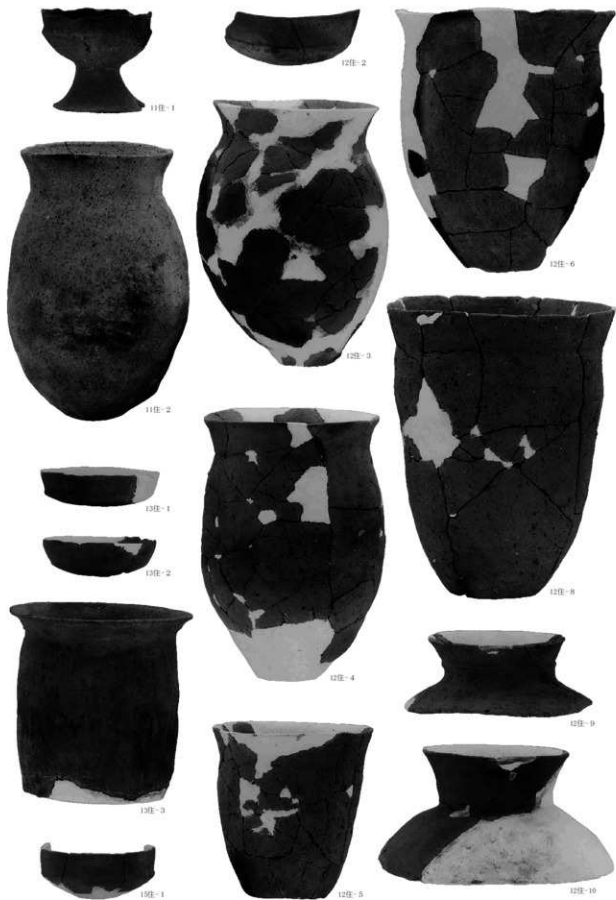
住居跡出土遺物 (1)



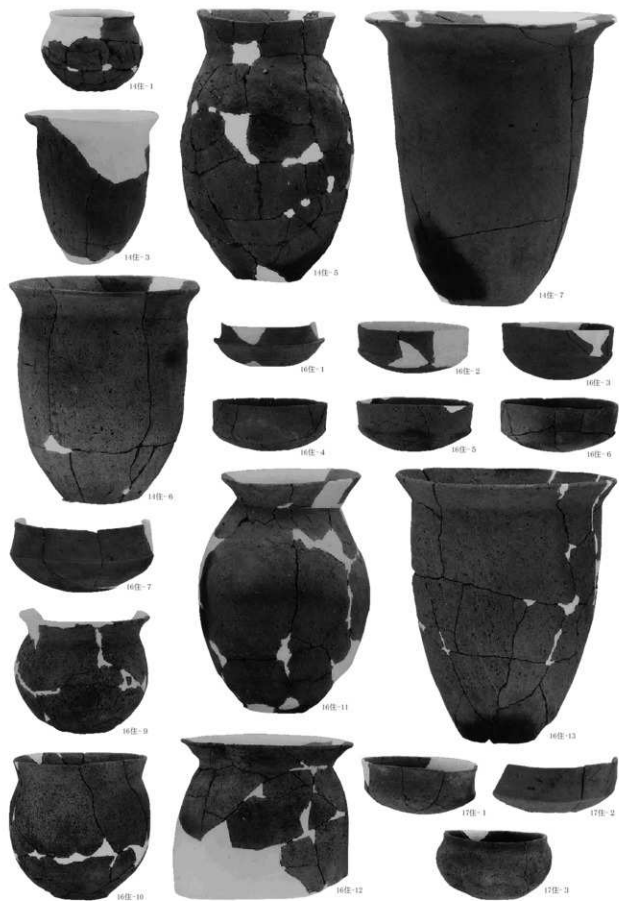
住居跡出土遺物（2）



住居跡出土遺物 (3)



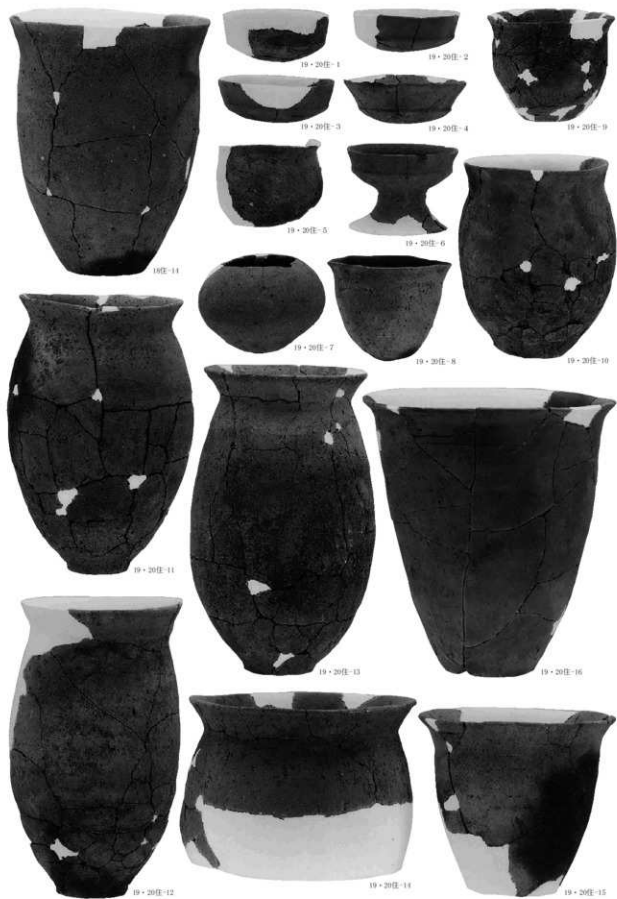
住居跡出土遺物 (4)



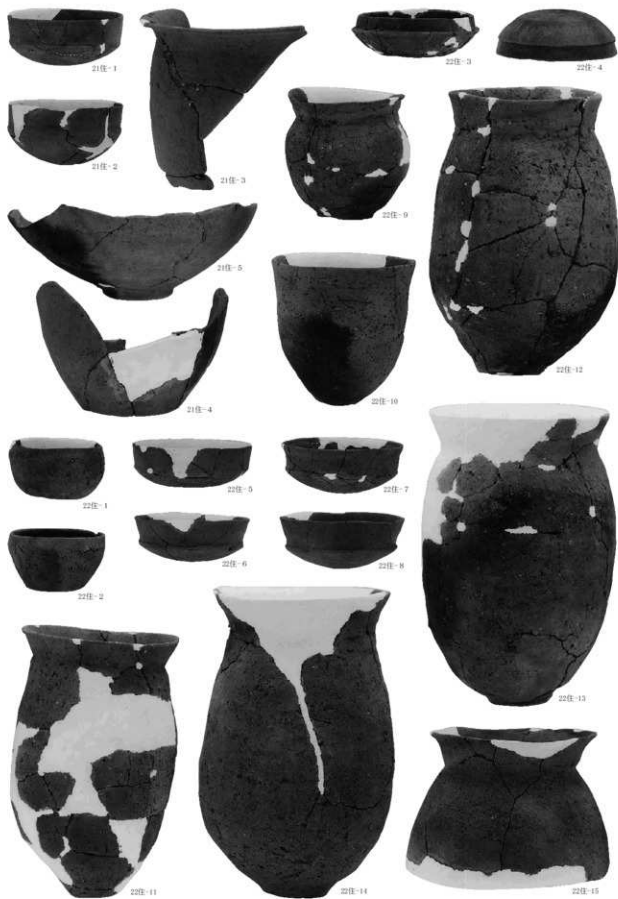
住居跡出土遺物 (5)



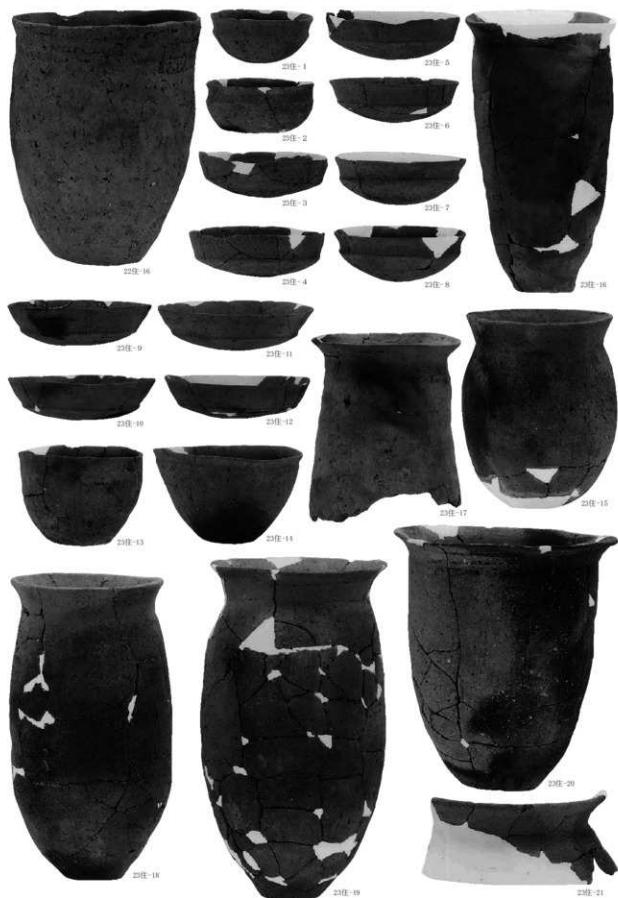
住居跡出土遺物（6）



住居跡出土遺物（7）



住居跡出土遺物 (8)



住居跡出土遺物 (9)



住居跡出土遺物 (10)



住居跡出土遺物 (11)



住居跡出土遺物 (12)



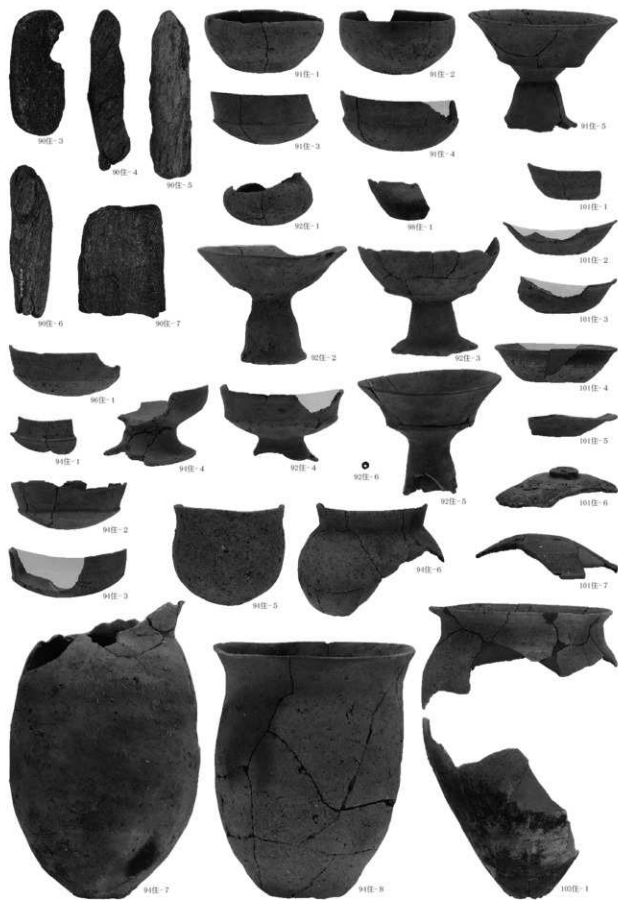
住居跡出土遺物 (13)



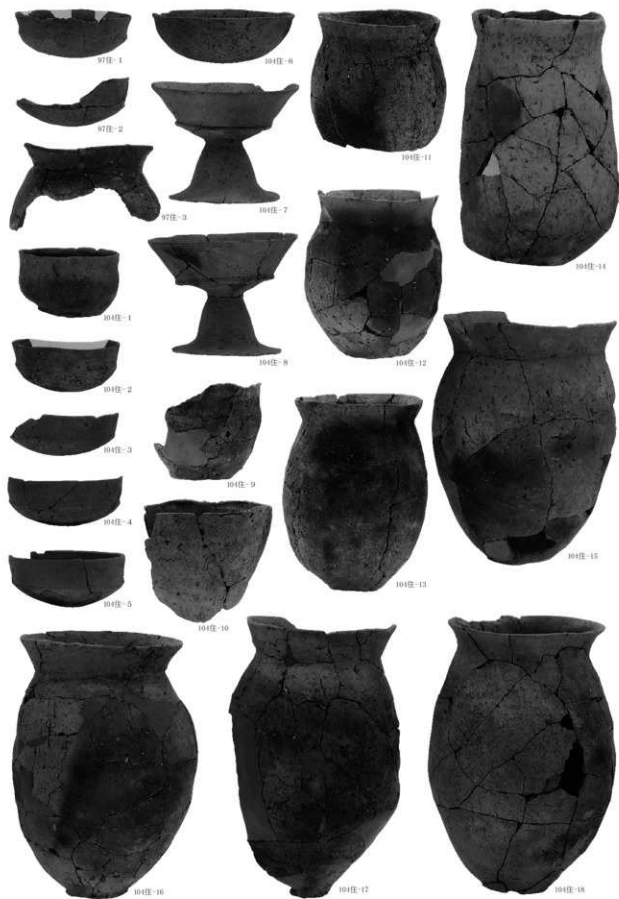
住居跡出土遺物 (14)



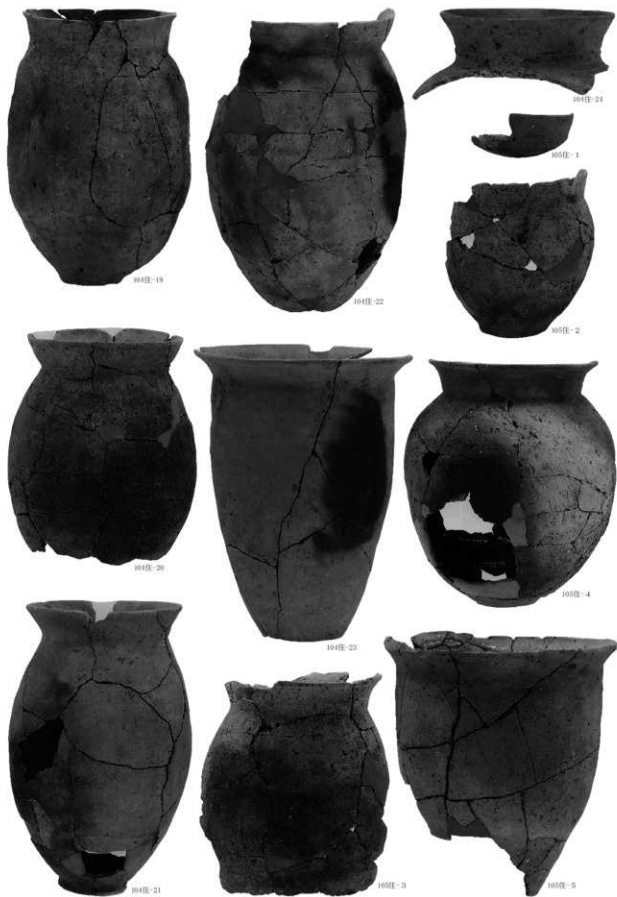
住居跡出土遺物 (15)



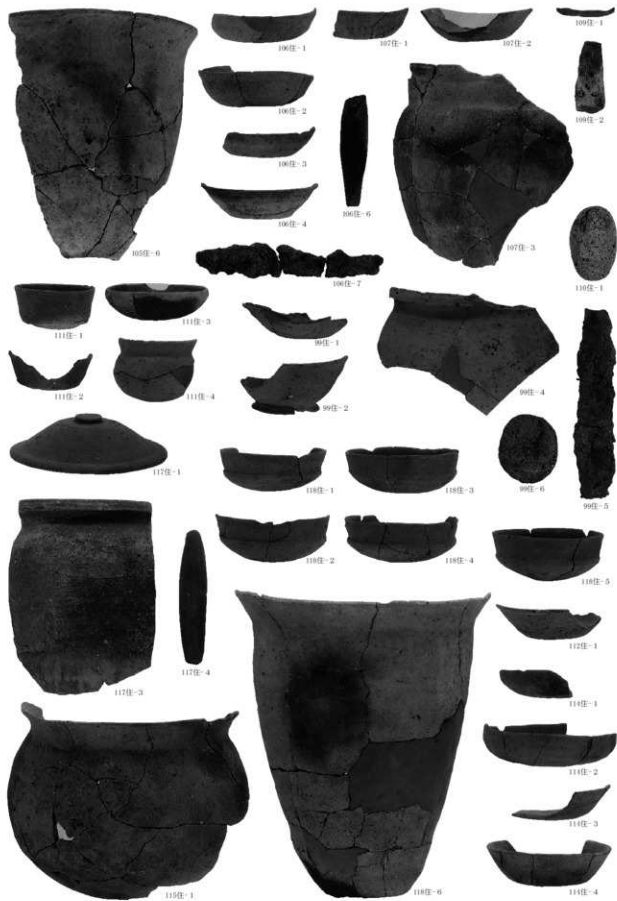
住居跡出土遺物 (17)



住居跡出土遺物 (18)



住居跡出土遺物 (19)



住居跡出土遺物 (20)

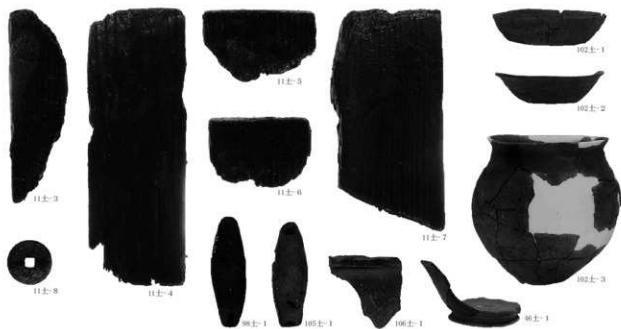


住居跡出土遺物 (21)



掘立柱建物跡出土遺物

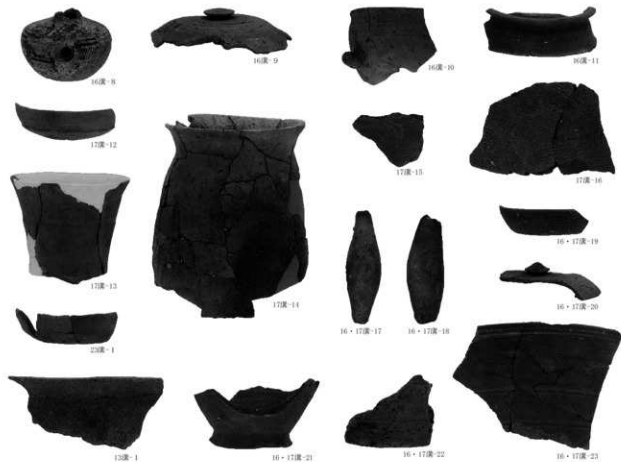
土坑出土遺物 (1)



土坑出土遺物 (2)



溝出土遺物 (1)



溝出土遺物 (2)



1号性格不明遺構出土遺物



D地点 全景 (1)



E地点 全景 (5)



D地点 全景 (2)



E地点 全景 (6)



D地点 全景 (3)



E地点 全景 (7)



E地点 全景 (4)



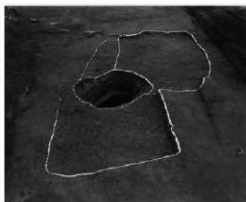
E地点 全景 (8)



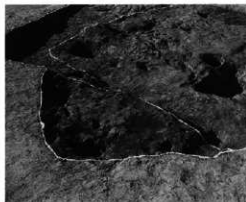
1号住居跡 全景



26号住居跡 全景



2・3・4号住居跡 全景



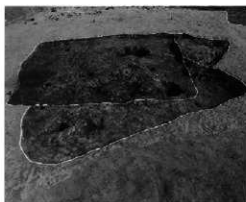
31号住居跡 全景



2・3・4号住居跡 遺物出土状況



6号住居跡 全景



5・26・31号住居跡 全景



7・8・9号住居跡 全景



7号住居跡 全景



10号住居跡 全景



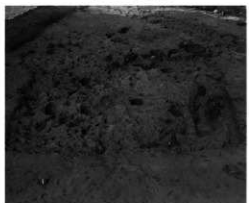
7号住居跡 カマド



10号住居跡 貯蔵穴



8号住居跡 全景



11・12号住居跡 全景



8号住居跡 貯蔵穴



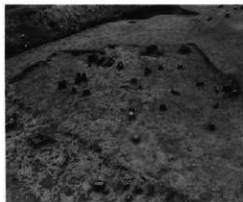
11号住居跡 貯蔵穴



12号住居跡 貯蔵穴



15号住居跡 カマド



13・14号住居跡 全景



16・17・18・24号住居跡 全景



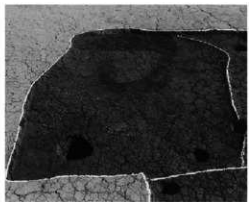
13号住居跡 カマド



16号住居跡 全景



15号住居跡 全景



17号住居跡 全景



18号住居跡 全景



19・20・21号住居跡 全景



24号住居跡 全景



19・20・21号住居跡 遺物出土状況



24号住居跡 カマド



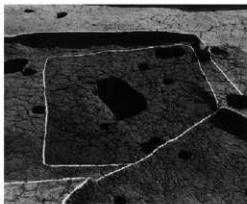
19号住居跡 全景



24号住居跡 遺物出土状況



19号住居跡 カマド



20号住居跡 全景



22号住居跡 全景



21号住居跡 全景



32号住居跡 全景



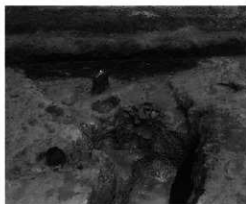
21号住居跡 貯蔵穴



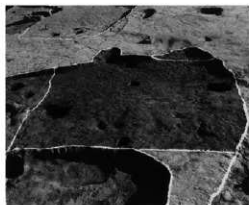
33号住居跡 全景



22・32・33号住居跡 全景



23号住居跡 全景



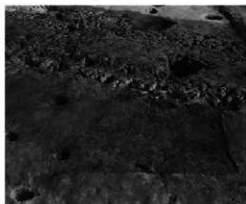
25号住居跡 全景



28号住居跡 カマド



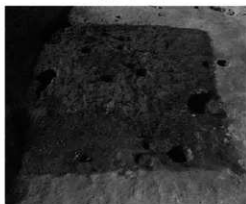
25号住居跡 カマド



29号住居跡 全景



27号住居跡 全景



30号住居跡 全景



28号住居跡 全景



34号住居跡 全景



34号住居跡 カマド



36号住居跡 カマド



35号住居跡 全景



37号住居跡 全景



35号住居跡 カマド



37号住居跡 カマド



36号住居跡 全景



38号住居跡 全景



38号住居跡 カマド



40号住居跡 カマド



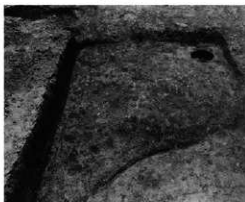
39号住居跡 全景



41号住居跡 全景



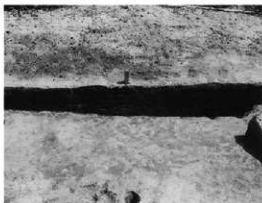
39号住居跡 カマド



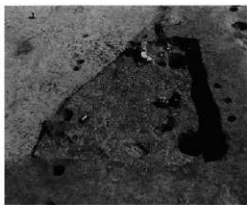
42号住居跡 全景



40号住居跡 全景



43号住居跡 全景



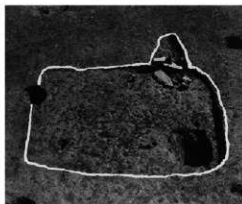
44号住居跡 全景



45号住居跡 貯蔵穴



44号住居跡 カマド



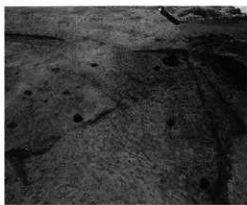
46号住居跡 全景



44号住居跡 貯蔵穴



46号住居跡 カマド



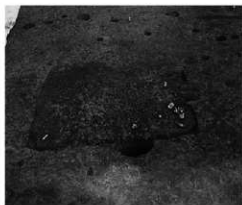
45号住居跡 全景



46号住居跡 貯蔵穴



47号住居跡 全景



49号住居跡 全景



47号住居跡 カマド



49号住居跡 カマド



48号住居跡 全景



50号住居跡 全景



48号住居跡 カマド



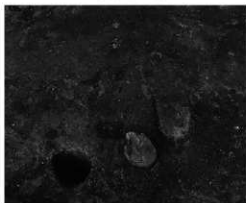
50号住居跡 カマド



51号住居跡 全景



53号住居跡 全景



51号住居跡 カマド



54号住居跡 全景



52号住居跡 全景



54号住居跡 カマド



52号住居跡 カマド



55号住居跡 全景



55号住居跡 カマド



56号住居跡 カマド



55号住居跡 貯蔵穴



57号住居跡 全景



55号住居跡 遺物出土状況



57号住居跡 カマド



56号住居跡 全景



58号住居跡 全景



58号住居跡 カマド



61号住居跡 全景



59号住居跡 全景



62号住居跡 全景



59号住居跡 遺物出土状況



62号住居跡 カマド



60号住居跡 全景



62号住居跡 貯蔵穴



62号住居跡 遺物出土状況



64号住居跡 貯蔵穴



63号住居跡 全景



65・66号住居跡 全景



63号住居跡 カマド



65号住居跡 カマド



64号住居跡 全景



66号住居跡 カマド



67号住居跡 全景



69号住居跡 全景



67号住居跡 カマド



69号住居跡 カマド



68号住居跡 全景



70・71号住居跡 全景



68号住居跡 カマド



70号住居跡 カマド



72号住居跡 全景



74号住居跡 カマド



72号住居跡 カマド



75号住居跡 全景



73・74号住居跡 全景



75号住居跡 カマド



73号住居跡 カマド



76号住居跡 全景



76号住居跡 カマド



79号住居跡 全景



77号住居跡 全景



80号住居跡 全景



77号住居跡 カマド



81号住居跡 全景



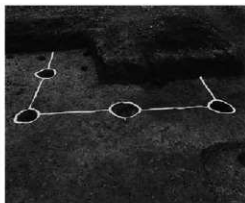
78号住居跡 全景



81号住居跡 カマド



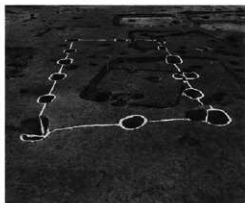
82号住居跡 全景



3号獨立柱建物跡 全景



83号住居跡 全景



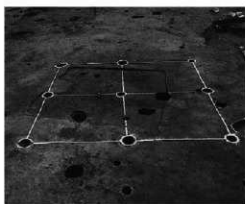
4号獨立柱建物跡 全景



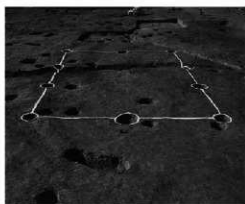
1号獨立柱建物跡 全景



5号獨立柱建物跡 全景



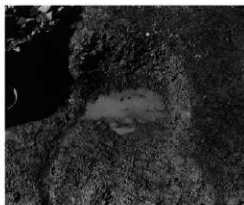
2号獨立柱建物跡 全景



6号獨立柱建物跡 全景



7号掘立柱建物跡 全景



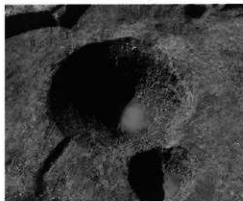
4号井戸 全景



1号井戸 全景



5号井戸 全景



2号井戸 全景



1号溜井 全景



3号井戸 全景



1号溜井 遺物出土状況



2号溜井 全景 (1)



3号溜井 全景 (1)



2号溜井 全景 (2)



3号溜井 全景 (2)



2号溜井 全景 (3)



4号溜井 全景 (1)



2号溜井 全景 (4)



4号溜井 全景 (2)



4号溜井 全景(3)



5号溜井 土層堆積状況(1)



5号溜井 全景(1)



5号溜井 土層堆積状況(2)



5号溜井 全景(2)



5号溜井 遺物出土状況



5号溜井 全景(3)



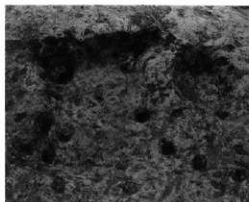
24号土坑 全景



28号土坑 土層堆積状況



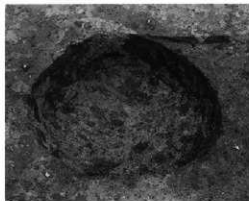
82号土坑 全景



41号土坑 全景



89号土坑 全景



42号土坑 全景



142号土坑 全景



78号土坑 全景



174号土坑 全景



176号土坑 全景



1・9号溝 全景



182号土坑 全景



2号溝 全景



204号土坑 全景



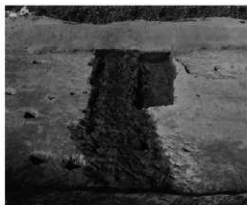
3号溝 全景



205号土坑 遺物出土状況



4号溝 全景



5号溝 全景



12号溝 全景



6・7号溝 全景



D地点 作業風景



8号溝 全景



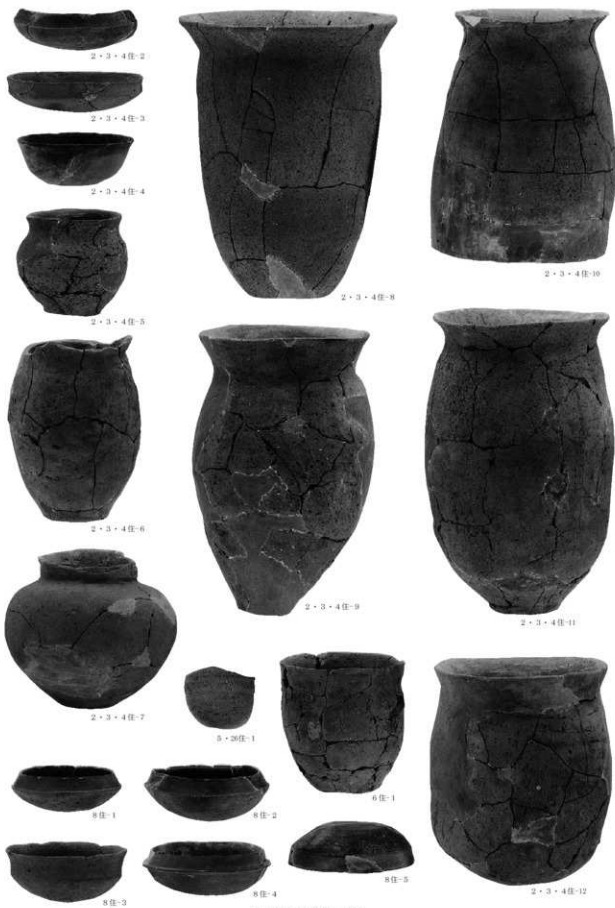
F地点 作業風景 (1)



11号溝 全景



F地点 作業風景 (2)



住居跡出土遺物（1）



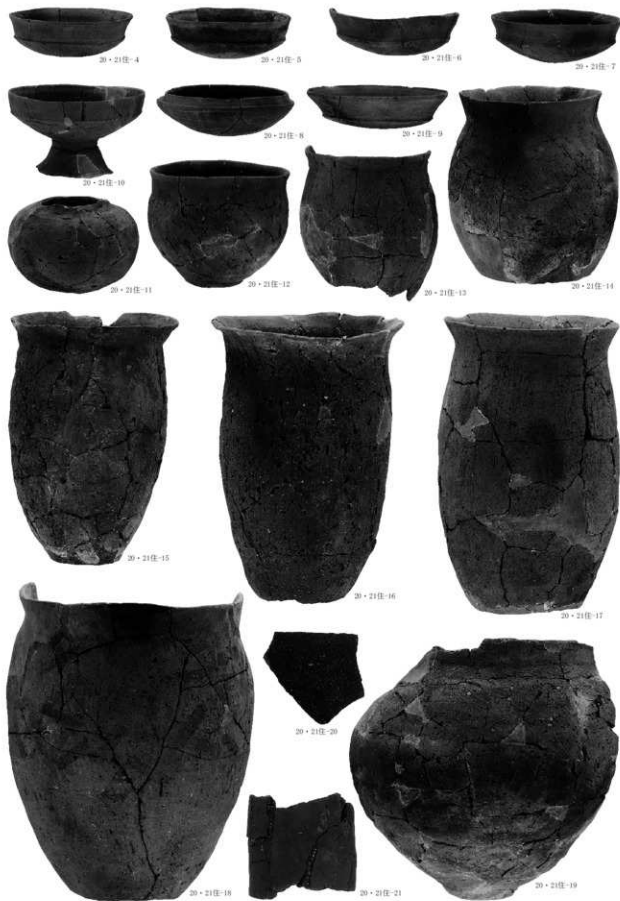
住居跡出土遺物（2）



住居跡出土遺物 (3)



住居跡出土遺物（4）



住居跡出土遺物 (5)



住居跡出土遺物 (6)



住居跡出土遺物 (7)



住居跡出土遺物 (8)



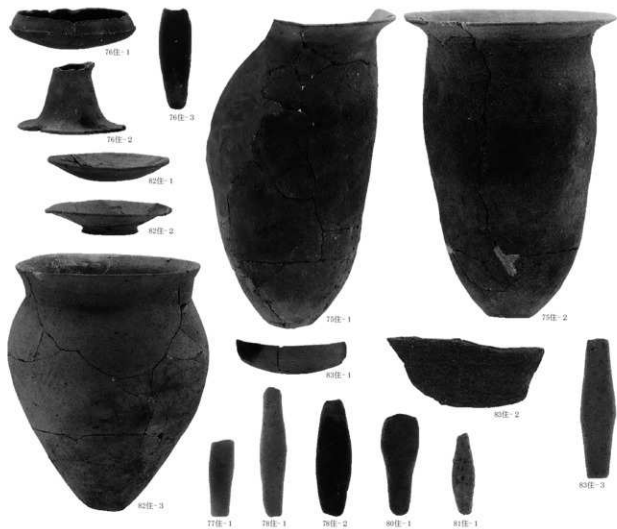
住居跡出土遺物 (9)



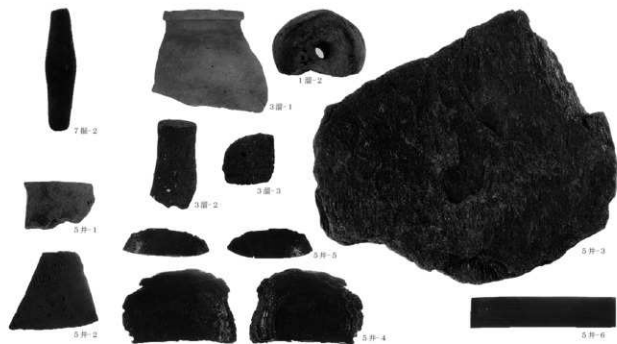
住居跡出土遺物 (10)



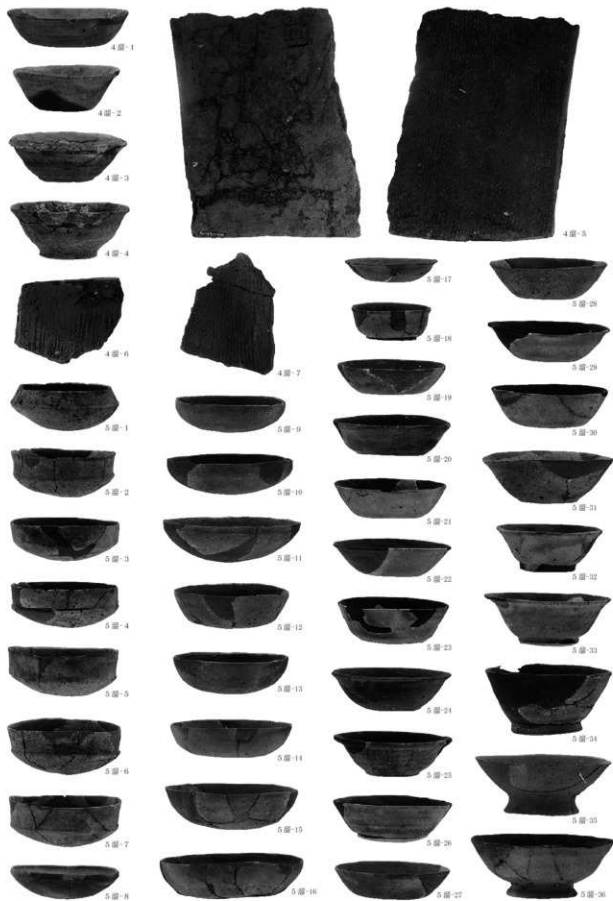
住居跡出土遺物 (11)



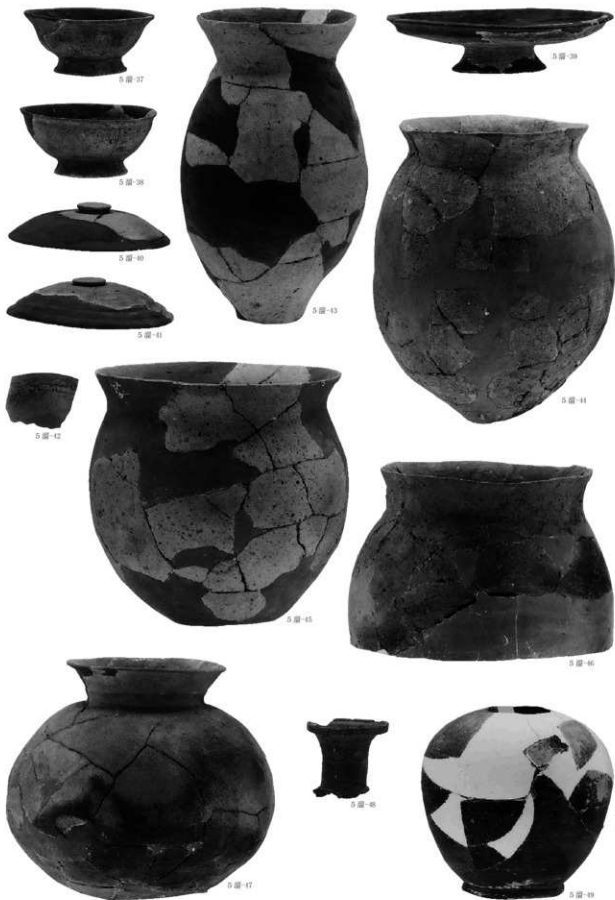
住居跡出土遺物 (12)



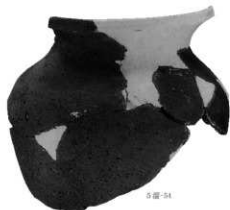
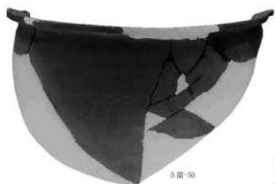
掘立柱建物跡・井戸・溜井(1)出土遺物



溜井出土遺物 (2)



溜井出土遺物(3)



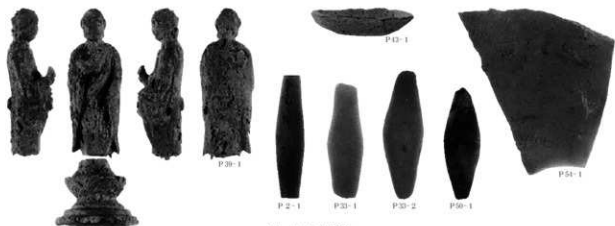
溜井出土遺物(4)



溜井出土遺物 (5)



土坑出土遺物



ピット出土遺物

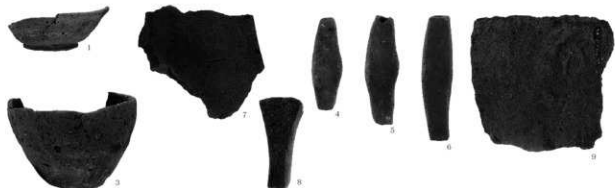


1号道路状遺構出土遺物



溝出土遺物

1号性格不明遺構出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	あきやまおおまちひがしいせき あきやますわたいらいせき							
書名	秋山大町東道跡 秋山諏訪平道跡							
副書名	D・E・F地点の調査							
巻次								
シリーズ名	本庄市道跡調査会報告書							
シリーズ番号	第37集							
編著者名	鈴木徳雄・宮本久子							
編集機関	本庄市道跡調査会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 Tel 0495-25-1185							
発行年月日	西暦2010(平成22年)12月28日							
所収道跡	所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	道跡番号					
秋山大町東道跡	埼玉県本庄市 児玉町秋山605 外	112119	54-299	36°17'77″	139°15'18″	1998.04.11 / 1998.08.31	5,216 m ²	工場造成
秋山諏訪平道跡 D地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山628 外			36°17'62″	139°15'00″	1996.12.12 / 1997.11.28	4,280 m ²	
秋山諏訪平道跡 E地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山605 外		54-044	36°17'65″	139°15'02″	1998.06.21 / 1999.10.29	830 m ²	
秋山諏訪平道跡 F地点	埼玉県本庄市 児玉町秋山602 外			36°17'66″	139°15'19″	1998.06.10 / 1998.12.14	4,930 m ²	
所収道跡	種別	主な時代		主な遺構		主な出土遺物		特記事項
秋山大町東道跡	集落	古墳時代 平安時代 近世		竪穴住居跡 98軒 掘立柱建物跡 5棟 土坑 118基 溝 23条 性格不明遺構 1基		土師器 須恵器 石製模造品 鉄製品 陶磁器 古銭		古墳時代後 期から平安 時代までの 集落。 溜井を5基 検出。
秋山諏訪平道跡	集落	古墳時代 平安時代		竪穴住居跡 82軒 掘立柱建物跡 5棟 土坑 204基 井戸 5基 溜井 5基 溝 37条 道路状遺構 1条 性格不明遺構 1基		土師器 須恵器 石製模造品 鉄製品 陶磁器 木製品 古銭		

本庄市遺跡調査会報告書 第37集

秋山大町東遺跡
秋山諏訪平遺跡Ⅲ

- D・E・F地点の調査 -

平成22年12月24日 印刷

平成22年12月28日 発行

発行／本庄市遺跡調査会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

本庄市教育委員会内

電話 0495-25-1185

印刷／山進社印刷株式会社